高津遺跡

都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書　Ⅱ

2005年3月

島根県浜田農林振興センター
江津市教育委員会

高津遺跡　正誤表

このたびの報告書において、下記のとおり誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。
お手数ですが各自で訂正していただけますようよろしくお願いいたします。

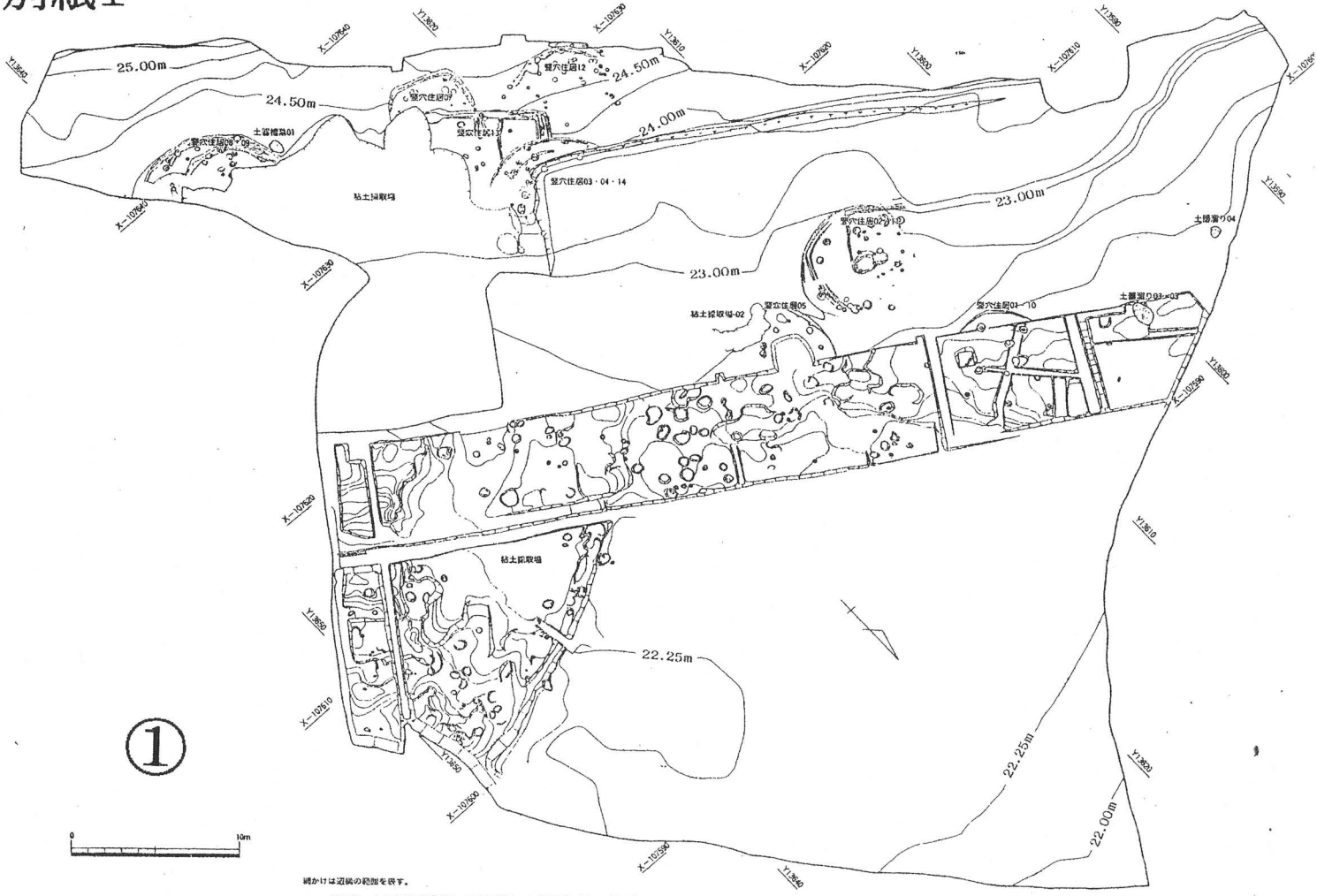
○目次・本文・観察表

頁	行	誤	正
写真図版目次	54　中　水場出土遺物	(第92・93図)	(第90・92・93図)
14	22行目	大型の甕96	大型の甕93
16	8行目	192～197	193～197
16	11行目	203・204	204
16	30行目	218～227は	218～227(226を除く)は
17	12行目	286	285
18	36行目	342	348
19	8行目	696	396
19	19行目	478～503は	478～503(486を除く)は
20	18行目	613	612
20	20行目	614	613
21	35行目	639	699
22	38行目	954	943
23	3行目	956	946
23	5行目	45°	90°
23	19行目	782	788
24	3行目	提瓶	瓶
24	23行目	114	1114
24	33行目	119	1119
27	34行目	セットB・B´び、	セットB・B´、
27	34行目	64－70	64・70
60	遺物番号　85	種別　土師器	種別　弥生土器
65	遺物番号　228	土層、No.　SK05	土層、No.　中央土坑
65	遺物番号　230	器種　高杯	器種　甕
83	遺物番号　623	種別　土師器	種別　弥生土器
84	遺物番号　638	種別　弥生土器	種別　土師器
85	遺物番号　658	種別　土師器	種別　弥生土器
86	遺物番号　682	種別　土師器	種別　弥生土器
98	遺物番号　981・983	時代　古墳時代	時代　奈良時代
69	遺物番号　332	種別　土師器	種別　弥生土器
100	遺物番号　1045	器種　空白	器種　提瓶
108	遺物番号　S54	器種　石・杵	器種　石杵

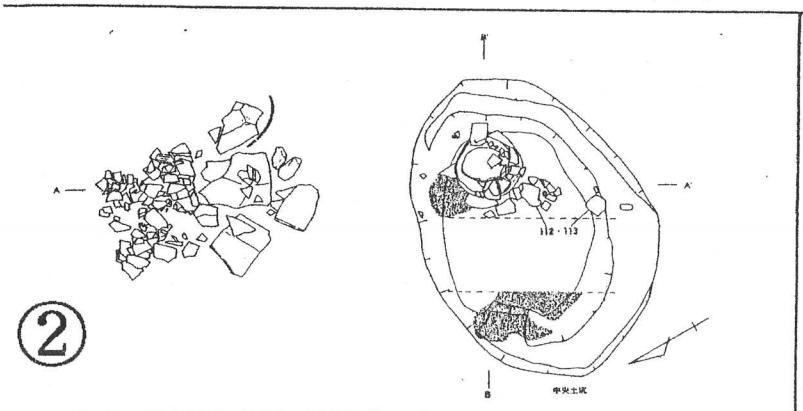
○図版・写真図版

頁	図版番号	誤	正
120・121	第6図	等高線標高漏れ	別紙1－①
122	第7図	等高線標高漏れ	別紙1－①参照
131	第16図	等高線標高漏れ	別紙1－①参照
134	第19図	方位間違い	別紙1－②
135	第20図	方位間違い	別紙1－③
158・159	第41図	等高線標高漏れ	別紙1－④
写真図版54	中段	613	575

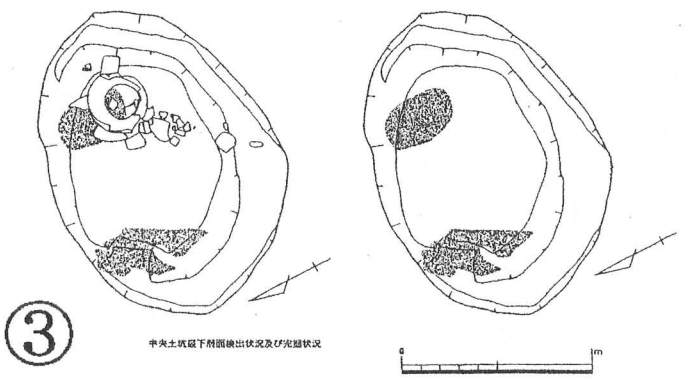
別紙1



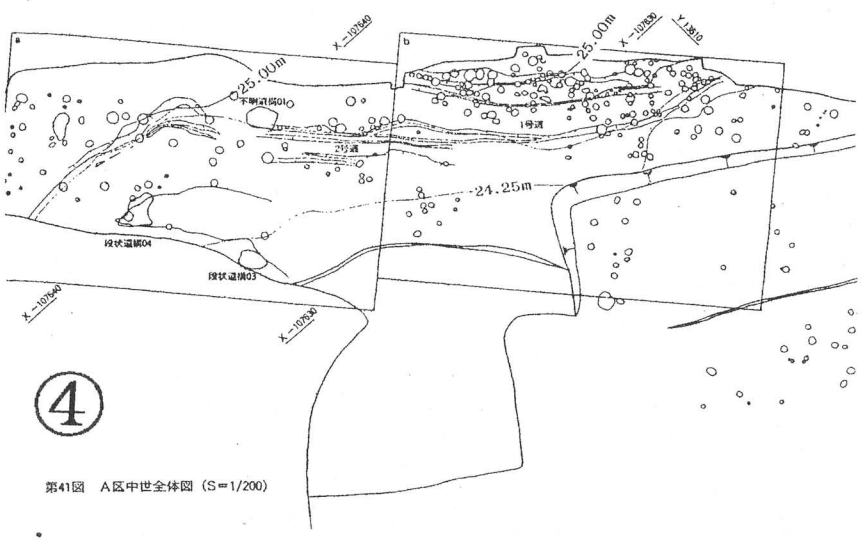
第6図　A区遺構配置図　弥生時代～古墳時代（S＝1/200）



第19図　AII区竪穴住居11土器溜り01検出状況1（S＝1/20）



第20図　AII区竪穴住居11土器溜り01検出状況2（S＝1/20）復元図（S＝1/30）



第41図　A区中世全体図（S＝1/200）

高津遺跡

都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書　Ⅱ

2005年3月

島根県浜田農林振興センター
江津市教育委員会

高津遺跡調査区遠景　E→W

684
686
692
687
703
691
688
702
696
695
706

756
716
741
752
750
713

111

682

序

江津市教育委員会では、島根県浜田農林振興センターの委託を受けて、平成11年度から文化庁の国庫補助事業を併用し、都治地区県営ほ場整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりましたが、このたび報告書を刊行する運びとなりました。本報告書は平成11年度から13年度にかけて調査された江津市都治町に所在する高津遺跡の調査成果を取りまとめたものです。

江津の中央を流れ奔る江の川は、中国太郎の異名を持つ中国地方最大の河川として知られていますが、古来より中国路陰陽を結ぶ大動脈として、文化、経済、人の交流を促してきました。15世紀の半ばには既に江の川河口は対外貿易基地の一基地となり、環日本海交流の要衝の地として重要視されていたことが中国や朝鮮などの文献により明らかとなっております。

今回の調査は、昭和46・47年に行なわれた波来浜遺跡調査以来、江津市東部では実に29年振りの本格的な調査となりました。都治の地に営まれた弥生時代から古墳時代にかけての集落や、石見焼の生産を遡ること実に1200年前。大量の粘土を採取し、窯業生産活動を行なっていた古代人の姿が明らかになりつつあります。

今回のほ場整備に係る一連の調査により、江津はもとより、島根県にとっても貴重な資料となりました。平成13年度発刊の埋築遺跡と併せて、本書が地域の歴史と文化に理解と関心を高める為の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の皆様や島根県浜田農林振興センター、文化庁、島根県文化財課、島根県埋蔵文化財調査センターをはじめ、調査に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成17年３月

江津市教育委員会
教育長　野　上　公　司

例　　言

1・　本書は島根県浜田農林振興センターが実施した都治(つち)地区県営ほ場整備事業に伴い江津市教育委員会により平成11年度～平成13年度に本調査された遺跡のうち、高津遺跡(たかついせき)発掘調査における本報告書である。

2・　発掘調査は島根県浜田農林振興センターの委託金と文化庁の国庫補助金、島根県補助金を得て、江津市が実施した。

3・　発掘調査対象地は下記のとおりである。
高津遺跡　島根県江津市都治町字高津

4・　本遺跡の調査履歴は以下のとおりである。

昭和48年度石斧表採
平成９年度試掘調査
平成10年度確認調査
平成11年度一部本調査
平成12年度一部本調査
平成13年度一部本調査
平成14年度遺物整理
平成16年度報告書作成

5・　調査体制は次のとおりである

事務局　　江津市教育委員会

平成９年度	野上公司(ひろし)	教育長
	佐々葉牧生	生涯学習課長
	堀川哲郎	同　課長補佐
	盆子原悦子	同　主事
調査担当	宮本徳昭	同　主事
遺物整理	高島紀子	同　嘱託員
平成10年度	野上公司	教育長
	横山　豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同　課長補佐
	盆子原悦子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　嘱託員
遺物整理	高島紀子	同　嘱託員
平成11年度	野上公司	教育長
	横山　豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同　課長補佐
	盆子原悦子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　嘱託員
遺物整理	高島紀子	同　嘱託員
平成12年度	野上公司	教育長
	横山　豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同　課長補佐
	藤田　裕	同　係長
	國澤(盆子原)悦子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　主事補
事務補助	無川美和子	同　嘱託員
	倉中直子	同　嘱託員
	松原あゆ子	同　嘱託員
平成13年度	野上公司	教育長
	岩田春夫	生涯学習課長
	藤田美恵子	同　課長補佐

	林　正司	同　係長
	國澤悦子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　主事
事務補助	福本和世子	同　嘱託員
調査補助	澤津　孝	同　嘱託員
	恒松明宏	同　嘱託員
平成14年度	野上公司	教育長
	岩田春夫	生涯学習課長
	藤田美恵子	同　課長補佐
	林　正司	同　係長
	國澤悦子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　主事
事務補助	福本和世子	同　嘱託員
調査補助	澤津　孝	同　嘱託員
	恒松明宏	同　嘱託員
	佐々木渉	同　嘱託員
平成16年度	野上公司	教育長
	的場溥勝	生涯学習課長
	小林茂雄	同　課長補佐
	山﨑真理子	同　主事
調査担当	梅木茂雄	同　主任主事
事務補助	福本和世子	同　嘱託員
調査補助	澤津　孝	同　嘱託員
	無川美和子	同　嘱託員

6・　調査及び報告書の作成に際し、次の組織、方々に指導・助言をいただいた。記して感謝する。
島根県文化財課、島根県埋蔵文化財調査センター、島根県古代文化センター、浜田市教育委員会、西伯耆弥生研究会、三重県埋蔵文化財調査センター・穂積裕昌、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所・金田明大

7・　報告書の作成は以下の者が携わった。(五十音順)
上野由美江、梅木茂雄、上手文子、澤津孝、鹿森三鈴、柴田亜希子、福本和世子、藤本淳子、無川美和子、山田ゆう子

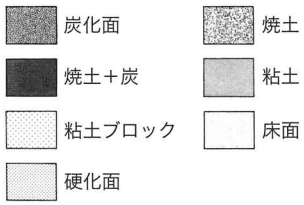
8・　報告書に掲載している遺構番号は調査時のものを使用しているため、欠番を生じている。

9・　挿図で使用した方位は測量法による第３座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は日本測地系による。標高は海抜高を示す。

10・　科学分析は文化財調査コンサルタント㈱に委託した。

11・　報告書記載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

凡　　例



目　　　　次

第１章　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２章　位置と江東地区の歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第３章　調査区について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第１節　調査区の設定

第２節　調査区の概要

第４章　調査の結果１（遺構）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

第１節　弥生時代～古墳時代

第２節　中世

第５章　調査の結果２（遺物）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第１節　小型遺構に伴う遺物

第２節　大型遺構に伴う遺物

第３節　その他の遺物

第６章　総　　括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

第１節　遺跡の変遷

第２節　山陰系甑形土器の使用について

第３節　遺構の時期決定について

第４節　弥生時代後期～古墳時代初頭の壷・甕について

第７章　科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

第１節　高津遺跡発掘調査に係る自然科学分析

第２節　高津遺跡発掘調査に係る樹種鑑定

表目次

第１表　竪穴住居12計測表
第２表　竪穴住居07計測表
第３表　竪穴住居03計測表
第４表　竪穴住居14計測表
第５表　竪穴住居04計測表
第６表　竪穴住居13－１計測表
第７表　竪穴住居13－２計測表
第８表　竪穴住居08計測表
第９表　竪穴住居09－１計測表
第10表　竪穴住居09－２計測表
第11表　竪穴住居11－１計測表
第12表　竪穴住居11－２計測表
第13表　竪穴住居02計測表
第14表　竪穴住居01計測表
第15表　竪穴住居10計測表
第16表　竪穴住居05計測表
第17表　掘立柱建物１計測表
第18表　掘立柱建物２計測表
第19表　掘立柱建物３計測表
第20表　掘立柱建物４計測表
第21表　掘立柱建物５計測表
第22表　掘立柱建物６計測表
第23表　掘立柱建物７計測表
第24表　掘立柱建物８計測表
第25表　掘立柱建物９計測表
第26表　掘立柱建物10計測表
第27表　掘立柱建物11計測表
第28表　掘立柱建物12計測表
第29表　土器棺墓01計測表
第30表　段状遺構計測表
第31表　大型遺構計測表
第32表　不明遺構01計測表
第33表　１・２号道計測表
第34表　遺物観察表(1)
第35表　遺物観察表(2)
第36表　遺物観察表(3)
第37表　遺物観察表(4)
第38表　遺物観察表(5)
第39表　遺物観察表(6)
第40表　遺物観察表(7)
第41表　遺物観察表(8)
第42表　遺物観察表(9)
第43表　遺物観察表(10)
第44表　遺物観察表(11)
第45表　遺物観察表(12)
第46表　遺物観察表(13)
第47表　遺物観察表(14)
第48表　遺物観察表(15)
第49表　遺物観察表(16)
第50表　遺物観察表(17)
第51表　遺物観察表(18)
第52表　遺物観察表(19)
第53表　遺物観察表(20)
第54表　遺物観察表(21)
第55表　遺物観察表(22)
第56表　遺物観察表(23)
第57表　遺物観察表(24)
第58表　遺物観察表(25)
第59表　遺物観察表(26)
第60表　遺物観察表(27)
第61表　遺物観察表(28)
第62表　遺物観察表(29)
第63表　遺物観察表(30)
第64表　遺物観察表(31)
第65表　遺物観察表(32)
第66表　遺物観察表(33)
第67表　遺物観察表(34)
第68表　遺物観察表(35)
第69表　遺物観察表(36)
第70表　遺物観察表(37)
第71表　遺物観察表(38)
第72表　遺物観察表(39)
第73表　遺物観察表(40)
第74表　遺物観察表(41)
第75表　遺物観察表(42)
第76表　遺物観察表(43)
第77表　遺物観察表(44)
第78表　遺物観察表(45)
第79表　遺物観察表(46)
第80表　遺物観察表(47)
第81表　木製品観察表(1)
第82表　木製品観察表(2)
第83表　木製品観察表(3)
第84表　石器観察表(1)
第85表　石器観察表(2)
第86表　高津遺跡出土遺物分類表
第87表　水場出土壷・甕時期別分類表
　　(弥生時代後期～古墳時代初頭)
第88表　江津市東部の遺跡一覧表　中世まで

グラフ目次

グラフ１　高津遺跡調査区別遺物集計グラフ
グラフ２　調査区別出土遺物構成比（百分率）
　　(縄文～平安時代)
グラフ３　調査区別出土遺物構成比（百分率）
　　(古墳時代中期～平安時代)
グラフ４　調査区別出土遺物構成比（百分率）(中世)
グラフ５　調査区別出土遺物構成比（百分率）(近世以降)
グラフ６　時期別壷・甕集計グラフ
　　(弥生時代後期～古墳時代初頭)
グラフ７　時期別壷・甕構成比グラフ（百分率）
　　(弥生時代後期～古墳時代初頭)

挿図目次

第１図　江津市東部の遺跡　(S=1/40,000)
第２図　高津遺跡周辺の状況（S=1/10,000）
第３図　高津遺跡調査区・トレンチ配置図（S=1/1,500）
第４図　トレンチ土層図（S=1/60）
第５図　遺構全体図（S=1/600）
　上：中世以前・下：中世以降
第６図　A区　遺構配置図　弥生時代～古墳時代（S=1/200）
第７図　ＡＩ区　竪穴住居配置図（S=1/80）
第８図　ＡＩ区　竪穴住居12実測図（S=1/60）
　復元図（S=1/120）
第９図　ＡＩ区　竪穴住居07実測図1（S=1/60）
第10図　ＡＩ区　竪穴住居07実測図2（S=1/60）
　復元図　(S=1/80)
第11図　ＡＩ区　竪穴住居03・14・04実測図1（S=1/60）
第12図　ＡＩ区　竪穴住居03・14・04実測図2（S=1/60）
　柱穴実測図（S=1/30）復元図　(S=1/120)
第13図　ＡＩ区　竪穴住居13実測図（S=1/60）
　土坑実測図（S=1/40）　復元図（S=1/80）
第14図　ＡＩ区　竪穴住居08・09実測図（S=1/60）
　復元図（S=1/180）
第15図　ＡＩ区　土器棺墓01（S=1/10）
第16図　ＡII区　竪穴住居配置図（S=1/80）
第17図　ＡII区　竪穴住居11実測図1（S=1/60）
　遺物出土状況（Ｓ=1/120）
第18図　ＡII区　竪穴住居11実測図2（S=1/60）
　復元図（Ｓ=1/120）
第19図　ＡII区　竪穴住居11土器溜り01検出状況1（S=1/20）
第20図　ＡII区　竪穴住居11土器溜り01検出状況2
　(S=1/20）復元図（S=1/30）
第21図　ＡII区　竪穴住居02実測図1（S=1/60）
第22図　ＡII区　竪穴住居02実測図2（S=1/60）
　柱穴・土坑実測図（S=1/20）復元図（S=1/60）
第23図　ＡII区　竪穴住居01・10実測図1（S=1/60）
第24図　ＡII区　竪穴住居01・10実測図2（S=1/60）
第25図　ＡII区　竪穴住居01・10実測図3（S=1/60）
　復元図（S=1/120）
第26図　ＡII区　竪穴住居10土器溜り02検出状況・
　復元図（S=1/20）
第27図　ＡII区　竪穴住居05実測図（S=1/60）
第28図　ＡII区　土器溜り03'・04検出状況（S=1/10）
第29図　B区　遺構配置図（S=1/200）
第30図　BIV区　段状遺構01実測図・粘土採取場土層図
　(S=1/80）柱穴8実測図（S=1/20）
第31図　BIV区　大溝遺物出土状況1（S=1/80）
第32図　BIV区　大溝遺物出土状況2（S=1/80）
第33図　ＢＶ区　粘土採取場－01実測図（S=1/80）
　Ｐ1実測図（S=1/20）
第34図　A・B区　粘土採取場全体図（S=1/200）
第35図　粘土採取場土層図（S=1/80）
第36図　粘土採取場－02遺物出土状況（S=1/40）
第37図　C区　遺構配置図（S=1/200）
第38図　CVII区　水場土層図（S=1/80）
　水場断面図（S=1/200）
第39図　CVII区　水場遺物出土状況（S=1/40）
第40図　CVII区　段状遺構02実測図（S=1/60）
　土器溜り05出土状況（S=1/30）
第41図　A区　中世全体図（S=1/200）
第42図　ＡＩ区　ｂ中世遺構配置図（S=1/80）
第43図　ＡＩ区　ａ中世遺構配置図（S=1/80）
第44図　ＡＩ区　掘立柱建物01・02実測図（S=1/80）
第45図　ＡＩ区　掘立柱建物03・04実測図（S=1/80）
第46図　ＡＩ区　掘立柱建物05・06・07実測図（S=1/80）
第47図　ＡＩ区　不明遺構01実測図（S=1/20）
第48図　ＡＩ区　段状遺構03・04実測図（S=1/20）
第49図　ＡII区　中世柱穴群配置図（S=1/60）
第50図　ＡII区　掘立柱建物08・09実測図（S=1/60）
第51図　ＡII区　掘立柱建物10・11実測図（S=1/60）
第52図　ＡIII区　掘立柱建物12実測図（S=1/60）
第53図　竪穴住居08・09出土遺物実測図（S=1/3）
第54図　竪穴住居03・04出土遺物実測図（S=1/3）
第55図　竪穴住居04・07出土遺物実測図（S=1/3）
第56図　土器棺墓01出土遺物実測図（S=1/3）
第57図　竪穴住居01・10出土遺物実測図
　(S=1/3・108は1/6)
第58図　竪穴住居11出土遺物実測図１（S=1/3・111は1/6）
第59図　竪穴住居11出土遺物実測図２（S=1/3）
第60図　竪穴住居11出土遺物実測図３（S=1/3）
第61図　竪穴住居11出土遺物実測図４（S=1/3）
第62図　竪穴住居05・11・12出土遺物実測図（S=1/3）
第63図　竪穴住居02出土遺物実測図１（S=1/3）
第64図　竪穴住居02出土遺物実測図２（S=1/3）
第65図　竪穴住居13・段状遺構02出土遺物実測図（S=1/3）
第66図　土器溜り03・03'・04、その他出土遺物実測図（S=1/3）
第67図　土器溜り05・その他出土遺物実測図（S=1/3）
第68図　水場出土遺物実測図１（S=1/3）
第69図　水場出土遺物実測図２（S=1/3）
第70図　水場出土遺物実測図３（S=1/3）
第71図　水場出土遺物実測図４（S=1/3）
第72図　水場出土遺物実測図５（S=1/3）
第73図　水場出土遺物実測図６（S=1/3）
第74図　水場出土遺物実測図７（S=1/3）
第75図　水場出土遺物実測図８（S=1/3）
第76図　水場出土遺物実測図９（S=1/3）
第77図　水場出土遺物実測図10（S=1/3）
第78図　水場出土遺物実測図11（S=1/3）
第79図　水場出土遺物実測図12（S=1/3）
第80図　水場出土遺物実測図13（S=1/3）
第81図　水場出土遺物実測図14（S=1/3）
第82図　水場出土遺物実測図15（S=1/3）
第83図　水場出土遺物実測図16（S=1/3）
第84図　水場出土遺物実測図17（S=1/3）
第85図　水場出土遺物実測図18（S=1/3）
第86図　水場出土遺物実測図19（S=1/3）
第87図　水場出土遺物実測図20（S=1/3）
　一部土器溜り05遺物含む
第88図　水場出土遺物実測図21（S=1/3）
第89図　水場出土遺物実測図22（S=1/3）
第90図　水場出土遺物実測図23（S=1/3）
第91図　水場出土遺物実測図24（S=1/3）
第92図　水場出土遺物実測図25（S=1/3）
　一部粘土採取場－1遺物含む
第93図　水場出土遺物実測図26（S=1/3）
第94図　水場出土遺物実測図27（S=1/3）
第95図　水場出土遺物実測図28（S=1/3）
第96図　水場出土遺物実測図29（S=1/3）
　一部ＢIV区出土遺物含む
第97図　水場出土遺物実測図31（S=1/3・681は1/6）
第98図　水場出土遺物実測図32（S=1/3）
第99図　水場出土遺物実測図33（S=1/3）
　一部他遺構有り〔718・727・741・749〕
第100図　水場出土遺物実測図34（S=1/3）
第101図　水場出土遺物実測図35（S=1/3）

第102図　水場出土遺物実測図36（S=1/3）
第103図　水場出土遺物実測図37（S=1/3）
第104図　大溝出土遺物実測図１（S=1/3）
第105図　大溝出土遺物実測図２（S=1/3）
第106図　大溝出土遺物実測図３（S=1/3）
第107図　大溝出土遺物実測図４（S=1/3）
第108図　大溝出土遺物実測図５（S=1/3）
第109図　大溝出土遺物実測図６（S=1/3）
第110図　大溝出土遺物実測図７（S=1/3）
第111図　大溝出土遺物実測図８（S=1/3）
一部水場遺物含む
第112図　大溝出土遺物実測図９（S=1/3）
一部遺構外遺物含む
第113図　大溝出土遺物実測図10（S=1/3）
一部遺構外遺物含む
第114図　大溝出土遺物実測図11（S=1/3）
一部遺構外遺物含む
第115図　粘土採取場出土遺物実測図１（S=1/3）
第116図　粘土採取場出土遺物実測図２（S=1/3）
一部竪穴住居09遺物含む
第117図　中世遺物実測図（S=1/3）
第118図　木製品実測図Ⅰ
（W13～15はS=1/4・W1～12はS=1/6）
第119図　木製品実測図２（S=1/6）
第120図　木製品実測図３
（W25・27はS=1/8・W26・28～31はS=1/6）
第121図　木製品実測図４（S=1/6）
第122図　木製品実測図５（S=1/6・W46はS=1/16）
第123図　木製品実測図６（S=1/6）
第124図　木製品実測図７
（W66はS=1/4・W59～64はS=1/6・W65はS=1/16）
第125図　石器実測図１（S=1/1）
第126図　石器実測図２（S=1/6）
第127図　石器実測図３
（S=1/3・S19～23，35～37はS=1/6）
第128図　石器実測図４
（S=1/3・S46～49，50～53はS=1/6）
第129図　石器実測図５（S=1/3・S57はS=1/6）

写　真　図　版　目　次

巻頭写真図版1　高津遺跡調査区遠景　E→W
巻頭写真図版2　上　水場出土遺物（第98図）
中　水場出土遺物（第99図）
左下　竪穴住居11出土遺物（第58図－11）
右下　水場出土遺物（第97図－682）

写真図版表紙　高津遺跡調査区遠景　S→N
写真図版１　上　高津遺跡調査区遠景　E→W
下　高津遺跡調査区遠景　W→E
写真図版２　上　高津遺跡調査区遠景　S→N
下　高津遺跡調査区遠景　N→S
写真図版３　上　高津遺跡ＡⅠ区遠景　E→W
下　高津遺跡ＡⅠ区遠景　E→W
写真図版４　左上　ＡⅠ区　竪穴住居12　E→W
右上　ＡⅠ区　竪穴住居12壁帯溝　E→W
左下　ＡⅠ区　竪穴住居12壁帯溝遺物出土状況
右中　ＡⅠ区　竪穴住居12完堀状況　S→N
右下　ＡⅠ区　竪穴住居07検出状況　N→S
写真図版５　左上　ＡⅠ区　竪穴住居07床面焼土検出状況
E→W
左中　ＡⅠ区　竪穴住居07床面焼土中遺物出土状況
右上　ＡⅠ区　竪穴住居07床面遺物出土状況
左中　ＡⅠ区　竪穴住居07 A-A'土層堆積状況
ES→NW
左下　ＡⅠ区　竪穴住居07中央土坑完堀状況
右下　ＡⅠ区　竪穴住居07完堀状況　ES→NW
写真図版６　上　ＡⅠ区　竪穴住居03・04・14断面プラン検出状況　NE→WS
左中　ＡⅠ区　竪穴住居03・14土層堆積状況
左下　NW→ES
ＡⅠ区　竪穴住居03管玉出土状況
右下　ＡⅠ区　竪穴住居03床面検出状況
W→E
写真図版７　上　ＡⅠ区　竪穴住居03床面検出状況
S→N
左中　ＡⅠ区　竪穴住居04床面検出状況
W→E
左下　ＡⅠ区　竪穴住居04床面検出状況
右下　ＡⅠ区　竪穴住居04壁帯溝検出状況
S→N
写真図版８　上　ＡⅠ区　竪穴住居03・04・13・14完堀状況
E→W
左下　ＡⅠ区　竪穴住居13検出状況　N→S
右中　ＡⅠ区　竪穴住居13検出状況
右下　ＡⅠ区　竪穴住居13切り合い検出状況
写真図版９　左上　ＡⅠ区　竪穴住居13土坑検出状況
E→W
左中　ＡⅠ区　竪穴住居13土坑遺物出土状況
左中　ＡⅠ区　竪穴住居13土坑完堀状況
右上　ＡⅠ区　竪穴住居13壁帯溝検出状況
E→W
左下　ＡⅠ区　竪穴住居08・09検出状況E→W
右下　ＡⅠ区　土器棺墓01検出状況
写真図版10　上　ＡⅠ区　竪穴住居08・09完堀状況
N→S
左下　ＡⅠ区　土器棺墓01検出状況
右下　ＡⅠ区　土器棺墓01最終面検出状況
写真図版11　左上　ＡⅡ区　竪穴住居11検出状況
右上　ＡⅡ区　竪穴住居11遺物出土状況
WS→NE
左中　ＡⅡ区　竪穴住居11C－C'土層堆積状況
WS→NE
右中　ＡⅡ区　竪穴住居11C－C'土層堆積状況
WS→NE
下　ＡⅡ区　竪穴住居11粘土検出状況
E→W
写真図版12　左上　ＡⅡ区　竪穴住居11壁帯溝検出状況
右上　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01検出状況
W→E
左下　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01検出状況
E→W
右下　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01検出状況
写真図版13　左上　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01検出状況
左中　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01炭化面検出状況
右上　ＡⅡ区　竪穴住居11土器溜り01埋設
右中　ＡⅡ区　竪穴住居11中央土坑土器溜り01
下　ＡⅡ区　竪穴住居11完堀状況　W→E
写真図版14　左上　ＡⅡ区　竪穴住居02床面検出状況
右上　ＡⅡ区　竪穴住居02炉周辺土層堆積状況
右中　ＡⅡ区　竪穴住居02壁帯溝及び炉断面

左下　AII区　竪穴住居02炉検出状況 NE→WS
右中　AII区　竪穴住居02壁面焼粘土断面 ES→NW
右下　AII区　竪穴住居02炉検出状況
写真図版15　左上　AII区　竪穴住居02炉及び壁面焼粘土
右上　AII区　竪穴住居02床面中央土坑検出状況　NE→WS
下　AII区　竪穴住居02完堀状況・炉周辺
写真図版16　左上　AII区　竪穴住居02柱穴9
右上　AII区　竪穴住居02遺物出土状況 NW→ES
下　AII区　竪穴住居02完堀状況　NW→ES
写真図版17　AII区　竪穴住居10土器溜り02（甑形土器セットA）
写真図版18　上　AII区　竪穴住居10土器溜り02 SE→NW
左下　AII区　竪穴住居10土器溜り02
右中　AII区　竪穴住居10土器溜り02周辺状況
右下　AII区　竪穴住居10土器溜り02
写真図版19　左上　AII区　竪穴住居10土器溜り02 壷109検出
左中　AII区　竪穴住居10土器溜り02 壷109底部
右上　AII区　竪穴住居10土器溜り02 壷109除去後
左下　AII区　竪穴住居01壁帯溝検出状況
右中　AII区　竪穴住居10床面検出状況
右下　AII区　竪穴住居01・10遠景　W→E
写真図版20　左上　AII区　竪穴住居10検出状況
右上　AII区　竪穴住居10遺物出土状況 S→N
左下　AII区　竪穴住居10床面検出状況 S→N
右下　AII区　竪穴住居10柱穴1　E→W
写真図版21　左上　AII区　竪穴住居01柱穴7
右上　AII区　竪穴住居01・10C－C'土層堆積状況　NE→WS
右中　AII区　竪穴住居01・10E－E'土層堆積状況　ES→NW
左中　AII区　竪穴住居01・10E－E'土層堆積状況　ES→NW
左下　AII区　竪穴住居01・10C－C'土層堆積状況　NE→WS
右中　AII区　竪穴住居01・10C－C'土層堆積状況　NE→WS
右下　AII区　竪穴住居05完堀状況　S→N
写真図版22　上　AII区　竪穴住居01・10全景　NE→WS
下　AI区　粘土採取場全景　NE→WS
写真図版23　上　AII・III区　粘土採取場全景　NE→WS
下　AII・III区　粘土採取場全景　NE→WS
写真図版24　上　A区　調査風景　WS→NE
左中　AI区　粘土採取場西側　N→S
右中　AI区　粘土採取場西側　E→W
左下　AI区　粘土採取場西側　E→W
右下　AI区　粘土採取場西側　W→E
写真図版25　左上　AI区　粘土採取場　E→W（竪穴住居07を掘り込んだ粘土採取土坑）
右上　AI区　粘土採取場　G－G'土層堆積状況　E→W
左中　AII区　粘土採取場－02検出状況 WS→NE
右下　AII区　粘土採取場－02遺物出土状況 ES→NW
左下　AII区　粘土採取場－02完堀状況 E→W
写真図版26　上　AI区　粘土採取場　NE→WS（竪穴住居08・09を掘り崩した粘土採取土坑）
左中　AI区　粘土採取場　E→W
右中　AI区　粘土採取場　E→W
左下　AI区　粘土採取場　A－A'土層堆積状況　N→S
右下　AI区　粘土採取場土層堆積状況 S→N
写真図版27　左上　AII区　粘土採取場－02完堀状況 S→N（奥は竪穴住居05）
右上　AII区　粘土採取場　S→N
左中　BV区　粘土採取場　W→E
右中　BV区　粘土採取場　溝状プラン検出状況　W→E
左下　BV区　粘土採取場溝状遺構　N→S
右下　BV区　粘土採取場溝状遺構　E→W
写真図版28　上　BIV・V区　大溝全景　NE→WS
下　BIV区　大溝調査区全景　NE→WS
写真図版29　上　BV区　大溝調査区全景　NE→WS
左下　BIV区　大溝遺物出土状況　ES→NW
右下　BIV区　大溝遺物出土状況　S→N
写真図版30　左上　BIV区　大溝遺物出土状況　NW→ES
左中　BIV区　大溝遺物出土状況
右上　BIV区　大溝下駄出土状況
下　BIV区　大溝遺物出土状況
写真図版31　左上　BIV区　大溝移動式カマド出土状況
左下　BV区　段状遺構01　S→N
右上　BIV区　大溝遺物出土状況
右中　BIV区　大溝遺物出土状況
右中　BV区　段状遺構01柱穴8検出状況
右下　BV区　段状遺構01柱穴8完堀状況
写真図版32　上　B・C区　調査区全景　NE→WS
下　C区　調査区全景　NE→WS
写真図版33　上　CVII区　水場調査区全景　NE→WS
下　CVIII区　水場調査区全景　NE→WS
写真図版34　左上　CVI区　土層堆積状況　NE→WS
左中　CVI区　段状遺構02　NE→WS
左下　CVII区　土器溜り06遺物出土状況 NE→WS
右上　CVI区　土器溜り05検出状況
右中　CVI区　段状遺構02完堀状況　S→N
右下　CVII区　土器溜り06検出状況
写真図版35　左上　CVII区　水場遺物出土状況
右上　CVII区　水場遺物出土状況
下　CVII区　水場遺物出土状況　S→N
写真図版36　左上　CVII区　水場調査風景　NE→WS
右上　CVII区　水場上面足場検出状況
下　CVII区　水場下面足場検出状況
写真図版37　左上　CVII区　水場全景　S→N
右上　CVII区　水場全景　S→N
右中　CVII区　水場出土遺物遠景　ES→NW
下　CVII区　水場出土遺物遠景　ES→NW
写真図版38　上　AII区　土器溜り03'検出状況
下　AI区　中世柱穴検出状況　NW→ES
写真図版39　上　AII区　掘立柱建物8～11完堀状況 S→N
左下　AII区　掘立柱建物焼土面検出状況 W→E
右中　AII区　掘立柱建物焼土面遺物出土状況
右下　AII区　掘立柱建物焼土面遺物出土状況
写真図版40　左上　AII区　掘立柱建物柱穴検出状況

左中　AⅢ区　掘立柱建物12検出状況　S→N
右上　AⅢ区　掘立柱建物12柱穴配列状況　N→S
下　AⅠ区　段状遺構03・04検出状況　S→N

写真図版41　左上　AⅠ区　段状遺構03・04検出状況　S→N
左中　AⅠ区　段状遺構03検出状況　N→S
左中　AⅠ区　不明遺構01検出状況
左下　AⅠ区　不明遺構01木製品検出状況
右上　AⅠ区　段状遺構04検出状況　N→S
右中　AⅠ区　段状遺構03完堀状況　N→S
右中　AⅠ区　不明遺構01検出状況
右下　AⅠ区　不明遺構01完堀状況

写真図版42　上　竪穴住居08・09・03・04出土遺物（第53・54・55図）
下　竪穴住居07・01・10・11出土遺物（第55・57・58・59・60・61・62図）

写真図版43　左上　竪穴住居10出土遺物（第57図－108）
右上　竪穴住居10出土遺物（第57図－108）
左下　竪穴住居10出土遺物（第57図－109・110）
右下　竪穴住居10出土遺物（第57図－109）

写真図版44　左上　竪穴住居11出土遺物（第58図－111）
右上　竪穴住居11出土遺物（第58図－113・114）
左下　竪穴住居11出土遺物（第58図－114）
右下　竪穴住居11出土遺物（第58図－112）

写真図版45　上　竪穴住居11出土遺物（第58図－113・115）
中　竪穴住居11出土遺物（第58図－113・115）
下　竪穴住居05・12出土遺物（第62図－208・213・211）

写真図版46　上　竪穴住居02出土遺物（第63図）
下　竪穴住居02出土遺物（第63・64図）

写真図版47　左上　竪穴住居11出土遺物（第65図－281）
右上　土器溜り05出土遺物（第67図－334）
下　竪穴住居13・段状遺構02出土遺物（第65・66図）

写真図版48　上　土器溜り03・03'・04・包含層出土遺物（第66・67図）
下　粘土採取場出土遺物（第115図－1056・1057・1061）

写真図版49　左上　土器棺墓01出土遺物（第56図－93）
右上　水場出土遺物（第68図－350）
中　水場出土遺物（第68・69図）
下　水場出土遺物（第70・71図）

写真図版50　左上　水場出土遺物（第71図－387）
右上　水場出土遺物（第72図－396）
上中　水場出土遺物（第72図－397）
下中左　水場出土遺物（第72図－392）
下中右　水場出土遺物（第70・72図－372・394）
左下　水場出土遺物（第72図－392）
右下　水場出土遺物（第73図－404・405）

写真図版51　上　水場出土遺物（第73図－400・406）
上中　水場出土遺物（第73図）
下中　水場出土遺物（第74・75・76・77図）
下　水場出土遺物（第79図－474・475）

写真図版52　上　水場出土遺物（第78図－463・469）
中　水場出土遺物（第80・81図）
下　水場出土遺物（第85・86・87図）

写真図版53　上　水場出土遺物（第77・80図）
中　水場出土遺物（第82・83・84図）
左下　水場出土遺物（第88図－554）
右下　水場出土遺物（第88図－554）

写真図版54　上　水場出土遺物（第89・90図）
中　水場出土遺物（第92・93図）
下　水場出土遺物（第91図）

写真図版55　上　水場出土遺物底部（第94図－637・638・639）
中左　水場出土遺物（第91図－593）
中右　水場出土遺物（第94図）
下　水場出土遺物（第93図）

写真図版56　上　水場出土遺物（第96図）
中上　水場出土遺物（第95・96）
中下　水場出土遺物（第96図）
下　水場出土遺物（第100・108・109図）

写真図版57　上　水場出土遺物（第100図－754・755）
左下　水場出土遺物（第97図－682）
右下　水場出土遺物（第110図－946・947）

写真図版58　上　水場出土遺物（第97図－683）
上　水場出土遺物（第97図－683）
上　水場出土遺物（第97図－683）
中上　水場出土遺物（第101図）
中下　水場出土遺物（第102図）
下　水場出土遺物（第102・103図）

写真図版59　上　水場大溝出土遺物（第70・105図－372・877）
中　大溝出土遺物（第104・105・106図）
下　大溝出土遺物（第108図）

写真図版60　上　大溝出土遺物（第105図－881）
中　大溝出土遺物（第105図－881）
下　大溝出土遺物（第107図）

写真図版61　上　大溝出土遺物（第106・107図）
中上　大溝出土遺物（第109図－944・945）
中下　大溝出土遺物（第111図－956）
下　大溝出土遺物（第112・116図）

写真図版62　上　大溝出土遺物（第114図）
中　大溝出土遺物（第113・116図）
下　大溝出土遺物（第113図－1023）
下　大溝出土遺物（第113図－1023）
下　大溝出土遺物（第113図－1023）

写真図版63　左上　大溝出土遺物（第118図）
右上　大溝出土遺物（第118図）
左中上　大溝出土遺物（第118図）
右中上　大溝出土遺物（第118図）
左中下　大溝出土遺物（第118図）
右中下　大溝出土遺物（第119図）
左下　大溝出土遺物（第119図）
右下　大溝出土遺物（第122図）

写真図版64　左上　大溝出土遺物（第122図）
右上　大溝出土遺物（第122図）
左中上　大溝出土遺物（第122図）
右中上　大溝出土遺物（第122図）
左中下　水場出土遺物（第122図）
右中下　水場出土遺物（第122図）
左下　A区出土遺物（第124図）
右下　粘土採取場出土遺物（第124図）

写真図版65　左上　水場出土遺物（第129図－S54）
右上　大溝出土遺物（第126図－S12）
右中　大溝出土遺物（第126図－S17）
左下　粘土採取場出土遺物（第126図－S16）
右下　竪穴住居02出土遺物（第126図－S11）

写真図版66　上　石器集合（第125・127図）
下　石器集合（第126・127・128・129図）

写真図版67　上　AⅡ区掘立柱建物出土遺物（第117図）
下　陶器・須恵器（第117図）他写真のみ掲載遺物

写真図版68　上　陶磁器（写真のみ掲載）
下　陶磁器（写真のみ掲載）

第１章　調査に至る経緯

都治地区県営ほ場整備事業に先立ち、江津市は平成９年１月６日付で、江津市教育委員会（以下市教委）へ埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を行った。これを受けて市教委は平成９年１月13日から分布調査及び試掘調査を行った。調査の結果、周知の遺跡である宇野勘吉氏宅付近遺跡、埋築遺跡の周辺は遺跡であることが確認された。平成10年６月９日島根県教育庁文化財課を交え協議を行った結果、埋築遺跡の範囲及び性格を確認する為確認調査が必要と指導を受けた。平成10年９月21日浜田農林振興センター所長より江津市長へ事業区域内第３工区の確認調査の依頼があり同９月30日に委託契約を結び平成10年10月１日～平成11年３月19日にかけて調査及び整理を行った。調査は遺跡範囲の75,000㎡に対して、２ｍ×４ｍを基本としたトレンチ（確認坑）30箇所により行なった。調査結果を踏まえ、高津遺跡・埋築遺跡については、開発により一部消滅する恐れがあるため、事業で掘削される箇所の本調査が必要と回答。調査費については事業主体である浜田農林振興センターに負担していただき、受益者負担分については文化庁の国庫補助を受けて平成11年度～13年度にかけて両遺跡の調査を行った。調査は平成11年度に高津遺跡調査区Ｂ・Ｃについて行ない、平成12年度は埋築遺跡Ⅰ区・Ⅱ区調査を６月～12月まで、高津遺跡調査区ＡⅢ区調査を12月から３月まで行なった。平成13年度は高津遺跡調査区ＡⅠ・Ⅱ区の調査を４月から12月末まで、埋築遺跡報告書作成を平成14年１月から行なった。平成16年度は本報告書作成を行なった。調査中の遺跡については現地説明会を開いた。参加者は延べ250人ほどである。調査の内容などは江津市出前講座などで広く活用した。

今回のほ場整備事業のうち、盛り土部分については未調査のまま現地に保存されている。

第2章　位置と江東地区の歴史的環境（第1図・表88）

江津市は、日本海側の沿岸部に位置し、中国山地より流れ下る江川により中央で分断されており、東側を江東地区、西側を江西地区と呼んでいる。険しい山地は少なく、市域は準平原の前地斜面で形成されている。江東地区の入り組んだ旧沿岸線は海浜部から丘陵までクロスナ層を間に挟んだ新・旧砂丘が厚く堆積している。この為海浜部は小規模な後背湿地を持つ低砂丘陵が多く存在する。江東地区で唯一の盆地を持つ都治は交通の要衝として機能していたようである。今回の調査では古代山陰道及び関連遺跡は確認できなかった。江東地区で本格的な発掘調査が行われたのは、波来浜遺跡（S46～47）のみで、今回の一連の調査が2例目である。このため地域全体の歴史を把握することは困難であるが、以下表採・調査等により分る範囲で江東地区の歴史を概観する。

縄文時代

海浜部で後期の遺跡が確認されている。波来浜遺跡北方で遺物が表採されている。尾浜（おばま）地区では扁平磨製石斧が表採された。また、後期のクロスナ層が確認されており、遺物もまとまって出土している。内陸部では晩期に入って埋築遺跡で突帯文土器が出土している。

弥生時代

埋築遺跡で縄文晩期から弥生後期にかけての包含層と、前期の土器を伴う溝状遺構が一部調査された。波来浜遺跡では前期の赤彩壷が出土しており、壷棺の可能性を指摘されている。

中期の遺跡は埋築遺跡の包含層の他、波来浜遺跡で張り石の墳丘墓が確認されている。後期に入ると埋築遺跡、波来浜遺跡張り石墳丘墓が継続される他、高津遺跡で住居跡等が確認されている。

古墳時代

尾浜（おばま）遺跡で竹管文を施されたもの等前期の土師器小片が数点表採された。中期では、高津遺跡で据付かまど（炉）を伴った住居跡等が確認された。後期に入ると、高津遺跡で粘土採取坑と思われる土坑群が調査されている。また、須恵器模倣の土師器が出土している。波来浜遺跡で土師器、須恵器、鉄斧が出土している。古墳では箱式石棺を伴う尾浜古墳と佐古ヶ丘横穴墓群が知られている。江東地区での横穴式石室は未確認である。その他各地で遺物が表採されているが、明確な遺構は確認されていない。

奈良平安時代

主要な遺跡は、長田遺跡、波来浜遺跡の2箇所のみだが、それぞれ地元では長田千軒、波来浜千軒と呼ばれており興味深い。両遺跡からはともに、土師器、底部糸切り須恵器等が出土しているが、波来浜遺跡ではその他に鉄製紡錘車、鉄鎌、鉄斧、製塩土器、土錘、須恵器・石帯一組を伴った火葬墓が調査されている。それ以外の遺跡からは当該期の遺物はまとまった出土がない。高津遺跡で「郡」へら描き須恵器坏が出土している。

中世

埋築遺跡で、土坑墓を伴う建物跡が調査された。高津遺跡でも掘立柱建物跡等が調査されている。江東地区では現在まで多くの山城が確認されているが、発掘調査されたものは鎌満城跡と千本崎城の一部のみで、時期を確定できる遺物はなかった。宝篋印塔は各地で確認されている。波来浜遺跡で、炉状遺構1基が確認されている。また、「g」字墨書土師器、前期の陶磁器と貨銭957枚、羽子板状鉄鏃、鉄釘などが出土している。遺跡南東で工事立会のさい柱穴群が確認されているが、担当者により中世の可能性が指摘されている。

第３章　調査区について

第１節　調査区の設定（第３図）

本報告書では調査区を南北に三分し、北側から調査区Ａ、調査区Ｂ、調査区Ｃとして報告を行なう。それぞれの調査区では西側丘陵側から東側河川側に向かい調査区を細分している。調査区ＡはⅠ区からⅢ区・調査区ＢはⅣ区とⅤ区・調査区ＣはⅥ区とⅦ区で構成されている。

本文図版の掲載は必ずしも上記調査区の順序に従わない部分があるためご理解いただきたい。

第２節　調査区の概要（第３図）

１．調査区Ａ

高津遺跡の北側にあたる調査区で、背後の丘陵から都治川へ向かう緩斜面及び平坦面をさす。

丘陵裾にあたる緩斜面Ⅰ区の上層は中世の掘立柱建物が２面にわたって密に存在している。下層では、竪穴住居からなる弥生時代後期から末期にかけての集落と、古墳時代中期の集落が展開している。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区にまたがって粘土採集場が広範囲に広がっており、その一部は竪穴住居などの遺構を削り取っている。Ⅱ区は最近の耕作により大規模な削平を受けており、遺構の残存状態はかなり悪く、また、南北に延びる浅い谷地形を埋めた暗茶褐色の土壌に掘り込まれた遺構が、同色の覆土で覆われていたため土色に違いが認められず、その検出には困難を極めたが、Ⅰ区と同様中世と弥生時代、古墳時代の建物遺構及び粘土採取場が検出出来た。遺構中には大量の弥生時代後期の土器を含んだ覆土が流れ込んでいた為、削平されている場所にも建物の存在が想定できる。

平坦地に当たるⅢ区は元々微高地だったようだが、Ⅱ区同様かなりの削平を受けており、耕作土の下からは礫層の厚い堆積が認められた。礫層上からは中世と思われる掘立柱建物の浅い柱穴以外には目立った遺構は検出出来なかった。また遺物も少量であった。

２．調査区Ｂ

高津遺跡の中央に位置する調査区で、背後の丘陵から都治川へ向かう緩斜面になっている。調査区の北側では粘土採取による溝状遺構と中世と思われる柱穴を伴う加工段が確認された。南側は谷から延びる腐植土の堆積が都治川へ向かって下っており、大量の土器及び木製品が出土している。この谷地形の溝を大溝と命名する。

調査区の南側は削平を受けたものかⅢ区同様耕作土の下には礫層が広がり、遺構は確認出来なかった。

３．調査区Ｃ

高津遺跡の南側にあたる調査区で、東西で標高差があり、西側には後世の削平により作られた平坦面がある。西側平坦面の西壁には古墳時代中期の厚い包含層が堆積しており、当時期の集落が丘陵斜面に展開しているものと思われる。一部は平坦面の東端にも確認できる。

調査区の東側には人工的に作られた大きな溝が都治川へ向かって下っており、大量の土器と木製品が出土している。水溜めのためと思われる遺構と、足場状の木組みが確認されたため、生活に使用された水場と認識し、水場と命名し報告する。周辺は、礫層が広がり遺構は検出出来なかった。

南側の調査区外には広い平坦地があり、遺物が表採出来る為遺跡が広がっていると思われる。

調査区の東端Ⅷ区では旧河川と思われる砂層や礫層が確認された（第４図トレンチ27)。おそらく、都治川の一部は山側に寄っていた時期があったと思われる。水場からの堆積は少量の遺物を伴ってⅧ区まで続いており、そのまま旧河川に連結している。

以上調査区の概要を述べたが、調査区全体に水田による削平が認められており、また、粘土採取時に破壊された遺構も多いと思われるため、遺構の残存率は低い。さらに、遺構埋土の識別が不可能な遺構が多く存在し、あいまいな記述が多く、十分な報告が出来なかったことをお詫びする。

なお、ほ場整備における盛り土範囲は調査対象外としているため、現状で保存されている。

第４章　調査の結果１（遺構）

第１節　弥生時代～古墳時代

今回の調査では弥生時代後期から古墳時代後期にかけての遺構が確認された。検出された殆どの竪穴住居跡と思われる遺構は残存状態が悪く、プランだけ見ると加工段のように見えるものもあるが、柱穴配置から竪穴住居として報告している。残存状態の悪い竪穴住居の理解を助ける為に、平面形と柱穴配置を手掛かりに作成した復元図を参考程度に併載している。

１．Ⅰ区

竪穴住居12（第８図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側半分は盛り土と共に流出している。平面形は円形又は多角形を呈すと思われる。壁帯溝の中で壁構造に由来すると思われる柱穴列が確認できる。

壁帯溝出土遺物である長頸壷213及び覆土中遺物より、遺構廃棄時期はＶ－２様式頃と思われるが、良好な資料に乏しく、遺構の時期を確定するには至らない。

竪穴住居07（第９・10図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の平面形は５ｍほどの五角形若しくは隅丸方形を呈す。住居の北側大部分は粘土採取坑により削平を受けている。主柱穴は４本から５本と思われ、中央やや西寄りに浅い中央土坑を有す。

床面で炭化物と焼土の薄い堆積層を検出した。中央土坑と柱穴Ｐ２は炭化物と焼土が堆積しているため、住居が火を受けた時の遺構と判断した。貼り床除去後に溝状遺構を確認したが、壁帯溝とするには幅が広く床下構造の可能性なども考えられる。焼土中の遺物74などから住居の最終廃棄時期はＶ－４様式と思われる。

竪穴住居14（第11・12図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は後世の削平を受けている。竪穴住居03の貼り床の下でプランが確認できた。平面形態は多角形と思われ、復元すると直径８ｍ以上の８角形住居となった。竪穴住居03の建替え前の住居である。柱穴は不明である。

出土遺物は確認出来なかった為時期は不明だが、竪穴住居03出現直前の建物である。

竪穴住居03（第11・12図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は後世の削平を受けている。竪穴住居14を埋め戻した後で貼り床を施した住居である。平面形態は円形若しくは多角形の大型住居と思われる。遺構残存部を元にして普通に住居の平面形を復元すると直径は９ｍ以上になるが、不整形プランの可能性があるため９ｍ以上の住居になる可能性を持つとしておく。主柱の数は不明である。壁帯溝の中で壁構造に由来すると思われる柱穴列が密に確認できる。床面で炭化物の堆積が若干検出できた。床面から碧玉製の管玉43が出土している。遺構の廃棄時期は、床面上の最新遺物である甕38及び鼓型器台42からＶ－３様式と思われる。

竪穴住居04（第11・12図）

丘陵緩斜面下方に位置し、粘土採取遺構と後世の削平により遺構の大半を失っている。竪穴住居03を切り込んで建てられていると思われるが、平面形態及び規模共に不明である。

壁帯溝の内側は不整形なため、おそらく壁材の影響を受けていると思われる。床面では炭化物や焼土が甕63・64－70と共に堆積している。炭化物堆積面の下で主柱穴を検出した。付近では炭化物の入った土坑を検出した。

床面炭化物中の遺物より、遺構廃棄時期はＶ－４様式と思われる。

竪穴住居13－１（第13図）

丘陵裾緩斜面に位置する住居で、プランの切り合い関係から竪穴住居13－２を斜面に対し並行移動し、建替えた住居と思われる。平面形態は方形と思われ壁帯溝が廻り、東南の壁際に土坑を持つ。土坑の中には炭化物が面的に堆積し、甕278などが入っている。北西側の壁帯溝の状況から２回以上平面形の変更を行なっていることがわかる。小型の柱穴を数基検出したが柱としては並ばなかった。正方形として復元した床面積は20㎡である。

遺構廃棄時期は、土坑出土遺物及び高坏281などから古墳時代中期後葉ごろと考える。

竪穴住居13－２（第13図）

丘陵裾緩斜面に位置する住居で、東側を粘土採取遺構により抉り取られている。重複したプランの切り合い関係から竪穴住居13の建替え前の住居と思われる。平面形は方形を呈し、規模は竪穴住居13と同規模と思われるが、詳細は不明である。遺構廃棄時期は竪穴住居13－２が建つ直前と思われる。

竪穴住居08（第14図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は粘土採取坑による削平を受けている。平面形は多角形で復元直径は10mほど。７本以上の主柱を持つと思われる。１回ほど平面形の変更を行なっている。竪穴住居09の建替え前のものと思われたが検討を要す。壁帯溝及び床面遺物である甕１・２より、遺構廃棄時期はＶ－３様式と思われる。

竪穴住居09（第14図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は粘土採取による削平を受けている。平面形はおそらく多角形を呈すと思われるが残存状況が悪く詳細は不明である。土層と壁帯溝の状況から２回平面形の変更を行なっている。小型の住居は隅丸方形の住居だったと思われる。調査中の土層観察では竪穴住居08の建替え後の住居と考えていたが、トレンチ22の５・６層（第４図）の土層観察では竪穴住居08建替え前の住居と認識している。竪穴住居08と09は分層が困難だった為に竪穴住居08の床面までの遺物の取り上げは08・09共通として、竪穴住居09のプランを検出した段階で、竪穴住居08出土遺物、09出土遺物としてそれぞれを取り上げた。そのため出土遺物の多くが竪穴住居08・09共通のものとなっている。しかし、竪穴住居08が新しいとすると、08・09共通と認識していた遺物は竪穴住居08に帰属する可能性が有る。両住居出土遺物の時期はＶ－３様式より下ることが無い為、竪穴住居09の廃棄時期もＶ－３様式以前と考える。

土層観察に混乱を生じてしまったが、同時期の竪穴住居03・14の関係や、調査中に竪穴住居09のプランを検出出来なかったことなどからトレンチ22調査時の土層観察が正しかったと考察する。

土器棺墓01（第15図）

やや広めの土坑を掘り込み、甕93と94の口縁を合わせて埋葬した迎合式土器棺墓である。副葬品は確認出来なかった。被葬者の埋葬時期はＶ－４様式である。周辺にある同時期の遺構は竪穴住居04・07だが、被葬者がこの住居の住人かどうかは不明である。少なくとも、弥生時代末期には集落内に墓を持っていることが確認できた。

２．Ⅱ区

竪穴住居11（第17～20図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、住居北側は後世に削平を受けており検出出来なかった。

住居11－１の平面形態は隅丸方形で、壁帯溝の観察により平面形の変更を２回は行なっていることが確認できた。主柱の配置はおそらく４本柱になると思われ、一度は柱の建替えを行なっていると考えられる。住居の東側で壁帯溝を確認できたので、これを竪穴住居11－１の建替えと考え竪穴住居11－２と呼ぶ。11－２はおそらく５本柱の不整形な五角形プランを持つと思われるが、北側の状況が不明な為詳細はわからなかった。また、住居の切り合い関係を確認出来なかったので、11－１と11－２の前後関係も不明である。同時期の竪穴住居01と10の関係を参考にすると、11－１→11－２となる可能性がある。中央にある大型の土坑から甕114が伏せた状態で検出された。甕の底部は元々欠如しており、脚裾部を失った高坏115が甕の中に落ち込んでいる。土坑の中に甕114の胴部や高坏115が落ち込んでいるため、甕114の廃棄時には土坑には埋土が充填されていなかったことがわかる。土坑の底部には炭化物が広範囲に薄く堆積している。この炭化物の堆積上でもう１セット甕112と高坏113が潰れた状態で出土している。土坑のそばで北側に倒壊した山陰系甑形土器111（以下甑形土器）を検出した。以上の状況を竪穴住居10セットＡの復元状況を踏まえて復元すると、第20図甑形土器使用状況復元図のようになる。これをセットＢと呼ぶ。甕114は接合すると高坏115が入る隙間が無いので元々底部に穴の開いた甕114の上に高坏115が設置されていたようだ（第20図復元図１）。高坏115の脚裾部は使用の際邪魔になるため取り除かれたと思われる。甕112と高坏113

は甕114と高坏115を使用する以前のセットと思われる。これをセットB'と呼ぶ。甕112は胴部以下が欠如しており、高坏113はセットAの高坏115と同様の理由で脚部を失っていると思われる。おそらくセットAやセットBと同様な使われ方をしていたと思われる。使用後はそのまま土坑中に廃棄され、ある程度土坑を埋め戻した後、セットBが使用されていたようだ。甕112・114は胴部以下に煤が付着している為、煮炊きに使用したものを転用していると思われる。高坏113・115は有機物溶液を煮沸した痕跡が認められるが、外面に煤が認められないことから直接炎を受けていないか、炭火などの完全燃焼による加熱を受けていたと考えられる。

セットBは土坑中で炭等の完全燃焼による加熱を受けていたものと考えられる。セットB'も同様の加熱を受けたと思われる。520はススの付着具合から、セットBと同様に天地逆の状態で加熱されたと思われる。

床面でヤリガンナ116や作業台に使われた石器S18が検出された。床面や覆土中から土器が大量に出土している。時期はV－2様式からV－4様式までで、おそらく竪穴住居11の南側に存在したV－2様式からV－3様式頃の住居遺物が流れ込んでいると思われる。

住居の廃棄時期は、セットBが住居の廃棄時の遺物と思われるので、甕114の時期からV－4様式と思われる。

竪穴住居02（第21・22図）

丘陵裾の平坦地で検出した遺構で、後世に遺構上面が削平を受けている。平面形態は方形で、壁帯溝が廻る。山側の壁際に炉を持ち中央部に土坑を持つ。西側に大きめのピットP9を持つ。P9出土遺物は218・219・222などである。住居中央寄りに小型の柱穴を9基検出した。中央土坑に切られたピット10から須恵器蓋262が出土した。住居床面は炭化物や焼土に覆われている。壁から離れて設置された炉は粘土製で被熱し、土器のようになっている。上方はかなりの部分が削平を受けているので上部構造は不明だが、平面形を見ると奥に円形の竪孔が開いており、手前に小型の竪孔が開いている。それぞれの孔には灰が堆積している。小型の竪孔から炉の手前へ向けて細い横孔が壁を貫通して開いている。炉の裏側にあたる住居壁には炉と同様の被熱粘土が張り付いており、円形の穴が開いているが炉壁を抜けているのかはわからなかった。また、壁の被熱粘土の穴に対する炉壁の穴は残存部では確認出来なかった。従って煙道構造を含め、炉の性格などは不明である。炉は教育委員会で保管している。炉の裏側に高坏脚部257が落ち込んでいた。

住居の廃絶時期は蓋262から古墳時代中期末から後期初頭と思われる。

住居覆土中から多量の弥生土器が出土した。時期はV－2様式からV－4様式までである。竪穴住居11同様南側にあった住居からの流れ込みとおもわれる。また、床面精査中にも多量の弥生土器が出土した。竪穴住居11覆土中の遺物である。竪穴住居11の参考として床面精査中の弥生土器を若干掲載する。

竪穴住居10（第23～26図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、甑形土器の倒壊を検出したことにより、住居の存在を予想した。しかし暗茶色の地盤に同色の覆土が入っているようで住居プランが検出できず、最終的に、土層観察ベルトを設け、次層の青灰色粘土層中に柱穴が堀込まれている事を祈って全面を掘り下げた。何

とか柱穴が確認できたが、建替えを行なっているようで、土層観察により竪穴住居01を抽出した。竪穴住居10の平面形態は六角形と思われる多角形を呈す。竪穴住居01の主柱を２本共有しており、床面は竪穴住居01より10㎝高い。床面の状況と併せて竪穴住居01の建替え後の住居と考えられる。主柱は６本と思われるが柱穴を１基確認出来なかった。中央に浅い土坑を２基伴いその内の１基では壷109が胴の半ばまで埋設されている。壷109と重なるように高坏の坏部110が検出された。そばには山側に向かって倒壊した甑形土器108が検出された。復元すると第26図復元図のようになる。これをセットＡと呼ぶ。甑形土器108は底部西南側を支点に倒壊し、西方向に若干力を受けている。壷109と高坏110も壷胴部に落ち込む際に若干西方向に力を受けていると考えられる。なお、これらの動きがあった際に甑形土器108の破片の一部が倒壊の反動でひっくり返っており、破片が周辺の床面に散乱している為、少なくともある程度の空間が確保された状態で倒壊したことがわかる。土坑の底部と壷109の外部埋設面に煤が付着しており、埋土では細かい炭化物が確認できる。壷109は土坑内に埋設された状態で火を受けた可能性が有る。高坏110の内側では何らかの有機物溶液を煮沸した際の痕跡が付着しており、こぼれたものが外面にも流れて付着している。高坏110は若干傾いた状態で加熱されていたようだが外面に煤が付着していない為、直接火を受けてはいないと考える。炭火のような完全燃焼炎を間接的に受けた可能性が有る。甑形土器108は内側の色調が淡灰色を呈しており、スス痕跡とも考えられるが、あるいは土器焼成時の還元色かもしれない。もう１基の土坑には灰が充填されており、石器が立位で検出されている。石製支脚の可能性があるが用途不明である。

住居の廃棄時期はセットＡの壷109より、Ⅴ－４様式とおもわれる。

竪穴住居01（第23～25図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、平面形は不整形の隅丸方形と思われ、主柱は４本である。床面の状況と土層観察により竪穴住居10の建替え前の物と思われるが遺物は確認出来なかった。中央付近の床面は被熱し、硬化している。

住居の廃絶時期は竪穴住居10出現の直前と思われる。

竪穴住居05（第27図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、平面形態は円形又は多角形を呈す。後世の削平と粘土採取により遺構の大半を失っている。壁際で壁帯溝の一部を検出した。柱穴の一部は検出出来たが主柱の配置は不明である。小型の甑形土器211が出土した。良好な一括資料持たないため時期の確定は困難だが、住居の廃棄時期は覆土出土遺物からⅤ－３様式前半頃と思われる。

土器溜り３・３’（第28図上）

調査区北側に位置し、土器溜り４の東側で検出された土器溜りで、やや分散する広範囲な土器溜り３と、その中でも遺物の密集する土器溜り３’を検出した。土器溜り３’はミニチュア土器や高坏等を豊富に含むが直接祭祀に関連するものは見当たらなかった。祭祀跡の可能性も考えられるが詳細は不明である。

土器溜り４（第28図下）

調査区北側で単頭型土製支脚307や甕308などがまとまって出土している。ミニチュア土器等が見られないことと、石器Ｓ９・Ｓ15など生活用具を伴うため、住居内遺物の可能性も考えられる。しかし、住居のプランを検出出来なかったので土器溜りとして扱う。

３．Ⅳ・Ⅴ区

大溝（第29・30・31図）

調査区Ⅳ区とⅤ区で東西に延びる一連の湿地性の有機物堆積層を確認した。丘陵裾から都治川方面へ東西に微傾斜が下る幅23m長さ18m以上深さ１mほどの谷地形の堆積だが、水場と違い自然地形に堆積している可能性もある。Ｗ１～46（W40を除く）ほか大量の木製品と土器、石器が出土している。木製品のほとんどは建築部材だが、若干の生活道具も混じっている。クワ属の木W67は一本の丸太を細杭で水平に固定し、端部上面を平坦に加工している。一部は調査区の外に伸びているため長さは不明であるが、調査区内では長軸で4.7mまで測れた。木製品の素材か若しくは木道のような遺構なのか、判断はつかなかった。Ｓ12・Ｓ17・Ｓ21・Ｓ25を始め大型の砥石が多量に散乱していた。人為的ならばその目的は不明である。

水場と大溝で接合出来た資料が有る。装飾壷372と絵画土器881である。両遺構は45m以上の距離があり、地形が南北へ傾斜しているため、東西への自然な遺物の移動は起こらない。これらの遺物は自然に廃棄されたものではなく、割れた装飾壷や絵画土器をわざわざ水場と大溝へそれぞれ廃棄した行動の結果と考えられる。よって、この行動は土器を使った祭祀行為と認識した。なお、両遺物は共にＶ－４様式のものと思われ、弥生時代末期には土器を割って水場と大溝に廃棄する祭祀が定着していたと考えられる。土器の中に何が入っていたのかは不明である。遺構の使用者の意識においては水場と大溝が同列の意味を有していた事が窺える。

出土遺物は弥生後期から古墳後期まで出土しており、遺構の存続が長期に及んでいる。

なお、出土遺物実測図は、水場出土遺物を補完する程度の掲載に留めているので、出土遺物総計表86で確認いただきたい。

４．Ⅵ区

段状遺構02－１（第40図）

丘陵裾平坦面端部に位置する建物で、コの字形に壁と壁帯溝を検出した。建物の東側は流れたか、もしくは、加工段のような性格を持つ奥行きの狭い建物だった可能性もある。一辺の壁の長さは竪穴住居13と同規模である。壁と並行に並ぶ小型の柱穴を検出したが、建物に伴うものなのか不明である。

段状遺構02－２（第40図）

丘陵裾平坦面端部に位置する遺構で、段状遺構02－１と並行しており、段状遺構02－１の建替えの可能性を持つ。段状遺構02－１と同様に壁帯溝を持つが、北側の壁は検出出来なかった。北側に建替え後の溝を一条検出した。遺構の東側は流れたか、もしくは、加工段のような性格を持つ、奥行きの狭い建物だった可能性もある。壁帯溝と並行に並ぶ小型の柱穴列を検出したが、建物に伴う

柱であったのか不明である。

段状遺構の廃棄時期は出土遺物から、古墳時代中期～後期ごろと思われる。

土器溜り５（第40図）

丘陵裾に広がる弥生後期Ｖ－３様式の土器溜りである。土器溜りに伴う遺構は確認出来なかった。出土遺物には甕334などが有る。

５．Ⅶ区

水場（第38・39図）

高所にあるⅥ区の平坦地が東へ落ち込む辺りから遺構が始まっており、緩斜面をおよそ幅8.5m、長さ30m、深さ1.5mほどにＵ字形に掘り込んで人工的に溝を作っている。この掘り込みはⅧ区で確認された旧河川に接続している。調査時にはⅥ区から常時流水があったが、珪藻分析の結果から当時の流水量はさほど多くなく、遺構は乾湿を繰り返していたようだ。雨水などが間欠的に流れ込んでいたのかもしれない。

礫・砂粒層と有機物堆積層の堆積がある程度繰り返された後に遺構中央北寄りに杭と板を使って足場と思われる平坦面を作っている。また、木材を用いた簡易な土手を築いて、ある程度水を溜めていたようで、木製品が水平に堆積している。

遺物は磨滅していない土器が多く堆積しており、接合出来る物が多いが、個体の一部だけ磨滅風化しているものもある。

遺構の使用期間は弥生時代後期から古墳時代後期までと思われるが、粘土採取時に掘り崩した住居から出土した土器などをここに廃棄している可能性がある。

出土遺物は概ね下層が古く上層が新しい傾向を示すが、土砂の堆積が流水の撹乱を受けつづけて形成されているため、最下層で須恵器が出土し、上層でも弥生土器が出土しつづけている。

遺構北側で立木杉の根を検出した。３層に根を張っており、２層の堆積により埋没したと思われる。

東壁Ａ－Ａ'セクション３層中の一括資料は、400・529などであるが、現段階で壷400の時期確定が出来ないので、この資料の一括性については保留する。

７層下層一括で検出した土器溜りの構成は、341・350・363・373・397・462・484・489・501・514・524・546・550・552・556・574・646・677・682・739などであるが、一括性が高いとは言い難い。構成時期が弥生時代後期と古墳時代初頭に大分出来る為、複数時期の一括資料が重なって検出されたあとで、流水により撹乱された可能性も残す。

水場から大溝までの空間には遺物や遺構は確認されなかったが、遺構南側の調査区外には一段高い所に広い平坦地が広がっており、遺物が表採される為遺構の存在する可能性が高い。

大溝の説明でも触れたが、装飾壷372と絵画土器881はここと大溝の間で接合できた資料である。須恵器模倣の黒色磨研土器は大溝、水場、粘土採取場で出土しているが、古墳時代後期の赤彩土師器は水場と大溝でのみ出土している。おそらく祭祀行為に使用されたと思われる。水場と大溝で執り行われていた祭祀行為は弥生時代末期と古墳時代後期では趣が違っているが、長期にわたり両方の場所が祭祀を執り行う場所として等しく扱われていた様である。

6．Ⅰ～Ⅴ区

粘土採取場（第33～36図）

粘土採取場は竪穴住居群を掘り崩しており、中世の柱穴群や段状遺構３・４などにより削平、撹乱を受けている。今回現状保存できない箇所を1,300㎡ほど調査したが遺構の一部であり、おそらく全体規模は2,000㎡以上になると思われる。遺構には粘土と土砂の混じった埋土が複雑に堆積しており、埋土を取り除くと縦横に掘り込まれた採掘坑が無数に確認された。掘り方は粘土を追いかけての露天掘りを基本とし、所々で埋め戻された粘土混じりの土砂を掘り直した痕跡も確認されたので、個々の粘土採取にはあまり計画性が無かったのではないかと考えられる。しかし、粘土採取場全体を見渡すと、調査区ＡⅠ区では採掘坑が密に空いており、粘土採取場の中心部と思われる。Ⅴ区の様に溝状の粘土脈を追いかけて掘削痕が溝状に伸びている場所もある。その先で確認された粘土採取場－01では粘土採取坑がまばらに空き、その先には粘土を掘り起こした形跡が見られないことから粘土採取場の西南端と思われる。また、粘土採取場－01では土師器甕600が一個体分出土している。北西側も竪穴住居11の東側あたりから採取坑はまばらになり、竪穴住居01の手前で粘土採取は終了している。これらの状況から、粘土採取は初め、ＡⅠ区を中心に行なわれ、だんだん採取範囲を扇状に広げ、やがて粘土の採取を行なわなくなり、終焉を迎えた様子が認められる。

セクションＢ－Ｂ’では17層掘り込み底部で板状木製品W65が水平の状態で出土している（第35図）。粘土採取場－02では焼成不良の須恵器甕1061がほぼ完形で出土している（第36図）。粘土の採取時期は竪穴住居13が掘り崩されているので遺構の切り合い関係から少なくとも古墳時代中期には粘土採取が行なわれており、段状遺構04の削平を受けているため中世以前には終わっていると思われる。しかし粘土の採取がいつ頃から行なわれていたのか不明である。出土遺物の時期が弥生時代後期から古墳時代後期までなので古墳時代後期をその終焉としておく。ここからの出土遺物は多いが、出土土器の形式は水場及び大溝出土遺物と概ね変わらないので、実測図の掲載を控え、表86で内容を表した。粘土採取の目的は、土器作成のためと思われるが、土器焼成遺構も、須恵器窯も確認出来なかった。今回の調査では粘土及び土器の胎土分析を行なえなかったが、今後の課題としたい。

第２節　中世

1．Ⅰ区～Ⅲ区

掘立柱建物１～７（第41～46図）

Ⅰ区の柱穴群から７棟分の建物を復元した。

立地は丘陵裾部の緩斜面で、北側を後世の耕作により失っている。柱穴は密集しており、何度も建替えを行なっていると思われる。柱穴出土遺物から、建物の時期は概ね中世後期で収まっていると思われる。

掘立柱建物８～11（第49～51図）

調査区北側で建物の床面と思われる浅い堀込と建物の建替え若しくは柵列と思われる柱穴列を４組検出した。遺構面は炭化物が万遍無く堆積しており、一部に火を受けた痕跡が認められる。おそらく板貼りの床が焼失したものと思われる。建物は調査区の外に広がっており全体の規模や柱穴の

配置は確認出来なかった。炭化物堆積面の周辺には不整形の浅い溝が沿っている。雨落ちの痕跡であろうか。炭化物の堆積中から陶磁器1114、土師器1115～1117と鉄族1118及び、滑石製石鍋を転用した温石1119が出土した。これらの遺物から12世紀後半から13世紀前半ごろに廃棄された建物と思われる。

掘立柱建物12（第52図）

調査区東寄りの平坦地で北西軸に乗って建てられた掘立柱建物を検出した。建物は北側に延びる可能性が有る。柱穴の残存状況が悪く、かなりの削平を受けていると思われる。そのため、包含層も確認出来なかった。柱穴規模及び建物の間尺から埋築遺跡Ⅰ区で検出した掘立柱建物群と同時期と考えるが、柱穴から遺物が確認されなかったので正確な時期は不明である。埋築遺跡同様凡そ13世紀頃の建物と仮定しておく。今後の調査例の増加により正確な時期が判明すると思われる。

柱穴群（第41図ほか）

建物としては掲載できなかったが、おそらく掘立柱建物になると思われる柱穴を多数検出した。そのほか、河原石を充填したピット（第30図）や粘土採取坑と思われる土坑（第33図など）も確認されたが、主な遺構を掲載している。

段状遺構04（第48図）

粘土採取遺構が埋没した後で掘り込まれている加工段で集石が伴う。掘り形は緩やかな弧を描き、なだらかに掘り下げられており壁と床の区別が明確では無い。出土遺物から遺構の時期は中世後期と思われる。遺構の性格は不明である。

段状遺構03（第48図）

段状遺構04が埋没した後に掘り込まれた加工段で集石が伴う。掘り形は緩やかな弧を描き、なだらかに掘り下げられており壁と床の区別が明確では無い。出土遺物から遺構の時期は中世前期以降後期までと思われる。遺構の性格は不明であるが段状遺構04と同様の性格を持つと思われる。

１号道・２号道（第41～43図）

中世遺構面第１面で南北に延びる分岐する道を検出した。道は地形に沿って路面が東西に傾斜しており、路肩に側溝を伴う。２本の道は寄り添うように同一方向に延びているため、どちらかが付け替え道と思われる。正確な時期は不明だが、おそらく中世後期から近世にかけての遺構と思われる。

不明遺構（第47図）

中世２面からの掘り込みで、素堀の土坑底部にレキと板を敷いている。井戸の可能性がある。遺構掘り込み面から時期は中世後期頃と思われるが遺物が確認できないため詳細は不明である。

第５章　調査の結果２（遺物）

第１節　小型遺構に伴う遺物

後述する水場や大溝などの大型遺構と竪穴住居などの記述を分けるために、便宜上竪穴住居などを小型遺構と呼び、以下、それぞれの遺構出土遺物について報告する。

竪穴住居08・09（第53図）

両住居跡の埋土に違いが見いだせず、プランでは両者の区別がつかなかった為、多くの遺物は竪穴住居08・09の覆土出土遺物として取り上げてある。識別された遺物は発達した複合口縁に擬凹線で装飾を施した後で口縁部にナデ調整を施している甕と全体にヨコナデ調整されているものに分かれるが、Ｖ－４様式まで時期の下るものは無い。また、陵部が発達しているものと、発達していないものが混在する。甕は中型品が多く、口縁陵部を垂下させた大型品が少数含まれている。口縁内面に段を有しない甕12・13は頸部から口縁端部までを真っ直ぐ、若しくはやや外反させて作り、口縁複合部陵が発達せずヨコナデ調整を施しているのが特徴で、頸部内側は鋭い陵を形成する。鼓形器台29・30は直立外傾する受部を持ち、29はヨコナデ調整、30の施文はナデによりかすれているなど、擬凹線文の重要度は薄れている。高坏27は高津遺跡で通常見られるタイプで、竹管を用い脚中に粘土を充填している。脚部にスカシを持つ高杯28は畿内系高坏と思われる。

竪穴住居08

１は端部が肥厚する甕又は壷の口縁で壁帯溝から出土している。２は肥厚する端部の先端が先細る。床面の資料である。３・４の形態はＶ－３様式だが、ヨコナデにより調整されている。畿内系と思われる高坏脚部５が出土しているが、覆土出土のため、住居廃棄後の混入品の可能性も有る。

竪穴住居08の床面遺物及び壁帯溝出土遺物はＶ－３様式の土器なので、竪穴住居08の廃棄時期はＶ－３様式と思われる。

竪穴住居09

やや外傾する口縁に擬凹線を施した後でナデにより端部を調整する甕６が壁帯溝から出土している。甕７は外反する口縁端部をややつまみ出しており、外反しヨコナデを施す鼓型器台と同様Ｖ－４様式の特徴を有す。

竪穴住居09の壁帯溝出土遺物はＶ－３様式前半頃の特徴を持つが、覆土の遺物はＶ－４様式を含む。住居の切り合い関係も考慮して竪穴住居09の廃棄時期はＶ－３様式と考える。

竪穴住居14・03・04（第54～55図）

竪穴住居14からは遺物は出土しなかった。

竪穴住居04は03の覆土掘削中には認識されておらず、よって覆土調査中に取り上げた遺物は竪穴住居03・04共通としている。甕63は、やや肥厚する口縁端部の内側にナデによって作られた沈線を伴う面を持ち、肩部には波状文が廻る。甕底部64は薄作りの胴部を持ち、平底を呈す。図版の配置

が紛らわしいが、甕70と同一個体である。真っ直ぐ伸びる口縁69は端部を若干つまみ出している。甕70は緩やかに外反する口縁端部を丸く収めている。畿内系の高坏脚裾部73にはスカシが認められる。床面焼土中出土遺物の甕63・64・70の時期がⅤ－４様式なので、住居の廃絶時期はⅤ－４様式と思われる。

竪穴住居03の床面で両側穿孔の碧玉製管玉43や発達した口縁に擬凹線文を施した甕38、鋭い列点文を施した鼓型器台42や畿内系高坏脚裾部40、甑形土器41などが検出された。覆土にはⅤ－３様式前半のものやⅤ－４様式に含まれる51･52なども認められ、床面からⅤ－２様式の土器も出土しているが、床面最新遺物の甕38の時期から住居廃棄時期はⅤ－３様式と考える。

竪穴住居07（第55図）

床面の炭化物堆積層中で甕一個体74・75が出土している。覆土からⅤ－２様式から３様式にかけての土器76～81と土師器甕86・87が出土しているが、住居廃棄後の流れ込みと思われる。山手の調査区外にⅤ－２・３様式と古墳時代前期の遺構が存在すると考えられる。床面資料の最新時期はⅤ－４様式である。よって、住居の廃絶時期はⅤ－４様式と思われる。

住居内から焼粘土塊が出土している。住居焼失の際に被熱した住居構造材の一部か、若しくは付近にあった土器焼成遺構の構造材が流れ込んだものと思われるが、詳細は不明である。

土器棺墓01（第56図）

中型の甕94は上方に発達し緩やかに外反する口縁にナデ調整を行ない、端部を丸く収める。陵部は水平方向に弱く突出する。薄作りの胴部は肩の張る倒卵形を呈し、外側の調整には縦方向のハケメが認められるが肩部の調整は不明である。内側の調整は左上がりのヘラ削りを行なう。底部にしっかりとした面を持つ。大型の甕96は上方に厚く発達した外反度の弱い口縁端部内側に強いナデによる沈線を伴いながら面を有す。ヨコナデにより口縁陵部は鋭く形成されるが突出していない。薄作りの胴部は肩の張る倒卵形を呈し、外側の調整には縦方向のハケメを施した後に、クシ状工具を用いて一筆で波状文と直線文を交互に施文している。内側の調整は左上がりのヘラ削りを行なう。底部にしっかりとした面を持つ。94の時期はⅤ－４様式である。よって、甕93の時期もⅤ－４様式と思われる。

高津遺跡ではこのセットを基に弥生時代の下限を設定しており、弥生時代末期～古墳時代初頭と思われる竪穴住居の廃棄時期が古墳時代まで下らない事の根拠としている。（第６章第３節参照）

竪穴住居01

住居跡に伴う遺物が確認出来なかったため記載事項はないが、竪穴住居10の建替え前の住居なので、遺構廃棄時期はおそらくⅤ－３～４様式の間と思われる。

竪穴住居10（第57図）

甑形土器108はやや長めの口縁と胴部の境に緩やかな段を有し、口縁と脚端部を丸く収める。環状の把手は上下に一対ずつ差込みにより取り付く。上方の把手は小さめで肩部に寄って横向きに付き、下方の把手は脚部に寄って縦向きに付く。長い胴部は上部と下部の径にあまり差が無く、やや

寸胴傾向をとる。これは、内側で使用する壷が完形で使用されることを想定して、上部でも胴径を小さく出来なかった為と考えられる。胴部に数箇所の横に周る接合痕が認められることから、板状の粘土を輪積みして胴部を形成していると思われる。外側の調整は縦方向のハケメで、脚裾際までハケメを施す。内側の調整は横方向を指向するヘラ削りが右方向に為されている。壷109は真っ直ぐ外傾する口縁端部に水平の面を持ち、陵部は鋭く斜め下方へ突出している。胴部の中ほどが張り、しっかりした平底の底部を持つ。外側の調整は下方に縦方向のハケメを施し、上方は横方向のハケメを施す。頸部中ほどと肩部に沈線を廻らせ、その間と下方に羽状文を施している。胴部下方は土坑中に埋設された範囲が被熱しススが付着している。内側の調整は右上がりのヘラ削りを行なっており、底部形成時の指頭圧痕が残る。胴部内面には若干焦げの様なものが見受けられる。口縁端部にも若干炭化物が付着している。高坏110は内湾した後で弱く外反する坏部を持つ。脚接合には刺突を伴う円盤充填を用いている。坏部内面には有機物溶液を煮沸した際の焦げが炭化物のリング状痕跡として残っており、一部は吹きこぼれた状態で外面にも付着している。脚は２次使用の際に取り除かれており、吹きこぼれた炭化物が除去後の脚断面を越えて流れている。

竪穴住居10の廃棄時期は出土遺物からＶ－４様式と考えられる。

竪穴住居11（第58～62図）

甑形土器111はやや短めの口縁と胴部の境に緩やかな段を有し、口縁と脚端部に面を持つ。環状の把手は上下に一対ずつ差込みにより取り付く。上方の把手は肩部からやや下って横向きに付き、下方の把手は上部に寄って縦向きに付く。胴部は下部の径が下方把手の辺りまで直立気味に立ち上がり、上部の径が下部の径に比べ小さく作られている。これは、内側で使用する甕が低部を打ち欠き口縁を伏せて使用することにより、高坏の設置高が低く出来る事を想定して、上部径を小さく作り、器高自体もやや低く作った為と考えられる。この工夫をすることにより、粘土の消費と製作の労力を抑えることが出来たと考える。外側の調整は縦方向のハケメだが、脚裾は下方把手下側をヨコナデ調整により仕上げている。内側の調整はヘラ削りと思われるが風化のためか不明瞭である。

中型の甕112は緩やかに外反するやや厚手の口縁端部をつまみ出し、複合部の陵は小さく斜め下方に突出している。胴部調整は外側では下方タテハケメ、上方ヨコハケメ後肩部にクシ描き直線文と波頂間の広い緩やかな波状文を施している。内側の調整は風化の為不明である。高坏113はやや深い坏部が内湾した後端部が強く外反している。脚部は欠如している。坏部内面中ほどには炭化物溶液の沸騰による炭化物がリング状に付着している。大型の甕114は、真っ直ぐ外傾する厚い口縁端部の内側に面を持ち、複合部陵は水平方向に突出する。胴部調整は外側では下方タテハケメ上方ヨコハケメを施した後肩部にクシ描き直線文と波頂間の広い緩やかな波状文を施している。内側の調整は右上がりのヘラ削りが頸部まで施されている。高坏115はやや深い坏部が内湾した後で端部が強く外反している。脚裾は欠如している。おそらく２次使用の際に取り除かれたものと思われる。坏部内面中ほどには炭化物溶液の沸騰による炭化物がリング状に付着している。ヤリガンナ116は木質の把手に蔓を巻き付け鉄器本体と結合している。口縁が内傾する甕117は、凹線文を施している。118～121は直立する口縁端部がやや上方に発達しており、太い凹線文が施されている。122・135はやや外傾する口縁がやや上方に発達している。123～129は先細る複合部を上方に拡張している。126は口縁部をヨコナデ調整している。130～134は先細る複合部がやや外傾して上方に発達し

ている。136は口縁内面に段を有しない甕でヨコナデ調整が為されている。148～151は複合部が下方にも発達している。152～157は複合部が上方にさらに発達している。160・161は複合部の陵を薄く貼り付けている。163～167の口縁複合部は外反しながら外傾している。164・165は口縁端部を細く作っている。壷、甕118～192は薄造りの複合口縁にヨコナデ調整を施すものである。複合部は外傾若しくは外傾外反し、口縁端部は先細るもの、丸く収めるもの、端部内面に面を持つもの、端部をつまみ出すもの、に分かれる。複合部陵はやや下方に突出させるものや、水平方向に鋭く突出するもの、頸部のナデにより上方へ突出するものがある。端部の面はしっかりしたものが有るがすべて内側に面を持ち、水平になるもの及び端部外側に面を持つものはない。192～197は壷若しくは甕の底部で平底を呈す。198は鉢である。199は鼓型器台の筒部で、若干縮約が始まっている。鼓型器台200は右傾の鋭い列点文が廻る。201は坏類の口縁で、低脚坏若しくは小型の高坏と思われる。202は脚中に粘土を充填する高坏で充填には竹管を使用している。203・204は鼓型器台で、受部調整はヨコナデである。

遺物は主にⅤ－２からⅤ－３様式とⅤ－４様式を中心に出土しており、住居廃棄時の遺物はⅤ－４様式なので建替え前の住居がⅤ－３様式を中心とした時期、建替え後の住居がⅤ－４様式に廃棄されたと考えられる。

竪穴住居05（第62図）

口縁の未発達な甕205や複合部の陵が貼り付けられている甕207・208の他に、甑形土器211が出土している。211は中膨らみする胴部に下方口縁に達しないタテハケメを施している。良好な出土資料が無いため時期の確定は出来ないが、住居廃絶時期はⅤ－２様式から３様式にかけてと思われる。

竪穴住居12（第62図）

直口壷213が壁帯溝中より出土している。甕214は口縁端部を上方につまみ出している。215は甕胴部と思われる。３条の沈線で区画した左傾の列点文を施している。216は焼粘土塊である217は短い裾部をもつ脚と思われるが、内面の調整が丁寧なので何らかの坏部若しくは受部の可能性を持つ

遺構時期を確定するには資料数が心もとないが、時期的にまとまりを持つので住居の廃絶時期はⅤ－１～２様式ごろと仮定しておく。

竪穴住居02（第63図）

単純口縁甕218～227は外傾する長めの口縁を持つ。222・224など口縁に若干複合口縁の名残を留める個体が見受けられる。227の胴部は楕円形を呈し、内部調整のヘラケズリは頸部に達しない。228～241は小型の甕と思われる。231は強く外傾する薄造りの口縁を持つ。232・233の口縁はよく発達し、上方へ伸びている。234～241は短い口縁を持ち口縁はやや先細る。236はミニチュア土器で口縁は弱く上方へ伸びている。242～258は高坏である。坏部を二段階に作り分ける坏部は大きく外傾する246などと、狭く外傾して上方へ伸び上がる251の系統に分かれる。また、段を持たない浅い坏部がある。脚の接合には粘土を充填する245・253・254と脚部を差し込んで坏部と固定する255が見られる。257は脚部に穿孔を施している。259は甑の把手である。260・261は移動式竈の胴部であるが、竪穴住居02は据付の炉（用途は不明）と中央土坑を持っており、両者が炊飯に使用されて

いたなら移動式竈の出土に疑問を感じる。後世の流れ込みの可能性も考慮しておく。この住居からは土製支脚は出土しなかった。須恵器蓋262は肩部に陵をもち、発達した口縁端部内面に強いナデを施している。

須恵器口縁263は端部を外反させ、面を持つ。267～269を除く264～276は竪穴住居02の床面精査中に出土した弥生土器で、主に竪穴住居11覆土の遺物で構成されているが、主なもののみ掲載する。

住居の廃棄時期は柱穴出土の須恵器262から、古墳時代中期末～後期初頭とする。

竪穴住居13（第65図）

床面の精査まで住居の建替えを認識できず、出土遺物は住居13－１・２でまとめて報告している。甕278は口縁が外傾して伸び、端部に面を持つ。282・283は外反しながら外傾する口縁を持つ。小型壷284は外傾する口縁端部が先細る。高坏279～281は坏部に段を有すが、281の坏部は小さく段も不明瞭である。286は高台を持つ碗で、口縁端部をつまみ出し強く外反させている。甕の口縁と高坏の特徴が古墳中期後半の特徴を有している為住居13－１の廃絶時期は古墳時代中期と考える。また、13－２は建替え時に13－１によって切られているため、住居13－２の廃棄時期は13－１改築前と思われる。

段状遺構02（第65図）

甕286は口縁から胴部まで緩やかに外反しており、頸部内面に明確な陵を持たない。鉢287は口縁端部が肥厚し、軽くつまみ出されている。肩部に陵を持ち、胴部外側には荒いハケメがタテに入っている。碗288は腰が深く、平底を呈す。口縁端部は肥厚し、やや内湾傾向を示す。

おそらく古墳時代中期～後期にかけての資料と思われる。

土器溜り03・03'（第66図）

甕289～291は直立外傾する単純口縁の端部が先細り、胴部は球形である。甕293～295はやや外傾度が強い。296～298は小型壷で、口縁が内湾気味に外傾するものも見られる。肩が張るミニチュア土器299の口縁はやや外傾して端部に面を持つ。腰の深い坏300は外面指押えで成形し、内面の調整にはヘラミガキを用いている。口縁はやや内湾する。高坏301・302の脚裾部は強く折れ曲がり、短く広がる。301は穿孔を伴う。

高坏や甕の形式から古墳時代中期の一括廃棄遺物と考えられる。

甕303は直立する口縁端部が外反している、土製勾玉310は両側穿孔されている。

土器溜り04（第66図）

単頭式の土製支脚307と小型壷308が出土している。土器堆積時期は古墳時代中期から後期頃と思われるが単頭式土製支脚が山陰にいつ入ってきているのか不明である。よって時期は不明としておく。石器は作業台Ｓ９と磨り石Ｓ15が出土している。

その他の遺物（第67図）

312～331は土器溜り03と竪穴住居01・10付近で出土した遺物で、おそらく312～320は土器溜り03

へ、321～331は竪穴住居01・10へ、それぞれ帰属すると思われる。330は長く鋭い刺突文が左右に傾斜して施されている。332は複合口縁の陵部が斜め下へ発達している。333は体部に掘り込まれた溝に突帯が差し込まれている。

なで肩の甕334は土器溜り５出土遺物で、発達した複合口縁の端部が肥厚しており、擬凹線を施文した後で口縁端部をなでている。

第２節　大型の遺構出土遺物及び遺構外遺物

主に水場（第68～103図）および大溝（第104～114図）から出土した遺物を掲載する。その他粘土採取場（第115～116図）出土土器を若干掲載する。なお、掲載する遺物量は、直接遺構の性格に反映しておらず、水場出土遺物を中心に掲載し、大溝出土遺物により補完している。遺物出土量などは表86を参照にしていただきたい。両遺構出土遺物はその性格上、高津遺跡の出土遺物を形式的にほぼ網羅しており、両者を併せてみると高津遺跡全体の性格を表している。なお、遺物の掲載に関しては、凡そその形式ごとにまとめているが、割付の都合上、また、調査員の観察ミスにより必ずしも隣接していない。また、遺物掲載順序は土器編年には対応していない場合も有る。文章の記述は第68図～116図を使い凡そ時代順に進めていくので、図版を前後する記述が現れる。大変読みにくいと思われるがご容赦いただきたい。

１．弥生土器・土師器（第68～100・104～111図）

弥生時代後期の容器は複合口縁を持つものを主体とし、口縁をなで調整で仕上げ、口縁内側に段を有しないものと、口縁の複合部を丁寧に作り凹線文や擬凹線文を施すものに分かれるようである。このような作り分けはＶ－１様式で既に認められる。口縁に施される擬凹線文はＶ－２様式から施文後のナデにより一部消されてくる。壷は口縁複合部が内傾するものがＶ－２様式から見られる。複合口縁の形状は、時期が下るにつれ複合部が上方へ発達し、やがて、施文具の形状に併せて外反してくる。時期が下るにつれて口縁の施文が省略されていき、終末期に入りナデ調整が行なわれるようになると複合部はやがて外反しなくなる。口縁端部の調整は、丸く収めるもの、肥厚するもの、先細るもの、外側につまみ出したり折り曲げたりするもの。内側に面を持つもの。水平な面を持つもの。外側に面を持つものがある。複合部の陵は、下方に発達するもの、水平方向に発達するもの、意識せず自然にナデ調整を行なうものがある。胴内部のヘラケズリは頸部の際まで行なわれるようになる。ヘラケズリ調整のうち、壷甕胴部内側で良く見られる断面形状が弧状を呈すものは、二枚貝を用いて調整を行なっている可能性がある。二枚貝を施文具として用いなくなる頃から、胴部内側のヘラケズリの断面形状が平坦なものが現れる。板状の工具を使用している可能性がある。胴部外面の調整は縦方向のハケメを基調とし、肩部調整にヨコハケメを用いるものも現れる。終末期頃には、クシ描き直線文の替わりにヨコハケメ調整を行なうものが現れる。胴部の施文はクシ状若しくは板状の工具を用いた刺突文から押し引き波状文、波状文と変化していき、押引き波状文もしくは波状文が退化してクシ描き直線文へと移行していくようだ。

壷は装飾性が高く342のように竹管文を施す器種が見られる。341は頸部に耳状の突帯を貼り付けている。349は口縁の発達具合はＶ－３様式だが、口縁の施文を含め二枚貝の刺突を用いている。350は口縁端部を内側に折り返し、水平に広い面を持っている。おそらくセットとなる蓋をすり合

わせるための造りと思われる。368は頸部の概観から壷として掲載したが、頸部内面のヘラケズリを見ると、甕の可能性が考えられる。368を甕として扱うならば、高津遺跡で出土する口縁にナデ調整を施し口縁複合部内面に段を有しない容器の一群は、甕のみに現れる特徴と言うことになる。装飾壷372は頸部に蓋を紐で綴じ合わせるための穿孔を２個１組で１対持ち、施文後の胴部にも穿孔を行なっている。口縁にヘラミガキ調整を施す。857は容器の蓋である。注口付き壷385は注口を避けながら胴部施文が廻る。392は口縁複合部の竹管文が間隔を開けて全周しているのに対し、頸部の竹管文は三個一組で一箇所だけ施されている。特大の壷396は厚い器壁を持ち、頸部内面調整にハケメを用いる。口縁内側から頸部内側にかけて炭化物が付着している。639は696の底部と思われる。赤色の吉備系装飾壷397にはスタンプ文が施されている。

長頸壷398～407は弥生時代後期から古墳時代前期頃のものと思われる。口縁が直行するもの、外傾するもの、外反するものに分かれ、口縁端部は丸く収めるもの、先細るもの、軽く内湾するもの、水平に面を持つものに分かれる。399は口縁中ほどまでハケメ調整が行なわれている。甑形土器の可能性がある。400は肩部に波状文が３周廻る。404は胴部に焼成後の穿孔が認められる。

甕の肩部に施される施文はⅤ－２様式の段階では板状もしくは棒状工具を用いた刺突文が主流を占める。工具が二枚貝に替わると、やがて押し引き波状文、波状文へと肩部施文が変化していき、クシ描き直線文へと移行するようだ。

甕452は胴部外側と頸部内側にヘラミガキを行なっている。壷の可能性を持つ。口縁部内側に明瞭な段を持たずに内湾させて収める甕472のタイプは、口縁をヨコナデ調整で仕上げる504なども存在している。甕478～503は口縁内側に段を持たず、口縁調整にヨコナデを用いている。肩部施文を省略するものが多いが、480のようにクシ描き列点文などを施すものが若干ある。甕508は若干装飾性が高く、肩部にヘラミガキを施し胴部に左傾と右傾の刺突文を施す。514～516・528・542・545は肩部若しくは胴部に刺突文をめぐらす。518・534・542・545・551などは胴部内側のヘラケズリが下っている。546の口縁端部調整はナデにより内側に面を持っている部分と先細る部分がある。547の肩部施文は、工具を器面から離さずにクシ描き直線文と波状文に描き分けられている。554の胴部は倒卵形を呈し、底部はしっかりとした平底を形成する。胴部下半には直火により煮炊きされたと思われるススが万遍無く付着しているが、底部周辺はススの付着しない部分が数箇所認められる。甕を火に掛ける際に何らかの支持具を使用した痕跡と思われる。古墳時代に入っても複合口縁甕は弥生時代から継続して使われているが、肥厚した口縁端部外側に面を持ち、複合部の陵は水平から上向きに変わって行き、やがて複合部が退化し、最終的には単純口縁甕に収束していく。退化時の口縁部調整には多くのバリエーションが生じるが、製作技術の伝達不足による制作方法の不統一の結果と思われる。この中には複合部の陵を円筒埴輪のタガと同様の作成方法で取り付ける資料も見られる。この、胴部に溝を作り粘土帯を埋め込む技法は、時期は違うが移動式竈の庇の取り付けにも使われている。壷も弥生時代の複合口縁を継続して採用しているが、甕同様口縁部が退化していく。須恵器が出現すると液体の貯蔵は須恵器主体に替わっていくようで、通常の大きさの壷は見られなくなり、単純口縁の小型壷として定着する。557～581は複合口縁が退化した甕若しくは壷で、中には単純口縁と呼べるようなものも含まれる。口縁複合部の表現方法は様々だが、大まかに、口縁端部に強いナデを施し複合部をへこませて表現するものと、口縁中ほどに強いナデを施し複合部を膨らませて表現するものに分かれる。そのほかに、571のように口縁に沈線文を施したり、572

のようにナデにより器壁にアクセントをつけたりして複合部を表現している。小型甕578は胴部内側に丁寧なヘラミガキを施し底部が残る。これらの甕はやがて598以降の単純口縁甕に収束されていくと思われる。

単純口縁甕は薄造りの布留系甕が現れ、端部つまみ出しの特徴を残しながら、器壁の厚いものや頸部屈曲の緩やかな物が現れる。やがて通常の単純口縁甕に収束していくと思われる。

胴内部調整のヘラ削りが頸部に達しない資料が有る。この内、胴部上半から頸部までを指押えするものと、ヘラミガキを施すもの、ナデているものなどが見られる。

薄造りの単純口縁甕582～585・587～590は布留式系統の甕と思われる。やや内湾気味に外傾する口縁の端部は上方へ軽くつまみ出されるか、面を持っている。582は頸部内側のヘラケズリ位置が高く、頸部内側に鋭い陵を持つ。その他の甕は頸部内側のヘラケズリ位置が下っており、頸部内側の陵は鈍い。584は肩部にヘラ描き波状文が施されている。592は口縁端部が外側につまみ出されている。586・591・593～596はやや厚手に造られ、肩部内側に指頭圧痕が残る。593・595・596は、口縁端部が肥厚し、肩部に陵が残る。593はしっかりとした底部が残ることから、弥生土器と思われる。597は一条のヘラ描き沈線文が焼成前に施されている。古墳時代中期～後期の土師器容器の体部である。

単純口縁甕598～600は口縁端部を外側に強く折り返し複合口縁の名残を留めている。600の胴部は球状を呈し、底部内側に指頭圧痕を残す。容器の体部は古墳時代中期までに球胴化していると思われる。602は内外面共に最終調整にヘラミガキを用いている。603～606は口縁の発達が弱い。613は最大径が胴部下半に来ており、粗いハケメ調整を行なっている。

613～619は単純口縁の小型甕若しくは壷と思われる。614は口縁内側にハケメを施し端部は内側に折り返されている。614は長胴の胴部へ焼成後に穿孔している。615・616・619は内湾する口縁もしくは口縁端部を内側に折り返している。618は土器作成時の調整を省略して外側はヘラケズリ後ヘラミガキを行っている。内側は輪積み粘土の痕跡が消されずにそのまま残っている。620～625はミニチュア土器と思われる。大きさや調整方法は様々で、精緻なものから手捏ね品まで確認できる。625は口縁端部の一部を内側に折り曲げ注ぎ口を造っている。

626～628・630・631は壷の胴部である。631は胴部最大径部分に稜線が入る。629は縄文晩期の突帯文土器体部突帯と思われる。632・633・634～641は容器底部である。638は痕跡的な底部を持つが、ほぼ丸底化している。古墳時代初頭から前期の土器と思われる。639の内側はヘラケズリ後ハケメ調整が部分的に入る。640は底部に焼成前穿孔を行なっているが、内面に炭化物が付着している。おそらく煮炊きに使用したと思われるが、調理方法は不明である。641低部は尖底を呈す。

642～671は高坏である。高坏は、口径が小型化し、腰が深くなり、やがて坏部を底部と口縁部の別作りで成形するようになる。高坏の最終調整はヘラミガキが多用されている。弥生時代後期から古墳時代初頭の高坏は、複合口縁状の段を持つものから次第に段をもたず口縁端部が外反するものへと移行する。脚部は径が大きく頑丈な造りのものから器壁が薄く華奢なものへと移行する。これは坏部が重い物から軽い薄作りのものへ変化していくことと対応しながら生じる変化と考える。642は複合口縁状に作られた坏端部が短く上下に発達している。脚は柱状に作り、中の粘土をケズリ取って成形している。644は坏部に穿孔された高杯と思われる。645は坏部を複合口縁状に作り、上方に発達した坏外面にヘラによる鋸歯文風の暗文を施している。646は坏部の外反が強くなり、

浅く広い造りをしている。647の坏部は複合部が退化し、痕跡のナデによる段が残る。脚部652・653などの裾が開き、脚端部を外側に引き出す脚は646や647の脚になる可能性がある。高坏654は高津遺跡でまとまった量が確認できる。その特徴は精製された滑らかな胎土に砂粒を含み、色調は乳白色を呈す。真っ直ぐ筒状に伸びる脚中に竹管を用いて粘土を充填しており、そのせいかすべての製品が焼成不良をおこしている。粘土の充填量で今後時期的な細分が行なえる可能性が有る。上部構造は坏部を伴うが形態は不明である。645のような坏部を持つ可能性が有る。脚裾も接合できるものは無いが、同一個体と思われる資料が見られるので掲載している。脚裾に沈線が廻るものや、端部に面を持つものがある。消長は掴めていないが、27・53・88・89・202・272・274・273が住居跡から出土しており、主な使用時期はおそらくⅤ－２～３様式を中心としている。この脚部は脚中に粘土が充填されており、胎土に特徴があるため、小片でも他の遺物と区別がつきやすい。

648は浅い坏部が内湾した後外反する。Ⅴ－４様式で普通に見られるタイプで、663の様な脚部を持つ。649は坏若しくは高坏と思われる。深い坏の端部を折り返している。650は坏部中ほどに段を持つ。657は坏部を２回に分けて成形している。658の坏部は内面にハケメ状の工具で不定方向にナデられている。659は畿内系の高坏で、浅く小さな坏部と円錐状に広がる脚部を持つ。660～662は脚部に円形のスカシ孔が開く。665～671は古墳時代後期の高杯と思われる。坏部は深く碗状を呈し、脚部は太く粘土を充填している物が多い。調整はヘラケズリ後ヘラミガキか、ヘラミガキの前にハケメを施すものがある。668は須恵器有蓋高杯の模倣品と思われる。674は弥生時代末期頃の低脚坏である。675～678は鼓形器台である。鼓形器台は筒部の長いものから次第に宿約し、施文された受け部脚部共に上下に発達するが、やがてナデ消され、縮小しながら無文化する。羽状文を施文する677・865は筒部の縮約が始まった頃のものでⅤ－３様式と思われる。680は畿内系の器台で、脚内面にハケメを施している。679は680に伴う鉢と思われる。

681は大型の甑形土器の上部把手である。甑形土器682は筒状の粘土板を４段程度積み上げて成形しており、土器成形時の指頭圧痕が残る。上下の口縁端部に面を持ち下部口縁は広くヨコナデを行っている。その為外面のハケメは上下口縁の端部までは達していない。内面調整はヘラケズリ後部分的にナデている。土器内面は器高８cmからから40cmあたりまでが被熱酸化により赤変している。また、器高20～30cmほどから下方へ向かって炭化した煮沸物が飛び散って流れ落ちている。下部口縁まで流れ落ちた煮沸物の筋は、口縁端部に接する何かを伝って口縁端部に拡散し、面的に付着している。このことから、煮沸物がこぼれた際に682は地面に接地していたと考える。よって、甑形土器を使用する際に紐などを使って甑形土器を空中に吊るすことは考え難く、第26図セットＡの検出状況を踏まえ、甑形土器は地面に接地して使用していたと考える。

683はやや扁平の筒部両端に不明品が付くようである。体部の調整はハケメを用いる。

684は平底の容器で内面に赤色顔料が付着している。685は内湾する大型の鉢で、内面にススが付着している。坏686～707の調整は主に手持ちヘラケズリ後ヘラミガキを行ない、ヘラミガキ前にハケメ調整を施すものや、ヘラケズリ後ハケメを施し、ヘラミガキを省略するものもある。形状は686のような碗状を呈すものと、639のように口縁付近に陵を持つもの、696のように須恵器坏を模倣するもの、706のように浅く薄造りのものに分かれ、赤彩されるものとされないものに分かれる。704は高杯の坏部の可能性を持つ。

黒色磨研土器708～752は須恵器の模倣品と思われ、器面に煤を吸着し、ヘラミガキ調整で煤を定

着させている。器種は坏が多く、高坏や甕などが若干混じる。坏は、708や729のように須恵器蓋坏の坏受け部を表現するもの（坏Ａと呼ぶ）と、737のように蓋を表現するもの（坏Ｂと呼ぶ）に分かれる。坏Ａの口縁は720のように直立するもの、708のように内湾するもの、740のように外反するものに分かれ、体部の深いものと浅いものに分かれる。浅いものには外反する口縁が付く。また、体部の浅いものは744のように口縁と体部を強いヨコナデで区画するものも見られる。坏Ｂの口縁は内湾するのもが多く、体部は深い。

高坏749～752は、749のような体部に段の痕跡を持つ小型の坏を伴い、脚部は低くススが剥落しないように裏側も丁寧に調整を施している。これらの須恵器模倣土師器は、今回低湿地の調査でススを吸着した良好な資料を得られたが、他の調査区ではススが剥落し、暗灰色の土師器坏として出土している。

753～755は移動式竈である。確認できた移動式竈の口縁はすべて如意形を呈す。今回の調査では焚き口に風防の付く物は見られなかった。755は背面に方形の窓を有す。856・867は注口土器の注口部である。877は肩部に深い竹管文を施す。872は口縁外面に面を持つ。875は複合部陵が丸みを帯びている。古墳時代に入ってしばらくすると、口縁の複合部に対する土器作成の決まり事が曖昧になるようで、複合部の退化が始まる。873は口縁複合部の退化が始まった頃の遺物で、複合部が不明瞭になっている。881は緩やかに外反する単純口縁を呈し、肩部が張る。頸部内面は左方向のヘラケズリの位置が下がり、指頭圧痕が残る。外側の調整は、口縁まで細かいタテハケメが施されている。肩部外面にヘラ状工具を用いた絵画若しくは記号が描かれている。描画順序は、まず始めに描画予定箇所のハケメをナデ消し、上下２条の並行する直線を横方向に描き、その並行線を区画するように縦方向に並行する直線を短く刻んでいく。次に横に引いた２条の並行線を区切るように中央にもう一条の直線を横方向に引くが、中央の線は一周しているにも係らず、途中で部分的にナデ消され、何度か線が修正されている。また、縦線の一部もこの時に描き直されている。この区画された格子状の線の上に３本の縦線と一本の横方向の斜線を組み合わせて何かを表す記号を描き込んでいる。記号の描画順は横線、縦線である。この記号の解釈については、春成氏の研究によると、和爾・森本例を示し、建物の記号化されたものと解釈している（「絵画から記号へ・春成秀爾」国立歴史民俗博物館研究報告　第35集）。仮にこの３本の縦線と１本の横線で表される記号を建物とすると、柵の中に１棟の建物が建っているように見える。水場の祭祀に用いられている為、水と稲にまつわる作品かもしれない。描き終った絵画は上からナデられて、作品の一部は焼成前に消えかかっている。短径壷896・897は短く直立した口縁を持つ。899は小さな坏部若しくは脚部であるが器種は不明である。905は浅い坏部、若しくは脚部で、端部に面を持つ。908は小型の坏で、底部に突起のようなものが付く。調整は内外面共にヘラケズリが行なわれている。小型の高杯909は古墳時代後期の高杯のミニチュアのようで、太い脚部には粘土が充填されている。高杯916は脚部に円形スカシが入る。高杯917は大型の坏部と小型の脚部を持つ。鼓形器台918は筒部の縮約が始まっており、やや低めの器高を持つ。鉢924は内外面共にヘラケズリが施されており、口縁は不整形でゆがんでいる。坏936は内面にヘラ状工具で線が引かれている。短径壷935は見込みにヘラ描きの×印が３条の直線で施されている。

土製支脚は941のような１方向突起（単頭式）、937・938・939・940・943のような２方向突起、756・942のような３方向突起のものが確認された。954は背面に円形の剥離痕跡（スクリーントー

ン部分）を持つ。944・945・948は甑である。甑は１対の把手を持ち単孔式の低部蒸気孔が開き、底部に桟木渡し用小円孔を持つものが確認された。把手は950のような小型のものがある。同一固体と考えられる946・947は、甑形土器若しくは甑と思われる。956の口縁は厚く作られ、内側のヘラケズリは大雑把に施されている。947は外反する口縁と中膨らみする胴部を持つ。把手装着痕跡が45°の角度で確認出来る為、把手が４方向に取り付くと思われる。口縁内側の調整はヘラケズリが胴部中ほどまで施され、横方向のハケメが施されている。

954～957は移動式竈である。体部は粘土の輪積みにより成形されているが、背面がタテに接合されている956が確認出来た。951は円形に加工した土器体部である。952は手捏ねの端部で、土馬の脚部、若しくは土器の底部と思われる。953は不明土器である、縄文土器のような浮文を施している。

２．古墳時代以降須恵器（第101～103・112～114図）

出土した須恵器はＴＫ47並行の蓋坏を上限として、ＴＫ217並行まで大量に出土し、ほぼ連続して形式を追える。しかし、飛鳥Ⅱ式の蓋坏は確認できず、続く奈良時代～平安時代にかけての須恵器は極少量の出土となる。

757～797は蓋坏である。ＴＫ47並行のものが確認できる最古の資料である。時期は、６世紀初頭頃と思われる。蓋の肩部に沈線などの特徴を有するものがある。758～762は口縁端部に強いナデによる沈線を施す。小型の坏772は口唇部に強いナデによる沈線を施す。782や796のように大型の坏底部に面を持つものが見られる。

798～827は高杯と思われる。高坏には有蓋と無蓋の２者が確認できる。また、802･806のように脚部に透かしを施すものなど確認できる。803は脚上に大型の碗のような器種がつく。胴部調整はカキメを施している。808は重ね焼きを行なった際の溶着資料である。

829～834は甕である。甕は828のように長い口縁に装飾を施すものと832～834のように無文で短い口縁を持つものに分かれる。835は大型の器種体部に大きな剥離痕跡が残る。

838・840･841は提瓶である。聴口縁842は口縁端部に面を持ち、外面に波状文が密に廻る。短径壷847～850は口縁が発達するものと短く上方へつまみあげるものに分かれる。胴部調整にカキメを施すもの、沈線を肩部に施すもの、ヘラケズリのみ行なうものなどある。器種不明須恵器851は扁平な体部に突帯をめぐらせる。内側に模様のような調整が施されている。852は壷と思われる。沈線文に区画された列点文が廻る。

985～983は坏蓋である。958は体部に明瞭な陵を持つ。蓋口縁962・966は口縁端部内面に強いナデによる沈線が廻る。981～983はつまみの付く奈良時代の蓋である。口縁端部は下方へ発達し外面に面を持つ。984～1003は坏身である。984の口唇部は発達し、端部内面に沈線が廻る。995は底部を平坦に作る。1004～1021は高杯である。有蓋高杯1004は脚部にカキメを施し三角形スカシが４方向に入る。坏部1005は体部に明瞭な陵を持つ。1008は小型の高杯である。1012は坏部見込みにヘラ記号が記される。脚部は端部にアクセントを付け、端部に面を持つものと裾が広がり端部を丸く収めるものがある。1022は長脚高杯でスカシが入る。坏1023は焼成前の見込みに「郡」字がヘラ描きにより描き込まれている。底部調整は静止糸切り後、底部外周に回転ヘラケズリを施す。1028～

1030は高台が付く坏で、高台内側に面を持つものや、外側に面を持つものが見られる。長頸壷口縁1033は口縁部に５条の沈線が廻る。短径壷1034は胴部陵上に沈線文を施す。1040～1042は甕である。1044～1048は提瓶である。1049は須恵器製紡錘車で、全面にヘラミガキが施されている。

３．粘土採取場遺物（第115～116図）

粘土採取場出土遺物は摩滅している細片が多く、土器、土師器はほぼ非掲載としたが、組成は他の大型遺構とあまり変化は無い、しかし、赤彩土器を使用した祭祀は行なわれていなかったようだ。以下、粘土採取場出土遺物を説明する。甑1056は把手の位置が左右非対称に取り付けられている。焼成不良の須恵器甕1061は体部内外面に円形の錆び痕のようなものが認められる。大型の甕口縁1087は３条の沈線に区画されており、上段に波状文、中段下段に斜行する刺突文を施している。横瓶1086は外面に並行タタキを行っている。須恵器把手1092は丁寧に面取りされている。

第３節　その他の遺物

１．中世遺物（第117図）

中世の遺物については主に写真と表を用いて報告し、重要な遺物のみ図面を掲載した。

遺跡全域から坏類が多数出土している。水簸されたと思われる滑らかな胎土は、白色、淡黄色若しくは茶色、橙色の三種類に分かれ、器種は大まかに大小の坏に分かれる。江津では中世土師器の編年が確立されていないが、胎土の色調から凡そ中世初頭は白色、中世前期は淡黄色若しくは茶色、中世後期は橙色と大雑把な傾向が認められる。

１）　陶磁器（表86・グラフ１・４）

貿易陶磁器は龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類・ⅢⅠ類・坏Ⅲ類が認められる。同安窯系青磁は碗Ⅰ類・ⅢⅢ類が認められる。青磁碗114は見込み中央に花文様の施文が施されている。白磁碗はⅡ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ・Ⅺ類が出土している。そのほか黄釉褐彩盤などが出土している。

天目茶碗と思われる黒褐色釉陶磁器が出土している。

須恵器は備前須恵器貯蔵具及び鉢、亀山系貯蔵具、東播系鉢、産地不明の須恵器が確認できた。

陶器は常滑と思われる瓷器系陶器、備前貯蔵具及び擂鉢が確認できた。その他産地不明陶器が若干含まれる。

近世陶磁器は肥前系染付け、三島手象嵌磁器、萩系、陶胎染付け、唐津焼の貯蔵具や擂鉢、石見焼が確認できた。

２）その他

滑石製石鍋が２点確認された。119は穿孔を施し温石に転用されている。

軟質の甕1125・1126は平底の低部を呈し、体部外面に並行タタキ、内面をナデ調整で仕上げている。

２．木製品（第118～124図）

木製品は出土地区ごとに一括して報告する。

大溝及び水場から大量の木製品が出土した。主な構成は建築部材が占めており、若干の生活用具

や農工具が確認された。しかし、大半の遺物は用途不明である。W4は曲柄平鍬である。W7は栓と思われる。下駄W10・W11は古墳時代後期と思われる。不明遺物W45は廃棄時には連結していたようだが、検出時には腐食の為3分割されていた。農工具の未製品と思われるが、不明である。槽W47は両側面が欠損している。W48は桶である。W64は中世掘立柱建物の柱痕である。外皮がついたままの丸太を柱として使用している。W65は粘土採取場中から水平の状態で出土した。粘土採取作業に伴う目的で設置された可能性を持つ。W66は黒色の漆器碗で、見込みに赤い花印が入る。中世のものと思われる。

3．石器（第125～129図）

S1は小型の石鏃である。作業台は大型のものが多く、大溝から大量に出土している。表面が滑らかなものは砥石として使用されていたようだ。S13は部分的に被熱している（スクリーントーン部分）。S17は大型の鉄器の調整に使用されている。砥石は小型のものも出土している。擦痕が細く鋭いものは鉄器の調整に用いたと考えられる。石斧は打製石斧S32が1点確認できたが、S28～31など磨製石斧が多く出土した。軽石S35は磨滅して扁平になっている。石杵S54はやや扁平だが丁寧に作られている。S59は両端部にクビレを持つ。

第6章　総　　括

第1節　遺跡の変遷（表86・グラフ1～5）

1．埋築遺跡との関係

平成12年度に調査された埋築遺跡は本遺跡の下流500mに位置する弥生時代と中世の複合遺跡であるが、そのうち、弥生時代の遺跡は前期の溝以外は遺物包含層であった。

包含層出土遺物から、埋築遺跡は弥生時代前期～末期にかけて存続し、そのピークをⅢ様式に求めることが出来た。しかしⅣ様式の遺物は確認出来ず、集落は古八幡付近遺跡のようにおそらく丘陵上に移動したのではないかと仮定した。その後Ⅴ－1～4様式までの遺物が確認できているが数量は減少し、古墳時代に入る前に集落は消滅している。高津遺跡では、弥生時代後期に集落の活動が始まりⅤ－3～4様式にかけて最初のピークを迎えている。

このことから、埋築遺跡で弥生時代前期に低地に出現した集落は弥生時代中期に繁栄し、Ⅳ様式に入ると何らかの理由により一度この地を離れ、Ⅴ様式に再び出現した集落は規模を縮小し、埋築遺跡と高津遺跡などに分散したと思われる。

以降、埋築遺跡では集落は衰退廃絶し、高津遺跡では集落の規模が拡大していったと思われる。

なお、高津遺跡では古墳時代後期まで集落が存続した後に、飛鳥時代を迎えず廃絶している。次にこの地に活動の痕跡が現れるのは中世に入ってのこととなる。中世に入ると高津遺跡では無数の掘立柱建物が出現し、埋築遺跡では屋敷が構えられるようになる。

2．弥生時代

今回調査された住居は概ね調査区Aの丘陵裾部を中心に展開しており、Ⅴ－1～4様式までの遺物が確認できたが、Ⅴ－1様式の住居は確認出来なかった。Ⅴ－1様式では調査区外の丘陵上部に

居住地が有ると思われる。Ⅴ－２様式の住居は竪穴住居05・12で、丘陵裾から平坦面にかけてまばらに展開している。建替えの跡は認められない。Ⅴ－３様式の住居は竪穴住居03・14・08・09・で、竪穴住居12の下方に確認され、拡張を含めた建替えを数度行なっている。調査区ＣでⅤ－３様式の土器溜り５が確認されており、集落は調査区Ｃの辺りまで拡散していると思われる。Ⅴ－４様式の住居は竪穴住居10・01・04・07・11で、丘陵裾から平坦地へ続く変換点より下方で確認された。Ⅴ－４様式の住居04・07は同じ場所で縮小傾向の建替えなどを行なっているが、甑形土器が出土した竪穴住居10・11は大型化している。この時期には集落内に土器棺墓を作っている。

これらの状況を見ると、弥生時代後期の集落は徐々に平坦地へ下っていく状況が見受けられる。

また、弥生時代末には水場と大溝で同時に祭祀を行なっていることが372や881の接合関係により明らかとなった。

３．古墳時代

古墳時代の住居は初頭から前期のものは認められず中期から後期にかけてのものが丘陵裾部を中心に確認出来た。また、住居は調査区Ｃでも確認されており、集落の拡散が認められる。中期から後期にかけての住居は竪穴住居02・13・段状遺構02である。古墳時代の建物は建替えが確認できるものはすべて等高線に沿って並行に建替えを行っている。

前期と後期の住居は確認出来なかったが、包含層から大量の遺物が認められたため、調査区外の丘陵に集落が存在していると思われる。

古墳時代後期の赤彩土器の出土状況に注目すると、水場及び大溝でまとまった量が確認できるのに対し、粘土採取場からは１点の出土も無かった。おそらく赤彩土器は祭祀行為に結びつく遺物で、水場と大溝では祭祀を行ない。粘土採取場では赤彩土器を使用する祭祀は行なわれなかったと考えられる。水場と大溝を祭祀の対象とする思想は、弥生時代から続いていたと思われる。

４．飛鳥・奈良・平安時代

明確な遺構は確認されておらず、少量の遺物が認められるのみであるが、中には「郡」ヘラ描き土器1023のように官衙関連と思われる遺物もみられる。周辺には波来浜遺跡があり、今後の調査により両遺跡間の関係を明らかにすることが出来るかもしれない。

５．中世

中世にはＡＩ区に無数の中穴が確認でき、集落が中世を通して占地していた様子が窺える。

第２節　山陰系甑形土器の使用について

今回の調査で山陰系甑形土器（以下甑形土器と呼ぶ）の使用状況を復元できた。甑形土器は建物中央に設けられた灰の充填された浅い土坑上で広い口縁を下にして接地した状態で使用されており、使用に際しては有機物水溶液を満たした高坏の坏部とそれを受ける甕、又は壷を伴っていた。また、使用の際には甑形土器内で壷や甕などを用いて高坏を一定の高さに固定し、高坏内の水溶液に加熱を行なうことが確認された。石見部の遺跡では、沖丈遺跡（2001）のＳＩ04出土高坏10が内容物の加熱による炭化物のリング状痕跡を持つ。セットＢの甕は低部を打ち欠き器台のような使わ

れ方をしており、伏せた状態で被熱している。水場や大溝で出土した壷や甕の中にも520のように口縁付近のみに内外ともススが付着し、伏せた状態で有機物溶液の沸騰物が炭化して流れ落ちている様子が確認できるので、当遺跡での通常の使われ方であったと認識する。甑形土器は常時使用される土器ではなく、使用されない時は住居の隅に安置されている（竹ヶ崎遺跡ＳＩ09・塩津丘陵遺跡群1998）。Ｖ－３様式まで211のように小型だった甑形土器はＶ－４様式で108のように大型化し、やがて682のように再度小型化すると思われる。おそらく小型化した後に、頸部に突帯を廻らせて上下に組んで使用されていくようになると思われる（竹ヶ崎遺跡ＳＩ06・塩津丘陵遺跡群1998，笠見第３遺跡現地説明会展示2002より）。小型の甑形土器を上下に組む時、甑形土器内部で有機物溶液がどのように加熱されるのかは不明である。把手の用途は、甑形土器を持ち運ぶ為の物と思われるが、重要なのは内部で加熱されたものを取り出す際に、一緒に熱せられた熱い甑形土器をどける時の火傷を避ける為に把手が必要とされていたためと考える。把手が必要無いくらい小型化した甑形土器の上方に把手が残っているのも、火傷を避けるために必要であったからではないかと考える。

今後の課題として、まず一点目は、甑形土器の中で何が熱せられていたのか。２点目は、なぜ、高杯内部の溶液を加熱する際に甑形土器で覆う必要があったのか。この２点については高坏内部の内容物の科学分析を交え今後の研究課題としたい。その他気になる点として、甑形土器の口縁が内傾していることと頸部に見られる段の用途が上げられる。今回の調査では甑形土器の口縁や頸部に何かが取り付く様子は認められなかった。しかし、Ｖ－４様式に入ると大型の甑形土器は全てと言って良いほど口縁を内傾させて頸部に段を有している。頸部の段はやがて突帯へと変化してゆくようである。なお、高津遺跡では頸部に突帯を廻らせる甑形土器は１点も出土しなかった。

第３節　遺構の時期決定について

遺構の時期決定には、床面及び壁帯溝、柱穴資料を用い覆土出土資料を補助的に援用した。今回の報告では、明らかに時期の下る遺物（例えば、弥生住居床面の石見焼など）は床面資料であっても撹乱遺物として扱い図面を掲載していない。

良好な床面資料の無い遺構については、覆土出土資料のうち、最新のものを含む量的に多い遺物の時期を充てた。

土師器については『西川津遺跡Ⅷ』編年（岩橋2001）を主に用い、須恵器に関しては陶邑編年を用いた。

弥生時代に関しては『弥生土器の様式と編年　山陰・山陽編（石見）』（松本1992）を用い形式上の時期決定を行なった。弥生時代の終末はＶ－４様式とする。土器棺墓01のセットは、Ｖ－４様式においてその代表とされる、ヨコナデにより緩やかに外反する口縁が発達する94と、口縁端部が肥厚し、内面に片刃状の面を設ける甕93が併存するため、甕93はＶ－４様式の範疇にあると考える。

ただし、形式的には甕94が甕93に先行すると考える。

よって建物11の甑形土器セットＢ・Ｂ’び、炭化物層中遺物である竪穴住居04の甕64－70及び中央土坑の甕63、竪穴住居07の炭化物面中遺物甕74・75は並行関係にあると認識する。また、竪穴住居10で検出された壷109の口縁端部は水平に面を持ち、水平に発達した複合部の陵と、平底の底部を持つことから、Ｖ－４の範囲に含む。従って、高津遺跡では古墳時代初頭の住居は検出されていないと結論する。なお、今後の研究により甕94が古墳時代の遺物と確定された場合は上記結論を修

正する。なお、口縁端部内側に面を持つ甕は、546のように同一個体において端部調整が違うものが有るため、取り扱いには注意を要する。また、その他の遺構や竪穴住居07覆土中の87など古墳時代初頭の遺物が見られるため、調査区外に遺構が存在すると考える。

第４節　弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての壷・甕について（表87・グラフ６・７）

水場から出土した弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての壷と甕1095点を分類カウントし、時期ごとの出土量と出土割合をグラフで表した。

時期ごとの土器出土総数はＶ－１から４様式にかけて増加を続け、古墳時代初頭には不自然に出土量が減少する。これは集落規模が拡大した後で、一気に縮小したか、若しくは集落の移動が有ったことを表している。

器種ごとの出土割合を見ると、Ｖ－２様式では壷と甕の出土割合は壷：甕・３：７程度だが、Ｖ－３様式から古墳時代初頭にかけては壷：甕・１：９と、壷の出土割合がぐんと下っている。これは、壷の需要が減ったことを表しており、原因としては、貯蔵すべきものの量が減少したか、今まで貯蔵していたものを貯蔵する必要があまり無くなったことが考えられる。

次に容量ごとの変化を見ていく。各時期を見ると一般の調理に使用されると思われる中型の甕が良く消費されており、中でも中型の無段甕の消費が注目される。しかし、Ｖ－４様式を見ると、無段甕の消費と入れ替わるようにして大型の甕が消費されている。

一度に大量の煮炊きを行なう大型の甕の消費量はＶ－２から４様式にかけて加速度的に増加する。大型の甕は単なる１住居の調理具をこえて、ある程度の大人数がまとまって共食するための煮炊き具であったと考える。Ｖ－４様式に大型甕が増加する理由として、大型甕で調理できるほどの食材の供給が有った事と、集落の構造に何らかの変化が（例えば集団作業に伴う共食など）生じたことが考えられる。しかし、古墳時代初頭になると大型の甕の消費割合は減少している。

口縁をヨコナデ調整で仕上げる口縁内側に段を持たない甕478～503などを仮に「無段甕」と呼び、通常の壷、甕と分けて見ると、Ｖ－３様式においてかなりの需要を得ている。無段甕は調整が簡易な為、土器の製作時間が短縮できる。Ｖ－３様式において中型の甕の需要に追いつく為に簡易な「無段甕」を供給しているように考えられる。

参　考　文　献

調査及び報告書作成について以下の文献資料を参考とした

総合

2000年３月	神主城跡・室崎商店裏遺跡　古八幡付近遺跡・横路古墓	建設省浜田工事事務所　島根県教育委員会
2000年３月	斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ　三田谷Ⅰ遺跡Vol．３	建設省中国地方建設局　島根県教育委員会
1996年11月	日本考古学協会　1996年度三重大会　シンポジウム１　水辺の祭祀	日本考古学協会三重県実行委員会
2001年２月	ものづくりの考古学－原始・古代の人々の知恵と工夫－	太田区立郷土博物館
1984年	「木器集成図録　近畿古代篇」奈良国立文化財研究所史料　第27冊	奈良国立文化財研究所
1993年	「木器集成図録　近畿原始篇」奈良国立文化財研究所史料　第36冊	奈良国立文化財研究所
1986年２月	岩波講座日本考古学4　集落と祭祀	佐原眞・小林達雄・甲元眞之・町田章・宮本長次郎・都出比呂志・金関恕・上原真人
2001年３月	西川津遺跡Ⅷ	島根県土木部河川課　島根県教育委員会
昭和57年６月	江津市誌　上巻　下巻　別巻	江津市
1992年３月	石見空港建設予定地内遺跡　埋蔵文化財発掘調査報告書	島根県教育委員会
1982年３月	国営農地開発事業関係埋蔵文化財調査報告　本片子遺跡・木原古墳	益田市教育委員会
昭和48年３月	波来浜遺跡発掘調査報告書－第１．２次緊急調査概報－	島根県江津市
昭和55年３月	中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	島根県教育委員会

2002年３月	埋築遺跡　都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ	島根県浜田農林振興センター　江津市教育委員会
2001年３月	一般国道432号道路改良工事予定地内　埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ　前田遺跡（第Ⅱ調査区）	島根県八雲村教育委員会
弥生時代		
1992年５月	弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編	正岡　睦夫・松本　岩雄
1999年３月	松江市文化財調査報告書第78集　本庄地区県営圃場整備事業に伴う松江北東部遺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会　財団法人松江市教育文化振興事業団
2001年11月	日韓合同鉄器文化シンポジウム　日本海（東海）がつなぐ鉄の文化	鉄器文化研究会　鳥取県教育委員会
1986年７月	弥生文化の研究　第３巻　弥生土器Ⅰ	金関　恕・佐原　眞
1987年11月	弥生文化の研究　第４巻　弥生土器Ⅱ	金関　恕・佐原　眞
1986年１月	弥生文化の研究　第７巻　弥生集落	金関　恕・佐原　眞
1992年９月	山陰地方における弥生墳丘墓の研究	島根大学法学部考古学研究室
1998年３月	塩津丘陵遺跡群（塩津山遺跡・竹ヶ崎遺跡・柳遺跡・附　亀ノ尾古墳）	建設省松江国道工事事務所　島根県教育委員会
2000年３月	遺跡出土の焼成粘土塊・焼成剥離土器片からみた弥生土器の生産・供給形態	田崎　博之
1996年３月	「山陰の後期弥生土器における編年と地域間関係」島根考古学会誌　第13集	中川　寧
2000年３月 2001年３月	青谷上寺地遺跡１・２・３・４	(財)鳥取県教育文化財団　国土交通省　鳥取工事事務所
1992年３月	一般国道９号松江道路建設予定地内　埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ（勝負遺跡）	建設省松江国道工事事務所　島根県教育委員会
2000年３月	妻木晩田遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ　大山スイス村リゾート開発事業に伴う発掘調査報告	大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・鳥取県大山町教育委員会
2001年３月	主要地方道川本波多線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　沖丈遺跡	島根県川本土木建築事務所　島根県邑智町教育委員会
2003年７月12日	第10回石見考古学研修会（弥生後期集落）	石見考古学研修会
1992年３月	中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内　埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ	島根県教育委員会
平成3年11月	「絵画から記号へ－弥生時代における農耕儀礼の盛衰－」国立歴史民俗博物館研究報告　第35集（創設10周年記念論文集）	春成　秀爾
2003年８月	第31回山陰考古学研究集会　山陰の集落遺跡－弥生時代後期から古墳時代の集落像－	山陰考古学研究集会　於：鳥取県西伯郡西伯町
2004年３月	「装飾壷・スタンプ文土器からみた弥生時代後期の出雲地域」古代文化研究　2004.Mar.No.12	岩橋　孝典
弥生・古墳時代		
1998年３月	『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』一般国道９号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書14	島根県教育委員会
1997年	「東の土器、南の土器　-山陰東部における弥生時代中期後葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態-」『古代吉備』第19集	松井潔
2003年８月	第31回山陰考古学研究集会　山陰の集落遺跡-弥生時代後期から古墳時代の集落像-	山陰考古学研究集会　於：鳥取県西伯郡西伯町
平成14年９月	笠見第3遺跡-現地説明会資料-	財団法人　鳥取県教育文化財団　中部埋蔵文化財東伯調査事務所
1992年３月	講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書５　南講武草田遺跡	島根県鹿島町教育委員会
2002年12月	考古資料大観　第2巻　弥生・古墳時代　土器Ⅱ	赤塚　次郎
2003年３月	斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ「古志本郷遺跡Ⅵ－Ｋ区の調査－」	島根県教育委員会
古墳時代		
1999年５月	日本考古学　第7号　「古墳時代中・後期における食器・調理法の革新－律令制的食器様式の確立過程－」	宇野　隆夫
1992年	月刊　考古学ジャーナル　1月号　鬼高式土器の諸問題	ニューサイエンス社
1991年５月	古墳時代の研究　第6巻　土師器と須恵器	石野　博信・岩崎　卓也・河上　邦彦・白石太一郎
1994年３月	島根考古学会誌　出雲地域の須恵器の編年と地域色　第11集	大谷　晃二
昭和56年７月	須恵器大成	田辺　昭三
1985年３月	日脚遺跡　日脚住宅団地予定地内発掘調査報告書	島根県教育委員会
2002年３月	神原神社古墳	加茂町教育委員会
1980年９月	松江考古　第３号　「出雲地方における歴史時代須恵器の編年試論―柳浦　俊一」	松江考古学談話会
1997年３月	渋山池遺跡・原ノ前遺跡（一般国道９号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書　西地区Ⅶ）	島根県教育委員会
古墳～奈良時代		
1995年３月	埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ（鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窯跡）	建設省浜田工事事務所　島根県教育委員会
2003年３月	「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」古代文化研究　2003.Mar.No.11	岩橋　孝典
2004年３月	「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について(2)」古代文化研究　2004.Mar.No.12	岩橋　孝典
古代		
2003年10月	古代土器研究の現状と課題～平城京出土土器を研究する側から～	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部考古第二調査室　金田明大
2003年３月	島根県古代文化センター調査研究報告書第14　山陰古代出土文字資料集成Ⅰ（出雲・石見・隠岐編）	島根県古代文化センター
2004年３月	古代の官衙遺跡　Ⅱ遺物・遺跡編	独立行政法人　文化財研究所　奈良文化財研究所
1980年９月	松江考古　第３号「出雲地方における歴史時代須恵器の編年試論」	柳浦　俊一
中世		
1996年１月	考古学による日本歴史　15　家族と住まい	大塚初重・白石太一郎・西谷正・町田章
1995年６月	大宰府陶磁器研究　－森田　勉氏遺稿集－	森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会
平成12年３月	大宰府市の文化財　第49集　大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-	太宰府市教育委員会
2003年10月	第３回　山陰中世土器検討会　資料集　中世須恵器の生産と流通　（山陰地方を中心に）	山陰中世土器検討会

第７章　科学分析

第１節　高津遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡　辺　正　巳（文化財調査コンサルタント㈱）

はじめに

本報告は、文化財調査コンサルタント株式会社が江津市教育委員会の委託を受けて実施・報告した調査報告書の概報である。

高津遺跡は島根県西部、江津市都治町地内に位置し、遺跡周辺の植生変遷、堆積環境変遷などの古環境変遷や「地山」の堆積年代を推定するために、発掘調査に伴って露出した各地点より採取した試料を対象として花粉分析、珪藻分析を行った。

分析試料について

各分析試料は江津市教育委員会と協議の上、文化財調査コンサルタント株式会社が採取した。図１に示す３地点で試料を採取した。各ダイアグラムに、各地点の柱状図および分析結果を総合したものを示す。柱状図右側には採取層準に試料番号を、左側には出土遺物から推定されている堆積年代を示している。

分析方法

花粉分析処理は渡辺（1995a)、珪藻分析処理は渡辺（1995b）に従った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。また花粉粒の同定にあたり、中村（1974）に従い、イネ科をイネを含む可能性の高いイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性の低いイネ科（40ミクロン未満）に細分している。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで観察・同定を行い（同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。)、珪藻分析では同定総数が200個体以上になるまで観察・同定を行った。しかし、一部試料では、各化石の含有量が少なかったために、木本花粉化石総数あるいは珪藻化石総数で200を越えることができなかった。

分析結果

花粉分析結果を図２～４の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、同定した木本花粉総数を基数にした百分率を各々の木本花粉、草本花粉について算出し、スペクトルで表した。また検出数の少ない試料では、出現した種類を「＊」で示した。さらに花粉ダイアグラム右側に、「針葉樹花粉」、「広葉樹花粉」、「草本花粉」に「胞子」を加えた総合ダイアグラムを示している。総合ダイアグラムでは、計数値の合計を基数にそれぞれの百分率を算出し、累積百分率で示してある。

珪藻分析結果を図５～10の珪藻ダイアグラム、珪藻総合ダイアグラムに示す。珪藻ダイアグラムでは検出総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、白抜きスペクトルで示している。検出量の少ない試料については出現した種類を「＊」で示している。また珪藻総合ダイアグラムで表した５つのグラフの内、左端の「生息域別グラフ」では同定した全ての種類を対象にそれぞれの要因（生息域）毎に百分率で表した。そのほかの４つのグラフでは、淡水種についてそれぞれの要因毎

に百分率を算出し、累積百分率で示してある。

また、各観察用プレパラートを用いてそのほかの化石他について概観した結果を、表１に微化石概査結果として示す。

花粉分帯

花粉組成の特徴から、以下のように地域花粉帯を設定した。ただしNo.３地点は、分析した１試料の花粉検出量が少なかったことから、地域花粉帯の設定対象から除いた。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料No.も下位から上位に向かって記した。

(1) Ⅴ帯：No.１地点試料No.10、No.２地点試料No.10

スギ属が卓越するほか特に高率を示す種類はない。

(2) Ⅳ帯：No.１地点試料No.９～７、No.２地点試料No.９～７

マツ属（複維管束属）、スギ属が卓越傾向にある。またNo.２地点ではトチノキ属がマツ属（複維管束亜属）、スギ属に迫る高率を示す。

(3) Ⅲ帯：No.２地点試料No.６～４

花粉化石の含有量が少ないものの、３試料共にマツ属（複維管束亜属）が卓越し、スギ属を伴う。

(4) Ⅱ帯：No.１地点試料No.６～２、No.２地点試料No.２、１

スギ属が卓越し、マツ属（複維管束属）、アカガシ亜属を伴う。

(5) Ⅰ帯：No.１地点試料No.１

マツ属（複維管束亜属）が卓越するほか、スギ属、コナラ属を伴う。

珪藻分帯

各地点共に珪藻組成の変化に乏しかった。このため各地点共に、１帯の地域珪藻帯を設定した。以下に各地点毎に珪藻帯の特徴を示す。また、本文中では珪藻組成の変遷を明らかにするために、試料No.を下位から上位に向かって記した。

(1) No.１地点

Ｄ１－Ⅰ帯：試料No.10～４

全ての種類が淡水種であり、底生種が70～80％を占める。

(2) No.２地点

Ｄ２－Ⅰ：試料No.９～３

検出数が少なかったが、検出できた珪藻のほとんどが淡水種である。陸生種の*Hantzschia amphioxys*が卓越する傾向にあるほか、底生種の*Cymbella*属や*Pinnularia*属を伴う。

(3) No.３地点

試料No.１：検出数が少なかったが、検出できた全ての珪藻が淡水種である。底生種の*Cymbella*属や*Pinnularia*属が卓越する傾向にある。

No.２地点の堆積環境

No.２地点は図５－１に示すように、極めて規模の小さい谷の出口に位置している。分析した８試料からの珪藻化石検出量は少ないものの、検出できたいずれの試料でも陸生種の*Hantzschia amphioxys* が卓越し、底生種の*Cymbella* 属や*Pinnularia* 属を伴っていた。また堆積物は、炭片が混じりかつやや腐植質であるが、様々な粒径の礫を含み、明瞭なラミナの無いシルト～粘土であった。

珪藻化石の含有量が少なく、陸生珪藻が卓越することから、堆積時に常時「湿地」状態であったとは考えにくく、乾燥傾向が強かったと考えられる。また、含まれる礫の粒径が不揃いで、インブリケーションも認められず、ラミナも不明瞭であることから、堆積ユニット毎に一挙に溜まった可能性が指摘できる。以上のような事柄から、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く(常時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。)、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込み、堆積していったのではなかろうか。

No.３地点の堆積時期について

No.３地点では、堆積時期を判断するために花粉分析を実施していた。しかし、花粉化石の検出量が少なく、有意な結果を得ることが出来なかった。

古環境変遷

ここでは、花粉帯毎に遺跡周辺の古環境を推定する。

⑴Ｖ帯期

①堆積環境

No.１地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占めることから、沼沢湿地での堆積が推定される。また、草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）が高率を示すことから、水田で堆積した可能性もある。ただし、堆積物が腐植に富む様子はなく、珪藻化石が上位から混入した可能性もある。

No.２地点は、珪藻化石が検出できなかったために、堆積環境は不明である。堆積状況から考えると前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。)、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む状況が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越することから、遺跡近辺の低地、あるいは斜面にスギ林が分布していた可能性が高い。またNo.２地点では、アカガシ亜属花粉の出現率がやや高率であり、背後の山々にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布していた可能性がある。

③草地植生

草本花粉組成はNo.１、２地点で大きく異なる。No.１点ではイネ科（40ミクロン以上）が比較的高率を示し、稲作が行われていた可能性が示唆される。しかし堆積環境で述べた珪藻化石同様、草本花粉も上位から混入した可能性が残る。調査地点が湿地であったと考えると、イネ科、カヤツリグ

サ科などが生育し、やや乾燥した場所にはタンポポ亜科などが生育していたと考えられる。

一方No.２地点では、イネ科、カヤツリグサ科などが生育し、やや乾燥した場所にはヨモギ属などが生育していたと考えられる。

⑵Ⅳ帯期

①堆積環境

各地点共に珪藻組成に大きな変化がないことから、堆積環境にも大きな変化があったとは考えにくい。前述のようにNo.１地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占めることから、沼沢湿地での堆積が推定される。また、イネ科（40ミクロン以上）花粉はさほど高率を示さず、水田であった可能性は低くなる。ただし、堆積物は腐植に富み、珪藻化石、花粉化石共に本質的なものであると考えられる。

No.２地点は、試料No.９でのみ珪藻化石が検出された。堆積状況を加味すると前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む状況が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越し、遺跡近辺の低地、あるいは斜面に引き続きスギ林が分布していた可能性が高い。またマツ属（複維管束亜属）が急増し、周辺でアカマツ林が急激に広がったことが示唆される。一般にアカマツ林は、人間による植生破壊の跡に遷移林として広がる傾向にあることから、周辺の開発がⅣ帯期以降急激に進んだ可能性が指摘できる。一方でアカガシ亜属、シイノキ属－マテバシイ属花粉の出現率は低率ではあるが安定しており、背後の山々にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布域を狭めながらも引き続き分布していたと考えられる。

またNo.２地点では、トチノキ属花粉が高率を示す。一方No.１地点では、わずかに検出されるのみである。トチノキは虫媒花で花粉の散布域が狭いことから、No.２地点近辺にトチノキが生育していた可能性が高い。

③草地植生

No.１地点では、イネ科（40ミクロン以上）花粉はさほど高率を示さず、水田であった可能性は低くなる。調査地点には湿地が広がりイネ科、カヤツリグサ科などが生育し、やや乾燥した場所にはヨモギ属などが生育していたと考えられる。

一方No.２地点では、堆積環境がやや安定したためか前の時期より生育する種類が豊富になり、キンポウゲ科やアブラナ科も生育するようになったと考えられる。

⑶Ⅲ帯期

No.２地点でのみ、花粉帯（堆積物）が認められる。

①堆積環境

前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む

状況が推定される。

②森林植生

マツ属（複維管束亜属）花粉が卓越することから、開発に伴い近辺でアカマツが分布を広げたと考えられる。マツ属（複維管束亜属）花粉の減少に伴いスギ属花粉が増加する。このことは、スギ属の分布拡大と捉える事も可能であるが、すでに人為による植生の破壊が始まっていることから、アカマツの減少に伴うスギ属の相対的な増加と考える方が妥当であろう。

③草地植生

より安定した堆積環境になり、草本花粉の割合が高くなる。最上部でアカザ科－ヒユ科が急増し、近辺に生育していたことが解る。

⑷II帯期

①堆積環境

前述のようにNo.１地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占める。また、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率を示すことから、水田環境下での堆積が推定される。またNo.２地点でもイネ科（40ミクロン以上）が高率を示すようになり、水田環境下での堆積が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越し、遺跡近辺の低地、あるいは斜面に引き続きスギ林が分布していた可能性が高い。またマツ属（複維管束亜属）はさほど高率にならない。前の時期で一時的に増えた近辺のアカマツが無くなり、安定した森林環境が続いたと考えられる。背後の山々にはアカマツにコナラ類を交えた林やカシ類を主要素とする照葉樹林が引き続き分布していたと考えられる。

③草地植生

草本花粉の種類も割合も多くなる。イネ科（40ミクロン以上）花粉が卓越するほか、特に水田雑草を含むオモダカ属やセリ科が出現するようになり、この時期からNo.１、２地点共に稲作が行われたと考えられる。前述のオモダカ属、セリ科などは水田雑草と考えられる。

またNo.１地点試料No.３、２ではソバ属も検出され、二毛作やイネと同時に畦で、あるいは休耕田での栽培が推定される。

⑸I帯期

No.１地点でのみ分析を行い、花粉帯（堆積物）を確認した。

①堆積環境

発掘調査時の観察で現代耕作土とされた層である。花粉組成ではイネ科（40ミクロン以上）が卓越し、水田環境下での堆積が推定される。

②森林植生

マツ属（複維管束亜属）が卓越し、コナラ属、スギ属を伴う。マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属は、アカマツ林、コナラ林などのいわゆる「里山」として広い範囲での分布が考えられる。またスギ属は、現在見られる様に植林として分布していたと考えられる。

③草地植生

前時期同様にイネ科（40ミクロン以上）が卓越するが、その他の草本花粉は減少傾向にある。引き続き稲作が行われ水田が広がっていたと考えられるが、技術の進歩などによって、Ⅱ帯期に比べ雑草が減ったと考えられる。

一方でソバ属栽培は引き続き行われたと考えられる。

まとめ

初期の目的であるNo.３地点の堆積時期推定は、花粉化石が得られなかったことから、出来なかった。

高津遺跡において実施した各種分析を基に、以下の局地化石帯を設定した。

⑴　花粉組成変遷から、Ⅰ～Ⅴ帯の局地花粉帯を設定した。

⑵　珪藻組成変遷から各地点毎にⅠ帯の局地珪藻帯を設定した。

各種分析結果、および調査に伴う地層観察などから、局地花粉帯に基づく時期毎に周辺の古環境を推定した。主な事柄は、以下に示す通りである。

⑴　No.１、２地点の堆積環境は大きく異なった。No.１地点では沼沢湿地状態が続いたのに対し、No.２地点では乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む状況が推定された。

⑵　遺跡内ではⅡ帯期以降水田耕作が行われた。Ⅳ、Ⅴ帯期でも水田耕作が行われた可能性はあるが、低い。

⑶　Ⅴ～Ⅱ帯期まで、周辺地域はスギが卓越する森で被われていた。遺跡内のほぼ全域が水田化したのは、Ⅲ帯～Ⅱ帯の間であると考えられる。

⑷　Ⅱ帯上部よりソバ属花粉が検出されており、この時期以降のソバ栽培が示唆される。

引用文献

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187－197．

渡辺正巳（1995a）花粉分析法．考古資料分析法，84，85．ニュー・サイエンス社

渡辺正巳（1995b）珪藻分析法．考古資料分析法，86，87．ニュー・サイエンス社

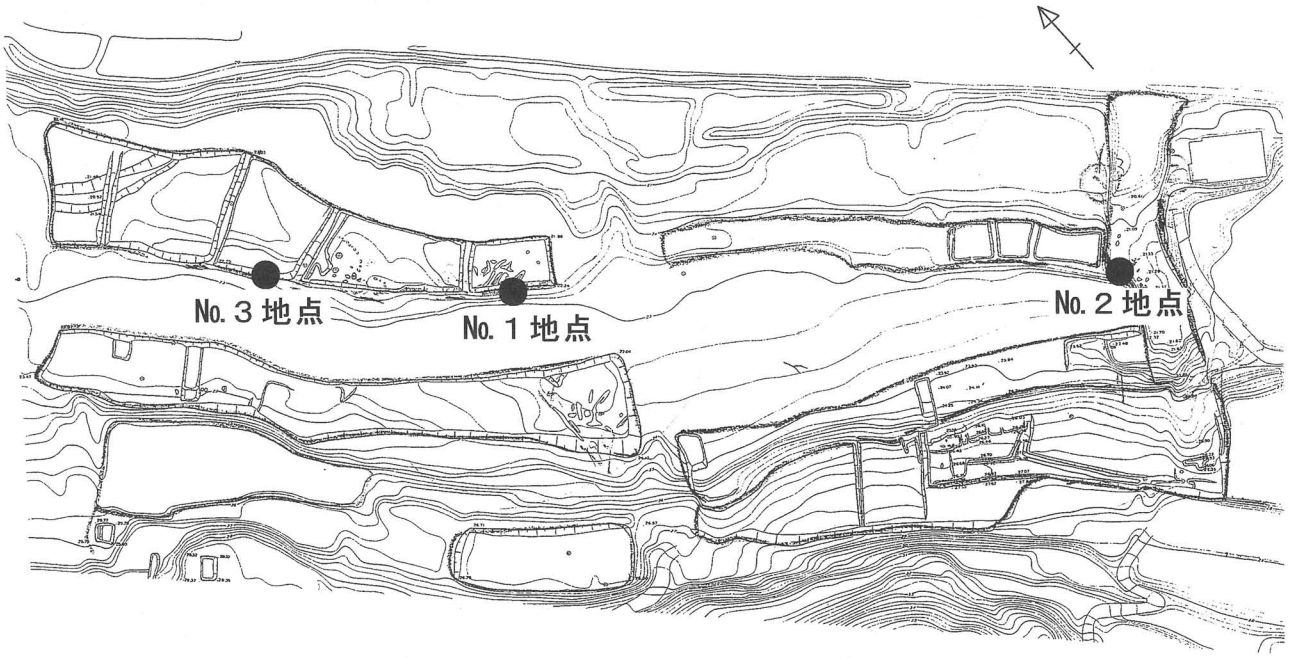


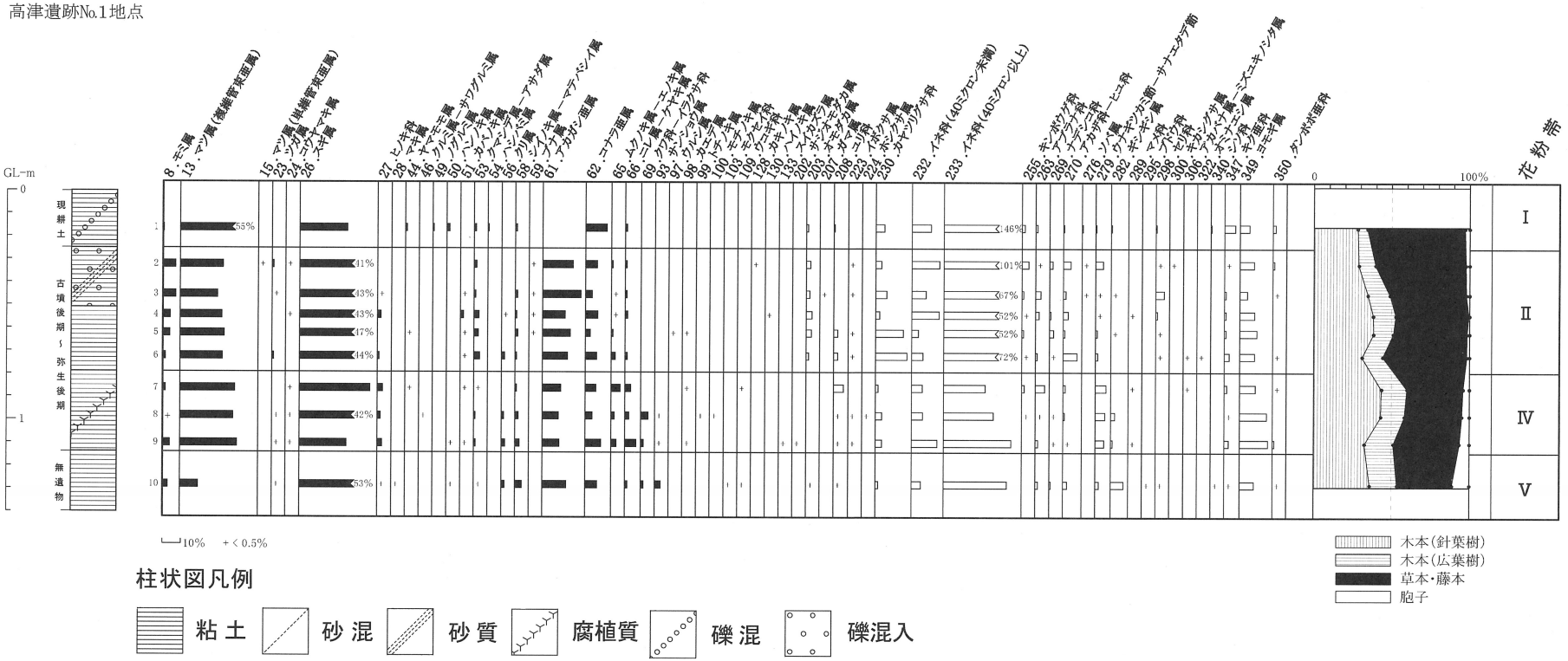
図1　試料採取地点

表1　概査結果

地点No.	試料No.	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ガラス	プラント・オパール
1	1	◎	△×	△×	◎	△×	△
	2	◎	△	△	○	△	○
	3	◎	△	△	◎	△×	○
	4	◎	△×	△	◎	△×	△
	5	◎	○	△	◎	△×	○
	6	◎	○	△	◎	△×	○
	7	◎	△×	△	◎	△×	△
	8	◎	△	△	◎	△×	△
	9	◎	△×	○	◎	△×	△
	10	◎	○	○	◎	△×	○
2	1	◎	○	△	○	△	◎
	2	◎	○	△	○	△	△
	3	△×	○	△×	△	△×	△
	4	△	○	△×	△×	△×	△
	5	△	○	△×	×	△	○
	6	△	△	△×	△×	△×	○
	7	△	△	△×	×	△	○
	8	○	△	△×	×	△×	○
	9	○	△	△×	△	△	○
	10	◎	△×	△	×	△	△×
3	1	△×	△×	△×	△	○	△

凡例 ◎　：十分な数量が検出できる
○　：少ないが検出できる
△　：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる
×　：検出できない

高津遺跡No.1地点



柱状図凡例

粘土　砂混　砂質　腐植質　礫混　礫混入

図2　No.1地点の花粉ダイアグラム

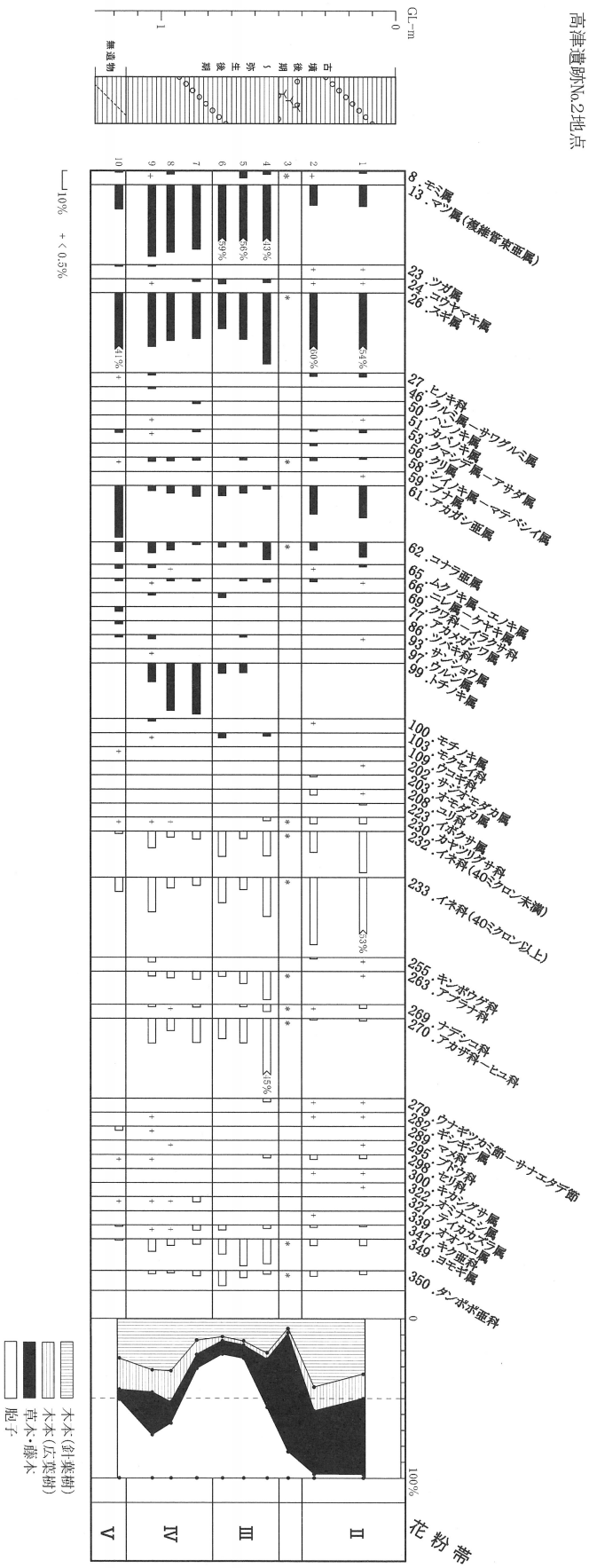


図3　No2地点の花粉ダイアグラム

高津遺跡No.3地点

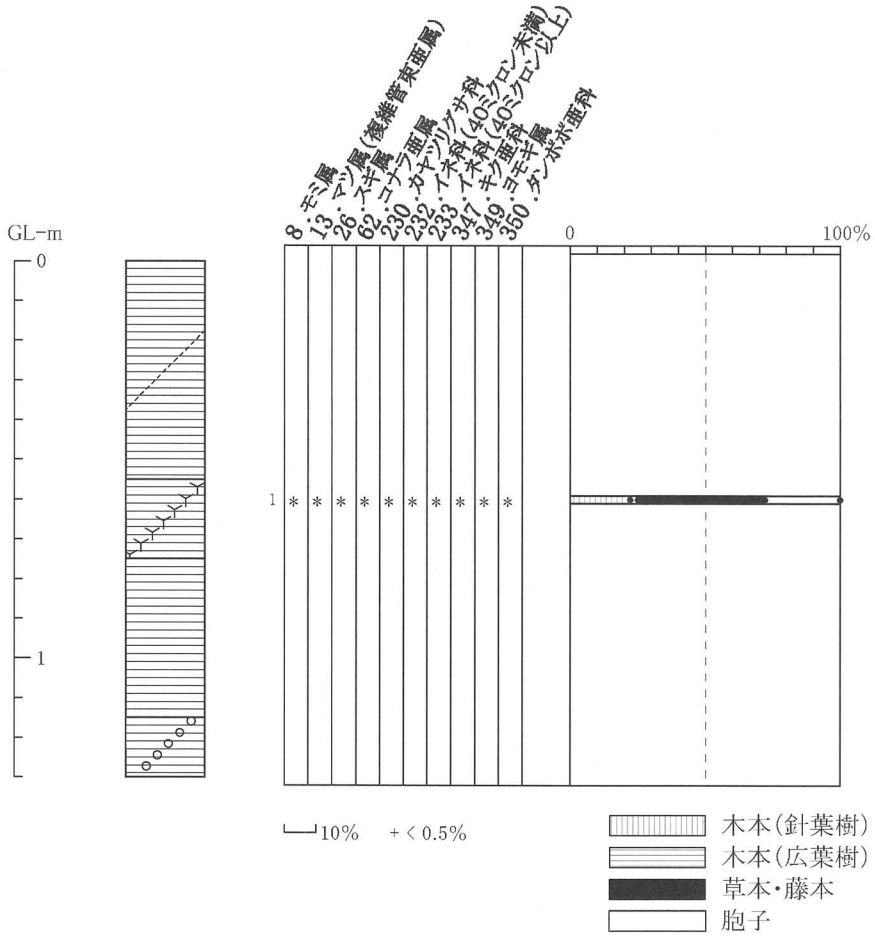


図4　No.3地点の花粉ダイアグラム

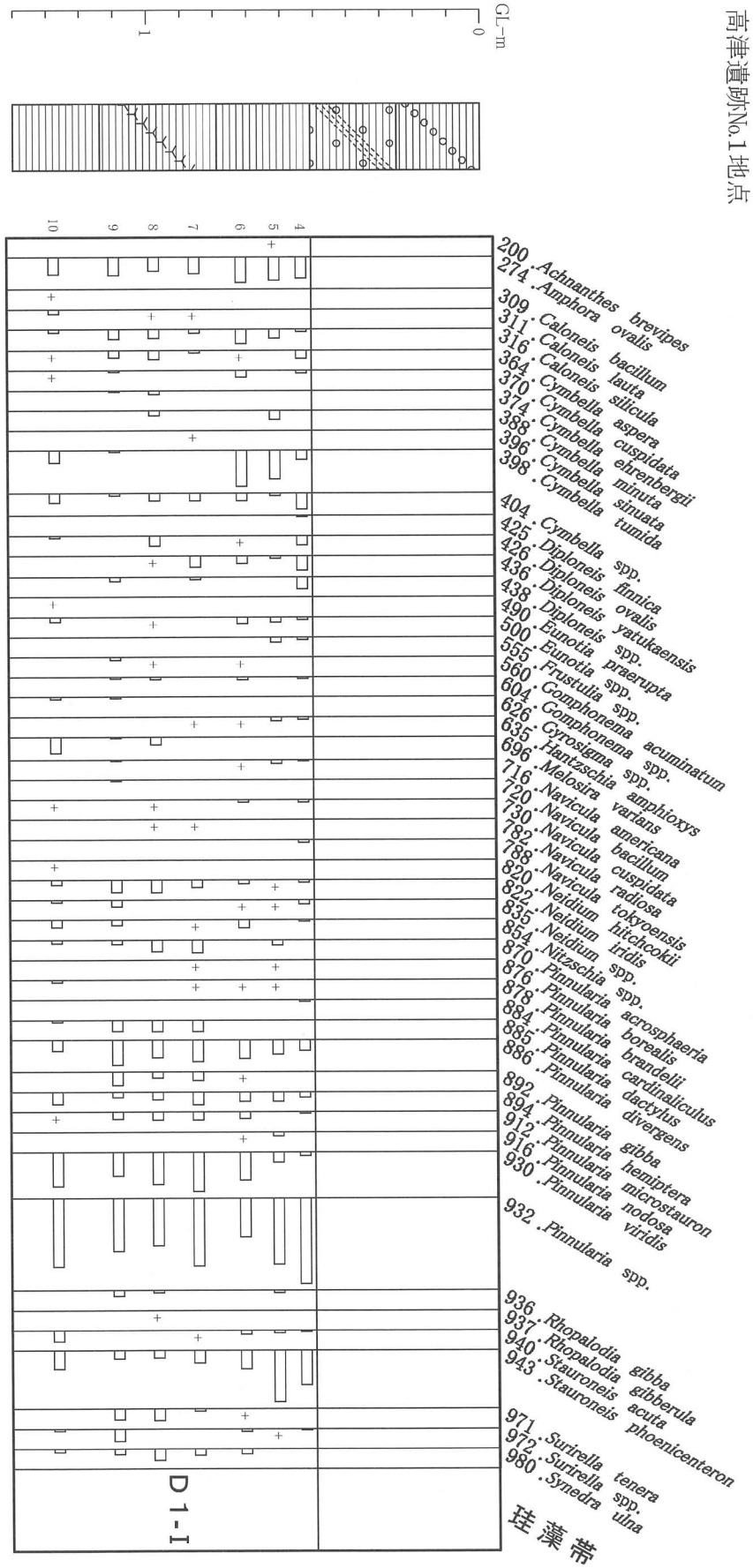


図5　No1地点の珪藻ダイアグラム

高津遺跡No.1地点

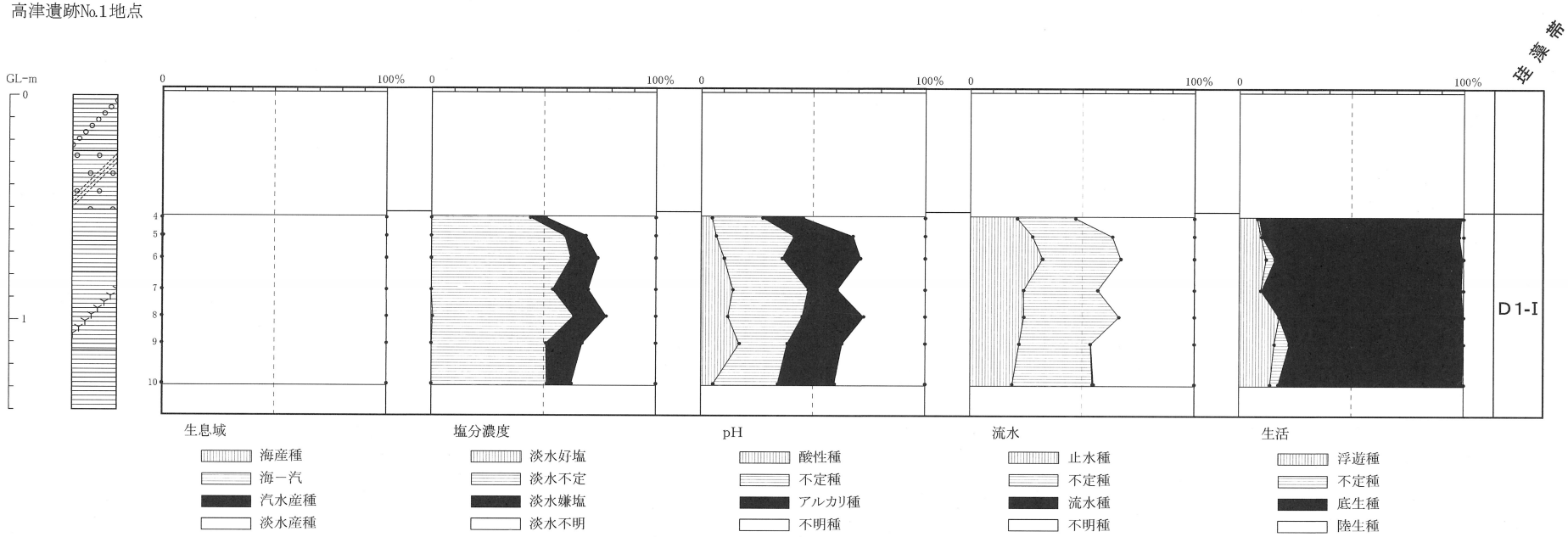


図6　No.1地点の珪藻総合ダイアグラム

高津遺跡No.2地点

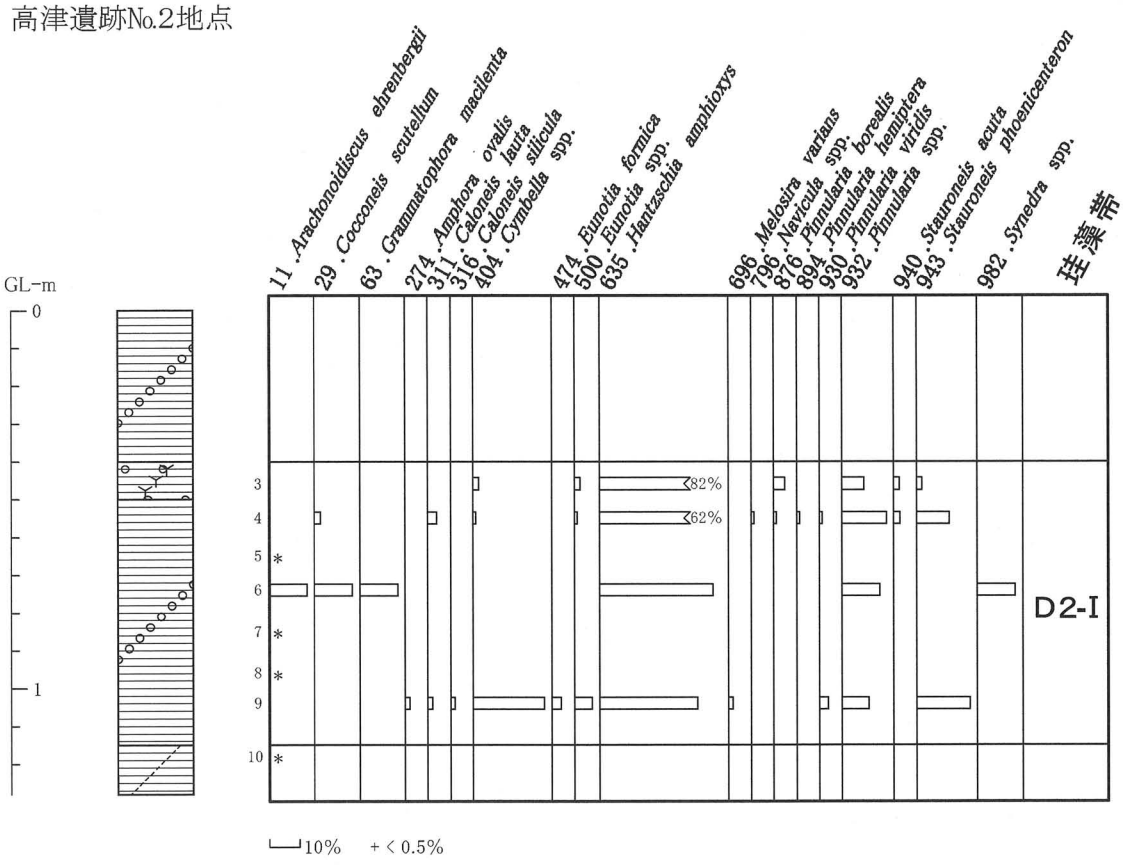


図7　No.2地点の珪藻ダイアグラム

高津遺跡No.2地点

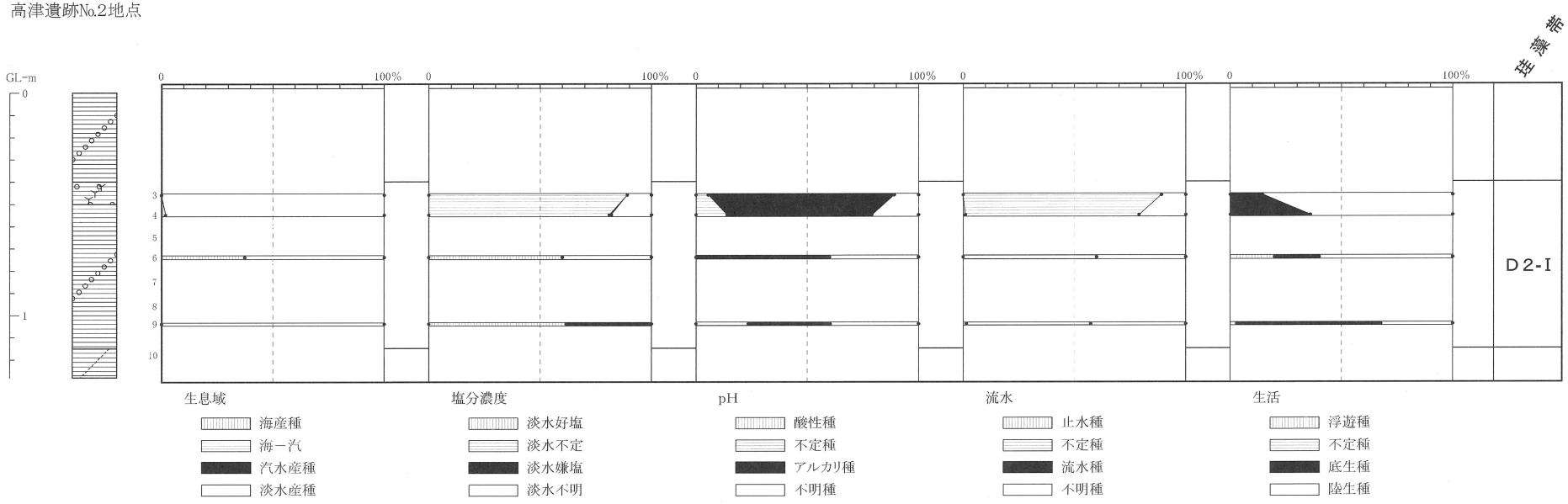


図8　No.2地点の珪藻総合ダイアグラム

高津遺跡No.3地点

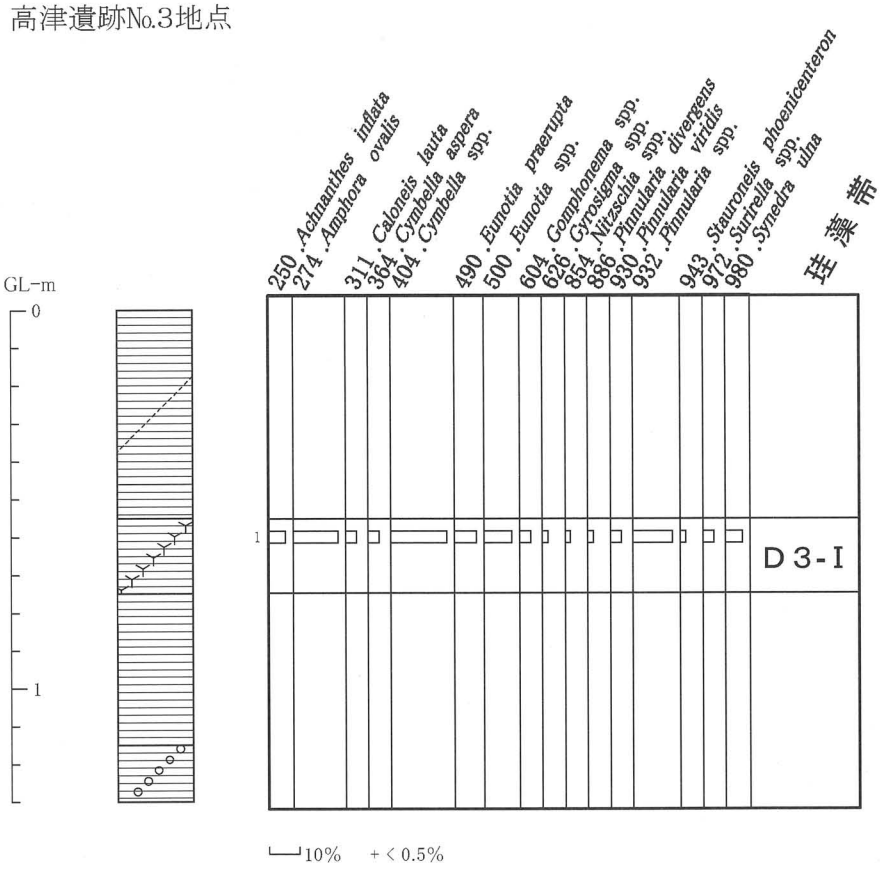


図9　No.3地点の珪藻ダイアグラム

高津遺跡No.3地点

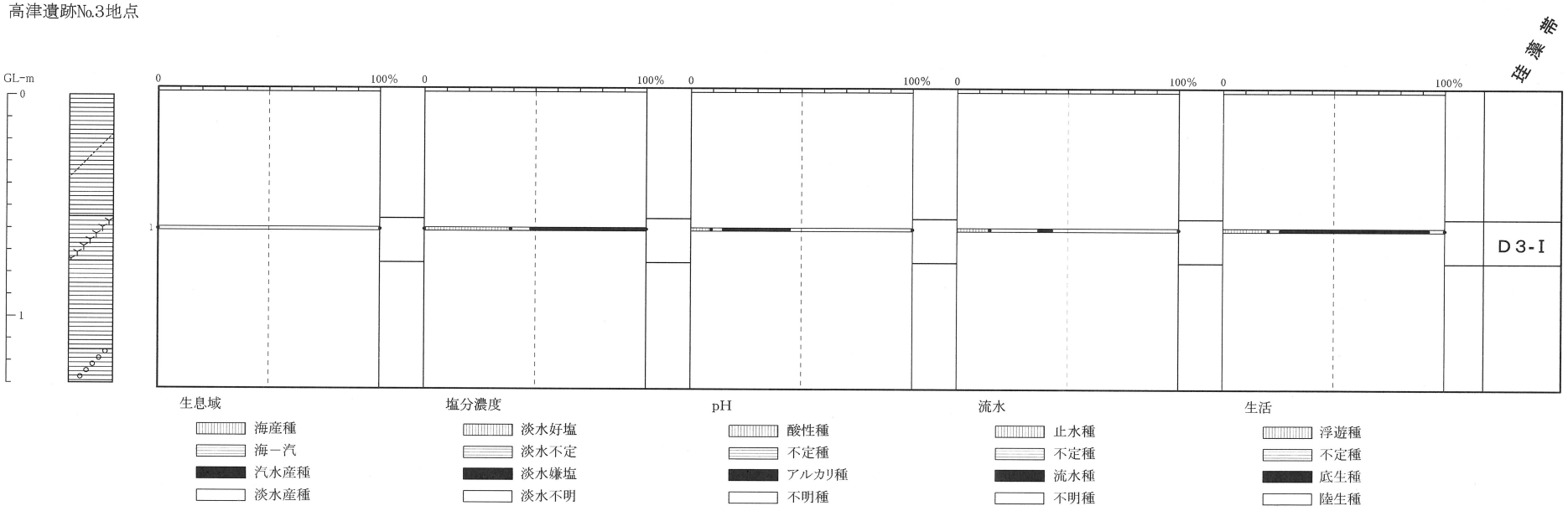


図10　No.3地点の珪藻総合ダイアグラム

第２節　高津遺跡発掘調査に係る樹種鑑定

渡　辺　正　巳（文化財調査コンサルタント㈱）
古　野　　毅（島根大学総合理工学部）

はじめに

高津遺跡は島根県西部、江津市都治町地内に位置する。

本報は、江津市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した出土木質遺物（柱材他）の樹種鑑定結果の概報である。

試料について

樹種鑑定を行った試料の一覧を表１に示す。表１には、同時に鑑定結果も示してある。

永久プレパラートは渡辺（2000）に従い作成した。また作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント㈱にて保管管理をしている。

作製した永久プレパラートを、光学顕微鏡下で40倍～600倍の倍率で観察し記載を行った。記載にあたって同一分類群は一括して記載し、代表的な試料の３断面の顕微鏡写真を付けた。また用語などは基本的に島地ほか（1985）に従った。

樹種の鑑定結果と記載

各分類群毎に記載を行い、表１に鑑定結果を示した。また、巻末に最も特徴的な個体の顕微鏡写真を示した。

コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata*（Thumb.）Sieb.et Zucc.

試料№.：563

記載：構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は極めて狭い。分野壁孔は窓状であるが、多くは壁孔膜が劣化し窓状に広がり、不明瞭となっている。放射組織は大部分が５細胞高以下であり、高さが非常に低い。以上の組織上の特徴から、コウヤマキと同定した。

スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don

試料№.：502、503、770、771、774、778

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はやや緩やかあるいはやや急で、晩材の幅は広い。樹脂細胞は主に移行部から晩材部に分布している。また、分野壁孔はスギ型で２～３個存在することなどから、スギと同定した。

ヒノキ属？　cf. *Chamaecyparis* sp.

試料№.：702

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は狭い。樹脂細胞は移行部に認められる。分野壁孔は不明瞭であるが、小型のものが２～３個存在するなど、ヒノキ属と類似する特徴を持つ事から、ヒノキ属？とした。

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

試料№.：823,824

記載：環孔材で円形ないし楕円形の長径400～300μm程度の道管が単独で多列に配列し、孔圏部の幅はかなり広い。孔圏外の道管は30～100μm程度で、放射状に配列する。道管せん孔は単せん孔でる。また、道管にはチロースが顕著に認められる。孔圏道管の周りには周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は単接線状に配列するのが認められる。放射組織は単列同性型である。以上の組織上の特徴からクリと同定した。

クワ属　*Moras* sp.

試料№.：500,779

記載：径200あるいは300～350μm程度の道管が単独あるいは2個複合して孔圏に多列（１～５列）に並ぶ環孔材である。孔圏外では径50μm程度までの小道管が不規則に小塊状に複合し、散在している。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。小道管にはらせん肥厚が認められる。また、道管内にはチロースがよく発達している。放射組織は１～８細胞幅で、上下端に１～数個の直立細胞や方形細胞を持つ、異性Ⅱ型である。放射組織は600～900、あるいは1400μmに達する３～８細胞幅の紡錘形を示すものが多い。軸方向柔細胞は、孔圏部の大道管および孔圏外の集団管孔を取り囲む周囲柔組織をなす。以上の特徴からクワ属と同定した。

カキノキ属　*Diospyros* sp.

試料№.：267

記載：径100～300μm程度の道管が単独ないし放射方向に２～３個複合して、散在状に分布する散孔材である。道管の分布数は少ない。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。道管壁は厚壁である。放射組織は１、２細胞幅の異性で、高さが10細胞高前後のものが階層状に規則的に配列しているのが特徴的である。軸方向柔細胞は顕著な１列の接線状、および周囲状である。また周囲柔細胞は、木部繊維より径が大きい。以上の組織上の特徴からカキノキ属と同定した。

用材（柱）についての特徴

前述の様に11本の柱について樹種鑑定を行った結果、コウヤマキが１本、スギが５本、ヒノキ属？が１本、クリが２本、クワ属が１本、カキノキ属が１本確認できた。

針葉樹のうち、スギ、ヒノキ属は柱材としてよく使用される樹種である。伊東ほか（1987）、山田（1993）の集成で見ると、コウヤマキは柱、棺材として主に近畿地方での記載があるが、島根県下では初の報告例となる可能性がある。

広葉樹の内クリは、伊東ほか（1987）、山田（1993）の集成で見ると柱に用いられることが多くはないが、島根県内では出雲国府跡（渡辺・古野，2003）などで多数記載されている。また、クワ属はヤマグワとしての記載があるが多くはない。島根県下での記載も数例目であろう。カキノキ属の記載はほとんど無く、島根県下では初の報告となる可能性がある。

引用文献

伊東隆夫・山口和穂・林　昭三・布谷知夫・島地　謙（1987）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途．木材研究，23，42-210.

島地　謙・佐伯　浩・原田　浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．276p. 文永堂，東京.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土文献集成－用材から見た人間・植物関係史．242p.，植生史研究特別第1号，植生史研究会，大阪.

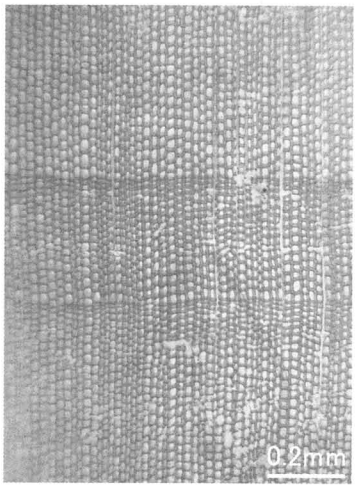
渡辺正巳（2000）長原遺跡東北地区東調査地出土木質遺物の樹種鑑定．長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅲ－1997年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書－，247-249，財団法人大阪市文化財協会.

渡辺正巳・古野　毅（2003）出雲国府跡出土柱根・木製品の樹種（Ⅰ）．風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14 史跡出雲国府跡－1－，199-208，島根県教育委員会.

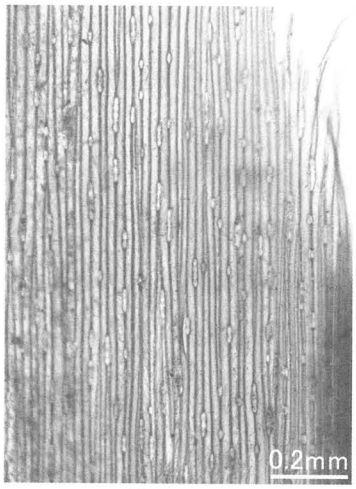
表1．樹種鑑定結果

試料番号	整理番号	樹　種　名	遺構（取上番号）	種　別	備　考
267	W03111703	カキノキ属	BⅣ区(Jan-45)	柱材	弥生後期～古墳後期
500	W03111705	クワ属	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
502	W03111704	スギ	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
503	W03111802	スギ	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
563	W03111706	コウヤマキ	BⅣ区(27)	柱材	弥生後期～古墳後期
702	W03111801	ヒノキ属？	BⅤ区E(58)	柱材	弥生後期～古墳後期
770	W03111804	スギ	BⅣ区(36)	柱材	弥生後期～古墳後期
771	W03111702	スギ	BⅣ区	柱材	弥生後期～古墳後期
774	W03111805	スギ	BⅣ区(26)	柱材	弥生後期～古墳後期
823	W03111803	クリ	AⅠ区(173)	柱材	中世
824	W03111701	クリ	AⅠ区(145)	柱材	中世
778	W03111806	スギ	CⅦ区	自然木	弥生後期～古墳後期
779	W03111807	クワ属	BⅤ区	素材	弥生後期～古墳後期

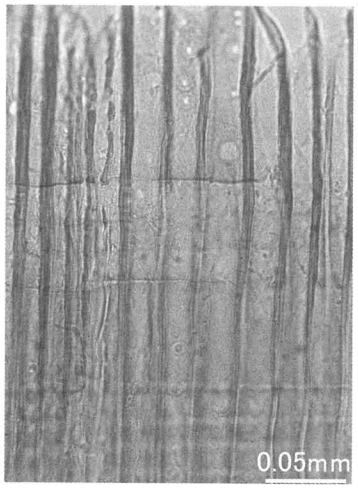
コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata*（Thumb.）Sieb.et Zucc.
試料No.：563（W03111706）



横断面

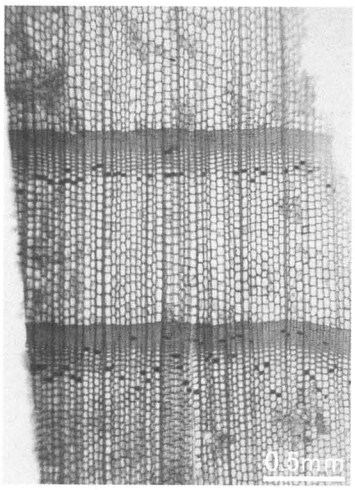


接線断面

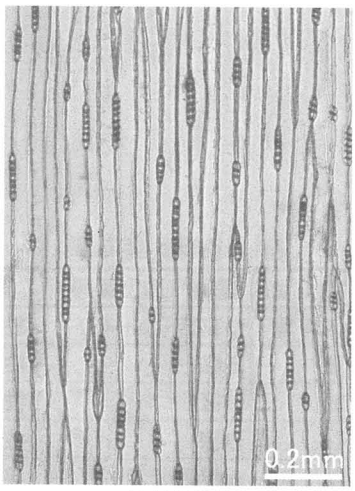


放射断面

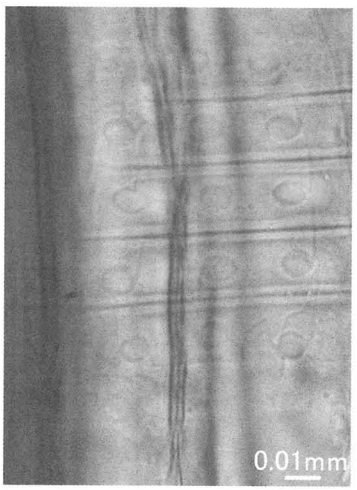
スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don
試料No.：502（W03111704）



横断面

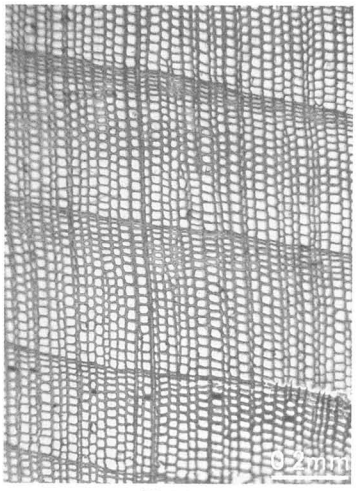


接線断面



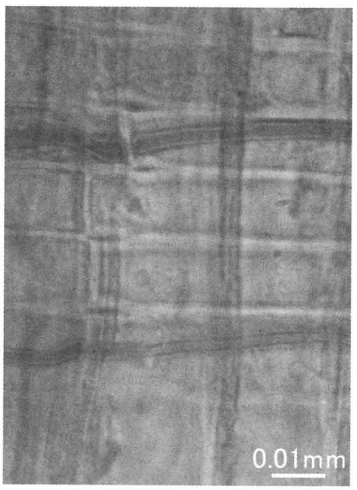
放射断面

ヒノキ属？　cf. *Chamaecyparis* sp.
試料No.：702（W03111801）



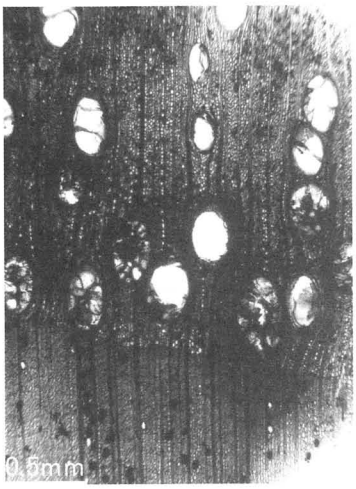
横断面

接線断面



放射断面

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.
試料No.：824（W03111701）

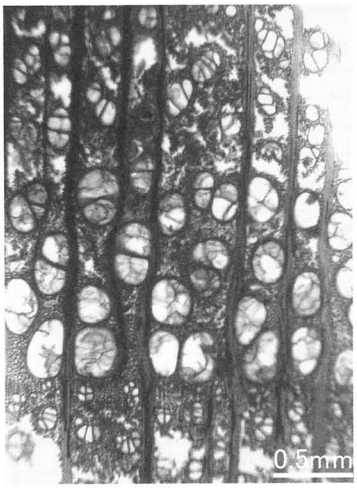


横断面

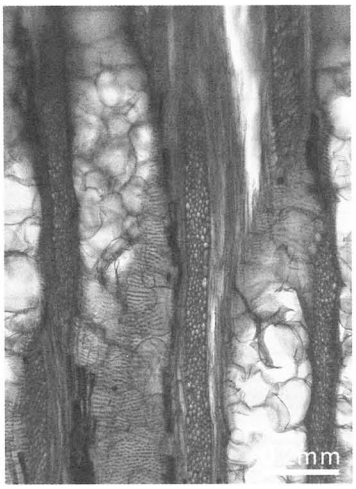
接線断面

放射断面

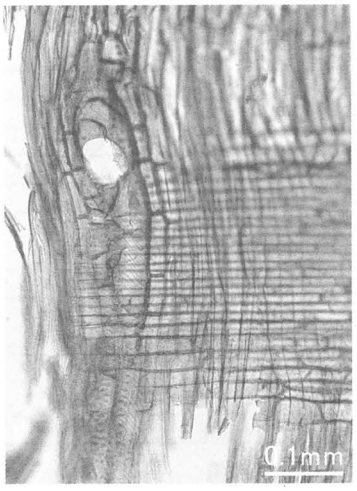
クワ属　*Moras* sp.
試料No.：779（W03111807）



横断面

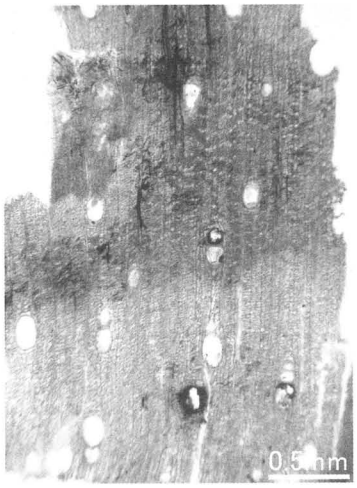


接線断面

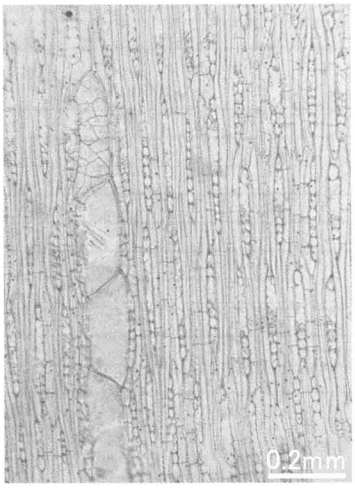


放射断面

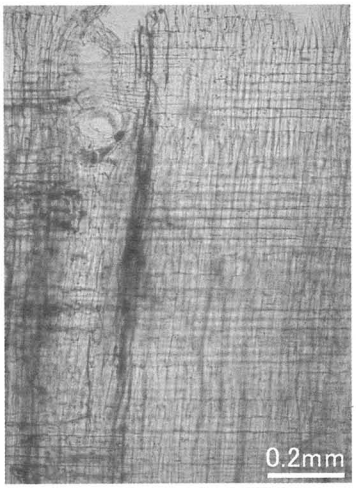
カキノキ属　*Diospyros* sp.
試料No.：267（W03111703）



横断面



接線断面



放射断面

第1表　竪穴住居12計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		5.85(7.5)m				5.45m			
壁高		34cm							
壁帯溝（cm）		幅 35				深さ 10			
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	20	23	24	26	24			
	底面標高（m）	—	24.33	—	—	—			
柱間距離（m）		1—2	2—3	3—4	4—5				
		1.10	1.16	1.21	1.59				

第2表　竪穴住居07計測表

平面形		多角形（五角形・隅丸方形）							
規模		上面				下面			
		5.06m～(A:5.0m)(B:5.6m)				5.01m～			
壁高		53cm							
壁帯溝（cm）		幅 29				深さ —			
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	51	44	37					
	底面標高（m）	24.09	24.36	—					
柱間距離（m）		1—2	2—3						
		1.81	2.35						
中央土坑	主軸	N—71°—W							
	径（m）	1.08×0.68							
	深さ（cm）	19							

第3表　竪穴住居03計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		6.89～(9m)				6.73m～			
壁高		25cm							
壁帯溝（cm）		幅 10				深さ 10			
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	39	46	32					
	底面標高（m）	—	23.8	23.14					
柱間距離（m）		1—2	2—3						
		1.50	2.70						

第4表　竪穴住居14計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		2.55～(6m)				2.56m～			
壁高		10cm							
壁帯溝（cm）		幅 —				深さ —			
柱穴（cm）	番号	4	5						
	上面径（cm）	4.7	3.8						
	底面標高（m）	—	23.42						
柱間距離（m）		4—5							
		2.0							

第5表　竪穴住居04計測表

平面形		—							
規模		上面				下面			
		—				—			
壁高		—							
壁帯溝（cm）		幅 10				深さ —			
柱穴（cm）	番号								
	上面径（cm）								
	底面標高（m）								
柱間距離（m）									

第6表　竪穴住居13－1計測表

平面形		方形							
規模		上面				下面			
		5.43m(4.4m)				5.25m			
壁高		－							
壁帯溝（cm）		幅 45				深さ －			
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	24	21	26					
	底面標高（m）	－	－	－					
柱間距離（m）		1－2	1－3						
		1.77	1.65						

第7表　竪穴住居13－2計測表

平面形		方形							
規模		上面				下面			
		4.58m(4.5m)				4.52m			
壁高		－							
壁帯溝（cm）		幅 20				深さ －			
柱穴（cm）	番号								
	上面径（cm）								
	底面標高（m）								
柱間距離（m）									
土坑	主軸	N-47° -W							
	径（m）	1.04×1.23							
	深さ（cm）	49							

第8表　竪穴住居08計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		8.4m～				8.21m～			
壁高		10cm							
壁帯溝（cm）		幅 25				深さ 6			
柱穴（cm）	番号	1	2						
	上面径（cm）	36	51						
	底面標高（m）	24.10	23.64						
柱間距離（m）		1－2							
		3.33							

第9表　竪穴住居09－1計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		4.2m～				3.9m～			
壁高		12cm							
壁帯溝（cm）		幅 42				深さ 11			
柱穴（cm）	番号								
	上面径（cm）								
	底面標高（m）								
柱間距離（m）									

第10表　竪穴住居09－2計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		4.81m～				4.7m～			
壁高		－							
壁帯溝（cm）		幅 29				深さ －			
柱穴（cm）	番号								
	上面径（cm）								
	底面標高（m）								
柱間距離（m）									

第11表　竪穴住居11－1計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		5.12m				4.99m			
壁高		10cm							
壁帯溝（cm）		幅 30				深さ 7			
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4				
	上面径（cm）	42	48	53	－				
	底面標高（m）	22.8	22.35	22.43	－				
柱間距離（m）		1－2	2－3						
		3.75	3.65						
中央土坑	主軸	N－10° －E							
	径（m）	1.2×1.73							
	深さ（cm）	31							

第12表　竪穴住居11－2計測表

平面形		多角形							
規模		上面				下面			
		5.12～(6.0m)				4.99m			
壁高		10cm							
壁帯溝（cm）		幅 30				深さ 7			
柱穴（cm）	番号	5	6	7	8	9			
	上面径（cm）	40	47	52	43	51			
	底面標高（m）	22.33	22.48	－	－	－			
柱間距離（m）		4－5	4－6	5－7	6－8	7－9			
		1.94	3.23	3.13	2.65	3.03			

第13表　竪穴住居02計測表

平面形		方形									
規模		上面				下面					
		4.68m(4.7m)				4.53m					
壁高		30cm									
壁帯溝（cm）		幅 22				深さ 8					
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	上面径（cm）	16	19	18	24	21	19	19	18	44	35
	底面標高（m）	23.84	23.78	－	23.77	－	23.71	－	－	23.55	23.65
柱間距離（m）		1－2	2－3	1－4	4－6	3－5	5－8	6－7	7－8		
		1.2	1.15	1.03	1.13	1.14	1.14	1.31	1.15		
中央土坑	主軸	N－58° －W									
	径（m）	0.75×0.84									
	深さ（cm）	23									

第14表　竪穴住居01計測表

平面形		隅丸方形							
規模		上面				下面			
		3.98m～(6.0m)				3.88m			
壁高		34cm							
壁帯溝（cm）		幅 13				深さ 5			
柱穴（cm）	番号	6	7						
	上面径（cm）	48	51						
	底面標高（m）	21.52	21.59						
柱間距離（m）		6－7							
		2.43							

第15表　竪穴住居10計測表

平面形		多角形（6角形）							
規模		上面				下面			
		4.44m～(6.6m)				42.4m～			
壁高		25cm							
壁帯溝（cm）		幅 －				深さ －			
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	49	46	41	39	27			
	底面標高（m）	22.2	21.78	21.46	21.51	21.75			
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5				
		2.49	3.09	2.34	2.57				

第16表　竪穴住居05計測表

平面形		円形							
規模		上面				下面			
		5.03m～				4.94m～			
壁高		22.65cm							
壁帯溝（cm）		幅　27				深さ　14			
柱穴（cm）	番号	1	2	3					
	上面径（cm）	46	39	29					
	底面標高（m）	22.5	22.64	22.39					
柱間距離（m）		1－2	2－3						
		1.71	1.22						

第17表　掘立建物01計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間(3.76)				4間(9.56)			
主軸		N－54°　－W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	26×23	38×36	34×34	31×27	28×28	26×22	34×34	37×27
	底面標高（m）	24.55	24.41	24.41	－	－	－	24.43	24.21
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5	1－6	5－7	7－8	
		2.14	2.46	3.00	1.96	3.28	2.00	1.76	

第18表　掘立建物02計測表

規模		梁行き				桁行き			
		5間(6.9m)				2間(4.56m)			
主軸		N－42°　－E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	56×39	22×18	33×27	38×33	20×14	33×32	28×26	31×29
	底面標高（m）	24.71	24.93	24.55	－	－	24.54	34.6	－
	番号	9							
	上面径（cm）	33×33							
	底面標高（m）	－							
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5	5－6	1－7	6－8	8－9
		1.72	1.90	1.76	1.58	1.66	2.13	2.16	2.40

第19表　掘立建物03計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間(7.51m)				1間(3.29m)			
主軸		N－23°　－E							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	38×38	41×40	47×33	51×49	21×21			
	底面標高（m）	24.4	24.41	－	24.41				
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5				
		2.38	2,94	2.19	3.29				

第20表　掘立建物04計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間(2.83m)				4間(9.09m)			
主軸		N－23.5°　－W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径（cm）	46×44	60×57	40×40	34×34	27×23	37×36	48×43	
	底面標高（m）	24.36	24.73	－	24.4	24.26	24.63	24.27	
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5	1－6	6－7		
		2.17	1.92	2.43	2.57	1.38	1.45		

第21表　掘立建物05計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間(3.08m)				4間(8.09m)			
主軸		N－55°　－W							
柱穴（cm）	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径（cm）	29×28	27×27	26×24	20×19	28×26	40×34	34×34	
	底面標高（m）	－	24.73	24.59	24.53	24.65	24.4	24.45	
柱間距離（m）		1－2	2－3	3－4	4－5	5－6	6－7		
		1.48	1.60	2.02	1.78	2.37	1.97		

第22表　掘立建物06計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間(8.08m)				1間(3.33m)			
主軸		N−55°　−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径（cm）	48×40	39×33	54×45	43×40	61×56	24×23	29×28	
	底面標高（m）	−	−	−	−	−	−	−	
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−7	1−4	4−5	5−6	6−7	
		2.90	5.12	3.33	3.02	2.62	2.06	3.40	

第23表　掘立建物07計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1間(3.72m)				3間(7.75m)			
主軸		N−45°　−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	148×78	59×59	58×54	43×41	49×43	51×46	37×34	39×36
	底面標高（m）	−	−	−	−	−	−	−	−
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	1−5	4−8	5−6	6−7	7−8
		2.64	1.62	3.49	3.72	3.46	2.19	2.21	3.60

第24表　掘立建物08計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間(8.36m)				1間(3.01m)			
主軸		N−3.5°　−W							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	24×23	38×24	57×52	29×20	18×18			
	底面標高（m）	22.29	22.29	22.32	22.23	22.13			
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	4−5				
		2.95	2.72	2.69	3.01				

第25表　掘立建物09計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1間(2.6m)				3間(8.11m)			
主軸		N−85.5°　−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	37×27	21×16	26×17	27×25	18×12			
	底面標高（m）	22.24	22.28	22.27	22.27	22.01			
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	1−5				
		2.65	2.66	2.80	2.60				

第26表　掘立建物10計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1間(3.01m)				3間(8.47m)			
主軸		N−76°　−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	38×29	25×23	33×23	27×23	16×13			
	底面標高（m）	22.13	22.31	22.41	22.46	22			
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	1−5				
		3.39	3.22	1.86	3.01				

第27表　掘立建物11計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間(8.1m)				1間(2.82m)			
主軸		N−42°　−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5			
	上面径（cm）	38×28	49×43	48×38	24×24	15×12			
	底面標高（m）	22.26	22.21	22.24	22.24	22.00			
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	1−5				
		2.72	2.67	2.71	2.82				

第28表　掘立建物12計測表

規模		梁行き				桁行き			
		4間(8.04m)				2間(4.8m)			
主軸		N−42°−E							
柱穴(cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径（cm）	55×45	67×55	54×47	40×31	59×51	38×35	58×57	57×37
	底面標高（m）	−	22.31	−	22.11	22.19	22.01	22.18	
	番号	9	10	11	12	13	14		
	上面径（cm）	82×33	72×54	55×38	52×39	33×31	30×27		
	底面標高（m）	22.09	−	−	−	−	−		
柱間距離（m）		1−2	2−3	3−4	1−5	5−7	4−6	6−11	7−8
		1.92	1.68	4.44	2.32	2.48	2.45	2.28	1.54
柱間距離（m）		8−9	9−10	10−11	11−12				
		2.25	1.66	2.14	1.86				

第29表　土器棺墓01計測表

遺構名	平面形	主軸	縦(cm)	横(cm)	深さ(cm)
土器棺墓01	たまご型	N−24°−W	92.0	61.5	9.0

第30表　段状遺構計測表

遺構名	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)
段状遺構01	N−29°−W	10.6	0.48	−
段状遺構02	N−55°−W	3.95	1.37	31.0
段状遺構03	N−29°−W	4.68	46.0	100.0
段状遺構04	N−56°−W	4.10	63.0	35.0

第31表　大型遺構計測表

遺構名	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)
大溝	N−43.5°−E	17.9	23.0	1.06
水場	N−45.5°−E	28.3	0.6	1.48

遺構名	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	周長さ(m)	面積(㎡)	体積(㎥)
粘土採取場	67.3	39.0	平均1.08	215.8	2910.6	3143.5

第32表　不明遺構01計測表

遺構名	主軸	土器わく直径(cm)	縦(m)	横(m)	深さ(m)
不明遺構01	N−31.5°−W	70.0	1.55	1.12	56.5

第33表　1・2号道計測表

1号道

形態	等高線に沿う円弧型		
主軸	N−50.5°−W	標高(m)	24.8
全長(m)	13.6	全幅(m)	−
路面幅(m)	−	路面角度(度)	−
左側溝幅(cm)	82.0	右側溝幅(cm)	−
左溝底幅(cm)	30.0	右溝底幅(cm)	−
左溝深(cm)	約9	右溝深(cm)	−

計測値は凡その平均値である

2号道

形態	等高線に沿うＬ字型		
主軸	N−56°−W	標高(m)	24.5
全長(m)	35.62	全幅(m)	1.68
路面幅(m)	70.0	路面角度(度)	8°
左側溝幅(cm)	49.0	右側溝幅(cm)	50.0
左溝底幅(cm)	24.0	右溝底幅(cm)	16.0
左溝深(cm)	約4	右溝深(cm)	−

計測値は凡その平均値である

第34表　遺物観察表(1)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第53図	1	AI区	竪穴住居08	壁帯溝	弥生土器	複合口縁甕	口縁端部肥厚する。	10.2		3.9～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	2	AI区	竪穴住居08	床面	弥生土器	複合口縁甕	端部肥厚し先細る。	16.3		4.5～		粗・2mm程の丸砂とウンモを含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	3	AI区	竪穴住居08	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.7		5.0～		やや粗・1mm以上の丸砂を多く含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	V－2～3	
第53図	4	AI区	竪穴住居08	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁部強いナデ。	15.0		5.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	V－3～4	
第53図	5	AI区	竪穴住居08	覆土	弥生土器	高坏	穿孔 脚端部:面を持つ。			1.8～	13.0	なめらか・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	不明	不明	不明	畿内系
第53図	6	AI区	竪穴住居09	壁帯溝	弥生土器	複合口縁甕	口縁端部丸く収める。 クシ描き直線文・風化。	14.3		3.8～		やや粗	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・クシ描直線文	V－3～4	
第53図	7	AI区	竪穴住居09	ベルト	弥生土器	複合口縁甕	端部先細る。	11.8		2.9～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第53図	8	AI区	竪穴住居09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	13.0		4.1～		やや粗・3mm程の砂粒を多く含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	V－2	
第53図	9	AI区	竪穴住居09	覆土	弥生土器	鼓形器台	端部丸く収める。	20.1		4.2～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡黄白色	良・ただし一部風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第53図	10	AI区	竪穴住居08・09	トレンチ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾する。			4.6～		粗・3mm以上の砂粒を多く含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	擬凹線文	V－2	
第53図	11	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.9		3.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	暗茶色	不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第53図	12	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.7		4.1～		やや粗・１mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－2	
第53図	13	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	端部丸く収める。	13.2		3.3～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ゆるいナデ	ヨコナデ	V－2	
第53図	14	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	14.0		4.8～		密・2mm以下の砂粒を多く含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文？	V－2	
第53図	15	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	端部肥厚し丸く収める。	14.3		2.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡灰白色	やや不良・風化している。	不明	不明	V－2～3	
第53図	16	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.3		6.2～		やや粗・5mm以下の砂粒を多く含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文？	V－2	
第53図	17	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	端部先細る。	19.6		3.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	橙茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ？	ヨコナデ？	V－2	
第53図	18	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	端部丸く収める。	14.2		3.1～		やや粗・3mm以下の砂粒を多く含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文？	V－2	
第53図	19	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	端部肥厚し丸く収める。	13.0		3.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	20	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	12.5		5.4～		やや粗・3mm以下の砂粒を多く含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	21	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。垂下	17.0		3.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	22	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。強いナデ	16.6		3.9～		やや粗・2～3mmの丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	23	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。強いナデ	13.0		4.2～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	24	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。口縁内側に強いナデ。	29.8		7.1～		やや粗・3mm程の丸砂を多く含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	25	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	16.2		4.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第53図	26	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕				3.8～	6.4	やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	V－1～3	
第53図	27	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	高坏	脚中に粘土充填。			5.6～		なめらか・1mm以下の砂粒を含む。	灰白色	やや不良・風化している。	不明	不明	弥生後期	
第53図	28	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	高坏	脚にスカシ。			2.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	不明	不明	V－3～4	畿内系
第53図	29	AI区	竪穴住居08・09	含土	弥生土器	鼓形器台	端部先細る。	22.4		4.7～		やや粗・あまり砂粒含まない。	暗茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－3～4	

第35表　遺物観察表(2)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第53図	30	AI区	竪穴住居08・09	トレンチ	弥生土器	鼓型器台	複合口縁端部丸く収める。擬凹線文ナデ消し	15.5		5.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし一部風化している。	ミガキ若しくはヨコナデ	擬凹線文・ナデ消し	V－2	
第53図	31	AI区	竪穴住居08・09	トレンチ	弥生土器	鼓型器台				3.0～		やや粗・2mm以上の丸砂を多く含む。	乳白色	良・ただし風化している。	不明	不明	V－2～3	
第53図	32	AI区	竪穴住居08・09	覆土	弥生土器	不明	口縁端部垂下。内面に炭水化物。	19.4		1.0～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第54図	33	AI区	竪穴住居03	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	19.1		3.8～		粗・3mm程の丸砂を多く含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・４条のクシ描沈線文	V－2	
第54図	34	AI区	竪穴住居03	壁帯溝	弥生土器	複合口縁甕	クシによる沈線・上方はナデ。退化始っている。			1.8～		粗・2mm程の砂粒を多く含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・クシによる沈線	V－2？	
第54図	35	AI区	竪穴住居03	12	弥生土器	鼓型器台	複合口縁端部肥厚し丸く収める。ヨコナデ後クシ描き沈線。上方は磨滅している。	18.6		3.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	不明	ヨコナデ・クシ描沈線文	V－2～3	
第54図	36	AI区	竪穴住居03	11	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。４条のクシ描沈線確認上方は不明。	17.0		3.0～		やや粗	淡橙茶色	やや不良・風化している。	不明・ヘラケズリ？	４条のクシ描沈線文	V－2～3	
第54図	37	AI区	竪穴住居03	23	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。口縁施文退化みられる。	13.4		3.9～		粗・3mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・６条のクシ描沈線文	V－3	
第54図	38	AI区	竪穴住居03	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。口縁上部ナデ。			4.1～		やや粗・なめらかの丸砂を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ナデ	擬凹線文	V－3	
第54図	39	AI区	竪穴住居03	19	弥生土器	壷又は甕	※外面２次的に被熱橙色を呈す。			2.2～		粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。(2次的に火)	指頭圧痕	不明	V－4	
第54図	40	AI区	竪穴住居03	床面	弥生土器	高坏	畿内系？・古墳前期か？脚端部面を持つ。	15.6		2.2～		密・なめらかな胎土。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ナデ・ヘラミガキ？	ナデ・ヘラミガキ？	V－3～4	脚端部:強いナデくぼむ・面を持つ。
第54図	41	AI区	竪穴住居03	床面	弥生土器	甑形土器	大型の胴部。			7.4～		やや粗	淡茶色	良好・ただし風化している。	不明	ハケメ	V－4	
第54図	42	AI区	竪穴住居03	床面	弥生土器	鼓型器台	口縁端部丸く収める。			5.5～	20.4	やや粗	淡茶色	良好・ただし風化している。	ケズリ・ナデ	ナデ・二枚貝刺突文	V－3	
第54図	43	AI区	竪穴住居03	4	石製品	管玉	碧玉製	孔:1.2	長さ:2.7	幅:1.0	長さ:2.7		濃緑色			穿孔・ミガキ	弥生後期	両側穿孔
第54図	44	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	装飾壷	小型・2枚貝押引・2条の沈線1条づつ2枚貝押引文。			2.8～		やや粗	淡黄茶色	良好・ただし風化している。	不明	二枚貝押引き・二条の沈線文１条づつ	V－3～4	
第54図	45	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁鉢	複合口縁直立し端部丸く収める。	13.3		4.9～		粗・3mm程の砂粒を多く含む。	淡橙茶色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	
第54図	46	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。7条クシ描沈線・陵接合痕有り、取れると陵無しタイプと同形になる。	19.0		4.6～		粗・2mm程の砂粒を多く含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・７条クシ描沈線文	V－2～3	
第54図	47	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。小型品	11.4		2.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	橙白色	やや不良。	ナデ	擬凹線文	V－2～3	小型品
第54図	48	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。口縁開く。	20.2		3.0～		粗・赤色土粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	不明	ヨコナデ・クシ描沈線文	V－3？	
第54図	49	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。施文後ナデ。太いクシ状工具。施文2周。	15.8		4.5～		やや粗	淡赤白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・太いクシ状工具	V－3	
第54図	50	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。細いクシ状工具陵退化、内側段を持たない。	14.0		4.2～		粗・2mm程の丸砂を多く含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・細いクシ状工具	V－3	
第54図	51	AI区	竪穴住居03		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。陵退化。	11.8		4.6～		やや粗・1mm以下の砂含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第54図	52	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部つまみ出す。陵退化。	17.4		4.3～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第54図	53	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	高坏	脚中粘土充填			4.2～		なめらか・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色 断面:黒色	やや不良・風化している。	不明	不明	弥生時代	
第54図	54	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	高坏	脚端部面を持つ。			3.3～		やや粗・1～2mm砂粒を含む。	淡橙白色 端部:黒色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	弥生後期	畿内系？

第36表　遺物観察表(3)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第54図	55	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	高坏	脚端部面を持つ。穿孔			1.6～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	ナデ	ナデ	弥生後期～末期	畿内系
第54図	56	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	高坏	脚端部面を持つ。			1.1～	8.2	なめらか・2mm以下の砂粒とキンウンモを含む。	灰茶白色	やや不良・風化している。	ナデ？	ナデ？	弥生後期	畿内系？
第54図	57	AI区	竪穴住居03	覆土	弥生土器	高坏				1.9～	12.2	やや粗・2mm程の砂粒・ウンモ等を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	不明	不明	弥生後期～末期	
第54図	58	AI区	竪穴住居03・04		弥生土器	複合口縁壷又は甕	口縁端部丸く収める。			2.5～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良	ナデ	ナデ	V－2	
第54図	59	AI区	竪穴住居03・04		弥生土器	複合口縁壷又は甕	口縁端部肥厚し丸く収める。			3.6～		粗・2mm以下の砂粒を多く含む。	淡茶白色	やや不良	ヨコナデ	擬凹線文	V－3	
第54図	60	AI区	竪穴住居03・04		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。	15.2		4.5～		やや粗・2mm以下の丸砂を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ナデ・擬凹線文	V－2～3	
第54図	61	AI区	竪穴住居03・04	ベルト	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部強いナデでくぼむ。	15.4		3.5～		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ	ナデ	V－2	
第54図	62	AI区	竪穴住居03・04		弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。	19.4		5.3～		やや粗・2mm程砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	擬凹線文？	V－3	
第54図	63	ÂI区	竪穴住居04	DD01-No.	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し口縁端部内側に面を持つ。	17.8		15.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文	V－4	
第54図	64	AI区	竪穴住居04	B4・B5覆土・DD01－3・4・6・7・8・9	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。二次的に被熱。			9.9～	4.2	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡赤白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ナデ・ハケメ	V－4	70と同一
第55図	65	AI区	竪穴住居04	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.4		2.3～		粗・2mm程の丸砂を含む	淡赤白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ？	ヨコナデ？	V－2	
第55図	66	AI区	竪穴住居04	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.0		2.9～		粗・3mm程の砂粒とウンモを含む。	淡橙黄色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ？	V－2	
第55図	67	AI区	竪穴住居04	壁帯溝	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.4		4.3～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第55図	68	AI区	竪穴住居04	13	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。口縁外側強いナデ。			3.6～		密・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第55図	69	AI区	竪穴住居04	覆土	弥生土器	複合口縁甕	端部つまみ出し。	21.6		5.5～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第55図	70	AI区	竪穴住居04	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.2		5.2～		やや粗・稀に2mm程の砂粒を含む。	淡黄色→淡赤白色	やや不良	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	64と同一
第55図	71	AI区	竪穴住居04	14	弥生土器	複合口縁壷又は甕	肩部櫛描き文。			4.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ハケメ・クシ描直線文	V－4	
第55図	72	AI区	竪穴住居04	B3	弥生土器	壷又は甕	二枚貝押引文・右(R)傾斜。			3.1～		粗・2mm以下の丸砂を含む。	暗茶色	やや不良	不明	不明	V－2～3	
第55図	73	AI区	竪穴住居04	覆土	弥生土器	高坏	脚端部面を持つ。穿孔			2.0～	15.8	なめらか・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ	ナデ	V－4	畿内系
第55図	74	AI区	竪穴住居07	8	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	12.3		10.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	回転ナデ・クシ描直線文・波状文	V－4	
第55図	75	AI区	竪穴住居07（土器C・D）	（土器C・D）壁帯溝	弥生土器	壷又は甕				8.7～	1.6	粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	V－4	
第55図	76	AI区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。	11.8		3.5～		粗・3mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－2	
第55図	77	AI区	竪穴住居07		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。口縁部：クシ描擬凹線文後、ナデ消す。	13.0		3.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	普通	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描擬凹線文・ナデ消し	V－3	
第55図	78	AI区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	11.2		4.2～		やや粗・2～3mmの砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描凹線文(貝含む)	V－3	
第55図	79	AI区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.8		5.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描凹線文(貝)	V－3	
第55図	80	AI区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	16.6		4.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2～3	
第55図	81	AI区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。クシ描き沈線・風化の為、施文不明瞭。	22.2		3.6～		粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描沈線文	V－2～3	

第37表　遺物観察表(4)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第55図	82	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.7		5.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	ややゆがみ有り。
第55図	83	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。小片	14.4		4.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第55図	84	AⅠ区	竪穴住居07	14	土師器	複合口縁壷又は甕				2.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ		
第55図	85	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部面を持つ。	17.3		4.6～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色 外面:淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第55図	86	AⅠ区	竪穴住居07	9	土師器	複合口縁甕				3.5～		やや粗・ウンモを多く含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳時代初頭	
第55図	87	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	土師器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部水平に面を持つ。 ※直立外傾	19.8		5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳時代初頭	
第55図	88	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	高坏	圧痕			6.4～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・圧痕	不明	Ⅴ－4	
第55図	89	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	弥生土器	高坏	脚端部に面を持つ。			1.5～		なめらか・2mm以下の砂粒を含む。	淡灰白色	不良・風化している。	ナデ？	ヨコナデ？	Ⅴ－4	
第55図	90	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	粘土塊	焼粘土塊	不整形・壁材・窯材か？くぼみ		器高幅:1.8	直径:3.8	幅:2.0 くぼみ径:1.0	やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	不良・風化している。				
第55図	91	AⅠ区	竪穴住居07	中央土坑	粘土塊	焼粘土塊	不整形・壁材・窯材か？	直径:6.5		5.0	幅:6.0	粗・あまり砂粒を含まない・2mm程の小石含む。	淡橙色	不良			Ⅴ－4	
第55図	92	AⅠ区	竪穴住居07	覆土	粘土塊	焼粘土塊	不整形・壁材・窯材か？	直径:4.0		1.4	幅:3.5	粗・あまり砂粒を含まない。	淡橙色 内面:黒色	不良・風化している。				
第56図	93	AⅠ区	土器棺墓01		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し縁端部内側に面を持つ。	27.0		44.1	7.2	やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ(細)・波状文・櫛描直線文	Ⅴ－4	外面にスス・内面に炭化物・土器棺墓01の94とセット。
第56図	94	AⅠ区	土器棺墓01		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し外反する。端部丸く収める。	23.2		32.0	3.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ・タテハケメ・ミガキ？	Ⅴ－4	肩部外面にミガキ？・施文なし・ゆがみ有り。土器棺墓01の93とセット。
第57図	95	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁壷	複合口縁端部丸く収める。	9.8		2.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－2	
第57図	96	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。	13.6		5.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙黄色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－2	
第57図	97	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。			3.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－2～3	
第57図	98	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。			2.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－2	
第57図	99	AⅡ区	竪穴住居01		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.4		3.8～		やや粗・1mm程の丸砂と赤色土粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	おそらくヘラケズリ	擬凹線文	Ⅴ－2	
第57図	100	AⅡ区	竪穴住居01		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。円形蒸発痕跡	13.9		4.2～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶白色 外面:淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－2～3	摩滅
第57図	101	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。	14.0		3.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－3	
第57図	102	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	13.8		4.7～		粗・2mm以下の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－2～3	
第57図	103	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	壷又は甕	荒れている(不整形)			3.3～	6.6	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡灰白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2～3	
第57図	104	AⅡ区	竪穴住居01		弥生土器	壷又は甕	円形蒸発痕跡	長さ:3.0	幅2.3	幅:2.3	厚さ:0.65	やや粗	外面:淡赤白色 内面:乳白色	やや不良・風化している。	－	－		
第57図	105	AⅡ区	竪穴住居01		弥生土器	鼓型器台	口縁端部肥厚し面を持つ。	19.4		2.9～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	擬凹線文	Ⅴ－3	
第57図	106	AⅡ区	竪穴住居01		弥生土器	鼓型器台	口縁端部丸く収める。	21.6		2.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡橙白色	良・ただし風化している。	不明	ヨコナデ？	Ⅴ－4	
第57図	107	AⅡ区	竪穴住居10		弥生土器	鼓型器台				3.2～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－2～3	

第38表　遺物観察表(5)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第57図	108	AII区	竪穴住居10	土器溜り	弥生土器	甕形土器	109・110とセット。口縁端部丸く収める。ハケメ下端まで入る。頸部くびれがなだらか。	13.6	49.4	82.0	39.6	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	V－4	中央土坑・高坏110・壷109とセット。住居床面にて倒壊。
第57図	109	AII区	竪穴住居10	中央土坑	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部つまみ出し面を持つ・底部残る。	18.5	26.5	34.0	4.5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・羽状文・ヘラ描沈線文	V－4	内面にスス・内面炭化物。
第57図	110	AII区	竪穴住居10	土器溜り	弥生土器	高坏	口縁端部丸く収める。内側に蒸発痕残る。	25.7		6.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。(２次的に火)	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第58図	111	AII区	竪穴住居11	中央土坑	弥生土器	甕形土器	口縁端部に面を持つ。頸部くびれはややなだらか。	13.7	52.0	70.7	42.5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリと思われる	ハケメ・ヨコナデ	V－4	中央土坑・甕・高坏とセット。住居床面にて倒壊。
第58図	112	AII区	竪穴住居11	中央土坑	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部面を持つ。 陵は垂下気味	20.8		16.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ・クシ描直線文・波状文	V－4	外面にスス。内面に炭化物。高坏113とセット高坏115甕114より先行して使用された。
第58図	113	AII区	竪穴住居11	中央土坑	弥生土器	高坏	口縁端部丸く収める。 内面：中央は荒れている（２次的） 暗茶色帯（２次的）	23.4		7.0～		やや粗・1mm程の長石・石英等を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ・ミガキ？	ヨコナデ・タテハケメ	V－4	※内面で液体が蒸発している。外面は火を受けていない。
第58図	114	AII区	竪穴住居11	中央土坑	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部厚く内側に面を持つ。端部折り返さない。陵上向きかげんに水平突.胴中ほどで張る。	25.8		28.9～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコハケ・タテハケ・ヨコナデ・直線文・波状文	V－4	外面にスス付着。面を持つ。
第58図	115	AII区	竪穴住居11	中央土坑	弥生土器	高坏	口縁端部丸く収める。 暗茶色帯（２次的） 被熱赤変（２次的）	24.8		16.0～		やや粗・1mm程の白色砂粒を含む。	？	良好・ただし風化している。	坏：ナデ・ヘラミガキ？ 脚：ヘラケズリ	坏：ヨコナデ 脚：ハケメ	V－4	内面で液体が蒸発？３カ所の赤変は火を使用した痕か？外面は火を受けていない。
第58図	116	AII区	竪穴住居11	床面	鉄器	ヤリガンナ	つるまき	長さ：7.7	全長：5.1 刃長：2.4	全幅：1.5 刃幅：1.9	全体厚さ：0.8 厚さ：0.5						V－4	木質残る。 蔓残る。
第59図	117	AII区	竪穴住居11	北	弥生土器	複合口縁甕				3.4～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・凹線文	V－1	
第59図	118	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。	15.0		3.1～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－1	
第59図	119	AII区	竪穴住居11	北西	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.6		2.1～		やや粗・1mm程の砂粒を多く含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・凹線文	V－1	
第59図	120	AII区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	19.4		4.4～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	外面：黒色 断面：淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－1	
第59図	121	AII区	竪穴住居11	東南包含層１	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	21.4		2.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・凹線・刺突文	V－1	
第59図	122	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	13.0		3.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶黄色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	123	AII区	竪穴住居11	南東	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	12.4		3.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	124	AII区	竪穴住居11	南東	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	13.4		3.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	125	AII区	竪穴住居11	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。	19.2		4.5～		粗・2mm程の砂粒を含む。	外面：暗茶色 内面：淡茶黄色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	126	AII区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。	12.0		3.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－2	
第59図	127	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕又は壷	複合口縁端部丸く収める。	12.1		3.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	128	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	11.7		3.8～		やや粗・1mm程の丸砂を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第59図	129	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。	15.6		5.0～		やや粗・5mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	V－2	
第59図	130	AII区	竪穴住居11	西北包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	12.0		2.9～		やや粗・1mm程の砂粒を少量含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－2	
第59図	131	AII区	竪穴住居11	西北包含層1	弥生土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁端部丸く収める。	15.4		2.7～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	

第39表　遺物観察表(6)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第59図	132	AⅡ区	竪穴住居11	北西包含層1	弥生土器	複合口縁甕又は壷	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	18.0		2.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	133	AⅡ区	竪穴住居11	南東	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	13.3		5.0～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第59図	134	AⅡ区	竪穴住居11	北西	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	16.2		4.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	135	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	18.9		3.5～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－２	
第59図	136	AⅡ区	竪穴住居11	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	15.2		4.4～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ？	ヨコナデ？	Ⅴ－２	
第59図	137	AⅡ区	竪穴住居11	6	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	21.9		4.5～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	138	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁	複合口縁端部丸く収める。	16.3		3.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	139	AⅡ区	竪穴住居11	南東	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	14.9		4.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－２	
第59図	140	AⅡ区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	18.3		3.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	141	AⅡ区	竪穴住居11	8	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	22.8		5.2～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第59図	142	AⅡ区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.3		5.5～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第59図	143	AⅡ区	竪穴住居11	南	弥生土器	複合口縁甕	複合口外傾し端部丸く収める。	12.1		4.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－２	
第59図	144	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	13.5		3.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第59図	145	AⅡ区	竪穴住居11	西北包含層1	弥生土器	複合口縁甕又は壷	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	14.1		3.4～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第60図	146	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕又は壷	複合口縁端部丸く収める。	15.5		4.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	147	AⅡ区	竪穴住居11	48北面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	18.3		5.6～		粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線・波状文	Ⅴ－２	
第60図	148	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	12.0		4.0～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	149	AⅡ区	竪穴住居11	北西	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	14.5		3.8～		やや粗・2mm程の砂粒を多く含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・ナデ	Ⅴ－３	
第60図	150	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	14.4		3.8～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線・押引直線文	Ⅴ－２	
第60図	151	AⅡ区	竪穴住居11	74	弥生土器	複合口縁	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。	16.4		5.1～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	152	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	17.8		4.8～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	153	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。擬凹線２周	19.8		4.7～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	154	AⅡ区	竪穴住居11	1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	25.0		6.8～		やや粗・5mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	155	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕				5.5～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	156	AⅡ区	竪穴住居11	53	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.0		6.0～		粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２～３	
第60図	157	AⅡ区	竪穴住居11	83・南東	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。	18.4		6.0～		粗・2mm程の丸砂を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	158	AⅡ区	竪穴住居11	16	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	13.0		5.1～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡黄色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２～３	
第60図	159	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁壷				4.2～		やや粗・3mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ擬凹線文	Ⅴ－３	
第60図	160	AⅡ区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部肥厚し丸く収める。	13.0		3.8～		やや粗・2mm程の砂粒とウンモ含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	

第40表　遺物観察表(7)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第60図	161	AII区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕		15.2		4.1～		やや粗・2mm以下の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	擬凹線文	V－3	擬凹線磨滅
第60図	162	AII区	竪穴住居11	88	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	17.5		3.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	暗紫茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第60図	163	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.0		3.7～		やや粗・3mm程の丸砂を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第60図	164	AII区	竪穴住居11	84	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	14.9		4.2～		粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第60図	165	AII区	竪穴住居11	西南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	16.3		3.5～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	
第60図	166	AII区	竪穴住居11	北	弥生土器	複合口縁壺	複合口縁外傾し端部丸く収める。	18.6		5.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－3	ゆがみ有り。
第60図	167	AII区	竪穴住居11	2	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	25.9		7.0～		やや粗・5mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－4	
第61図	168	AII区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	16.0		4.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	
第61図	169	AII区	竪穴住居11	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	16.3		4.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗橙色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	170	AII区	竪穴住居11	覆土33	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	16.8		6.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	171	AII区	竪穴住居11	東南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	13.9		3.5～		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	172	AII区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	14.6		3.8～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	赤橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	173	AII区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	13.2		6.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	174	AII区	竪穴住居11	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	12.7		3.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗橙色	不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	175	AII区	竪穴住居11	29	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部先細る。	12.8		3.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	176	AII区	竪穴住居11	21	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部軽くつまみ出し、陵部するどく水平に突。	17.0		5.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	177	AII区	竪穴住居11	北	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部軽くつまみ出す。	13.1		4.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	
第61図	178	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	15.5		4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	179	AII区	竪穴住居11	34	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁ゆるく外反し端部丸く収める。	13.8		4.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明	V－4	
第61図	180	AII区	竪穴住居11	東南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	17.1		3.3～		やや粗・1mm以下の砂粒とウンモ含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	181	AII区	竪穴住居11	23	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部つまみ出しゆるく外反。陵部やや下向きに突。	13.5		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙黄色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコハケメ	V－4	
第61図	182	AII区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.6		4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	
第61図	183	AII区	竪穴住居11	18	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部強く折り返し、つまみ出す。	15.5		4.6～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	184	AII区	竪穴住居11	14、東南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出す水平に突出。	17.2		6.0～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4	
第61図	185	AII区	竪穴住居11	柱穴29	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部弱くつまみ出す。	15.5		3.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡赤白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	186	AII区	竪穴住居11	4	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部つまみ出す。	18.4		5.0～		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	187	AII区	竪穴住居11	79	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部内側に面を持つ。	23.6		4.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	188	AII区	竪穴住居11	西北包含層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	19.0		4.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	
第61図	189	AII区	竪穴住居11	37	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部つまみ出し弱い。	21.4		5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－4	

第41表　遺物観察表(8)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、№.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第61図	190	AⅡ区	竪穴住居11	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部内側に面を持つ。	20.5		4.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第61図	191	AⅡ区	竪穴住居11	東南包含層1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	20.8		5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第62図	192	AⅡ区	竪穴住居11	床面	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部ナデによりくぼむ。	17.0		4.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡赤灰色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第62図	193	AⅡ区	竪穴住居11	北西包含層1	弥生土器	甕又は壷				2.8～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－2～3	
第62図	194	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	甕又は壷				3.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	黒色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－4	
第62図	195	AⅡ区	竪穴住居11	床面	弥生土器	壷又は甕	平底の底部			2.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。被熱	ヘラケズリ	ナデ	Ⅴ－2～3	
第62図	196	AⅡ区	竪穴住居11	東南包含層1	弥生土器	壷又は甕				1.7～	3.4	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－2～3	
第62図	197	AⅡ区	竪穴住居11	南東	弥生土器	壷又は甕	底部成形時の指押さえ残る。			1.6～	4.2	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－4	
第62図	198	AⅡ区	竪穴住居11	北西	弥生土器	鉢				6.0～	8.4	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－2～4	
第62図	199	AⅡ区	竪穴住居11	9	弥生土器	鼓型器台				6.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2	
第62図	200	AⅡ区	竪穴住居11	東南包含層1	弥生土器	鼓型器台	刺突文			2.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	不明	刺突文	Ⅴ－3～4	
第62図	201	AⅡ区	竪穴住居11	床面	弥生土器	低脚坏	口縁端部丸く収める。	12.0		2.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	－	－	Ⅴ－4	
第62図	202	AⅡ区	竪穴住居11	7	弥生土器	高坏				16.9～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	明橙白色	やや不良・風化している。	脚：竹管押え	－	Ⅴ－2～3	
第62図	203	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	複合口縁甕	口縁内側に段を持たない。			3.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2	
第62図	204	AⅡ区	竪穴住居11		弥生土器	鼓型器台	口縁内側に段を持たない。			4.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－4	
第62図	205	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾する。	(15.2)		3.7～		粗・3mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－1	(風化)欠損
第62図	206	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。			3.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡赤白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－2～3	
第62図	207	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。二枚貝による平行線文。	21.0		6.0～		粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	普通・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・貝平行線文	Ⅴ－2～3	
第62図	208	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。二枚貝による平行線文・複合部陵貼張付け・内側に明瞭な段表わさない。	13.8		3.5～		粗・3mm程の赤色土粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・貝平行線文	Ⅴ－3	
第62図	209	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部丸く収める。	24.4		4.8～		粗・2mm程の角レキを含む。	淡茶白色	普通・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－3	
第62図	210	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	壷又は甕				1.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	暗赤茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－2～3	
第62図	211	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	甑形土器	天地逆の可能性有。	15.3		18.5～		やや粗・赤色土粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ハケメ・ナデ	Ⅴ－2～3	
第62図	212	AⅡ区	竪穴住居05		弥生土器	甑形土器	端部丸く収める。			4.6～		密・あまり砂粒を含まない。	暗橙色 内面：淡黄白色	良・ただし風化している。	不明	不明	Ⅴ－4	
第62図	213	AⅠ区	竪穴住居12	壁帯溝・ベルト・覆土	弥生土器	直口壷	端部丸く収める。	7.8		13.2～		やや粗・3mm以下の丸砂を含む。	淡橙白色	不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－2	
第62図	214	AⅠ区	竪穴住居12	覆土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁端部上方につまみ出す。	18.1		2.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2	
第62図	215	AⅠ区	竪穴住居12	覆土	弥生土器	壷又は甕				4.2～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－1～2	
第62図	216	AⅠ区	竪穴住居12	覆土	粘土塊	焼粘土塊		長さ：4	幅：1.5	高さ：3.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	やや不良・風化している。	－	－	不明	不整形

第42表　遺物観察表(9)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第62図	217	AⅡ区	竪穴住居05	覆土	土器	不明	脚端部丸く収める。			3.7～	10.0	やや粗	暗茶色	良好・ただし風化している。	ミガキ	ヨコナデ		内側にスス。
第63図	218	AⅡ区	竪穴住居02	柱穴1	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	14.2		7.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳中期	
第63図	219	AⅡ区	竪穴住居02	柱穴1	土師器	単純口縁甕	単純口縁端部丸く収める。	14.6		3.4～		やや粗・1mm程の砂粒を多く含む。	淡橙白色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	220	AⅡ区	竪穴住居02	西南壁・炭化物面	土師器	単純口縁壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	14.0		3.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	221	AⅡ区	竪穴住居02	19	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部先細る。	14.0		6.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:明橙色 内面:淡茶黄色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳中期	
第63図	222	AⅡ区	竪穴住居02	柱穴1	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	15.6		7.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄茶色	良好	ヘラケズリ	タテハケ・ヨコナデ	古墳中期	
第63図	223	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	15.6		7.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第63図	224	AⅡ区	竪穴住居02	壁帯溝	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	15.6		4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	225	AⅡ区	竪穴住居02	21	土師器	単純口縁甕	単純口縁やや外反する。			5.4～		粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ハケメ	ハケメ・ナデ	古墳中期	
第63図	226	AⅡ区	竪穴住居02	14	土師器	甑	口縁外反し端部丸く収める。	20.2		6.6～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	227	AⅡ区	竪穴住居02	甕1	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	14.8		20.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ナデ・ハケメ	古墳中期	
第63図	228	AⅡ区	竪穴住居02	ＳＫ05	土師器	小型壷			15.0	7.7～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第63図	229	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	口縁端部丸く収める。	12.2		3.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳前期～中期	
第63図	230	AⅡ区	竪穴住居02	柱穴3	土師器	高坏				1.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡赤橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第63図	231	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	口縁端部丸く収める。	15.2		3.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ？	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	232	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	9.9		4.5～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	暗赤橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	233	AⅡ区	竪穴住居02	ＳＴ1	土師器	単純口縁壷又は甕	単純口縁外反し端部先細る。	7.4		4.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	234	AⅡ区	竪穴住居02	5	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	10.6		5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳前期～中期	
第63図	235	AⅡ区	竪穴住居02	西包含層	土師器	小型壷		9.2		7.5～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第63図	236	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	小型壷(単純口縁)	単純口縁直立し端部丸く収める。	5.6		5.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ナデ	ナデ	古墳中期	
第63図	237	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	端部丸く収める。			2.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ナデ	ナデ	古墳中期	
第63図	238	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	端部先細る。口縁:中ぶくらみ。			2.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳前期	
第63図	239	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	口縁端部丸く収める。			3.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ナデ	ナデ	古墳中期	
第63図	240	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	単純口縁壷又は甕	口縁端部丸く収める。			3.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:暗茶色 内面:淡橙色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳前期～中期	スス付着。
第63図	241	AⅡ区	竪穴住居02	西南壁炭化物面	土師器	ミニチュア土器	口縁端部つまみ出す。			3.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	手捏ね	手捏ね	古墳中期	
第63図	242	AⅡ区	竪穴住居02	7　①	土師器	高坏	口縁端部丸く収める。	16.0		4.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第63図	243	AⅡ区	竪穴住居02	10	土師器	高坏	口縁端部丸く収める。	19.4		4.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第64図	244	AⅡ区	竪穴住居02	壁帯溝02	土師器	高坏	口縁端部先細る。	17.9		4.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第64図	245	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	高坏				1.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期	松山編年高坏B

第43表　遺物観察表(10)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、№.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第64図	246	AⅡ区	竪穴住居02	4	土師器	高坏	口縁端部先細る。	22.6		4.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期	
第64図	247	AⅡ区	竪穴住居02	2	土師器	高坏				3.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期	
第64図	248	AⅡ区	竪穴住居02	3	土師器	高坏				4.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ナデ	ハケメ・ナデ	古墳中期	松山編年高坏B
第64図	249	AⅡ区	竪穴住居02	8	土師器	高坏				5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ナデ	ハケメ	古墳中期	
第64図	250	AⅡ区	竪穴住居02	中央土坑	土師器	高坏	口縁端部つまみ出す。	17.7		4.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡赤橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第64図	251	AⅡ区	竪穴住居02	13	土師器	高坏				6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期～後期	
第64図	252	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	坏	端部先細る。	14.7		3.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第64図	253	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	高坏				3.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	松山編年高坏B
第64図	254	AⅡ区	竪穴住居02	1	土師器	高坏				2.8～	9.5	やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	ハケメ	古墳中期	松山編年高坏B・松山氏　接続法β
第64図	255	AⅡ区	竪穴住居02	25	土師器	高坏				5.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳前期～中期	
第64図	256	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	高坏				4.4～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第64図	257	AⅡ区	竪穴住居02	土器A	土師器	高坏	脚端部丸く収める。			8.3～	12.2	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第64図	258	AⅡ区	竪穴住居02	西包含層	土師器	高坏				2.5～	13.6	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳	被熱
第64図	259	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	甑					5.0～	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	—	手捏ね	古墳中期～後期	被熱
第64図	260	AⅡ区	竪穴住居02		土師器	移動式カマド				5.4～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙黄色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第64図	261	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	カマド？				5.1～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第64図	262	AⅡ区	竪穴住居02	P10	須恵器	蓋	口縁端部内側に面を持ちくぼむ。			2.6～	13.2	密	青灰色 断面:セピア色	良好	回転ナデ	回転ナデ	TK47平行	6世紀初頭
第64図	263	AⅡ区	竪穴住居02	床面	須恵器	壷又は甕	口縁端部外側に面を持つ。	17.2		4.5～		密	暗灰色	良	回転ナデ	タタキ・ナデ	古墳後期	
第64図	264	AⅡ区	竪穴住居02	床面	弥生土器	壷又は甕	平底			1.5～	3.4	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	不明	不明	弥生末期～古墳初頭	竪穴住居11の遺物
第64図	265	AⅡ区	竪穴住居02	床面	土師器	壷又は甕	平底			1.8～	2.6	やや粗・あまり砂粒を含まない。	乳白色	良好・ただし風化している。	不明	不明		竪穴住居11の遺物
第64図	266	AⅡ区	竪穴住居02	覆土	弥生土器	高坏B	口縁端部丸く収める。	17.7		1.9～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	乳灰白色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－４	
第64図	267	AⅡ区	竪穴住居02	西南壁 炭化物面	土師器	高坏				1.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期	松山氏　接続法β
第64図	268	AⅡ区	竪穴住居02	西南壁 炭化物面	土師器	高坏				2.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	—	—	古墳中期	松山氏　接続法β
第64図	269	AⅡ区	竪穴住居02	中央土坑	土師器	高坏				1.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡赤橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第64図	270	AⅡ区	竪穴住居02	覆土	土師器	高坏				5.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ナデ	古墳中期	
第64図	271	AⅡ区	竪穴住居02	西南壁 炭化物面	土師器	高坏				6.8～		やや粗・1mm程砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ケズリ	不明	古墳中期	
第64図	272	AⅡ区	竪穴住居02 －１１	ベルト	弥生土器	高坏				8.0～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	—	—	不明	
第64図	273	AⅡ区	竪穴住居02	トレンチ西側	弥生土器	高坏	底部:竹管連続刺突			11.4～		なめらか・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	—	—	Ⅴ－４	
第64図	274	AⅡ区	竪穴住居02	トレンチ西側	弥生土器	高坏	底部:径1竹管で連続刺突			10.2～		なめらか・3mm以下の砂粒を少し含む。	淡黄白色	不良・風化している。	—	—	Ⅴ－４	

第44表　遺物観察表(11)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第64図	275	AⅡ区	竪穴住居02	床面	弥生土器	鼓型器台	二枚貝列点文			3.8～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・２枚貝列点文	Ⅴ－３～４	
第64図	276	AⅡ区	竪穴住居02		弥生土器	甑形土器				10.0～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ハケメ	Ⅴ－２～３	
第64図	277	AⅡ区	竪穴住居02	西包含層	弥生土器	甑形土器				9.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良好	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－４	
第65図	278	AⅠ区	竪穴住居13	土坑－2	土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部面を持つ。	18.4		4.8～		粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ？・ヘラケズリ？	ヨコナデ？	古墳中期	
第65図	279	AⅠ区	竪穴住居13	土坑－2	土師器	高坏	口縁端部丸く収める。	17.8		5.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第65図	280	AⅠ区	竪穴住居13	11	土師器	高坏	接合痕			4.7～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第65図	281	AⅠ区	竪穴住居13	8・10	土師器	高坏	口縁・脚端部丸く収める。充填部指おさえ。	14.0		11.2	9.1	やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	不明	ナデ	古墳中期	
第65図	282	AⅠ区	竪穴住居13	4	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部丸く収める。頸部接合痕	15.0		8.7～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ？	ナデ？	古墳中期	
第65図	283	AⅠ区	竪穴住居13	1	土師器	単純口縁壷又は甕	単純口縁直立し端部先細る。	17.8		10.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第65図	284	AⅠ区	竪穴住居13		土師器	単純口縁壷	単純口縁端部先細る。小型品	8.2		4.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ナデ	ナデ	古墳中期	
第65図	285	AⅠ区	竪穴住居13	14	土師器	鉢	高台が付く。	11.9		6.1	3.8	やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期	
第65図	286	CⅥ区	段状遺構02	覆土	土師器	単純口縁甕	単純口縁ゆるく外反し端部丸く収める。ナデ肩	17.2		9.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	不明	ハケメ	古墳中期～後期	外面にスス・内面に炭化物。
第65図	287	CⅥ区	段状遺構02	覆土	土師器	広口甕	口縁端部肥厚する。	15.8		12.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	ヨコナデ・荒いハケメ	古墳中期～後期	外面にスス・外面に赤彩。
第65図	288	CⅥ区	段状遺構02	覆土	土師器	坏	口縁端部肥厚し丸く収める。平底の腰の深い坏。	15.9	16.3	7.5	4.2	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	外面にスス・内面に炭化物。
第66図	289	AⅡ区	土器溜り03		土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部先細る。	13.9		15.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ハケメ（荒い）	古墳中期	外面にスス。
第66図	290	AⅡ区	土器溜り04		土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部先細る。	14.4		8.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第66図	291	AⅡ区	土器溜り03・03´		土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部先細る。	16.2		5.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第66図	292	AⅡ区	土器溜り03		土師器	小型壷				3.1～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗茶色	良	－	手捏ね	古墳時代	
第66図	293	AⅡ区	土器溜り03´	6	土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部先細る。中ぶくらみの口縁。	17.8		4.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第66図	294	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	18.2		6.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第66図	295	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	16.0		4.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第66図	296	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	壷又は甕	胴が張る直口の壷。		13.8	11.4		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	－	古墳中期	
第66図	297	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	9.6		4.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第66図	298	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	直口壷	単純口縁外反し端部丸く収める。	9.2		5.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	－	－	古墳中期	
第66図	299	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	小型壷	単純口縁外反し口縁端部面を持つ。肩が張る。	4.6	7.1	6.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	指押さえ	ナデ	古墳中期	
第66図	300	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	埦	口縁端部丸く収める。	10.2	10.4	5.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶橙色	不良・風化している。	ヘラミガキ	不明	古墳中期	
第66図	301	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	高坏	脚に３ヵ所穿孔。			8.6～	14.2	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明	古墳中期	
第66図	302	AⅡ区	土器溜り03´		土師器	高坏	脚端部丸く収める。			9.0～	6.1	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	
第66図	303	AⅡ区	土器溜り03´	No.3	土師器	単純口縁甕	単純口縁外反し口縁上方を折返す。	19.3		6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳中期	

第45表　遺物観察表(12)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第66図	304	AⅡ区	土器溜り03´	No.2	土師器	高坏	脚端部先細る。 大きく屈曲し広がる裾部。			7.0～	14.4	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳前期～中期	
第66図	305	AⅡ区	土器溜り03´	No.1	土師器	高坏	脚端部先細る。 坏部段を有す。			7.25～	8.8	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	脚:ヘラミガキ	古墳前期～中期	
第66図	306	AⅢ区		2層・トレンチ72層	土師器	高坏	脚端部面を持つ。 脚裾部付近に浅い沈線が廻る。			2.8～	19・5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:黒灰色	やや不良・風化している。	不明	不明・沈線	弥生末期～古墳前期	
第66図	307	AⅡ区	土器溜り04		土師器	土製支脚	単頭式			14.4	17.5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良	手捏ね	―	古墳中期～後期	
第66図	308	AⅡ区	土器溜り04	北DD01	土師器	小型壷	単純口縁外反し端部先細る。	8.4	9.0	9.5		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ハケメ・ヨコナデ	古墳前期～中期	
第66図	309	AⅡ区		2層下	弥生土器	注口土器	先細る注ぎ口。			長さ:5.4	幅:2.3	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	―	不明	弥生末期	
第66図	310	AⅡ区		2層上	土師器	土製勾玉	両側穿孔			長さ:4.55	幅:1.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	―	不明	古墳時代	
第66図	311	AⅢ区	南	2層	土師器	小型壷	胴が張る	(7.7)	9.9	7.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ナデ	古墳前期～中期	
第67図	312	AⅡ区	北	2層	土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	19.9		8.2～		密・あまり砂粒を含まない・赤色土粒を含む。	淡橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ(単位不明)	ヨコナデ	古墳後期	
第67図	313	AⅡ区	北	2層	土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	15.4		5.1～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	暗橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期～後期	
第67図	314	AⅡ区	北	2層	土師器	壷又は甕	単純口縁外反し端部丸く収める。	14.2		4.7～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	暗橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期～後期	
第67図	315	AⅡ区	北	2層	土師器	小型甕	単純口縁直立し端部先細る。 指頭圧痕	7.7		4.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ・ヘラケズリ？	ヨコナデ	古墳中期～後期	
第67図	316	AⅡ区	北	2層	弥生土器	甑形土器		8.8		5.6～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－4	
第67図	317	AⅡ区	北	2層	土師器	高坏	脚端部丸く収める。脚部穿孔	14.0		6.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	良・ただし風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第67図	318	AⅡ区	北	2層	土師器	高坏	脚端部丸く収める。ゆがみ有り。			7.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗橙色	良・ただし風化している。	ケズリ？	ナデ	古墳中期～後期	
第67図	319	AⅡ区	北	2層	土師器	甑		長さ:4.2	幅:3.3	5.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	―	手捏ね	古墳中期～後期	
第67図	320	AⅡ区	北	2層	土師器	甑	小型	長さ:4.3	幅:2.5	2.6～		密・あまり砂粒を含まない。	淡橙色	良・ただし風化している。	―	手捏ね	古墳中期～後期	
第67図	321	AⅡ区	北	2層	弥生土器	鼓型器台				7.1～		やや粗・2mm程の砂粒を多く含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ？・ミガキ？	ナデ・指頭圧痕	Ⅴ－2～3	
第67図	322	AⅡ区	北	2層	弥生土器	鼓型器台	口縁端部丸く収める。	21.3		7.4～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	擬凹線文	Ⅴ－3	
第67図	323	AⅡ区	北	2層	弥生土器	鼓型器台				6.9～		やや粗・3mm以下の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	不明	擬凹線文	Ⅴ－2	
第67図	324	AⅡ区	北	2層	弥生土器	鼓型器台				6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ・ナデ	ナデ？	Ⅴ－4	
第67図	325	AⅡ区	北	2層	弥生土器	鼓型器台				3.4～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ナデ・ミガキ	羽状文	Ⅴ－4	
第67図	326	AⅡ区	SI01付近		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁にゆがみ有。	18.3		3.3～		やや粗・2mm以上の丸砂を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・擬凹線文？	Ⅴ－2	
第67図	327	AⅡ区	SI01付近		弥生土器	壷又は甕	平底			4.2～	1.8	粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	不明	Ⅴ－2～3	
第67図	328	AⅡ区	SI01付近		弥生土器	坏	口縁端部丸く収める。 混合粘土(赤・白) 全体的にゆがみ有り。	14.0		4.2		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	手捏ね・指おさえ	手捏ね	Ⅴ－4	
第67図	329	AⅡ区	SI01付近		弥生土器	高坏		16.0		1.7～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ナデ	ナデ	Ⅴ－4	
第67図	330	AⅡ区	北	2層	弥生土器	壷				4.1～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	良・ただし風化している。	不明	ヘラ描文	Ⅴ－4	
第67図	331	AⅡ区	北	2層	土器	壷又は甕	平底			1.6～	1.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗橙色	良・ただし風化している。	不明	不明		

第46表　遺物観察表(13)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第67図	332	AⅢ区	北	3層サブトレ	土師器	壷	長い頸部。			2.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	不明	不明	弥生末期～古墳初頭	小片の為、天地傾き不明。
第67図	333	AⅢ区		3層サブトレ	土師器	複合口縁壷	陵部は胴に切り込みを入れて貼り付ける。			3.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	不明	古墳前期～中期	
第67図	334	CVI区	土器溜り05		弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。なで肩。	17.3		15.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	不良・風化している。	ヘラケズリ	擬凹線文	Ⅴ－３	風化の為調整不明瞭。
第67図	335	AⅠ区		2層	土器	土錘	細長い。			長さ:4.25	幅:1.3	やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	やや不良・風化している。	不明	手捏ね	不明	
第68図	336	CVII区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁壷	施文摩滅。複合口縁外傾し端部丸く収める。綾部垂下	13.8		7.1～		やや粗・2mm以下の丸砂を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ	Ⅴ－２	
第68図	337	CVII区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁壷	短い口縁。複合口縁外傾し端部丸く収める。	14.4		4.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第68図	338	CVII区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部丸く収める。	13.0		6.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第68図	339	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	頸部に鋭く刺突が連続して入る。複合口縁外傾し端部丸く収める。	13.6		9.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:明橙色 内面:黒灰色	良好・ただし一部風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ原体擬凹線文	Ⅴ－２	口縁内側２次的に被熱。
第68図	340	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.0		8.1～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第68図	341	CVII区	水場	クロ下層一括	弥生土器	複合口縁壷	頸部に１対の粘土帯貼付け。複合口縁外傾し端部肥厚する。	14.5		8.4～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文・粘土帯貼付け	Ⅴ－２	口縁端部施文後ナデ粘土帯は施文後貼付け。
第68図	342	CVII区	水場	東クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部肥厚する。	15.3		6.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第68図	343	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	口縁施文後中央にナデ。頸部荒いタテハケメ。複合口縁外反し端部丸く収める。	16.7		7.7～		やや粗・2mm以下の砂粒とウンモを含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・荒いタテハケメ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第68図	344	CVII区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁壷	口縁中ほどまで施文。複合口縁外傾し端部肥厚する。	28.4		9.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第68図	345	CVII区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁壷	口縁の施文稚拙。複合口縁直立し端部丸く収める。	16.5		8.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ・波状文	Ⅴ－２	
第68図	346	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	長い頸部を持つ。頸部ヨコナデ後一部タテナデ。口縁施文後にナデ。複合口縁直立し端部丸く収める。	17.8		6.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・タテハケメ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第68図	347	CVII区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁壷	口縁に波状文。長い頸部に沈線文。複合口縁外反し端部肥厚する。	17.5		8.5～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文・沈線文	Ⅴ－２～３	
第68図	348	CVII区	水場	最下層・南	弥生土器	複合口縁壷	頸部２段に竹管文。口縁に押引文後中央ナデ。複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.0		7.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	外面:淡茶白色 内面:暗茶色	良・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・押引文・竹管文	Ⅴ－２	内側に赤色顔料。
第68図	349	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	厚い口縁二枚貝原体刺突文。複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.3		9.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・二枚貝刺突文	Ⅴ－３	
第68図	350	CVII区	水場	クロ最下層	弥生土器	特殊口縁壷	複合口縁内塊し端部水平に面を持つ。頸部に１対の２穴穿孔有す。高台付く。	11.6	12.8	14.0	5.9	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ刺突文	Ⅴ－１～２	外面にスス。
第68図	351	CVII区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁壷	肩部に沈線様の文様か？。複合口縁外反し端部丸く収める。	16.5		9.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第68図	352	CVII区	水場	南クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾外反し端部丸く収める。口縁の陵下方へ垂下する。口縁施文ごナデる。	17.3		8.2～		やや粗・2mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第69図	353	CVII区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	直立する短い口縁。複合口縁直立し端部丸く収める。	17.3		9.5～		やや粗・3mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第69図	354	CVII区	水場	東カベ崩	弥生土器	複合口縁壷	直立する口縁。複合口縁直立し端部丸く収める。	17.8		6.0～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２	
第69図	355	CVII区	水場	最下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部肥厚する。	14.2		7.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・波状文	Ⅴ－２	

第47表　遺物観察表(14)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第69図	356	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁壷	頸部にクシ描直線文。肩部に竹管文廻る。複合口縁外反し端部丸く収める。	16.6		10.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・クシ描直線文・竹管文	Ⅴ－３	
第69図	357	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	口縁に二枚貝押引文後ナデ。複合口縁外反し端部丸く収める。	16.0		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・押引文・刺突文(左傾)	Ⅴ－３	
第69図	358	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁長く外反し端部丸く収める。	16.2		8.3～		やや粗・1mm程の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第69図	359	CⅦ区	水場	最下層北・クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	頸部にヘラミガキ。複合口縁外反し端部水平に面を持つ。	14.4		8.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・ヘラミガキ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第69図	360	CⅦ区	水場		弥生土器	複合口縁壷	口縁内側に波状文。肩部に竹管文。擬凹線ナデ消し。複合口縁直立し端部丸く収める。	20.6		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・竹管文	Ⅴ－２	
第69図	361	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反しながら直立し端部つまみ出す。	17.2		13.1～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・クシ状工具押引文・ハケメ	Ⅴ－３	外面にスス。
第69図	362	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部丸く収める。口縁に３条の沈線文。	14.3		3.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	黒灰色	やや不良・風化している。	不明	沈線文	Ⅴ－２？	
第69図	363	CⅦ区	水場	クロ下層一括	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部肥厚する。	13.0		11.4～		やや粗	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	
第69図	364	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾外反し端部丸く収める。口縁施文は強いナデの可能性。	17.7		5.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－３～４	外面にスス。
第69図	365	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾外反し端部水平に面を持つ。	13.0		14.9～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・擬凹線文	Ⅴ－３	口縁外面に赤色顔料残る。
第70図	366	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	長頸。複合口縁外反し端部丸く収める。	14.3		12.5～		粗・2mm程の砂粒を含む。	外面：淡橙黄色 内面：灰茶色	やや不良・風化している。	タテ指ナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－３～４	
第70図	367	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。	14.0		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－２	
第70図	368	CⅦ区	水場	トレンチ3	土器	複合口縁壷又は甕	複合口縁直立し端部丸く収める。にぶい陵。	19.6		9.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		外面にスス。
第70図	369	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	23.7		5.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	指押さえ	ヨコナデ・ハケメ	Ⅴ－４	口縁端部にスス。
第70図	370	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部つまみ出す。	19.5		12.1～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－４	
第70図	371	CⅦ区	水場	最下層・クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。	15.7		16.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面：淡黄白色 内面：淡橙色	良・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	
第70図	372	CⅦ区	水場	東クロ最下層	弥生土器	複合口縁装飾壷	沈線文で区画された二枚貝連続刺突文。複合口縁外傾し端部つまみ出す。	11.1		5.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ・施文	Ⅴ－４	CD変換　Ⅳ区Ⅶ区接合した。頸部・胴部に穿孔。
第70図	373	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括・クロ	弥生土器	複合口縁壷	長頸。複合口縁外反し端部丸く収める。	14.6		13.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・ヘラ描直線文	Ⅴ－４	
第70図	374	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁直立し端部丸く収める。	16.8		6.7～		粗・2mm程の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－２	内面にスス。
第70図	375	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部強く折り返す。肩にタテハケメ。	15.6		7.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	しぼり・指おさえ・ヨコナデ	ヨコナデ・タテハケメ	Ⅴ－４	

第48表　遺物観察表(15)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第70図	376	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁壷	頸部内側未調整。複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.1		7.6～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第70図	377	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部肥厚し丸くおさめる。	17.2		8.5～		やや粗・2㎜以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテヘラミガキ	Ⅴ－２～３	
第70図	378	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。	16.7		9.3～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ハケメのちナデ・ヨコナデ・タテハケメ	Ⅴ－４	
第70図	379	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部先細る。	17.4		7.7～		やや粗・1㎜以下の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－４	
第71図	380	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部丸く収める。	16.3		6.0～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	指押さえ	ヨコナデ	Ⅴ－４	
第71図	381	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部つまみ出す。	13.6		8.9～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	外面：淡茶色 内面：暗橙色	良・ただし風化している。	—	ヨコナデ・タテハケメ・羽状文・クシ描直線文	Ⅴ－４～	
第71図	382	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁内傾し端部丸く収める。肩に有軸羽状文。	16.4		16.1～		やや粗・1㎜以下の砂粒を含む。	外面：暗赤色 内面：暗灰色	やや不良・風化している。	しぼり・指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・羽状文・クシ描直線文	弥生末期～古墳前期	
第71図	383	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。羽状文。肩に沈線。	15.3		9.3～		やや粗・1㎜以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・羽状文沈線	Ⅴ－４	
第71図	384	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・南クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部外側に面を持つ。	18.5		9.0～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡灰白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	Ⅴ－４	
第71図	385	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	注口土器（壷）	注口土器。複合口縁外反し端部水平に面を持つ。	15.2		15.4～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文・二枚貝列点文	Ⅴ－４	
第71図	386	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部水平に面を持つ。	17.4		9.1～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文	古墳前期	
第71図	387	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。羽状文施文後、沈線文を一条廻す。	18.5		26.4～		やや粗・1㎜以下の砂粒を含む。	外：淡茶白色 内：淡茶白色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・羽状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第71図	388	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部をつまみ出し、内側に面を持つ。	21.0		8.6～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	指押さえ	ヨコナデ・タテハケメ・ヨコナデ	Ⅴ－４	
第72図	389	CⅦ区	水場	トレンチ3・南クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁直立し端部をつまみ出し、内側に面を持つ。沈線	14.8		8.2～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡黄色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第72図	390	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	複合口縁壷	複合口縁直立し端部水平に面を持つ。	19.5		9.8～		やや粗・1㎜程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳初頭	
第72図	391	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部つまみ出し、水平に面を持つ。肩部にヘラ描沈線文。	25.8		9.0～		やや粗・3㎜程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラ描沈線文	Ⅴ－４	
第72図	392	CⅦ区	水場	最下層北	土師器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁に竹管文 頸部に３個の竹管文。	24.0		12.0～		やや粗・2㎜程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳前期	

第49表　遺物観察表(16)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第72図	393	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部丸く収める。パレススタイル壷。	18.9		3.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	弥生末期～古墳初頭	口縁後合部は剥離している可能性有。
第72図	394	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁直口壷	複合口縁外反し端部直口気味に開く。	11.1		8.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ	Ⅴ－4	
第72図	395	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	複合口縁直口壷	複合口縁外傾し端部やや開く口縁陵部。ハケメ残る。	13.5		6.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ？	ナデ？ハケメ	古墳前期	
第72図	396	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	複合口縁壷	複合口縁外反し端部水平に面を持つ。639と同一と思われる。	24.8		15.7～		やや粗	淡黄白色	良好・ただし一部風化している。	ヘラケズリ・ハケメ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳前期	口縁内面スス。
第72図	397	CⅦ区	水場	クロ下層・最下層南・クロ・南クロ	弥生土器	吉備系装飾壷	複合口縁内傾する。			13.4～		やや粗・1mm程の砂粒を多く含む。	赤橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指おさえ・ヨコナデ	ヨコナデ施文	弥生末期～古墳前期	
第73図	398	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	小型直口壷（単純口縁）	単純口縁直立し端部丸く収める。	8.3		9.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良	ヘラケズリ・雑なナデ	ヘラケズリ・ナデ	Ⅴ－2～3	
第73図	399	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	壷	単純口縁直立し端部水平に面を持つ・口縁中程までハケメ。	13.1		17.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良	指押さえ・ヘラケズリ・ナデ、若しくはミガキ	ヨコナデ・タテハケメ・ナデ、若しくはミガキ	Ⅴ－3～4	甑形土器の可能性。
第73図	400	CⅦ区	水場	東壁セクション3層一括	弥生土器	単純口縁壷	単純口縁外反し端部丸く収める。肩部施文3周くらい回る。	14.6		14.5～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文	Ⅴ－4	外面にスス。
第73図	401	CⅦ区	カベセクション	3層一括	弥生土器	直口壷	単純口縁外反し端部やや肥厚する。	11.5		9.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ？	不明	Ⅴ－4	
第73図	402	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	直口壷	単純口縁外傾し端部丸く収める。	14.3		10.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む・赤色土粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・ハケメ	時期不明	口縁部内側被熱　スス付着。
第73図	403	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・東カベ崩	弥生土器	直口壷	単純口縁直立し端部内側に面を持つ。	14.0		10.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第73図	404	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	直口壷	単純口縁やや外傾し端部内側に面を持つ。肩までハケメ入れる。	9.3		10.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ハケメ	ハケメ・ヨコナデ	Ⅴ－4	焼成後ハクリ。
第73図	405	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	直口壷	単純口縁外傾し厚い端部内側ややくぼむ。	10.6		7.3～		やや粗・2mm程の丸砂粒を含む。	淡茶灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ ヘラミガキ？	ヘラミガキ	Ⅴ－2～3	外面にスス　内面に炭化物。
第73図	406	CⅦ区	水場	土器溜り06	土師器	直口壷	単純口縁外反し大きく開く口縁端部つまみ出す	19.8	10.3～			やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳前期	
第73図	407	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	直口壷	単純口縁外傾し端部外側に面を持つ。	19.6		17.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・細いヨコハケメ	古墳前期	
第73図	408	CⅦ区	水場	クロ	土器	直口壷	単純口縁端部内湾し丸く収める。内側：口縁中ほどまでヘラケズリ。	10.8		5.6～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面：暗赤茶色 内面：淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ナデ・タテハケメ	不明	口縁内側にスス。
第74図	409	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部に二枚貝原体の刺突文。	13.1		3.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	外面：淡黄白色 内面：黒灰色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ミガキ？・凹線文・刺突文	Ⅴ－2	
第74図	410	CⅦ区	水場	東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁上部をナデ。	15.0		3.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線・上部ナデ	Ⅴ－2	
第74図	411	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.1		4.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ？・3条の凹線・刺突文	Ⅴ－2	外面にスス断面一部スス。
第74図	412	CⅦ区	水場	トレンチ1	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	15.6		2.3～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	擬凹線（2条）・刺突文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	413	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.6		3.8～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線・刺突文	Ⅴ－2	
第74図	414	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。短い口縁。	15.8		2.6～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2	
第74図	415	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	11.5		2.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・二枚貝列点文	Ⅴ－2	
第74図	416	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。陵は丸くなでる。	11.5		3.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線・刺突文	Ⅴ－2	全面にスス。

第50表　遺物観察表(17)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第74図	417	CⅦ区	水場	最下層北	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩に刺突文。	12.0		4.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	418	CⅦ区	水場	クロ下層・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.2		4.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	Ⅴ－2	
第74図	419	CⅦ区	水場	南クロ・ク下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	19.8		7.1～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	420	CⅦ区	水場	クロ下層・排土	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚する。短く直立する口縁。	13.5		3.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	421	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.6		4.3～		やや粗・2mm程の丸砂と赤色土粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	
第74図	422	CⅦ区	水場	クロ下層・最下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後ナデる。	18.0		4.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・擬凹線文・ナデ	Ⅴ－3	口縁外面剥離後スス付着。
第74図	423	CⅦ区	水場	東カベ崩・Ⅳ区クロ・Ⅳ区クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁端部施文後ナデ。	18.5		5.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2～3	外面及び口縁内側にスス。
第74図	424	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁施文後、一部ナデ消す。	19.8		8.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文・ナデ・押引文	Ⅴ－3	内側に炭化物。
第74図	425	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.0		4.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	Ⅴ－2	
第74図	426	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。短く開く口縁。胴部タテヘラミガキ。	15.2		7.9～		やや粗・2mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテヘラミガキ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	427	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。	14.8		4.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	擬凹線文・クシ描直接文	Ⅴ－2	
第74図	428	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁短く直立し端部丸く収める。	15.3		11.6～		やや粗・2mm以下の砂粒とウンモを含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文	Ⅴ－2	外面にスス。
第74図	429	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁短く直立し端部丸く収める。口縁に擬凹線文2周廻る。	16.1		4.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・波状文	Ⅴ－2	外面にスス。口縁に赤物顔料付着。
第74図	430	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁上部は施文しない。	12.0		7.2～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ナデ・擬凹線文	Ⅴ－2	内面にスス。
第75図	431	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。	19.6		11.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	外面にスス・内面に炭化物。
第75図	432	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。	20.8		5.5～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－3	施文風化の為不明瞭。
第75図	433	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。厚造り。肩部に広く施文。	23.8		11.4～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶橙色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・クシ描直線文	Ⅴ－2	外面にスス。内面黒色。
第75図	434	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後立部。陵部にナデ。	19.8		7.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・波状文	Ⅴ－3	外面にスス。
第75図	435	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。擬凹線文ナデによりつぶれる。	15.6		5.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・擬凹線文・ハケメ・刺突文	Ⅴ－2～3	外面にスス　回転台左回り。
第75図	436	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。肩部文様風化の為、押部分のみ残る。	19.4		9.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		外面にスス。
第75図	437	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。	11.7		5.7		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・擬凹線文・2枚貝刺突文	Ⅴ－3	

第51表　遺物観察表(18)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第75図	438	CⅦ区	水場	クロ・南クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後ナデ。	16.6		7.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・ナデ・押引文から波状文へ	Ⅴ－３	外面にスス。内面に炭化物。
第75図	439	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。直立し外反する口縁。押引文から波状文へ。	16.0		7.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－２～３	外面にスス。口縁端部に施文後ナデ。
第75図	440	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後上部ナデ肩部施文左傾。	20.5		6.9～		なめらか・2mm程の丸砂を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ擬凹線文・二枚貝刺突文（押引文か？）	Ⅴ－２～３	外面にスス。
第75図	441	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後ナデ消す。	18.9		10.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・ナデ・押引文から波状文へ	Ⅴ－３	外面にスス。
第75図	442	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後ナデ。押引文～波状文。	18.9		11.5～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・ヨコハケメ・押引文から波状文へ	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	443	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。	18.6		8.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	444	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁内側上部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	15.4		11.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ	Ⅴ－２	外面にスス。内側下方炭化物。
第76図	445	CⅦ区	水場	クロ・南クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後上部にナデ。	22.4		4.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：淡灰色 内面：淡橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－２	
第76図	446	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。短くひらく口縁。口縁部：擬凹線文後、一部ナデ消す。	21.3		4.8～		やや粗・3mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・一部ナデ	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	447	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁施文後一部ナデ。	14.6		8.0		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	448	CⅦ区	水場	東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後、中ほどをナデる。	17.7		10.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	449	CⅦ区	水場	東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁端部ナデ。	14.2		6.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	450	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。外傾外反する口縁。	17.2		11.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線・刺突文若しくは押引文	Ⅴ－？	外面ハクリ後スス付着肩部施文風化のため不明りょう。
第76図	451	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。頸部内部ミガキ。押引文左傾。口縁施文中央をナデる。	16.7		8.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヘラミガキ・ヨコナデ・押引文から波状文	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	452	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁に波状文を2周廻し中央をナデる。	16.6		21.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙黄色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ	Ⅴ－３	外面にスス。
第76図	453	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。押引文は途中で波状文になる。頸部内側にハケメ。	19.2		9.4～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・擬凹線・押引文～波状文	Ⅴ－３	被熱変色する。

第52表　遺物観察表(19)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第77図	454	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後、口縁中ほどにナデ。	18.2		18.4～		やや粗・3mm以下の丸砂とウンモを含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・二枚貝原体か	ヨコナデ擬凹線文・押引文・ハケメ	Ⅴ－3	外面にスス。
第77図	455	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。	21.8		7.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・クシ描直線文	Ⅴ－3	外面にスス。
第77図	456	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。	15.3		7.9～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・波状文	Ⅴ－3	外面にスス。
第77図	457	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部つまみ出す。	19.0		5.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・擬凹線文端部ナデ	Ⅴ－2～3	
第77図	458	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後一部ナデ。	16.9		5.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・一部ナデ	Ⅴ－3	外面にスス。
第77図	459	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部丸く収める。口縁施文後上部ナデる。	14.1		12.5～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ(胴中ほど)	ヨコナデ・ヘラ状工具ナデ？波状文	Ⅴ－3	
第77図	460	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁の施文は2周廻る。	23.1		9.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・波状文	Ⅴ－3	
第77図	461	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部つまみ出す。施文後口縁端部にナデ。	20.7		6.0～		やや粗・2mm程の丸砂と赤色土粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－3	
第77図	462	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外反し端部肥厚する。口縁内側ミガキ。端部はナデ調整。	19.8		5.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－3	赤色顔料付く。外面にスス付着。
第78図	463	CⅦ区	水場	東カベ崩・俳土・クロ下層・クロカベ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。クシ原体擬凹線文。	32.7		18.4～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・押引線文・荒いハケメ・粗なナデ	Ⅴ－2	
第78図	464	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	25.8		7.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・刺突文	Ⅴ－2	外面にスス。
第78図	465	CⅦ区	水場	トレンチ3・クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚する。口縁施文後上部ナデる。	25.0		13.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・刺突文	Ⅴ－2	
第78図	466	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部面を持つ。	26.2		7.7～		やや粗・5mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	
第78図	467	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。口縁に密に施文。	23.8		5.8～		やや粗・1mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・押引文	Ⅴ－2	外面にスス。
第78図	468	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部肥厚する。口縁施文後中央ナデ。	24.5		8.7～		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ擬凹線文・押引文	Ⅴ－2	
第78図	469	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。胴部施文後ヨコナデ。	25.3		16.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・施文	Ⅴ－3	
第79図	470	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	短く開く口縁。	27.0		6.2～		やや粗・2mm程の砂粒とウンモを含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－2	
第79図	471	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁施文後、ナデ。	28.8		14.9～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・タテハケメ・ナデナナメハケメ押引文	Ⅴ－2～3	
第79図	472	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁内側碗状	27.3		6.8～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	Ⅴ－3	

第53表　遺物観察表(20)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第79図	473	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁中ほどをナデる。	27.2		17.2～		やや粗・5mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ荒いハケメ・ナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－2～3	外面にスス。
第79図	474	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。口縁中ほどをナデる。	30.5		9.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－3	外面にスス。
第79図	475	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	26.8		9.2～		やや粗・3mm程の丸砂と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	Ⅴ－3	大型
第80図	476	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部丸く収める。	9.8		11.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	短く連続するヘラケズリ	不整形ナデ・ヨコナデ	Ⅴ－3	外面にスス。
第80図	477	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁ナデにより外反する。	13.2		12.2～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・二枚貝押引文	Ⅴ－3	
第80図	478	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。厚い口縁内側なだらか。	14.5		9.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ミガキ		内面上炭水物。外面にスス。
第80図	479	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。内側無段	13.1		3.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－2～3	
第80図	480	CⅦ区	水場	排土・南クロ・クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部に二枚貝腹縁による連続刺突文。	19.5		7.6～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	暗灰色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・連続刺突文		外面にスス。
第80図	481	CⅦ区	水場	東カベ崩・南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.4		5.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第80図	482	CⅦ区	水場	南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	17.3		5.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		外面にスス。
第80図	483	CⅦ区	水場	クロ・クロ壁・東カベ崩	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.3		6.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		外面にスス。
第80図	484	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括	土器	複合口縁甕	胴部ミガキ	17.7		7.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ミガキ	Ⅴ－3	
第80図	485	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.7		7.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第80図	486	CⅦ区	水場	南クロ他(76)	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める・内側。	17.4		6.5～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡黄白色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・二枚貝押引文	Ⅴ－2～3	
第80図	487	CⅦ区	水場	クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	19.7		9.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ナデ若しくはミガキ		外面にスス。
第80図	488	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部折り返すにぶい陵。	19.1		7.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		壷の可能性有り。
第80図	489	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出す。	17.4		8.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第80図	490	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。胴外面:幅広の工具を用いたミガキ状調整。	22.2		18.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ミガキ		
第81図	491	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.1		10.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		外面にスス。
第81図	492	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。胴部:タテにナデ若しくはミガキ。	21.0		16.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・一部ナデ	ヨコナデ・タテナデ若しくはミガキ		

第54表　遺物観察表(21)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第81図	493	CⅦ区	水場	クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	19.3		10.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・一部ナデ	ヨコナデ不定方向ナデ若しくはミガキ		
第81図	494	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	21.8		13.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	495	CⅦ区	水場	トレンチ3	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.1		6.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	496	CⅦ区	水場	クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	19.0		7.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ		
第81図	497	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.0		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	498	CⅦ区	水場	クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。口縁内側なだらか。にぶい陵	17.2		5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	499	CⅦ区	水場	南クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	16.9		6.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヘラミガキ・ヨコナデ		
第81図	500	CⅦ区	水場	トレンチ3・クロ・クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	18.1		8.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	501	CⅦ区	水場	クロ・南クロ・クロ下層一括	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	17.5		6.8～		やや粗・1mm程の砂粒とウンモを含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第81図	502	CⅦ区	水場	トレンチ3拡張1層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。頸部に二枚貝原体による連続刺突文。	27.0		6.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・二枚貝刺突文		
第81図	503	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部内側に面を持つ。	25.7		6.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ		
第82図	504	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める頸部内側ミガキ。	18.0		8.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ・クシ描直線文	Ⅴ－4	
第82図	505	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部刺突文	18.8		10.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・刺突文	Ⅴ－4	
第82図	506	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁内側にかえり持つ。	20.6		9.5～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文	Ⅴ－2	
第82図	507	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出し・胴部肩に波状文。	17.0		6.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文	Ⅴ－4	外面にスス。
第82図	508	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出す。反転する刺突文・肩部にヘラミガキ。	15.0		9.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ・クシ描直線文・刺突文	Ⅴ－4～	
第82図	509	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	16.4		9.9～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－4	外面にスス。
第82図	510	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。指紋付着	22.0		6.2～		やや粗	淡黄茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅴ－4	

第55表　遺物観察表(22)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第82図	511	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。頸部波状文　肩部にクシ描直線部。	21.5		9.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	
第82図	512	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	19.8		9.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	Ⅴ－４～	外面にスス。
第82図	513	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。肩にクシ描直線文。	17.4		7.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－４	外面にスス。
第82図	514	CⅦ区	水場	クロ下層・下層・クロ下層一括	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.1		9.9～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文・ハケメ・列点文	Ⅴ－４	
第82図	515	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。列点文は全周しない。	17.3		9.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・列点文・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－４	
第82図	516	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。肩に7条の刺突文。	18.0		11.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文・刺突文	Ⅴ－４	
第83図	517	CⅦ区	水場	クロ	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部にハケメ密に入る。	21.0		10.5～		やや粗	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヨコハケメ		
第83図	518	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	17.3		14.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文→波状文・肩をヨコナデ	Ⅴ－４	外面にスス。
第83図	519	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。陵部は水平に突出。	18.5		9.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文	Ⅴ－４	外面にスス。
第83図	520	CⅦ区	水場	南クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	20.2		15.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－４	胴部外面にスス。頸部内面に煮沸によるコゲ痕。天地逆で２次使用の為。
第83図	521	CⅦ区	水場	南クロ他	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部先細る。	17.4		13.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文・ハケメ・波状文	Ⅴ－４	ハケメ後細くヨコナデが入る。波状文の割付用か？外面下部にスス。
第83図	522	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。細か波状文。	23.2		7.5～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文	Ⅴ－４～	外面にスス。
第83図	523	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出し丸く収める。陵部垂下	20.7		5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶灰色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第83図	524	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層一括	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部つまみ出す。	18.6		8.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	橙茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第83図	525	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部強いナデ。	18.1		6.7～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文	Ⅴ－４～古墳前期	回転台・右回り・外面にスス。
第83図	526	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁強く折り曲げる。	23.6		6.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－４	
第83図	527	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁強いナデ。にぶい陵	19.1		10.2～		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ		古前末若しくはⅤ－４
第83図	528	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出す。陵水平に突出。	19.1		8.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面：淡黄白色 内面：淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・刺突文・クシ描直線文	Ⅴ－４	内面にススゆがみ有。口縁器壁厚にバラツキ。
第84図	529	CⅦ区	水場	クロ下層・南クロ・東カベ崩・セクション3層一括	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。球胴	21.0		14.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	

第56表　遺物観察表(23)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第84図	530	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	直立する口縁端部をつまみ出し、内側に面を持つ。	23.9		7.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：淡黄白色 内面：淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	Ⅴ－4	
第84図	531	CⅦ区	水場	南クロ・東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部つまみ出し面を持つ。陵退化	16.9		17.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－4	外面にスス。
第84図	532	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部面を持つ。クシ描直線文を2段めぐらし、波状文。	18.4		7.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－4	外面にスス。
第84図	533	CⅦ区	水場	南クロ・東カベ崩	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部に面を持ちくぼむ。	20.8		22.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－4	
第84図	534	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出し面を持つ。	17.5		7.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	古墳初頭	
第84図	535	CⅦ区	水場	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出し面を持つ。施文しない。	18.7		18.3～		やや粗・2mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	暗茶橙色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳初頭	外面にスス。
第84図	536	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出し面を持つ。	16.8		12.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・直線文	Ⅴ－4	外面にスス。
第84図	537	CⅦ区	水場	南クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部内側に面を持つ。	20.3		13.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－4	
第85図	538	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部やや面を持つ。	28.3		7.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－4	
第85図	539	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部波状文・クシ描直線文。	23.4		13.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－4	ヘラによるケズリ。
第85図	540	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。	23.1		16.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－4	
第85図	541	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。厚い口縁。	27.8		30.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－4	外面にスス。
第85図	542	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部に大がらな連続刺突文。	21.1		11.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文・クシ描直線文・刺突文	Ⅴ－4	
第86図	543	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩に波状文。	24.2		6.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	Ⅴ－4	外面にスス。
第86図	544	CⅦ区	水場	クロ下層・最下層・クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部つまみ出す。	21.7		17.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－4	外面にスス。
第86図	545	CⅦ区	水場	クロ下層・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩部連続刺突文・波状文・クシ描直線文。	25.0		16.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙白色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・連続刺突文・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－4	

第57表　遺物観察表(24)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第86図	546	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括・クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部先細るが一部面を持つ。	22.1		19.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第86図	547	CⅦ区	水場	クロ下層・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部内側に面を持つ。	21.8		21.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第87図	548	CⅦ区	水場	クロ下層	土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部面を持つ。	26.9		21.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・２段のクシ描直線文		胴部外面にスス。
第87図	549	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部面を持つ。	25.6		16.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	弥生末期～古墳初期	
第87図	550	CⅦ区	水場	クロ下層一括・クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部面を持つ。陵はにぶい	21.0		10.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	外面にスス。
第87図	551	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部に面を持ちくぼむ。	22.8		12.0～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－４	口縁外面にスス。
第87図	552	CⅦ区	水場	クロ下層一括	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部に面を持つ。	20.2		8.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	Ⅴ－４	
第87図	553	CⅥ区	土器溜り05	77	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部先細る。	10.5		6.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳前期	
第88図	554	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部に面を持つ。肩の張る倒卵形肩の施文は左方向2段目からは直線文と波状文続きで後ナデで文様を区切る。	28.3		44.5	5.6	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：乳白色 内面：淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文・クシ描直線文・波状文	Ⅴ－４	外面にスス。底部３ケ所支え具使用痕。 内面に炭化物。
第88図	555	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部面を持つ。 胴球状を呈す。	23.4		17.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・波状文・クシ描直線文	古墳前期	
第88図	556	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層一括・南クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部外面に面を持つ。	18.6		9.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・クシ描直線文	古墳初頭	外面にスス。
第89図	557	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部つまみ出す。 口縁強いナデで複合部を表す。	16.2		5.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口縁退化 外面にスス。
第89図	558	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。 強いナデで複合口縁を表す。	14.0		9.8		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	赤茶色	良好	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳中期	口縁退化 外面にスス。
第89図	559	CⅦ区	水場	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。強いナデは複合口縁の名残り。	13.6		5.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第89図	560	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁直立し端部丸く収める。口縁継足して強くナデる。	18.6		5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ	古墳中期	口縁退化 外面にスス。

第58表　遺物観察表(25)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第89図	561	CⅦ区	水場	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部に強いナデ。	18.9		5.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ハケメ	ヨコナデ	古墳中期	口縁退化
第89図	562	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部つまみ出す。強いナデにより複合口縁を造る。	16.1		4.7～		やや粗・あまり砂粒は含まない。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	外面にスス。
第89図	563	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部つまみ出す。口縁中ほどを強くナデ陵を意識する。	13.2		4.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第89図	564	CⅦ区	水場		土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部強くナデる。複合口縁の名残り。	16.8		5.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明おそらくナデ	古墳中期	
第89図	565	CⅦ区	水場	南クロ・クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部に強いナデ。	17.5		3.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ハケメ	ヨコナデ	古墳中期	口縁退化
第89図	566	CⅦ区	水場	トレンチ３	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し水平に面を持つ。口縁強いナデで複合口縁を造る。	16.6		5.6～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第89図	567	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部先細る。強いナデで陵を表わす。	15.9		7.25～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	赤色顔料付着
第89図	568	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部強いナデ。	18.3		7.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・荒いハケメ	古墳中期	口縁退化
第89図	569	CⅦ区	水場	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁直立し口縁端部つまみ出す。	17.9		10.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳中期	口縁退化
第89図	570	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁中ふくらみし、端部を外反させる。	21.6		10.2～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ？	ヨコナデ？・タテハケメ	古墳中期	口縁退化 風化の為、調整不明。
第89図	571	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部先細る。複合口縁の名残り口縁中ほどを強くナデ稜を作る。	20.5		5.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	
第89図	572	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部に面を持つ。複合口縁の名残り。	21.6		5.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗灰色	やや不良・風化している。	不明	ヨコナデ？	古墳中期	
第90図	573	CⅦ区	水場	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁中ほど強くなでる。	17.0		5.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口縁退化
第90図	574	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層一括・クロ下層	土師器	単純口縁壺	単純口縁直立し口縁端部やや上方へつまみ出す。	15.6		11.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	内面：乳白色 断面：黒灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・ハケメ	古墳前期	
第90図	575	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部つまみ出す。強いナデで陵を表わす。	21.2		15.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳前期～中期	胴部外面にスス。
第90図	576	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部つまみ出す。複合口縁の名残り。	18.5	24.8	23.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好	ヘラケズリ・部分的にナデ・口縁内側にハケメ	タテハケメ	古墳中期	外面にスス・湯漉。
第90図	577	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。口縁中ほど強くナデ。陵部を意識する。	14.9		6.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ？	古墳中期	外面にスス。
第90図	578	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	小型甕	単純口縁直立し口縁端部折り返す。	11.8		14.2	3.7	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面：淡灰色 内面：茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ若しくはハケメ	古墳中期	口縁退化 底部やや平ら。
第90図	579	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部面を持つ。	18.7		6.9～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	外面：明橙色 内面：淡茶白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳前期～中期	
第90図	580	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部先細る。口縁中ほどを強くナデ陵を作る。	14.3		3.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	外面にスス。
第90図	581	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	複合口縁	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁強くナデくぼむ。	16.4		14.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケ	古墳中期	口縁退化
第91図	582	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部面を持つ。	20.3		4.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・ヨコナデ	古墳初頭	外面にスス。

第59表　遺物観察表(26)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第91図	583	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部つまみ出し面を持つ。	20.0		6.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケ	古墳初頭	
第91図	584	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部上方につまみ出す。薄造り	16.1		6.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメへら描波状文	弥生末期～古墳前期	畿内系
第91図	585	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部内湾する。薄造り	14.4		6.55～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヨコハケメ	古墳前期	畿内系　口縁にスス。胴部外面にスス。
第91図	586	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部に面を持つ。	14.0		6.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ	弥生末期～古墳前期	畿内系　外面にスス。
第91図	587	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部上方へ弱くつまみ出す。厚い器壁	20.0		8.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	弥生末期～古墳前期	畿内系
第91図	588	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部つまみ出し面を持つ。	14.4		3.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳初頭	畿内系・外面にスス。
第91図	589	CⅦ区	水場	トレンチ3 1層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部先細る。	16.6		6.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・不明	古墳前期	
第91図	590	CⅦ区	水場		土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部つまみ出す。	16.4		6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヨコハケメ	古墳前期	畿内系 外面にスス。
第91図	591	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部内部に小さく折り返す。	15.0		9.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・ヨコハケメ	弥生末期～古墳前期	畿内系 外面にスス。
第91図	592	CⅦ区	水場	トレンチ3 1層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部外側に折り返す。	15.5		7.15～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ？	ヨコナデ・ヨコハケメ	古墳前期	畿内系
第91図	593	CⅦ区	水場	クロ最下層	弥生土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。口縁内側くぼむ。	13.3		19.5	2.7	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ	Ⅴ－4	底部比熱還元　布留傾向甕に類似する。
第91図	594	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部先細る。胴内側上部ナデる。	17.2		7.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ？	古墳前期～中期	外面にスス。
第91図	595	CⅦ区	水場	最下層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部は内湾する厚い口縁。	14.0		9.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：淡橙色 内面：淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテナデ	弥生末期～古墳初頭	外面にスス。
第91図	596	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部内湾する厚い口縁。	15.6		8.9～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	外面：明橙色 内面：淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・荒いハケメ？	古墳前期～中期？	
第91図	597	CⅥ区		南クロ	土師器	甕	一条の線刻。			7.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳中期～後期	
第92図	598	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	単純口縁小型甕	単純口縁直立し端部外反する。	14.9		13.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ？	古墳中期	
第92図	599	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁中程から折り返す。	16.9		5.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳前期～中期	外面にスス。
第92図	600	BⅤ区		粘土採取場－01	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部先細る。	17.0		24.7		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	指押さえ・ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳中期	外面にスス。 温わかし用
第92図	601	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し、ゆるく外反する口縁。	20.0		7.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ（粗）	古墳後期	
第92図	602	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し口縁端部つまみ出す。	17.6	25.8	17.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・雑にミガキ	ヨコナデ・タテハケメ・ヘラミガキ	古墳前期～中期	
第92図	603	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。	11.4		10.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・荒いハケメ	古墳中期	外面にスス。
第92図	604	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部先細る。ナデ肩。	13.0		7.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・荒いタテハケメ	古墳後期	
第92図	605	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。肩が張る。	15.4		6.25～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳後期	外面にスス。
第92図	606	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し短く外反する口縁・ナデ肩。	13.4		6.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ・荒いハケメ・ナデ	古墳後期	外面にスス。
第92図	607	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し短く外反する口縁。	20.6		6.5～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳後期	外面にスス。
第92図	608	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し強く外反する短い口縁。	22.0		4.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶橙色	良好	ヘラケズリ・強いナデ	ヨコナデ・タテハケメ	古墳後期	

第60表　遺物観察表(27)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第93図	609	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し短く外反する口縁・球胴	17.8	24.0	24.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ・荒いミガキ若しくはナデ	ヨコナデ・荒いタテハケメ	古墳中期～後期	
第93図	610	CⅦ区	水場	トレンチ3 トレンチ4	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し短い口縁外反する。	14.3		10.0～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデタテハケメ(荒)	古墳後期	
第93図	611	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し短く外反する口縁。	18.3		5.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・指押さえ	古墳後期	粗な造り。
第93図	612	CⅦ区	水場	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。胴部最大径下がる。	16.2	26.0	27.7～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・荒いタテハケメ	古墳後期	胴部外面下方にスス・内面底部に炭化物。
第93図	613	CⅦ区	水場	クロ	土師器	直口壷	単純口縁外傾し口縁端部内側に折り返す。	12.0		4.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良	ヨコハケメ	ヨコナデ	古墳前期	全面にスス付着。
第93図	614	CⅦ区	水場	トレンチ1	土師器	小型丸底壷	胴部最大径下がる。	13.7		14.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	指押さえ・ハケメ・ナデ	不明	古墳中期～後期	胴部中ほどに内側から焼成後穿孔。
第93図	615	CⅦ区	水場	トレンチ3拡張1層	土師器	小型丸底壷	単純口縁外傾し内湾する口縁。薄い器壁	11.3		7.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヨコハケメ	古墳初頭	
第93図	616	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	小型丸底壷	単純口縁外傾し口縁端部内側にくぼみハケメ密に廻る。	8.9		11.2		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・指ナデ	ヨコナデ・ハケメ	古墳前期	
第93図	617	CⅦ区	水場	クロ	土師器	小型丸底壷			11.9	9.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ又はミガキ	荒いハケメ・ヘラミガキ	古墳前期～中期	中央に焼成後穿孔。(外から)
第93図	618	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	壷	厚い造り		13.0～	8.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ	ヘラミガキ・ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	粘土帯接合有り。外面スス。
第93図	619	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	小型鉢	単純口縁外傾し短く内湾する口縁。	10.5		3.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	不良・風化している。	不明	不明	古墳前期～中期	風化の為調整不明。
第93図	620	CⅦ区	水場	クロ	土師器	小型壷	単純口縁外傾し強いナデに口縁外反、端部丸く収める。	7.5	8.2	7.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ・底部指おさえ	指押さえ・ハケメ・ヨコナデ	古墳中期～後期	外面赤綾
第93図	621	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	ミニチュア土器甕	手捏ね	3.8		3.8		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	堅緻	指おさえ・ミガキ	指おさえ・研き	古墳後期か？	全面にスス吸着ミガキで定着。黒色磨研土器か？
第93図	622	CⅦ区	水場	クロ	土師器	小型甕	底部高台状の上げ底。			5.1～	4.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	指ナデ上げ	指押さえ・上部ハケメ・ヨコナデ		内・外面にスス、炭化物。
第93図	623	CⅦ区	水場	トレンチ5拡張東1層	土師器	小型鉢	腰が深く内湾する口縁。	6.8		5.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	底部指おさえ	ミガキ若しくはナデ底部は荒れている	V－4	外面にスス。
第93図	624	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	小型鉢	腰が深い胴部。	9.0		6.2		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期～後期	外面底部にスス。
第93図	625	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	ルツボ	手捏ね 口縁折り返して注ぎ口を作る。	5.8		6.7		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	ナデ	指押さえ	古墳中期	口縁内面に煮沸痕。
第94図	626	CⅦ区	水場	クロ・南クロ・クロ下層	土師器	壷	波状文密にめぐる。			10.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:明橙色 内面:暗灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	タテハケメ	古墳初頭	
第94図	627	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	壷	ヘラ描沈線文を右回りに3条廻し、二枚貝刺突文を施す。			5.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良	ヘラケズリ・ナデ	タテヘラミガキ・ヘラ描沈線文・二枚貝刺突文(左傾)	V－3～4	
第94図	628	CⅦ区	水場	トレンチ4	土師器	壷				6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳前期	肩部に突帯。
第94図	629			排土	縄文土器	深鉢	胴部突帯にミガキ。			5.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	不明	ナデ	縄文晩期	突帯文土器
第94図	630	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	壷				13.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ	タテハケメ・4条の沈線文	弥生末期～古墳初頭	内面部分的に鉄分付着。
第94図	631	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	壷又は甕	そろばん玉状の胴部。		20.9	8.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・クシ描直線文・波状文	V－4	内面に炭化物。
第94図	632	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	壷又は甕	大型品の底部。			3.7～	7.4	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ	弥生後期	底部末調整。
第94図	633	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	壷又は甕	ナデによる仕上げ。			3.6～	7.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好・ただし風化している。	上方ヘナデ	タテナデ	弥生末期～古墳初期	

第61表　遺物観察表(28)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第94図	634	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	壷又は甕	底部ナデ。			2.8～	6.8	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良	ヘラケズリ・ナデ	ナデ・立てハケメ	Ⅴ－４	
第94図	635	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	壷又は甕	底部くぼむ。			5.35～	4.8	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	不定方向ナデ	タテハケメ	Ⅴ－３～４	内面に炭水物。外面にスス。
第94図	636	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	壷	球形の胴部。			4.4～	4.4	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶灰色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ナデ	Ⅴ－４	外面にスス。
第94図	637	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	壷又は甕	底部上げ底。			12.7～	5.0	粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ・指おさえ	タテハケメ	Ⅴ－３～４	外面にスス。
第94図	638	CⅦ区	水場	KD01中トレンチ3	弥生土器	壷又は甕	痕跡的な底部。			8.1～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ナデ・タテハケメ	古墳初頭	
第94図	639	CⅦ区	水場	クロ	土師器	壷	大型品			14.9～	4.2	やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙白色	良好	ヘラケズリ・指押さえ・ハケメ	タテハケメ・底部ナデ	古墳前期	396の底部と思われる。
第94図	640	CⅦ区	水場	クロ	土器	甕	底部焼成前穿孔		穿孔径：0.9	3.2～	2.2	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：淡茶色 内面：橙茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ハケメ	不明	外面にスス内面に炭化物。穴の開いた土器で煮たきをしている。
第94図	641	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	壷又は甕	尖底0.5cmの底部痕跡。			5.9～	0.5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ	タテハケメ	Ⅴ－２～３	外面にスス。
第95図	642	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	高坏	口縁短く立ち上がる。脚中粘土充填	16.7		11.8～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ・ヘラミガキ	タテハケメ・ナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ	Ⅴ－２	
第95図	643	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	高坏				9.4～		やや粗・2mm程の丸砂を含む。	茶色	良好・ただし風化している。	坏：ヘラミガキ 脚：ヘラケズリ	タテヘラミガキ	Ⅴ－２	坏内スス・脚部外面スス。
第95図	644	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	高坏				9.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	良・ただし風化している。	坏：ヨコヘラミガキ 脚：ヘラケズリ	擬凹線文・タテミガキ	Ⅴ－２～３	坏、脚内面黒色・脚差し込み・中央に焼成前穿子。
第95図	645	CⅦ区	水場	南クロ・クロ下層	弥生土器	高坏	口縁端部面を持つ。	21.2	脚部径：5.0	8.2～		やや粗・2mm以下の砂粒と赤色粘土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	坏上：ヨコヘラミガキ・接合部ヨコナデ 坏下：タテヘラミガキ	ヘラケズリ・坏上部波状ヘラミガキ・坏下部斜めヘラミガキ・脚部タテヘラミガキ	Ⅴ－２	坏内部剥離
第95図	646	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ下層一括	弥生土器	高坏	２段の口縁・坏全面にヘラミガキ。	24.4		4.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし内面風化している。	内湾部：ヘラケズリ・ミガキ・外反部：不明・ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅴ－３	
第95図	647	CⅦ区	水場	最下層北	弥生土器	高坏	ゆるやかに２段になる。	22.0		4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・タテヘラミガキ	段の上下にそれぞれタテヘラミガキ	Ⅴ－３	
第95図	648	CⅦ区	水場	クロカベ	弥生土器	高坏	ゆるく外反する口縁。	21.5		4.9～		やや粗・1mm程の砂粒とウンモを含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅴ－４	
第95図	649	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	高坏	深い坏部　口縁端部つまみ出し面を持つ。	20.0		7.3～		やや粗・1mm以下の砂粒とウンモを含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ハケメ・ナデ若しくはミガキ	弥生末期～古墳初期	
第95図	650	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	体部に段を持つ。口縁端部つまみ出し。	19.6		6.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	断面：淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ・ハケメ	古墳中期～後期	内外赤彩
第95図	651	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	高坏	脚部短い。			5.85～		なめらか・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	ナデ(中心)・ヘラケズリ	不明	Ⅴ－２～３	
第95図	652	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	高坏				10.9～	14.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶黄色	良・ただし風化している。	坏：ナデ 脚：ヘラケズリ	不明・脚裾ヨコヘラミガキ	Ⅴ－２～３	
第95図	653	CⅦ区	水場	最下層北	弥生土器	高坏	脚ひろがる。			11.6～	15.7	やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	坏：不定方向ナデ 脚：ヘラケズリ	タテミガキ・ヨコナデ	Ⅴ－２	
第95図	654	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	高坏	脚中に竹管で粘土充填。外面ヘラミガキヘラ刺突廻る(文様か)			9.0～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヘラミガキヘラ刺突浅い	弥生後期～	充填された粘土は隙間が空く。
第95図	655	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	高坏	太い脚部。			6.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	良好	坏：粗いミガキ・脚：ヘラケズリ	荒いタテミガキ	古墳中期	
第95図	656	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	脚ケズリ出し。			6.3～	10.1	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：明橙色 内面：淡茶色	良・ただし風化している。	脚：ヘラケズリ	ナデ	古墳中期	
第95図	657	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏		14.6		10.2	11.0	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳中期	松山編年高坏B・松山氏　接続法β

第62表　遺物観察表(29)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、№	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第95図	658	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	器台	内面に朱。	10.4		1.35～		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	ハケメ・ヨコナデ	ナデ	Ⅴ－4	畿内系
第95図	659	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	浅い坏部。	9.3		4.8～		やや粗	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ・ヘラナデ	ヨコナデ・タテ・ヘラミガキ	古墳前期	畿内系　坏内面荒れる。
第95図	660	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	高坏	まっすぐ開く脚裾。			6.0～	9.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶橙色	良好	坏:ヘラミガキ 脚:ヨコハケメ	ヘラミガキ	Ⅴ－4～古墳初頭	畿内系・4カ所穿孔。
第95図	661	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	高坏	2ヶ所に穿部。			5.2～	8.3	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳前期～中期	全面に赤彩。
第95図	662	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	脚部に竹管痕跡。 穿孔に竹管使用。			7.95～	10.4	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	良好	ヘラケズリ・ナデ・坏ミガキ	坏ハケメ・脚ヨコナデ	古墳前期	4カ所穿孔。
第95図	663	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	高坏	円盤充填			7.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳初頭？	松山氏　接続法α
第95図	664	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	高坏				7.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡赤白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	不明	古墳前期	松山氏　接続法β
第96図	665	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	土器	高坏	内傾ぎみに直立し外反する口縁。	14.0	14.5	11.4	9.7	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:淡橙色 内面:淡茶色	良・ただし風化している。	坏:ヘラケズリ ヘラミガキ 脚:不定方向ナデ	坏:ヘラケズリ・ミガキ　脚:指ナデ上げ・端部ナデ		全面に赤彩。 坏外面スス。
第96図	666	CⅦ区	水場	トレンチ4	土師器	高坏		14.7		10.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:淡橙色 内面:淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ・指押え	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳中期～後期	全面に赤彩。 脚底部を除く。
第96図	667	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	内湾する深い坏部。	15.5		10.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良好・ただし風化している。	下タテヘラミガキ・上ヨコヘラミガキ	下:タテヘラミガキ 上:ヨコヘラミガキ	古墳中期～後期	底部ヘラミガキ。
第96図	668	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	高坏	須恵器模倣品。	13.3	14.6	11.2	7.7	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	ヨコヘラミガキ・短いヘラミガキ粗	ハケメ・ヨコヘラミガキ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。
第96図	669	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	高坏	深い坏部を持つ。			7.7～	8.9	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	中央指おさえ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	坏内面荒れる。
第96図	670	CⅦ区	水場	クロ	土師器	高坏	面を持つ。			8.5～	11.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	橙茶色	良・ただし風化している。	放射状ヘラミガキ・ヘラケズリ	粗いヘラミガキ・タテヘラミガキ・ヨコヘラミガキ	古墳中期～後期	底部をのぞく全面に赤彩。
第96図	671	BⅣ区		トレンチ5	土師器	高坏	短く太い脚。			11.6～	11.9	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳中期～後期	ハケメ・全面に赤彩しヘラミガキ。
第96図	672	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	高坏	短く太い脚。			5.0～	9.0	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好	ナデもしくはミガキ	回転ナデ・タテハケメ	古墳後期	松山氏　接続法β
第96図	673	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	低脚坏	厚い造り。			7.0～	9.8	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	脚:ナデ	ナデ	古墳中期	
第96図	674	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	低脚坏				3.8～	4.6	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	外面:明橙色 内面:淡茶白色	良好・ただし風化している。	不明	脚ヨコナデ	Ⅴ－4	
第96図	675	CⅦ区	水場	クロ	弥生土器	鼓型器台	口縁施文後ナデ消す。			9.1～	15.2	やや粗・2mm程の丸砂を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・一部ヘラミガキ・口縁ヨコナデ	擬凹線・ナデ消し・ヘラミガキ	Ⅴ－2	内側に黒はん。
第96図	676	CⅦ区	水場	クロ下層・南クロ	弥生土器	鼓型器台	大きくひらく受部。 口縁施文後ナデ消す。	21.5		8.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良好	ヘラミガキ	擬凹線・ナデ消し・ヨコナデ	Ⅴ－3	
第96図	677	CⅦ区	水場	南クロ・クロ下層一括	弥生土器	鼓型器台	筒部脚部に羽状文。	19.6		13.9	17.7	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好	受部ヘラミガキ・脚部ヘラケズリ	ヨコナデ・羽状文	Ⅴ－3～4	脚部に赤色顔料・赤彩土器。
第96図	678	CⅦ区	水場	クロ下層	弥生土器	鼓型器台	小型・縮約した筒部。	17.4		7.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラミガキ	ヨコナデ	Ⅴ－4	上・下内側ヘラミガキ。
第96図	679	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	弥生土器	鉢				4.1～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良好・ただし風化している。	ミガキ若しくはナデ	下方タテハケメ・上方ヨコハケメ	Ⅴ－4～古墳初頭	畿内系
第96図	680	CⅦ区	水場	トレンチ3	土師器	器台	脚部3ヶ所に穿部。			4.3～	13.1	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ・ヨコハケメ	タテヘラミガキ・ヨコナデ	古墳初頭	畿内系

第63表　遺物観察表(30)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第97図	681	CⅦ区	水場	南クロ	弥生土器	甑形土器	大型の把手。			4.9～		やや粗・2mm砂粒を含む。	暗茶色	良	ヘラケズリ・ナデ	ハケメ	弥生後期～末期	
第97図	682	CⅦ区	水場	クロ下層最下層南	土師器	甑形土器	口縁端部に面を持つ。	11.2	46.0	61.7	36.4	やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好	指押さえ・タテヘラケズリ・丁寧なナデ	ハケメ上下	Ⅴ－4～古墳初頭	外面にスス。内面に炭化物。
第97図	683	CⅦ区	水場	クロ	土器	不明土器		長さ:12.0	幅:4.0	3.5～		やや粗・1mm程の砂粒とウンモを含む。	暗茶色	良・ただし風化している。	ハケメ	ヨコナデ	不明	筒の両側に土器が乗る。
第98図	684	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	鉢	端部肥厚し丸く収める。	14.9	15.1	9.1	5.0～	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:淡橙白色 内面:淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ナデ	弥生後期	内面に朱。 朱を入れる容器。
第98図	685	CⅦ区	水場	トレンチ4	土器	鉢	内湾し口縁端部にヨコナデを施す。	17.2		6.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケ	不明	内面にスス。
第98図	686	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	鉢	内湾し肥厚する口縁	16.5	17.2	8.3		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ・上部ヨコナデ	ナデ荒いタテハケメ・ヘラケズリ	古墳後期	
第98図	687	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	内湾し端部丸く収める。全体に雑な作り。	12.0	12.6	6.9		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ・荒いナデ・上部ヨコナデ	古墳中期～後期	底部被熱
第98図	688	CⅦ区	水場	トレンチ3	弥生土器	ミニチュア土器	端部丸く収める。丸底	11.1	11.5	6.2	2.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ・指押さえ	下方:タテハケメ 上方:ヨコハケメ	Ⅴ－4～古墳初頭	外面にスス。
第98図	689	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	端部肥厚し丸く収める。	11.0	11.3	5.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・口縁ヨコナデ	古墳中期～後期	全面に赤彩。
第98図	690	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	端部先細る。	12.9	13.3	5.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:黒色 断面:淡茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヘラミガキ	古墳中期～後期	外面に赤彩。 内面にスス。
第98図	691	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	坏	口縁端部内へ折り返し。	13.5	13.8	6.2		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:淡茶色 内面:淡黄色	良・ただし内風化している。	ヘラケズリ・ミガキ	ヘラケズリ・ヘラケズリ	古墳中期～後期	全面に赤彩。
第98図	692	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏		15.1	15.8	6.8		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳中期～後期	全面に赤彩。
第98図	693	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	内湾気味に立ち上がる厚い口縁。丸底	11.6	12.4	4.6		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ナデヨコナデ	古墳後期	全面に赤彩。
第98図	694	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	坏	口縁端部内湾。	10.4	11.1	5.4		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	外面:明橙色 内面:淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	古墳中期～後期	
第98図	695	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	坏	口縁くり上げる。	11.4	13.4	4.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:赤色 断面:淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。 外面底部にスス。
第98図	696	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	口縁くり上げる。	14.3	16.2	4.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	茶赤色 断面:淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ・ナデ	ヘラケズリ・ハケメ	古墳後期	赤彩
第98図	697	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	坏	口縁回転ナデによるつまみ出し。	12.2	14.3	4.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:赤色 断面:淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	回転ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。 外面底部にスス。
第98図	698	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	口縁端部内湾し丸く収める。陵を持つ。	13.4	14.9	4.6～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	外面:赤茶色 内面:赤茶色 断面:淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	不明	古墳後期	赤彩
第98図	699	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	坏	口縁内湾する。	12.5	13.2	4.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヨコハケ	ヘラケズリ・ハケメ・一部ナデ	古墳時代	
第98図	700	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	坏	やや内湾する。口縁端部ナデ仕上げ。	12.4	13.0	5.5		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ　単位不明瞭	ヘラケズリ・ヨコナデ	古墳後期	
第98図	701	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	土師器	坏	口縁端部内湾し丸く収める。陵を持つ。	13.8	15.0	5.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:淡赤色 内面:赤色 断面:明橙色	やや不良・外面風化している。	ヘラミガキ	不明	古墳後期	赤彩
第98図	702	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	坏	口縁端部内湾し丸く収める。口縁に陵を持つ。	12.4	13.3	5.6		やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	外面:赤色 内面:赤色 断面:淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。 外面底部にスス。

第64表　遺物観察表(31)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第98図	703	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	口縁を折り返す。	14.9	15.1	5.05～	4.4	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:赤色 断面:淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ	古墳後期	全面に赤彩。 外面底部にスス。
第98図	704	CⅦ区	水場	クロ	土師器	坏	口縁端部・ややふくらむ・厚い造り。	15.1	15.5	5.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	黒灰色 断面:淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	タテハケメ・ナデ若しくはミガキ	不明・古墳時代か？	
第98図	705	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	坏	口縁端部丸く収める。	11.6	11.8	5.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:淡茶色 内面:淡黄色	やや不良	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・ゆびおさえ・ヨコナデ	古墳中期～後期	
第98図	706	CⅦ区	水場	クロ下層	土師器	坏	薄造りの浅い坏。	14.8		5.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ハケメ	古墳時代	内面前面にヘラミガキ。
第98図	707	CⅦ区	水場	土器溜り06	土師器	坏	口縁端部肥厚し丸く収める。浅い。	14.1	14.2	3.2		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面:赤色 内面:淡橙色	やや不良・風化している。	不明	ミガキ・ハケメ	古墳中期～後期	外面に赤彩ススス。
第98図	708	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	長い口縁は内傾する。深い坏部を持つ。	12.6	15.4	5.4～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	やや不良・風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	全面にスス吸着。
第98図	709	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏		(14.5)	16.0	4.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第98図	710	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏			11.2	3.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ハケメ・ミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第98図	711	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	長く立ち上がる口縁。深い坏部。	13.0	14.9	5.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳後期	丁寧な造り、全面にスス吸着。
第98図	712	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	深い坏部。ミガキは上部が密。下部は粗。	13.2	15.0	4.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良・風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳後期	口縁端部欠損。
第99図	713	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁内傾し端部丸く収める。	12.8	14.6	5.2	3.6	やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着薄い造り。
第99図	714	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁内傾し端部やや肥厚し丸く収める。	13.0	15.1	3.0～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良・風化している。	ヨコナデ	ヘラケズリ・不明ミガキ残る	古墳後期	全面にスス・ミガキ剥落。
第99図	715	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁内傾し端部丸く収める。	12.5	13.8	3.9～		やや粗	暗灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	716	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	13.4	15.0	5.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	717	CⅦ区	水場	トレンチ3	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部やや先細る。	14.3	15.2	3.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳後期	全面にススほど剥落。
第99図	718	BⅣ区		南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部丸く収める。黒色磨研土器と同様の手方にて作成される。	19.0	19.9	4.5～		やや粗	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。ミガキで定着させる。
第99図	719	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁外反する。	(12.7)	14.0	5.0～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰茶色	やや不良・風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	720	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁直立し長く立ち上げる端部。体部厚い。	14.0	15.8	3.2～		やや粗・少量の砂粒を含む。	暗灰色	良・ただし風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	721	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや外傾し端部丸く収める。	14.6	15.2	4.4～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	不良・風化している。	不明	ヘラケズリ・ハケメ・ミガキ	古墳後期	スス吸着後剥落。
第99図	722	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁外傾し端部丸く収める。強いナデにより口縁と体部を区画。口縁長く立ち上がる。	12.0		2.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	723	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁内傾し端部やや肥厚し丸く収める。	12.5	13.9	3.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶白色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ハケメ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	724	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや内傾し端部丸く収める。	13.8	14.6	4.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	725	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	13.9	14.8	4.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	726	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや内傾し端部丸く収める。	13.8	14.5	4.0～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	727	AⅡ区		3層	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部先細る。	13.3	14.4	3.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	不良・風化している。	不明	不明	古墳後期	風化の為、調整不明。
第99図	728	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁内傾し端部肥厚し丸く収める。	14.4	15.3	2.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス。
第99図	729	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁直立し端部丸く収める。ごく浅い坏。	15.6	16.2	2.7～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	内面にスス吸着外面は不明。

第65表　遺物観察表(32)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第99図	730	CⅦ区	水場	クロ下層	黒色磨研土器	坏	浅い坏部。短い口縁は外反する。	14.2	14.8	3.4～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	731	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	浅い坏部。短い口縁は外反する。	14.2	14.5	3.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	732	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	浅い坏部。短い外反する口縁。	14.0		2.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・不明	古墳後期	風化の為ミガキ剥落。
第99図	733	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや外反し丸く収める。	12.0	12.2	2.8～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	風化の為、調整不明。
第99図	734	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや肥厚。	14.6		4.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良好・ただし風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス付着。
第99図	735	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや内湾し端部やや肥厚し丸く収める。	14.3		5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	黒灰色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	端部:ヨコナデ　体部:ヘラケズリ・不明	古墳後期	全面にスス付着。
第99図	736	CⅦ区	水場	トレンチ3	黒色磨研土器	坏	口縁やや内湾し端部先細る。	12.2		4.0～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	口縁:ヨコナデ　体部:ヘラケズリ・不明	古墳後期	外面のみスス吸着。
第99図	737	CⅦ区	水場	クロ下層	黒色磨研土器	坏	口縁内湾し端部肥厚し丸く収める。蓋模倣品か？	15.6		3.7～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	全面にスス付着。
第99図	738	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁やや外反し端部丸く収める。	13.0		3.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ハケメ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	739	CⅦ区	水場	クロ下層一括	黒色磨研土器	坏	口縁やや外反し端部丸く収める。	14.0	14.2	5.1～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ・ハケメ・不明	古墳後期	全面にスス付着。
第99図	740	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	大きく外反する口縁内側の段はなくなる。	17.6		3.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・不明	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	741	AⅠ区	粘土採取場	D－1	黒色磨研土器	坏	口縁短く直立し端部先細る。	14.4	14.6	4.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	不良・風化している。	不明	不明	古墳後期	風化の為、調整不明外面底に重ね焼きの痕。
第99図	742	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁短く外反し端部丸く収める。	13.5		2.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳後期	風化の為ミガキ剥落。
第99図	743	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	坏	口縁外反し端部丸く収める。ヘラミガキ上部密。下部粗。口縁端部短く立ち上がる。	11.7	11.8	3.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰白色	不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	744	CⅦ区	水場		黒色磨研土器	坏	口縁やや内湾し端部丸く収める。強いナデにより口縁と体部を区画する。	12.6		3.1～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	やや不良・風化している。	ハケによるヨコナデ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	内面スス吸着外面はスス剥落。
第99図	745	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	坏	口縁外反し端部丸く収める。強いヨコナデにより口縁と体部を区画する。	12.8		2.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ハケメ	ヘラケズリ・不明	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	746	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	小型甕	口縁外反し端部丸く収める。	11.8		6.8～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰茶色	不良・風化している。	ヘラケズリ・一部ヘラミガキ	ハケメ・ヘラミガキ	古墳後期	全面にスス付着ほぼ剥落。
第99図	747	BⅣ区		東クロ	黒色磨研土器	不明	端部丸く収める。	9.8		1.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳後期	器種不明の口縁。
第99図	748	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	不明	口縁外反し端部丸く収める。	10.2		3.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	749	BⅣ区		東クロ	黒色磨研土器	高坏	口縁やや外反し端部丸く収める。厚い坏部は中ほどに段の痕跡を残す。	14.3		4.5～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ	古墳後期	全面にスス付着。
第99図	750	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	高坏	短く外反する脚裾。			4.4～	7.0	やや粗・2mm以下の砂粒を含む	淡茶色	良・ただし風化している。	坏:ヘラミガキ 脚:ヘラケズリ・ナデ	坏:ヘラミガキ　脚:タテヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第99図	751	CⅦ区	水場	クロ	黒色磨研土器	高坏	脚は短くふんばる。			5.4～	8.8	粗・2mm程の砂粒を含む。	黒灰色	やや不良・風化している。	坏:ヘラミガキ 脚:ヘラケズリ・ヨコナデか	坏:ヨコヘラミガキ 脚:タテハケメ・タテヘラミガキ	古墳後期	脚中を粘土充填。全面にスス吸着。
第99図	752	CⅦ区	水場	南クロ	黒色磨研土器	高坏	低い脚は裾が若干ひらく。			4.8～	7.2	やや粗・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	やや不良・風化している。	坏:不明 脚:ヨコナデ	坏:不明 脚:タテヘラミガキ	古墳後期	全面にスス吸着。
第100図	753	CⅦ区	水場	クロ	土師器	移動式カマド	口縁外反し端部丸く収める。如意口縁。	24.8		18.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	良	タテヘラケズリ・ヨコヘラケズリ	荒いタテハケメ・ヨコナデ	古墳中期	
第100図	754	CⅦ区	水場	クロ	土師器	移動式カマド	庇付く・風防は付かない。			31.0～	40.0	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良	ヘラケズリ・ハケメ・指押さえ	ヘラキリ・ハケメ・ヨコナデ	古墳中期～後期	
第100図	755	CⅦ区	水場	トレンチ3・南クロ	土師器	移動式カマド	背面に煙出しの小窓造りは丁寧。	煙出し高さ:9.0	煙出し幅:14.0	25.3～	33.8	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ハケメ	古墳中期	内側上部にスス・外側煙出し上にスス。

第66表　遺物観察表(33)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第100図	756	CⅦ区	水場		土師器	土製支脚			10.8	14.2～	10.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	指なで一部ハケメ	古墳中期～後期	全面にスス。
第101図	757	CⅦ区	水場	トレンチ3	須恵器	蓋	口縁外反し端部内側段状に仕上げる。	12.8		2.8～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	758	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	蓋	口縁直立し端部内側に沈線を入れ、段を持つ。	12.7		3.8～		密	灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	強いナデへこむ。一条の沈線一部２重に回る。
第101図	759	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部内側にゆるい段を持つ。	16.2		3.4～		密・少量砂粒を含む。	灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	760	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部内側に段を持つ。	16.3		3.4～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	761	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	蓋	口縁やや内湾し端部内側に段を持つ。	16.2		4.3～		密	暗灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	沈線
第101図	762	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部内側に段を持つ。	16.0		3.0～		密・あまり砂粒を含まない。	青灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	763	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部丸く収める。	13.6		4.6		密・あまり砂粒を含まない。	青灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	764	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部丸く収める。	12.6		2.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	黒灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	強いナデくぼむ。
第101図	765	CⅦ区	水場	トレンチ4	須恵器	蓋	口縁やや直立し端部丸く収める。	14.3		3.0～		密	暗青灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	766	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	12.3		2.3～		密・あまり砂粒を含まない。	淡橙灰色	不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	767	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	蓋若しくは高坏	口縁外反し端部先細る。	15.2		3.3～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	768	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	13.8		3.2～		密・あまり砂粒を含まない。	淡橙灰色	不良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	769	CⅦ区	水場	トレンチ3	須恵器	蓋	口縁端部やや直立し丸く収める。	15.6		3.1～		密・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	770	CⅦ区	水場	クロ下層・クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部丸く収める。	12.0		3.7		密・1mm以下の白色砂粒を含む。	黒灰色	良好	回転ナデ	不明	古墳後期	頂部ふりもの多い。
第101図	771	CⅦ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部先細る。２条の沈線回る。	12.1		3.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	772	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	坏	小さい坏。長い口縁。口縁端部内側に段を持つ。	9.2	11.6	4.2～		密・あまり砂粒を含まない。	青灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	773	CⅦ区	水場	トレンチ3拡張1層	須恵器	坏	深い坏。長く立ち上がる口縁	11.5	13.6	3.5～		やや粗	淡青灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	774	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁外反し端部丸く収める。	9.8	12.0	2.8～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗紫色：外面：深青色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	775	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.3	14.6	2.9～		密・1mm以下の砂粒を含む。	暗青灰色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	776	CⅦ区	水場	西カベ3層	須恵器	坏	口縁内湾し端部先細る。	12.8	15.2	4.5～		密・1mm程の砂粒を含む。	暗紫色：外面：青灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	777	CⅦ区	水場	クロカベ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	11.4	13.6	3.8	3.0	密・1mm程の砂粒を含む。	暗灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	778	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	13.6	16.0	3.8～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	779	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.8	15.2	3.3～		密・あまり砂粒を含まない。	淡青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	780	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	11.5	14.4	2.9～		蜜・あまり砂粒を含まない。	淡灰色 外面：黒	不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	スス付着。
第101図	781	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	坏	口縁端部外反し丸く収める。	11.7	13.6	3.5～		密・1mm程の黒粒を含む。	青灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	782	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁端部外反し丸く収める。	11.2	13.3	3.6		密.黒粒を多く含む。	暗青灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	ヘラおこし後側だけヘラケズリ。
第101図	783	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	11.3	13.7	3.6～		密・1mm程の砂粒を含む。	暗青灰色	堅緻	回転ナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	

第67表　遺物観察表(34)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、№.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第101図	784	CVII区	水場	西カベ④層木左はし南側最下層南	須恵器	坏	口縁直立し端部先細る。	12.3	14.3	3.9		密・あまり砂粒を含まない。	灰白色	不良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	785	CVII区	水場	クロ・南クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.7	14.8	3.9		密	淡灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	786	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁端部外反し丸く収める。	12.0	14.4	2.6～		密・1mm以下の砂粒を多く含む。	紫青色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	787	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	7.8	10.0	2.0～		密・あまり砂粒を含まない。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	788	CVII区	水場	南クロ	須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	12.6	14.4	2.7		密・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	789	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	10.8	13.2	2.1～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第101図	790	CVII区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.4	14.5	3.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を多く含む。	暗青灰色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ・一部不定方行ナデ	古墳後期	
第101図	791	CVII区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。黒粒を多く含む。	11.2	13.0	3.7～		やや粗・2mm以下の黒粒を多く含む。	淡灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	792	CVII区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁短く外反し端部丸く収める。	21.8	24.0	3.7～		やや粗・2mm以下の砂粒を多く含む。	青灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	外面にふりもの。
第101図	793	CVII区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部先細る。	11.9	14.8	3.9～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	794	CVII区	水場	南クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部やや先細る。	14.8	17.4	3.7～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	795	CVII区	水場	クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	15.1	17.6	5.0～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	青灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第101図	796	CVII区	水場	トレンチ3	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	14.9	17.6	5.1		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	ヘラおこし
第101図	797	CVII区	水場	1層	須恵器	坏	口縁短く外反し端部丸く収める。	10.4	12.5	4.0	1.8	密・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色　外面：青灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第102図	798	CVII区	水場	クロ	須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	14.4		4.0～		密	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	799	CVII区	水場	クロ	須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	13.2		3.4～		密	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	800	CVII区	水場	最下層北	須恵器	高坏	外反する口縁・薄い造り	14.6		3.7～		密・あまり砂粒を含まない。	黒灰色 断面：淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	ゆがみ有り。
第102図	801	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	15.2		3.2～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	802	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	高坏	脚部4方向にスカシ入る。			3.8～		密・あまり砂粒を含まない。	灰色	良好	坏：回転ナデ 脚：回転ナデ	坏：回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚：回転ナデ・スカシ	古墳後期	
第102図	803	CVII区	水場	クロ	須恵器	高坏若しくは脚付きの壷か？			16.2	7.9～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡青灰色	良	坏：回転ナデ・不定方向ナデ 脚：回転ナデ	坏：回転ヘラケズリ・回転ナデ・カキメ 脚：回転ナデ	古墳後期	器種不明
第102図	804	CVII区	水場	クロ下層	須恵器	高坏	坏部2条の沈線。			4.0～		普通	淡青灰色	良好	坏：回転ナデ・不定方向ナデ 脚：ナデ	坏：回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚：回転ナデ	古墳後期	
第102図	805	CVII区	水場	クロ・クロ下層	須恵器	有蓋高坏	口縁やや内湾し端部先細る。	11.6	14.8	8.4～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡青灰色	やや不良	坏：ナデ・不定方向ナデ 脚：回転ナデ	坏：回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚：シボリメ・回転ナデ	古墳後期	
第102図	806	CVII区	水場	クロ	須恵器	高坏	坏部1条の沈線途中まで廻る。 脚部2方向スカシ入る。			3.5～		普通	外面：青灰色 内面：明橙色	良	坏：回転ナデ・ヨコナデ 脚：未調整	坏：回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚：回転ナデ	古墳後期	

第68表　遺物観察表(35)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第102図	807	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部折り返し面を持つ。			7.4～	(9.3)	普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色 断面:明橙色	不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	808	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部に面を持つ。			6.2～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	暗灰色	良好・溶着	坏:回転ナデ 脚:シボリメ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	重ね焼き溶着・打ち欠いて使用か？付近に窯跡？
第102図	809	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	長脚部に2条の沈線が廻る。			9.3～		密・あまり砂粒を含まない。	青灰色 断面:暗橙灰色	やや不良	回転ナデ・沈線文	回転ナデ・沈線文	古墳後期	
第102図	810	CⅦ区	水場	クロ・クロ下層	須恵器	高坏	脚部に2条の沈線が廻る。			6.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	暗青色 断面:暗紫灰色	良好	坏:回転ナデ 脚:シボリメ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	811	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	高坏				4.4～		密・1mm以下の砂粒を含む。	暗紫灰色	良好	坏:回転ナデ 脚:ナデ	坏:回転ヘラケズリ・ナデ　脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	812	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	高坏	低脚の高坏。			4.5～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡青灰色	良	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	813	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	高坏	深い坏部。			9.7～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	ゆがみ有り。
第102図	814	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏				3.8～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	淡青灰色	良好	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	815	CⅦ区	水場	カベ・クロ	須恵器	高坏				4.1～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	816	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏				6.1～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	817	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	高坏				3.5～		密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色 断面:淡紫灰色	良好	坏:回転ナデ 脚:シボリメ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	818	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏				7.6～		やや粗・4mm以下の黒色砂粒を含む。	灰白色	不良	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	黒粒を多く含む。
第102図	819	CⅦ区	水場	1層	須恵器	高坏	低脚坏			4.7～		密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	820	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部に面を持つ。			6.5～	9.9	普通・1mm以下の砂粒を含む。	青灰色 断面:暗橙色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	821	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部やや内傾するゆるい面を持つ。			1.9～	15.0	密	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	822	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部に面を持つ。			7.5～	10.2	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗青灰色	良好	坏:不定方向ナデ　脚:回転ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	823	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	低い脚端部に内傾する面を持つ。			4.4～	8.0	普通・あまり砂粒を含まない。	淡紫灰色	良好	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第102図	824	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	高坏	脚端部に内傾する面を持つ。			1.0～	9.8	密	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	825	CⅦ区	水場	1層	須恵器	高坏	脚端部を折り曲げ外傾する面を持つ。			1.8～	13.0	普通・1mm以下の砂粒を含む。	青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	826	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	高坏？	脚端部やや内湾する。			2.3～	9.4	密	淡灰白色	不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第102図	827	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	高坏	脚端部に内傾する面を持つ。薄い器壁。			2.7～	15.0	密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色 断面:淡紫色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	828	CⅦ区	水場	クロ下層	須恵器	甕	沈線で区画された波状文が密に施される。			5.9～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	829	CⅦ区	水場	クロ	須恵器	不明	端部折り返し丸く収める。			3.7～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	830	CⅦ区	水場	トレンチ3	須恵器	甕	口縁端部上下に拡張する。	20.1		4.1～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	831	CⅦ区	水場	南クロ	須恵器	甕	口縁端部面を持つ。	20.8		4.9～		密・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	

第69表　遺物観察表(36)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第103図	832	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	甕	口縁端部折り返す。	16.4		7.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	同心円タタキ	回転ナデ・平行タタキ・ヨコナデ	古墳後期	
第103図	833	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	甕	口縁玉縁状。	16.4		7.6～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良	同心円タタキ・回転ナデ	タタキ・シボリメ	古墳後期	
第103図	834	CⅧ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	甕	口縁丸く収める。	17.7		6.1～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色 断面：明橙色	やや不良	回転ナデ	平行タタキ・ハケメ	古墳後期	
第103図	835	CⅧ区	水場	南クロ	須恵器	不明	円形の物が剥離した痕跡。			1.7～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡灰色	やや不良	不定方向ナデ	タタキ	古墳後期	
第103図	836	CⅧ区	水場	クロ下層	須恵器	不明	口縁やや外反し丸く収める。	9.4		3.0～		普通・あまり砂粒を含まない。	黒灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	837	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	壷	口縁外反し端部内面に面を持つ。	11.3		4.0～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	838	CⅧ区	水場	クロ下層	須恵器	提瓶	口縁端部丸く収める。口縁差込み接合。	7.6		5.2～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	暗青灰色 断面：淡紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	839	CⅧ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	壷	脚端部内側に面を持つ。			4.2～	7.9	密・あまり砂粒を含まない。	淡青灰色 断面：暗紫灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第103図	840	CⅧ区	水場	クロ下層	須恵器	提瓶	退化した把手付く。					普通・1mm以下の砂粒を含む。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第103図	841	CⅧ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	提瓶	退化した把手付く。	6.7	15.7	15.5		普通・あまり砂粒を含まない	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第103図	842	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	ハソウ	口縁端部に面を持つ。2段の波状文。	9.9		1.8～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	843	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	ハソウ	胴中程ヘラケズリ後ナデ・肩部に沈線。			12.2～		密・あまり砂粒を含まない。	暗青色 断面：暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	
第103図	844	CⅧ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	ハソウ	胴下半をケズる・底部ナデる。			6.4～		密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色 断面：淡紫灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・指ナデ	古墳後期	
第103図	845	CⅧ区	水場	南クロ	須恵器	壷若しくはハソウ				6.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第103図	846	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	ハソウ	肩部に沈線入る。			4.3～		密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	堅緻	シボリメ・指おさえ・回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第103図	847	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	短頸壷	口縁端部先細る。肩部に沈線・胴下半にカキメ。	6.6		6.1～		密・1mm以下の砂粒を含む。	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・沈線・ナデ	古墳後期	
第103図	848	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	短頸壷	口縁直立し端部先細る。胴下半にヘラケズリ・肩部に2条の沈線。	6.2		5.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗青灰色 断面：淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ・2条の沈線・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第103図	849	CⅧ区	水場	クロ・南クロ	須恵器	短頸壷	胴下半ヘラケズリ底部平底ぎみ。	(8.4)		10.1～	6.3	密・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第103図	850	CⅧ区	水場	クロ	須恵器	短頸壷	肩部にカキメを施す。			8.6～		密・あまり砂粒を含まない。	暗灰青色 断面：暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・シボリメ	古墳後期	
第103図	851	CⅧ区	水場	1層	須恵器	不明	平たい胴部に突帯貼り付ける。内側に工具不明の施文若しくは調整あり。			2.8～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	不明・ナデ	回転ナデ・突帯貼り付け・ヨコナデ	古墳後期	
第103図	852	CⅧ区	水場	南クロ	須恵器	壷	肩部に沈線で区画された刺突文・工具は二枚貝若しくはクシ状工具。			12.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	ナデ	回転ナデ・シボリメ後施文・ヨコナデ	古墳後期	
第104図	853	BⅣ区	大溝	東・クロ最下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。小さい口縁短く立ち上がる。	16.0		5.0～		やや粗・1mm程の砂粒とウンモを含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－2	外面スス ※高坏と同じ粘土。

第70表　遺物観察表(37)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第104図	854	BV区	大溝	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁複合部短く突出。	15.8		4.4～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	V－4～古墳前期	
第104図	855	BV区・E	大溝	クロ	弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁施文後ナデ。	15.4		5.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	擬凹線文・ナデ	V－2	
第104図	856	BV区・E	大溝	クロ	弥生土器	注口土器	先細らない注ぎ口。	長さ:5.0	幅:2.8	4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ケズリ	ハケメ	弥生後期	外面にスス。
第104図	857	BV区・C	大溝		弥生土器	蓋	頂部くぼむ。	3.3		1.8～		粗・2mm程の砂粒を含む。	暗灰色	不良・風化している。	不明	不明	V－1～2	小型坏類の脚になる可能性あり。
第104図	858	BIV区	大溝	東クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部肥厚し丸く収める。口縁ヨコナデ・陵丸い。	16.8		5.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・刺突文	V－2	外面にスス。
第104図	859	BIV区	大溝	東クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。押引文下方は櫛描直線文になっている。	17.4		6.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	V－2	外面にスス。
第104図	860	BIV区	大溝	東クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。口縁上部と下部にヨコナデ。	25.8		5.6～		やや粗・2mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文・押引文	V－3	外面にスス。
第104図	861	BV区	大溝		弥生土器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部丸く収める。厚い頸部。	20.2		6.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文	V－2	
第104図	862	BV区・D	大溝	クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。	30.1		6.6～		粗・3mm程の砂粒・赤色土粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文	V－2	
第104図	863	BIV区	大溝	東クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し肥厚する口縁中程でナデにより強く折れる。	20.8		8.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良	ヘラケズリ	ヨコナデ・擬凹線文・押引文	V－3	
第104図	864	BIV区	大溝	東クロ最下層	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部内湾する。口縁施文後全体をヨコナデ。	12.6		5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・タテハケメ・擬凹線文	V－3	
第104図	865	BV区・E	大溝	クロ	弥生土器	鼓型器台	施文後ヨコナデにより羽状文を区画。			5.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	不明	波文・ヨコナデ	V－3	内面に赤色顔料。
第104図	866	BV区・E	大溝	クロ	土師器	複合口縁壷	複合口縁直立し口縁端部内側に肥厚。	16.7		8.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ・指おさえ	ヨコナデ	V－4～古墳前期	
第104図	867	BV区	大溝	トレンチ4	弥生土器	注口土器壷	先細る注ぎ口。	長さ:5.5	幅:2.65	6.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ケズリ	不明	V－4	外面にスス。
第104図	868	BIV区	大溝	東クロ・東クロ最下層	土師器	複合口縁壷	複合口縁外傾し口縁端部外側に面を持つ。	17.4		12.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好	ヘラケズリ	ヨコナデ・波状文・ヨコハケメ	古墳前期	口縁端部にスス。
第104図	869	BV区・D	大溝	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部外側に面を持つ。左廻りの施文。	21.4		10.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ハケメ・波状文からクシ描直線文・ヨコナデ	古墳初頭	
第104図	870	BV区・E	大溝	クロ	土師器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部厚い。直口口縁	16.0		7.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ	古墳初頭	内側スス。
第105図	871	BIV区	大溝	東クロ	弥生土器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。左廻りの施文。	30.2		14.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・クシ描直線文	V－4	外面にスス。
第105図	872	BV区	大溝	クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁直立し厚い口縁端部は外側に面を持つ。	27.6		8.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳初頭	外面にスス。
第105図	873	BIV区	大溝	東クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し端部丸く収める。複合口縁退化。	12.4		8.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳中期	外面にスス・口縁内面にスス。
第105図	874	BIV区	大溝	東・クロ最下層	弥生土器	複合口縁甕	端部丸く収める。陵部丸く仕上がる。	17.8		4.4～		粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	V－2～3？	
第105図	875	BIV区	大溝	東クロ	土師器	複合口縁甕	複合口縁外傾し口縁端部水平に面を持つ。 陵部はにぶい。	17.3		8.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	外面:淡桃白色 内面:茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	タテハケメ・ヨコナデ・クシ描直線文・波状文	古墳初頭	外面にスス。
第105図	876	BIV区	大溝	東クロ	土師器	複合口縁甕	内湾する口縁端部内側に面を持つ。	19.3		4.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	良好・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳前期～後期	外面にスス。
第105図	877	BIV区	大溝	東クロ最下層	土師器	複合口縁壷	複合口縁外傾し端部丸く収める。肩が張る。口縁は退化が始まっている。深い竹管文	16.5		7.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメナデ・竹管文	古墳前期	
第105図	878	BIV区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。胴最大径下る。	17.6		15.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	荒いハケメ・ナデ	古墳後期	外面にスス。

第71表　遺物観察表(38)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、№.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第105図	879	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	直口壷	単純口縁外傾し端部丸く収める。やや開く直口縁。	11.1	15.1	8.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ハケメ・ヨコナデ	古墳前期～	外面にスス。
第105図	880	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	壷	竹管文			7.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ハケメ	ハケメ・竹管文	Ⅴ－４～古墳前期	
第105図	881	BⅣ区	大溝	東クロ最下層クロカベ　東クロ	土器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。肩部にヘラ描の線刻画。上下平行線→タテ区画線→中央区画線→付属絵	14.0		10.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・肩部ナデ消し施画・ナデ	Ⅴ－４	水場と大溝の土器が接合。
第106図	882	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	移動式カマド	単純口縁直立し短く外反する口縁。	21.6		8.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	良	ヘラケズリ	荒いハケメ・ヨコナデ	古墳中期～後期	
第106図	883	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。外面ヘラケズリ。	14.2		4.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ・ナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	古墳後期	
第106図	884	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部丸く収める。内側ケズリ痕ナデにより消える。	11.4		10.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	荒いハケメ・ヨコナデ	古墳後期	外面にスス・内面に炭化物。
第106図	885	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁直立し端部丸く収める。	16.7		12.0～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ハケメ・ヨコナデ	古墳中期～後期	外面にスス。
第106図	886	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁外傾し端部先細る。胴部上半部にハケメ密。	21.4		26.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラケズリ	ヘラケズリ・荒いハケメ・ナデ	古墳中期～後期	外面下方にスス・内面に炭化物。
第106図	887	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	単純口縁壷	外傾する口縁。	11.4	13.0	9.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳時代	全面に赤彩。
第106図	888	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	単純口縁甕	単純口縁短く外反する口縁・ナデ肩。	14.0		10.8～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ	ヨコナデ・荒いタテハケメ	古墳後期	外面にスス。
第106図	889	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土器	小型壷	胴部に陵を持つ・丸底。		9.4	6.5～		やや粗・1mm程の砂粒を少量含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	下位:ヘラケズリ 上位:ヨコナデ	下位:ハケメ 上位:ヨコナデ	不明	
第106図	890	BⅤ区・E	大溝	クロ	土師器	小型壷	単純口縁外反し端部丸く収める。雑な造り。	9.8		4.9～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ・ハケメ・ナデ	指押さえ・ハケメ	古墳時代	内外面にスス。
第106図	891	BⅣ区	大溝	東クロ	黒色磨研土器	小型壷	単純口縁外反し端部丸く収める。ヘラミガキ全面に施す。スス全面に付着。	10.3		8.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	黒色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ下部風化のため不明	古墳後期か？	ミガキによりススを器面に定着させている。
第106図	892	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土師器	小型壷	短く外反する口縁・端部丸く収める。	10.4		6.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳後期	外面にスス・内面に炭化物。
第106図	893	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土器	ミニチュア土器	平底を呈す。		5.8	5.5～	2.8	密・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好・ただし風化している。	指ナデ上げ	指押さえ・細いハケメ・ナデ	不明	
第106図	894	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	小型壷	単純口縁外反し端部丸く収める。扁平の壷。	(7.0)	8.3	4.1～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	不明おそらくナデ	ヨコナデ・胴部ナデ若しくはミガキ	古墳時代	
第106図	895	BⅤ区・E	大溝	クロ	土師器	小型壷	単純口縁短く外反する。	5.8		5.6～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・荒いヘラミガキ	口縁:ヨコナデ 胴部:不明おそらくヘラミガキ	古墳時代	
第106図	896	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	短頸壷	短く立ち上がる脚端部。	7.6	13.1	7.7～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡橙茶色	やや不良	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。
第106図	897	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	短頸壷	内湾する短い口縁。	8.8		4.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	指押さえ	ヨコナデ・ヘラミガキ？	弥生末期～古墳前期	外面にスス・外面に赤色顔料・内面に炭化物。
第107図	898	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	低脚坏	小さな脚部。			1.8～	3.8	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	坏:不明 脚:ヨコナデ	坏:不明 脚:ヨコナデ	Ⅴ－４～古墳前期	
第107図	899	BⅣ区	大溝	東クロ	弥生土器	不明	浅くくぼむ。	7.4		1.3～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡赤白色	不良・風化している。	不明	不明	Ⅴ－４	器種不明・天地不明。
第107図	900	BⅣ区		西造成土	弥生土器	高坏	充填された脚。		4.0	9.6		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	不明	不明	弥生後期	
第107図	901	BⅤ区・D	大溝	クロ	弥生土器	高坏	脚短くなる。			7.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	坏:ヘラミガキ 脚:ヘラケズリ	ヘラミガキ	Ⅴ－２～３	
第107図	902	BⅤ区・D	大溝	クロ	弥生土器	高坏	円盤充填			8.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ	ヘラミガキ	Ⅴ－４	
第107図	903	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	高坏	真っ直ぐ開く脚。脚端部を折り返す。	12.0		8.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好・ただし風化している。	坏:ヘラミガキ 脚:ヘラケズリ・荒いヘラミガキ	坏:不明 脚:タテヘラミガキ	古墳後期	外面に赤彩。
第107図	904	BⅣ区	大溝	東クロ	弥生土器	高坏	円盤充填			3.0～		やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	坏:不明　脚:ヘラケズリ	坏:ハケメ 脚:不明	Ⅴ－４	

第72表　遺物観察表(39)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第107図	905	BⅣ区	大溝	東クロ	土器	高坏	端部内傾する面を持つ。脚充填高坏の坏部若しくは脚部。	13.6		1.8～		なめらか・1mm程の砂粒を含む。	乳白色	不良・風化している。	不明	不明	不明	
第107図	906	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	高坏	脚端部丸く収める。丁寧な造り			7.6～	12.7	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良	坏：ヘラミガキ 脚：ヘラミガキ	坏：ヘラミガキ 脚：ヘラミガキ	古墳中期～後期	
第107図	907	BⅣ区	大溝	東クロ	弥生土器	低脚坏				4.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	不明	不明	Ⅴ－4	
第107図	908	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	坏	底部伸びる。口縁やや内湾し端部丸く収める。	7.6		4.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	茶色	良	指押さえ	ヘラケズリ・底部指押さえ	古墳後期か？	
第107図	909	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土器	小型脚付坏	腰の深い坏部と充填された脚部からなる。	7.3		8.0	5.5	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	暗橙茶色	良好	坏：指押さえ・ヨコナデ　脚：指押さえ	坏：ヨコナデ 脚：タテナデ	不明	坏中央に軸痕・脚に指紋付く・外面にスス。
第107図	910	BⅤ区	大溝	トレンチ4	黒色磨研土器	低脚付き坏	短い脚端部丸く収める。			4.5～	5.4	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラミガキ	坏：不明 脚：タテヘラミガキ	古墳後期	全面にスス ミガキにより定着。
第107図	911	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土器	低脚付き坏	大型の脚端部丸く収める。			7.0～	11.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	茶色	良・ただし風化している。	坏：ヘラミガキ 脚：ヘラケズリ	坏：不明　脚：指押さえ・ヨコナデ	不明	
第107図	912	BⅤ区・E	大溝	クロ	土師器	高坏	小さい脚端部丸く収める。深い坏部。			7.0～	7.9	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	坏：不明 脚：指押さえ？ヨコナデ	古墳中期～後期	風化の為、調整不明瞭。脚裏を除く全面に赤彩。
第107図	913	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	高坏	口縁やや外反し端部丸く収める。坏中央よりずれて脚が付く。	16.0		7.4～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	坏：ヘラミガキと思われる　脚：タテヘラミガキ	古墳中期～後期	全面に赤彩。
第107図	914	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	高坏	口縁内湾し端部肥厚し丸く収める。 脚部内湾する。	16.6		13.4	10.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	坏：ヘラミガキ 脚：ヘラケズリ	坏：ヘラケズリ・ナデ？　脚：ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	底部以外全面に赤彩外面磨かない為、顔料の定着が悪い。
第107図	915	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土師器	高坏	口縁ゆるやかに外反し端部丸く収める。	18.7		6.5～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳中期～後期	全面に赤彩。
第107図	916	BⅤ区・E	大溝		土師器	高坏	口縁外反し端部先細る。脚部3方向に穿孔。	18.6		11.1	11.4	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	坏：ミガキ　脚不明	坏：ミガキ 脚：不明	古墳前期	赤彩
第107図	917	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土師器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。短い脚端部丸く収める。大形の坏部は稜を有す	20.7		15.3	10.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	荒いヘラミガキ 脚：ヘラケズリ	坏：荒いハケメ・荒いミガキ 脚：ナデ	古墳後期	脚裏除く全面に赤彩調整は雑。
第107図	918	BⅣ区	大溝	東クロ	弥生土器	鼓型器台	擬凹線文一部ナデ消す。脚端部丸く収める。			14.1～	16.0	やや粗・2mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	受部：ヘラミガキ 筒部：ヘズリ・荒くナデ 脚部：ヘラケズリ	受部：擬凹線文一部ナデ 筒部：ヘラミガキ 脚部：擬凹線文一部ナデ	Ⅴ－3	
第108図	919	BⅤ区・D	大溝	クロ	土師器	坏	口縁やや内湾し端部肥厚する。	15.4		4.8～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期？	外面にスス。
第108図	920	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	鉢	口縁やや内湾し端部丸く収める。上げ底	12.2		5.9	5.8	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・雑なナデ	古墳後期	内面に赤彩か？
第108図	921	BⅣ区	大溝	東クロ最下層	土師器	鉢	口縁やや内湾し端部やや肥厚し丸く収める。腰の深い坏	15.5		6.2		やや粗・1mm程の砂粒含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳後期	外面に稜ヨコナデ全面に赤彩。
第108図	922	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	13.4		5.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	外面にスス。
第108図	923	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	鉢	口縁やや外反し端部ナデる。雑な造り。	14.2		6.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	タテヘラミガキ	荒いハケメ	古墳後期	外面にスス・内面に彩色。
第108図	924	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	鉢	内湾する不整形な口縁。	16.2		7.2～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・荒いナデ	ヘラケズリ・荒いナデ	古墳後期	全面にスス。
第108図	925	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	鉢	内湾気味に立ち上がる厚い口縁。	16.8		8.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・荒いヘラミガキ	古墳中期～後期	口縁端部以外のミガキ粗い・ミガキ後の彩色か？ミガキ部分の顔料落ちている。
第108図	926	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	鉢	内湾する厚い口縁。	17.6	19.2	11.3	2.3	やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶色	やや不良・風化している。	ナデ	荒いハケメ・ナデ	古墳後期	ミガキの代りにナデと荒いハケメを用いる。顔料の定着悪い全面に赤彩。
第108図	927	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	坏	浅い坏・口縁端部若干内側に折り返す。	12.0		4.1	2.0	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・荒いヘラミガキ	不明	全面に彩色か？口縁不整形。

第73表　遺物観察表(40)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第108図	928	BIV区	大溝	東クロ	土師器	坏	口縁外反し端部丸く収める。厚い口縁は段を持つ。	18.0		5.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	古墳中期～後期	
第108図	929	BIV区	大溝	東クロ最下層	土師器	坏	口縁直立し端部肥厚し丸く収める。陵を持つ。	15.0	15.5	5.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳後期	内外面赤彩。
第108図	930	BIV区	大溝	東クロ	土師器	坏	口縁端部外反する。陵を持つ。	13.3	14.3	6.4		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヘラケズリ・丁寧なヘラミガキ	古墳後期	内側底部ヘラで四角囲いに研く・全面に赤彩。
第108図	931	BIV区	大溝	東クロ最下層	土師器	坏	口縁やや内湾し端部丸く収める。陵を持つ。	13.2		4.6～		やや粗・余り砂粒を含まない。	淡茶白色	やや不良	ヘラミガキ	ハケメ・ヘラミガキ	古墳後期	全面に赤彩。
第108図	932	BV区・D	大溝	クロ	土師器	ミニチュア土器	手捏ね	4.4		3.4		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	指押さえ	指押さえ	古墳初頭～中期	口縁端部欠損の可能性有り。
第108図	933	BIV区	大溝	東クロ	土師器	坏	雑な造り。	8.4		4.6		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ	手持ちヘラケズリ	古墳中期～後期	全面に赤彩・風化の為、調整不明瞭。
第108図	934	BV区・D	大溝	クロ	土師器	坏	口縁外反し端部丸く収める。	10.4		4.3		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・指押さえ・ヘラミガキ	手持ちヘラケズリ・タテヘラミガキ	古墳中期～後期	内外赤彩・内外スス。
第108図	935	BV区・E	大溝	クロ	土師器	短頸壷	内湾する短い口縁。坏内面に×印のヘラ記号。	10.0		6.4～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	ヘラミガキ	ヨコナデ若しくはミガキ・ハケメ	古墳後期	底部内面にヘラガキ文・全面に赤彩。
第108図	936	BV区	大溝	トレンチ4	土師器	不明底部	線刻			3.3～	4.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	やや不良・風化している。	ナデ・線刻	不明	V－4～古墳初頭	内面に炭化物。
第108図	937	BIV区		西造成土	土師器	土製支脚				15.7	10.9	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	手捏ね	手捏ね	古墳後期	背面にスス。
第108図	938	BIV区		西造成土	土師器	土製支脚	短い突起。			12.6	9.3	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良	手捏ね	手捏ね	古墳中期～後期	背面にスス。
第109図	939	BIV区	大溝	東クロ	土師器	土製支脚	小型品。突起小さい。			10.5～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	－	ヘラケズリ？	古墳中期～後期	背面に被熱、スス。
第109図	940	BV区・E	大溝	クロ	土師器	土製支脚	短く突出する突起。			11.9～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	前：淡橙色 背：淡茶色	良・ただし風化している。	－	ヘラケズリ・ナデ	古墳中期～後期	全面に被熱・背面にスス。
第109図	941	BIV区	大溝	東クロ	土師器	土製支脚	短頭式			13.4	10.3	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	－	ヘラケズリ？ナデ	古墳中期～後期	
第109図	942	BV区・E	大溝	クロ	土師器	土製支脚	低く前傾する突起。3方にのびる。			13.5	10.8	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ	ヘラケズリ	古墳中期～後期	赤彩
第109図	943	BIV区	大溝	東クロ最下層	土師器	土製支脚	背面に何かを貼り付け痕、剥離痕有り。			12.5	7.8	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	－	指ナデ・指紋残る	古墳中期～後期	
第109図	944	BIV区		西造成土中	土師器	甑		4.8	34.4	24.7	8.4	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	タテハケメ	古墳中期～後期	
第109図	945	BIV区	大溝	東クロ最下層	土師器	甑	２方向穿孔		32.7	19.3～	9.3	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ハケメ	古墳中期～後期	
第110図	946	BIV区	大溝	東クロ	土器	甑形土器若しくは甑	内傾する小さな口縁（天地逆の可能性有り）	8.0		9.6～		粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	荒いヘラケズリ	ヘラミガキ	不明	
第110図	947	BIV区	大溝	東クロ最下層	土器	甑形土器若しくは甑	口縁緩やかに外反・胴部中程でふくらむ。（天地逆の可能性有り）	32.8		30.8～		やや粗・3mm程の砂粒を含む。	淡茶色	良	ヘラケズリ・ヨコハケメ	タテハケメ	不明	内側に炭化物・内側荒いヘラケズリ・剥離痕45度の角度で4ヶ所・把手が付く可能性有り。
第110図	948	BIV区	大溝	東クロ	土師器	甑	口縁緩やかに外反し端部丸く収める。ハケメ後ナデ。	22.8	33.6	18.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	良好	ヘラケズリ	ハケメ・ナデ・口縁ヨコナデ	古墳時代	
第110図	949	BV区	大溝	トレンチ４	土器	羽口		孔径：2.0	長さ：5.5	幅：4.8	厚さ：1.6	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	外面：灰色 内面：橙色	良好・ただし風化している。	－	－	不明	
第110図	950	BV区・C	大溝		土師器	甑	短く突出する把手。	長さ：3.5	幅：2.6	5.3～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙色	やや不良・風化している。	不明	不明	古墳中期～後期	
第110図	951	BV区・B	大溝		土器	円盤型土製品	円ばん状		3.0	厚さ：0.4		やや粗・3mm以下の砂粒を含む。	淡灰白色	不良・風化している。	－	－	V－4～古墳初頭	土器転用
第110図	952	BV区・C	大溝		土器	不明	手捏ね			6.1～		やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	外面：黒色 断：淡灰色	やや不良・風化している。	－	指押さえ・ナデ	不明	土馬の脚と思われるが土器底部の可能性などもある。
第110図	953	BV区・C	大溝		土器	不明	浮文	長さ：3.4	幅：2.1			密・1mm以下の砂粒とウンモを多く含む。	淡茶色	良・ただし風化している。	指押さえ	不明	不明	

第74表　遺物観察表(41)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第111図	954	BV区	大溝	Dクロ Eクロ	土師器	移動式カマド	厚い口縁が短く付く 風防が廻る。			13.0～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ナデ・指押さえ ハケメ	古墳後期	内面にスス。
第111図	955	CⅦ区	水場	南クロ	土師器	移動式カマド		庇長さ: 5.2～		6.1～		やや粗	外面:淡橙白色 内面:暗灰色	良	指押さえ・ヨコナデ	ヘラキリ・指押さえ・ヨコナデ	古墳中期～後期	内側にスス。
第111図	956	BⅣ区	大溝	東クロ	土師器	移動式カマド	焚き口前傾　背面でタテに接合。			19.7～	37.0	やや粗・1mm程の砂粒を少量含む。	淡橙茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ・ナデ	ハケメ	古墳中期～後期	底部ヘラ切り後ナデ。
第111図	957	BV区	大溝	Dクロ Eクロ	土師器	移動式カマド	焚き口前傾。			20.3～	33.0	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	暗茶色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ハケメ	古墳後期	底部ヘラ切りっぱなし。
第112図	958	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋			13.0	3.6～		密・ぼそぼそした感じ	外面:暗灰色 内面:青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	TK47
第112図	959	BⅣ区		西造成土	須恵器	蓋	口縁外反し端部内側ナデによる段。	9.9		3.5～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	肩部に沈線 MT15～TK10。
第112図	960	BⅣ区	大溝	トレンチ5	須恵器	蓋	口縁やや内湾し端部内側に段持つ。天井部面を持つ。	13.6		3.6	7.4	普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	暗灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	961	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部先細る。	13.2		3.7	4.3	密	暗青灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	962	BV区	SD02	A	須恵器	蓋	口縁内湾し端部内側に沈線入る。			2.5～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	TK47並行
第112図	963	BV区		C	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部内側くぼむ。			2.2～		密・1mm以下の黒粒を含む。	淡青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	964	BV区		床土	須恵器	蓋	端部内側ナデによりくぼむ。			2.0～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡紫灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	965	BV区		C	須恵器	蓋	内側に段を持つ。			2.2～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	966	BV区	大溝	Eクロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部内側にくぼむ。	12.8		2.1～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	967	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁外反し端部折り曲げ。天井部ケズリ残す。	13.8		3.9	5.8	密・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	968	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁やや内湾し端部丸く収める。	14.0		3.6～		やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡茶灰色	良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	969	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁やや内湾し端部肥厚し丸く収める。	13.7		4.2～	5.0	密・白色砂粒目立つ。	暗灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	970	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部丸く収める。	13.8		3.9	2.6	密	暗灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	
第112図	971	BⅣ区	大溝	トレンチ5	須恵器	蓋	口縁やや外反し端部丸く収める。ケズリは雑・粘土が固まってから削っている。	13.0		4.5	2.5	密	淡白色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	972	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部先細る。	13.6		4.0	2.7	やや粗・2mm程の白色砂粒を含む。	外面:暗青灰色 内面:暗灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	
第112図	973	BV区	大溝	E	須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	11.8		3.2～		やや粗・1mm以下の砂粒を多く含む。	淡紫灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	974	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。天井部にX字のヘラ記号。	14.3		3.6	4.5	やや粗・2mm以下の砂粒を含む。	暗灰青色	良	回転ナデ・不定方向ナデ	手持ちヘラケズリ	古墳後期	天井部にケズリ残す。
第112図	975	BⅣ区	大溝	トレンチ5	須恵器	蓋	口縁やや内湾し端部丸く収める。	15.0		4.2～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ヘラケズリ・方向不明	古墳後期	
第112図	976	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部肥厚し丸く収める。	13.5		4.0～		やや粗・2mm以下の赤色土粒・黒粒を含む。	乳白色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	手持ちヘラケズリ	古墳後期	
第112図	977	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	18.2		3.4～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	灰白色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	978	BV区	大溝	E	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。肩部強く屈曲し沈線が廻る。	16.4		3.0～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	

第75表　遺物観察表(42)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第112図	979	BⅣ区	大溝	トレンチ4	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	12.5		2.6～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	980	BⅣ区	大溝	東	須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	12.4		3.0～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡紫灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	981	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	蓋	口縁内湾し端部下方へつまみ出す。	16.8		2.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	重ね焼き跡。
第112図	982	BⅤ区		B・C	須恵器	蓋	端部上下に拡張。 ボタン状つまみ付く。			2.3～	14.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	奈良時代	
第112図	983	BⅤ区		B	須恵器	蓋	口縁端部強いナデにより端部上下に拡張。 輪状つまみ付き痕。	14.2	14.7	2.0	6.6	密・あまり砂粒を含まない。	淡灰白色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	984	BⅤ区	大溝	Eクロ	須恵器	坏	口縁直立し端部内側段を持つ。	12.0	13.6	4.0～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	内面:暗紫灰色 外面:暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	TK47並行
第112図	985	BⅤ区		床土	須恵器	坏	口縁内湾し口縁端部つまみ出し。内側くぼむ。	10.8	13.2	3.4～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	TK47並行
第112図	986	BⅤ区		C	須恵器	坏	受部先細る。		12.9	2.5～		密・あまり砂粒を含まない。	青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	987	BⅤ区	大溝	Dクロ	須恵器	坏	口縁直立し端部内側段を持つ。	12.8	14.9	3.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	MT15～TK10並行
第112図	988	BⅣ区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.5	15.1	5.5		密	暗灰色	やや不良	回転ナデ・不定方向ナデ・ヘラ記号	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	※見込みにヘラ記号
第112図	989	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部先細る。受部ナデによる段を持つ。	11.2	13.8	4.0～		密	暗橙灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	薄い造り
第112図	990	BⅣ区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	坏	口縁内湾し端部先細る。中央削り残し・ゆがみあり・雑なケズリ。	12.4	15.0	4.0		密	青灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラおこし	古墳後期	
第112図	991	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏か高坏	口縁直立し端部先細る。	11.2	13.2	2.9～		密	灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	992	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁直立し端部先細る。ケズリ後ナデ。	12.2	14.2	3.5～		密	灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	
第112図	993	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	短い受部。	12.8	14.6	3.3～		やや粗・2mm程の砂粒を含む。	灰白色	やや不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	994	BⅤ区	大溝	Dクロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	12.6	15.6	4.0		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡橙白色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	995	BⅤ区	大溝	トレンチ4	須恵器	坏	長い口縁内湾し端部丸く収める。	12.7	14.8	3.6～		普通・1mm程の砂粒を少量を含む。	灰白色	不良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	996	BⅤ区	粘土採取溝－02	A	須恵器	坏	口縁直立し端部外反する。	13.7	15.4	2.9～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	997	BⅤ区	大溝	D	須恵器	坏	口縁やや内湾し端部先細る。	12.0		3.2		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	998	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁外反し端部丸く収める。	11.6	14.0	4.2		密	青灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ後ヘラおこし	古墳後期	
第112図	999	BⅤ区		A床土上	須恵器	坏	口縁外反し端部丸く収める。	13.7	15.4	2.7～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	暗紫灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第112図	1000	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	10.2	12.1	3.5～		密	灰白色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	高坏？
第112図	1001	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	10.3	12.5	4.6		密	青灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期	
第112図	1002	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	10.5	12.4	3.4		密・あまり砂粒を含まない。	外面:カーボン　内面:黄白色	不良	回転ナデ・工具あと	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第112図	1003	BⅤ区	大溝	トレンチ1	須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	9.7	11.4	3.6～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	

第76表　遺物観察表(43)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第113図	1004	BV区	大溝	Eクロ	須恵器	有蓋高坏	カキメ後4方向スカシ・口縁端部くぼむ。	11.2		9.7	9.4	密・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良好	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ・回転ヘラケズリ 脚:回転ナデ・カキメ	古墳後期	TK47並行
第113図	1005	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	腰部明瞭に屈曲する。		9.7			密	暗青灰色 断面:セピア	堅緻	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第113図	1006	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	12.0		3.0～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第113図	1007	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	12.2		3.7～		やや粗・1mm程の砂粒を多く含む。	暗青灰色	良	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第113図	1008	BV区		B	須恵器	蓋	口縁外反し端部折り曲げ。小型の蓋	8.1		2.7～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第113図	1009	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	不明	口縁外反し端部丸く収める。外反しながらのびる口縁、端部が屈曲する。	13.9		2.6～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を多く含む。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1010	BIV区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	高坏	口縁内湾し端部丸く収める。	14.9		11.0	11.5	普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	ゆがみ有り。
第113図	1011	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏				7.4～		密	暗灰色	良好	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1012	BV区	ASD01		須恵器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	16.1		5.2～		普通・1mm以下の黒粒を含む。	淡青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1013	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏				6.4～		普通	黒灰色	良好	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第113図	1014	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	脚端部面を持つ。脚裾上に沈線が廻る。			5.9～	9.6	密	淡灰白色	不良	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	退化し、だれた造り。
第113図	1015	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	脚端部面を持つ。			5.6～	10.5	密	灰白色	不良	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ヘラケズリ・回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第113図	1016	BIV区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	高坏	口縁丸く収める。脚裾なだらかに開く。			8.2～	13.8	密	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1017	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	高坏	脚端部丸く収める。	10.0				密・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1018	BIV区・西	P２		須恵器	高坏	１条の沈線廻る。			5.1～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡青灰色	やや不良	坏:回転ナデ・不定方向ナデ 脚:回転ナデ	坏:回転ナデ 脚:回転ナデ	古墳後期	
第113図	1019	BV区		A土床上	須恵器	高坏	脚端部面を持つ。スカシ入る。			5.1～	9.8	普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰白色	不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1020	BV区	トレンチ1		須恵器	高坏	脚端部面直立する。スカシ入る。	9.0		1.9～		普通・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1021	BV区	第１・第２造成土塊		須恵器	高坏	脚端部面直立する。小型の脚。			3.1～	10.8	密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1022	BIV区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	高坏	2条の沈線スカシ入る。			4.7～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1023	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	坏	見込みに「群」とヘラガキ。	15.6		5.7	9.2	密・あまり砂粒を含まない。	明茶赤色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	奈良時代	静止糸切り後外周を回転ヘラケズリ。
第113図	1024	BV区		床土	須恵器	坏	口縁やや外反し端部先細る。	18.1		5.7～		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	平安時代	高台付き底部糸切り。
第113図	1025	BIV区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	高坏若しくは坏	口縁外反し端部先細る。	14.2		5.1～		密・1mm以下の白色砂粒を含む。	黒灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第113図	1026	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	不明	口縁端部先細る。	13.4		4.1～		密・1mm以下の白色砂粒を含む。	黒灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期？	
第113図	1027	BV区	第１・第２造成土塊		須恵器	壷				1.5～	5.8	やや粗・1mm程の白色砂粒を多く含む。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ？	古墳後期	
第113図	1028	BV区		床土	須恵器	坏	高台内側に面を持つ。			1.4～	8.8	普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡灰白色	不良・風化している。	回転ナデ	不明	奈良時代	
第113図	1029	BIV区		西第１床土	須恵器	坏	高台内側に面を持つ。			1.5～	10.0	密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ヘラキリ	奈良時代	

第77表　遺物観察表(44)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第113図	1030	BV区・C	大溝		須恵器	坏	高台外側に面を持つ。			1.4～	9.0	やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	ヘラキリ・回転ナギ	奈良時代	
第113図	1031	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	坏	底部外周をケズる。			1.5～	6.1	やや粗・1mm程の黒粒を含む。	淡灰色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・糸切り・回転ヘラケズリ	8C後半～9C	
第113図	1032	BIV区	大溝		須恵器	坏				1.7～	6.5	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	平安時代	ろくろ回転R。
第114図	1033	BIV区		A床土上	須恵器	長頸壷	5条の沈線。			11.3～		密・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1034	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	短頸壷	口縁直立し端部先細る。	7.8	13.3	9.8～		密・あまり砂粒を含まない。	黒灰色 断面:淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	底部はじけスス付着ている。
第114図	1035	BV区	大溝	Eクロ	須恵器	短頸壷	口縁外反し端部先細る。	5.8		2.6～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1036	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	壷類						密	暗灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	内側にケズリくず付着。
第114図	1037	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	不明	口縁外反し端部水平に面を持つ。	7.4		4.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡茶白色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期か？	
第114図	1038	BIV区	大溝	トレンチ5	須恵器	短頸壷	口縁外反し端部丸く収める。	7.7	10.1	5.2～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	暗青灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第114図	1039	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	不明	内傾する口縁中ほどに2条の沈線。	12.7		4.3～		密・1mm以下の少量の砂粒を含む。	淡灰白色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1040	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	ハソウ	口縁外反し端部丸く収める。	12.7		15.9		密・あまり砂粒を含まない。	黒灰色 断面:青灰色	良好	シボリメ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第114図	1041	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	ハソウ				8.3～		密	淡灰色	良好	回転ナデ	カキメ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	自然釉(緑)
第114図	1042	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	ハソウ	口縁部太い沈線廻る。			14.4～		密・若干3mm程のレキを含む。	淡灰色	良好	シボリメ・回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第114図	1043	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	壷	高台端部面を持ちくぼむ。			4.3～	8.3	密	暗青灰色	良好	回転ナデ？	回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第114図	1044	BIV区	大溝	東クロ・最下層	須恵器	提瓶	口縁内湾し端部丸く収める。 退化する把手。	左:6.8 右:6.5		左:24.5 右:24.5		密	淡灰色	良好	回転ナデ・指押さえ	回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第114図	1045	BIV区	大溝	東クロ	須恵器		口縁外反し端部丸く収める。	7.2		2.8～		密・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1046	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	提瓶	口縁内湾し端部丸く収める。	5.8		4.4～		密・1mm以下の少量の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1047	BV区		B	須恵器	提瓶	把手			直径1.5～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	手捏ね	手捏ね	古墳後期	
第114図	1048	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	平瓶	口縁外反し端部つまみ出す。 底部カキメ。	10.3		15.1		密・あまり砂粒を含まない。	外面:暗青灰色 断面:セピア	良好	回転ナデ	タタキ・回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第114図	1049	BIV区	大溝	東クロ	須恵器	紡錘車		(上幅) 2.8		2.5	4.0	密・1mm以下の砂粒を含む。	暗灰色	良好	－	ヘラケズリ・タテヘラミガキ	古墳後期	
第114図	1050	BV区		A	須恵器	ハソウ	2条の沈線で波状文を区画する。			4.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1051	BV区		B	須恵器	甕	外面に沈線入る。			3.1～		密・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	普通	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1052	BIV区		西造成土	須恵器	甕	口縁外面帯状に肥厚。	26.0		2.3～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	

第78表　遺物観察表(45)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第114図	1053	BⅤ区・E	大溝	クロ	須恵器	甕	口縁玉縁状	16.5		4.3～		密・あまり砂粒を含まない。	外面:暗青灰色 断面:暗橙色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第114図	1054	BⅣ区	大溝	東クロ	須恵器	甕	口縁端部外側に面を持つ。			3.4～	15.9	やや粗・1mm程の白色砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第115図	1055	A区	粘土採取場		弥生土器	注口土器	細る注ぎ口。	長さ:6.9	幅:2.8			やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡黄色	やや不良・風化している。	―	手捏ね	弥生末期	
第115図	1056	A区	粘土採取場		土師器	甑	口縁外反し端部丸く収める。胴部下方に穿孔。	21.7	30.0	21.1	4.7	やや粗・あまり砂粒を含まない。	明橙色	やや不良・風化している。	不明おそらくヘラケズリ	ハケメ・把手手捏ね	古墳中期～後期	把手が左右非対称に付く。
第115図	1057	A区	粘土採取場	3層	土師器	単純口縁甕	口縁ゆがみ有り。	17.5	26.8	16.6～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	明橙色	やや不良・風化している。	ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	古墳中期	外面にスス。
第115図	1058	AⅠ区	粘土採取場		土師器	高坏	口縁外反し端部丸く収める。	20.2		4.6～		やや粗・あまり砂含まず・赤色土少し含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第115図	1059	AⅠ区	粘土採取場	上層	須恵器	蓋	口縁内湾し端部つまみ出す。	12.0	12.4	2.6～		密・あまり砂粒を含まない。	灰白色	不良・風化している。	回転ナデ	回転ヘラケズリ	古墳後期	
第115図	1060	A区	粘土採取場	上層	須恵器	蓋	口縁端部を軽くつまみ出す。	12.8		2.7～		密・少量の白色の砂粒を含む。	淡青灰色	普通	回転ナデ	―	古墳後期	
第115図	1061	AⅡ区	粘土採取場－2	No.1～4	須恵器	甕	短く外傾する口縁端部に面を持つ。	22.2	32.4	32.8		密・あまり砂粒を含まない。	灰白色	不良・風化している。	同心円タタキ	平行タタキ・上部ヨコカキメ	古墳後期	内側に円形のサビ痕付着　外側にも一部染み出ている。
第116図	1062	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁端部段を持つ。肩部沈線による段を持つ。	13.4		3.4～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ	古墳後期	
第116図	1063	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁端部強いナデくぼむ。	11.0		2.6～		普通・あまり砂粒を含まない。	外面:黒灰色 内面:淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1064	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。底部静止糸きり。	13.7		4.0	7.0	普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	静止糸きり・外側のみ回転ヘラケケズリ	奈良～平安	
第116図	1065	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	13.0		2.9～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1066	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。扁平で大型の蓋。	20.3		3.4		やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第116図	1067	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁直立し端部丸く収める。外側に陵を持つ。	15.2		2.9～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1068	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	13.9		2.8～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を少量含む。	黒灰色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1069	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	14.3		3.9		やや粗・1mm程の白色砂粒を多く含む。	外面:青灰色 内面:暗紫灰色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	未調整	古墳後期	
第116図	1070	A区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁外反し端部丸く収める。	14.0		4.1	5.0	密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第116図	1071	A区	粘土採取場－1		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	14.0		2.3～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1072	AⅡ区	粘土採取場		須恵器	蓋	口縁内湾し端部丸く収める。	13.8		4.0～		普通・1mm以下の白色砂粒を少量含む。	外面:青灰色 内面:暗紫灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1073	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁直立し端部面を持つ。	10.8	12.7	4.9～		やや粗・1mm以下の黒砂粒を含む。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ・カキメ	古墳後期	
第116図	1074	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁強く外反し端部折り曲げ。	12.4	14.4	4.0～		普通・1mm以下の白色砂粒を含む。	灰白色	不良・風化している。	不明	不明	古墳後期	
第116図	1075	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	12.0	14.0	3.6		普通・あまり砂粒を含まない。	暗青灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ？	古墳後期	
第116図	1076	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	13.1	15.0	3.2～		密・あまり砂粒を含まない。	暗紫灰色	良好	回転ナデ	ふり物の為、不明	古墳後期	
第116図	1077	AⅠ区	竪穴住居09		須恵器	坏か高坏	口縁内湾し端部丸く収める。	11.4	13.4	2.8～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1078	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。	11.2	13.8	3.3～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡紫橙色	不良	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	

第79表　遺物観察表(46)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第116図	1079	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁直立し端部丸く収める。	11.9	13.8	4.2		やや粗・1mm程の白色砂粒を含む。	灰白色	不良・風化している。	回転ナデ・不定方向ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第116図	1080	A区	粘土採取場		須恵器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。小型の坏。	9.4	11.2	3.2～		粗・1mm程の砂粒を含む。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ・回転ヘラケズリ	古墳後期	
第116図	1081	A区	粘土採取場		須恵器	不明	口縁中ほどに突帯を廻らせ波状文を施文。	8.8		3.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1082	A区	粘土採取場		須恵器	高坏	口縁端部丸く収める。	13.7		3.8～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1083	A区	粘土採取場		須恵器	高坏？	口縁外反し端部丸く収める。	15.2		3.3～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期？	
第116図	1084	A区	粘土採取場		須恵器	高坏	脚端部下方へつまみ出す。			5.6～	8.4	普通・1mm以下の白色砂粒を多く含む。	淡灰色	良	坏：不定方向ナデ 脚：回転ナデ	坏：回転ナデ 脚：回転ナデ	古墳後期	
第116図	1085	A区	粘土採取場		須恵器	高坏	脚端部下方へつまみ出す。			6.0～	9.0	密・1mm以下の黒粒を含む。	淡灰色	良	坏：回転ナデ・不定方向ナデ 脚：回転ナデ	坏：回転ヘラケズリ 脚：回転ナデ	古墳後期	
第116図	1086	AⅡ区	粘土採取場	トレンチ1上層	須恵器	横瓶				19.3～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を含む。	淡灰色	良	同心円タタキ・部分的にナデ	タタキ	古墳後期	
第116図	1087	AⅡ区	粘土採取場	2層	須恵器	甕	口縁端部折り返す。 口縁外面に3条の沈線で区画された斜行文。	27.6		7.2～		普通・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期	
第116図	1088	A区	粘土採取場		須恵器	甕	口縁外反し端部玉縁。	16.6		4.8～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	不良・風化している。	不明	不明	古墳後期	
第116図	1089	A区	粘土採取場		須恵器	甕	口縁外反し端部に面を持つ。	16.5		8.8～		やや粗・1mm以下の白色砂粒を含む。	内面：暗紫灰色 外面：暗青灰色	不良	回転ナデ	回転ナデ・カキメ	古墳後期	
第116図	1090	AⅠ区	粘土採取場	4層	須恵器	壷？	3条の沈線。			4.2～		やや粗・あまり砂粒を含まない。	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	不明	
第116図	1091	A区	粘土採取場		須恵器	不明	底部静止糸切り。			3.2～		普通・1mm以下の黒粒を含む。	淡灰色	不良	不明	静止糸切り	奈良～平安	
第116図	1092	A区	粘土採取場		須恵器	不明	縦方向に面取りを行い、丁寧に仕上げた把手。	把手長さ：5.0～	把手幅：2.0	8.6～		密・1mm以下の白色砂粒を少量含む。	淡灰色	堅緻	回転ナデ	回転ヘラケズリ・ナデ	古墳後期？	
第117図	1093	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	口縁端部丸く収める。	15.2		1.9～		密・あまり砂粒を含まない。	淡橙色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	内面にスス。
第117図	1094	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	口縁端部先細る。	11.9		2.4～		なめらか・あまり砂粒を含まない。	淡茶白色	不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	
第117図	1095	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	回転糸切り。			2.4～	5.3	なめらか・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶色	不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世後期	胎土精製・内面にスス。
第117図	1096	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	回転糸切り。			1.4～	3.7	粗・3mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡赤白色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世前期	
第117図	1097	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	回転糸切り。			1.5～	4.6	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	淡橙白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世前期	
第117図	1098	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	口縁端部丸く収める。	13.5		4.6～		密・1mm以下の砂粒を含む。	暗橙茶色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	
第117図	1099	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	口縁端部先細る。	13.9		3.6～		密・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶橙色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世前期？	
第117図	1100	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	高台付			1.7～	6.0	やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	乳白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り？	中世前期	
第117図	1101	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	高台状・溝状にくぼむ・ヘラ状工具によるおこしか？			1.7～	6.2	密・1mm以下の砂粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	
第117図	1102	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏				2.1～	5.7	粗・2mm程の砂粒を含む。	淡橙茶色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世	内面にスス若しくは墨。
第117図	1103	AⅠ区	段状遺構04		土師器	坏				2.6～	5.4	密・1mm以下の砂粒を含む。	明赤橙色	不良・風化している。	不明	不明	中世	

第80表　遺物観察表(47)

挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	種別	器種	特徴	口径	最大径	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第117図	1104	AⅠ区	段状遺構04	2	中世土師器	坏	回転糸切り			1.2～	5.5	密・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良好・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世	
第117図	1105	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏				1.4～	5.6	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡茶白色	不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世	ろくろL
第117図	1106	AⅠ区	段状遺構04	5	中世土師器	坏				1.9～	4.0	密・1mm以下の砂粒を含む。	淡茶白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世前期	ろくろL
第117図	1107	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏				1.4～	6.2	やや粗・1mm以下の砂粒を含む。	白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世前期	ろくろL
第117図	1108	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	回転糸切り			2.1～	3.3	密・あまり砂粒を含まない。	淡茶白色	良好・ただし風化している。	不明	不明	中世	
第117図	1109	AⅠ区	段状遺構03		中世土師器	坏	回転糸切り			1.6～	6.0	やや粗・1mm以下の砂粒と赤色土粒を含む。	淡黄白色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世前期	
第117図	1110	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	回転糸切り			1.0～	4.6	やや粗・1mm程の砂粒を含む。	淡橙色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世	
第117図	1111	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	小型皿。回転糸切り。	8.0		1.9	3.5	密・1mm程の赤色土粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世	
第117図	1112	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	口縁端部肥厚し丸く収める。小型皿？	10.0		1.3～		なめらか・赤色土砂を含む。	淡茶橙色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	
第117図	1113	AⅠ区	段状遺構04		中世土師器	坏	口縁端部肥厚し丸く収める。			1.4～		密・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ	中世	
第117図	1114	AⅡ区	SB01	床面　焼土中	陶磁器	青磁埦	口縁外反し端部丸く収める。	16.7		7.1	5.7	密	外面:オリーブドライ(釉) 断面:灰白色(胎土)	良好	片彫り割花文 見込に花文	坏部にヘラケズリ 底部に回転糸切り	12世紀中～後半	龍泉窯系Ⅰ-4b
第117図	1115	AⅡ区	SB01	P1	中世土師器	坏	真っ直ぐ外傾する体部。			2.3～	5.5	やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世後期	風化の為ろくろ方向不明。
第117図	1116	AⅡ区	SB01	ベルト1 サブトレンチ	中世土師器	坏				1.4～	5.2	やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世後期	風化の為ろくろ方向不明。
第117図	1117	AⅡ区	SB01	床面	中世土師器	坏	口縁内湾し端部丸く収める。小型の坏	7.8		1.9	5.3	やや粗・あまり砂粒を含まない。	暗橙色	不良・風化している。	回転ナデ	回転糸切り	中世後期	風化の為ろくろ方向不明。
第117図	1118	AⅡ区	SB01	北・床面・焼土面	鉄器	鉄鏃		全長:9.5～	鏃身幅:7.0～	頸部長:2.5～								二又鏃 櫛被付し。
第117図	1119	AⅡ区	SB01	焼土面	石製品	石鍋	温石に転用　全面に渡りタテ方向ハツリ。	長さ:4.2	幅:6.0	1.0			灰色	２次的に被熱。		ミガキ・穿孔・ハツリ	中世	
第117図	1120	AⅠ区		3層	中世土師器	埦	口縁真直ぐ外傾し端部つまみ出す。	11.9		4.0	5.6	なめらか・砂粒を含まない。	淡茶色	不良	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	中世前期	ろくろL。
第117図	1121	AⅡ区	新ミゾ		中世土師器	柱状高台坏				2.3～	9.2	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	明橙色	不良・風化している。	不明	不明	中世後期	
第117図	1122	AⅠ区	P290		中世土師器	坏	厚手の底部。			2.3～	5.8	やや粗・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	淡黄白色	やや不良・風化している。	回転ナデ	回転ナデ・底部不明	中世前期	
第117図	1123	CⅦ区		トレンチ3	中世土師器	小型坏	口縁内湾し端部丸く収める。	6.9		1.7	3.6	密・1mm以下の砂粒を含む。	明橙色	良・ただし風化している。	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	中世後期	ろくろL。
第117図	1124	AⅠ区		2層	中世土師器	坏	口縁外反し端部肥厚する。浅い坏	7.6		1.7	3.8	密・1mm程の砂粒と赤色土粒を含む。	明橙色	不良	回転ナデ	回転ナデ・底部不明	中世後期	
第117図	1125	BⅣ区		東クロ	中世土師器	甕	口縁外反し端部をつまみ出す。	18.1		4.1～		粗・1mm程の砂粒を含む。	内面:黒灰色 外面:暗茶色	不良・内面剥離	口縁:ヨコナデ 胴:剥離の為不明	ヨコナデ　平行タタキ(粗)	中世か？	外面にスス。
第117図	1126	BⅣ区		東クロ	中世土師器	甕	平底			2.8～	10.4	粗・5mm程の小石を含む。	内面:淡茶白色 外面:黒灰色	不良・風化している。	ナデ	胴:平行タタキ 底:格子タタキ・ヨコナデ	中世か？	
第117図	1127	CⅦ区		トレンチ3 拡張1層	石製品	石鍋		25.6		6.1～			灰色		荒割り	ミガキ	中世	

第81表　木製品観察表(1)

挿図番号	遺物No.	樹種	調査区	遺構名	層位	取上げNo.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	大分類	中分類	小分類	メモ	備考
第118図	W1	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		24.8	2.8	1.1	不明品	不明品	不明品	中央に陵・端部加工	
第118図	W2	広葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		33.0	直径:約3.5		杭材				自然木の先端の自然面を残し大きく3面切断して杭にする。
第118図	W3	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		42.8以上	4.9以上	3.0	杭材			角材	元は台形状か？
第118図	W4	不明	BⅣ区	大溝	東クロ		51.5	9.2以上	1.3	農具	耕起具	ナスビ形曲柄平鍬	D1類	
第118図	W5	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		21.7	15.8	2.6	不明品	板状	その他		
第118図	W6	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		14.9以上	8.4	3.2	不明品	その他		アカ取り？スギ	
第118図	W7	不明	BⅣ区	大溝	東クロ最下層		27.0	笠部: 15.6×24.3 厚さ:8.2	軸部:長さ 18.8×6.3×72の柱 長方形の形	接合補助材	栓もしくは楔			
第118図	W8	不明	BⅣ区	大溝	東クロ最下層		22.8以上	直径:4.7		不明品				内部くりぬき。
第118図	W9	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		約73.5	約7	約2.3	不明品	板材		抉り	2ヶ所　長さ12.9cm幅0.6cm柱の斜めの凹みがある。抉りかは不明。
第118図	W10	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		21.8	8.8以上	1～1.7	装着具	下駄			歯:長さ4.1cm高さ3.7cm幅8.3cm
第118図	W11	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		23.3	9.3	歯:長さ6.2 高さ:3.8　幅:9.7	装着具	下駄		5ヶ所の穿孔を確認	木栓残る直径0.9×長さ2.7cm
第118図	W12	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		18.9	17.6	0.6	容器	曲物	曲物底板	ヒノキ属	周縁部平坦　2孔4箇所で結合
第118図	W13	不明	BⅣ区	大溝	東クロ		7.9	4.9	1.7	用途不明品				くりこみ:2.9×2.1cm
第118図	W14	広葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		5.9他に3つあり			接合補助材	樹皮巻		桜の皮	
第118図	W15	不明	BⅣ区	大溝			4.1以上	3.2	1.2	不明品	その他			3ヶ所に径0.3～0.6cmの穴をあける。内外面、側面の一部に漆？(内:黒　外:赤＋黒)木目は細かい。
第119図	W16	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		100.0	26.6	最大:2.3 中心:1.3	建築部材	壁材	板壁板		
第119図	W17	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ	18	約75.5	約22	約2.5	建築部材	壁材	板壁板		
第119図	W18	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ	31	47.7	12.6	1.9	建築部材	壁材	板壁板	三箇所穿孔.繊維痕	壁受け材か？
第119図	W19	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		15以上	12.5	1.5	不明品	板状			
第119図	W20	針葉樹	BⅣ区	大溝	クロ	19	34.5以上	5.2	1.8	不明品	有孔棒			柄穴:2.5×1cm
第119図	W21	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		約44.5	約2.1	約2.1	不明品	棒状	有頭棒	垂木形だが小型	ケズリで突起を作る。
第119図	W22	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		91.0	7.7	2.5～3	建築部材	壁材	板壁板		
第119図	W23	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		115.7	約6.5	約4.5	建築部材	不明建築部材	その他	枘穴有り	方形のほぞ穴:長さ7.9×幅2.9cm
第119図	W24	不明	BⅣ区	大溝	東クロ		24.5	直径:約5		杭材				自然木の枝を4ヶ所ある節部分の枝を切断し先端を自然面を、残しながら3面切断して杭にする。
第120図	W25	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ	22	約166.5	約13.5	約2.5	建築部材	壁材	板壁板	片側片切.片側鉤型.一箇所丸穴	穴:5.5×4.8cm
第120図	W26	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ	30	37.3	8.3	3.4	建築部材	不明建築部材		大きく抉り有り	
第120図	W27	広葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		160以上	直径最大:4.3		不明品	その他		壁木舞か？	自然木(表皮節が残る)の先端を1面カットして杭？にする。
第120図	W28	針葉樹	CⅧ区	水場	東クロ	42	89.6	約7	約3.4	不明品	その他		鉤型.大型品	3箇所穴貫通。3.5×0.5cm
第120図	W29	針葉樹	BⅣ区	大溝	東クロ		108.5	9.0	4.2	不明品	板状	その他	穿孔有り	長方形の板材ではない可能性がある。台形状
第120図	W30	針葉樹	B区	大溝	*		約129.5	約7	約2.1	建築部材	壁材	板壁板		

第82表　木製品観察表(2)

挿図番号	遺物No.	樹種	調査区	遺構名	層位	取上げNo.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	大分類	中分類	小分類	メモ	備考
第120図	W31	針葉樹	B区	大溝	*		約127.3	約2.9	約1.8	不明品	棒状	その他		木目にそって剥離している為、形が直線的にみえる。(加工したものではない？
第121図	W32	針葉樹	B区	大溝	*		約11.9	約5	2.6以上	建築部材	屋根構造材	垂木		全体的に劣化している。断面長方形の角材か？　両端がやや細くなる。
第121図	W33	針葉樹	B区	大溝	*		約21.5	11.0	約8.7	建築部材	柱材	竪穴住居用	枘有り.切断	試料番号503
第121図	W34	広葉樹	B区	大溝	*		41.0	直径:4.8		杭材				自然木の先端を4面切断して杭にする。(自然面は先端は残らず)
第121図	W35	針葉樹	BV区	ﾄﾚﾝﾁ25	青灰色粘土質層		23.6以上	20.5以上	2.3	食事具	杓子状木製品	横杓子？		浅くくぼむ
第121図	W36	針葉樹	BV区	大溝		8	27.2	11.0	17.0	不明品	その他		穿孔有り	
第121図	W37	針葉樹	BV区	大溝		12	76.0	8.9以上	約1.9	不明品	板材	その他	透かし.樋.3箇所抉り有り	
第121図	W38	針葉樹	BV区	大溝		20	63.1	9.5	1.9	建築部材	壁材	板壁板	片側剣形.枘穴有り	焦げ目有り
第121図	W39	針葉樹	BV区	大溝		7	68.6	3.0	1.2	建築部材	壁材	板壁板	先尖	
第121図	W40	針葉樹	BV区	粘土採取溝-01			49.5以上	11.0	1.0 L字部分:10.0	不明品			断面Ｌ字	
第121図	W41	針葉樹	BV区	大溝			48.5	14.0	1.1～3.4	農具	作業台			作業台か？平坦な台の面に4×0.2cm程の傷(断面波状)が残る下台か？　脚らしき台も作り出されているが、方形にはならない。
第121図	W42	針葉樹	BV区	大溝		36	36.8	4.5	1.3～1.8	不明品	板状	その他		
第122図	W43	針葉樹	BV区	大溝		28	136.4	16.3	最大:3.5	建築部材	扉口装置	蹴放し材		
第122図	W44	針葉樹	BV区	大溝		19	約108	約11.5	約6	建築部材	水平構造材	掘建柱建物用水平構造材		方形の柱材か？
第122図	W45	針葉樹	BV区	大溝	クロ	1･2･3	122.5	12.4	5.1	不明品	その他		未製品？スギ	
第122図	W46	針葉樹	BV区	大溝		6	134.0	18.5	11.5	建築部材	水平構造材	掘建柱建物用水平構造材	床材？	方形の柱の可能性。柄欠の可能性のある場所が2ヶ所あるが長方形状にならず、内抉り状になる。自然の可能性もあり(木目にそって割れた。)
第122図	W47	不明	CⅦ区	水場	最下層北		33.5以上	15.4	1.7　最大:6.8	容器	刳物	槽		
第122図	W48	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層北		33.2以上	10.5	0.6　最大:2.3	容器	刳物	桶	穿孔.一部先尖	
第122図	W49	針葉樹	CⅦ区	水場	クロ		10以上	1.6～2.1	0.9	不明品	不明	不明	２ヶ所抉り有り	
第123図	W50	針葉樹	CⅦ区	水場	北レキ層		122.5	5.5	4.0	不明品	その他		三箇所穿孔	角材か？貫通する小穴約6mm.
第123図	W51	針葉樹	CⅦ区	水場	クロ下層		68.4以上	直径:約24		不明品	棒状	先尖棒		先端は、尖らせてはいない可能性有り
第123図	W52	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層.北		53.8	5.4	4.5	不明品	棒状	その他		切断面:焦げ目がある。
第123図	W53	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層.西壁		約24	約17.2	約2.2	不明品	板状	その他		
第123図	W54	針葉樹	CⅦ区	水場	地山		15.2	約7.6	最大:8.3 中心:2.7	不明品	その他		突起有り	
第123図	W55	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層.足場		64.1	8.0	1.2	不明品	板状	その他		
第123図	W56	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層.足場		62.0	10.0	0.8	不明品	板状	その他		
第123図	W57	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層.足場		50.4	4.9	1.1	不明品	その他		抉り有り	
第123図	W58	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層足場	足場1	128.4	16.9	1.6	不明品	板状	その他		
第124図	W59	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層足場	足場2	111.1	7.4	2.0	建築部材	壁材	板壁板	片面S字状の彫り	

第83表　木製品観察表(3)

挿図番号	遺物No.	樹種	調査区	遺構名	層位	取上げNo.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	大分類	中分類	小分類	メモ	備考
第124図	W60	針葉樹	CⅦ区	水場	最下層足場	足場1	68.7	8.7	1.5	不明品	板状	その他		
第124図	W61	不明	AⅠ区	粘土採取場			58.5	直径:約3.9		杭材				全体はやや劣化しているが、自然木の先端を2面切断している。年輪不明
第124図	W62	針葉樹	AⅠ区	粘土採取場			6.3	5.0	2.5	杭材				全体に劣化している。年輪不明
第124図	W63	針葉樹	AⅠ区	粘土採取場			42.5	5.0	3.5	杭材				先端:5面切断し、尖らす。
第124図	W64	針葉樹	A区		不明		41.8	直径:約16.4		建築部材	柱材	掘建柱建物柱		
第124図	W65	針葉樹	AⅠ区	粘土採取場		W-1	約184.5	約37.5	約2.8	建築部材	壁材	板壁板	足場転用	
第124図	W66	針葉樹	不明				底径:8			容器	挽物	椀	漆器・朱・家紋(八角花紋)	内外面:黒漆　外面:赤漆で花文　底部は漆なし
	W67	不明	BⅣ区	大溝			478.0	50.0	36.0	素材				橋の可能性(細い杭で固定されている)

第84表　石器観察表(1)

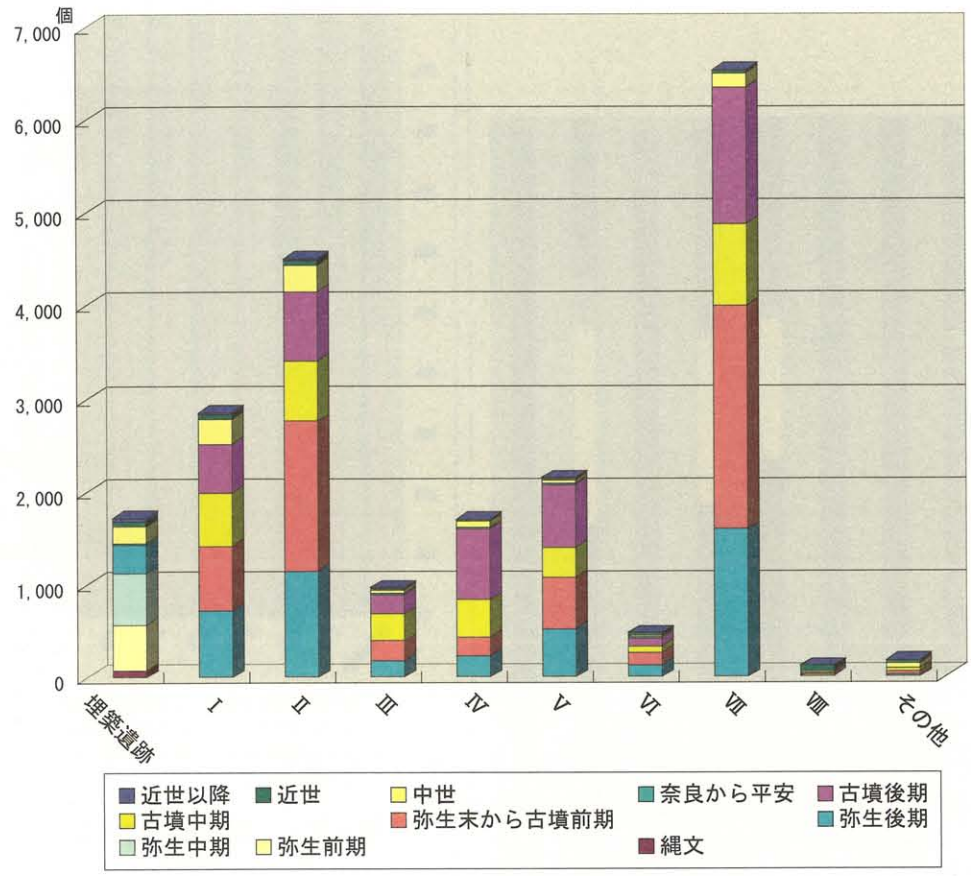
挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	器種	石材	寸法（cm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
第125図	S1	A区	粘土採取場	2層	石鏃品	安山岩	2.2	1.3	0.3	
第125図	S2	A区	竪穴住居14	床面	未製品	黒曜石	3.3	2.6	1.0	
第125図	S3	AⅡ区	粘土採取場		未製品	凝灰岩系？	5.6	2.6	0.9	ピンホール多く開く。
第125図	S4	A区	トレンチ2	1層	未製品	安山岩	3.1	4.4	0.7	
第125図	S5	AⅢ区		北2層	未製品	黒曜石	3.8	2.5	1.4	
第125図	S6	AⅠ区		2層	未製品	チャート	2.0	2.1	0.5	
第125図	S7	AⅡ区		南2層	未製品		5.6	3.9	0.5	
第126図	S8	A区	粘土採取場	2層	作業台		20.2	17.5	6.0	
第126図	S9	AⅡ区	土器溜り04		作業台か？		14.5	11.0	7.2	作業台か？　1面ほどなめらか。
第126図	S10	A区	竪穴住居03	16	作業台		22.2	14.9	4.2	
第126図	S11	A区	竪穴住居02	床面	作業台		31.5	27.5	7.8	
第126図	S12	BⅣ区	大溝	クロ	砥石	砂岩系	30.1	25.3	20.8	2面使用。非常になめらかな使用痕。
第126図	S13	A区	粘土採取場		作業台		21.9	16.3	3.85(2.60)	3ヶ所で被熱
第126図	S14	A区	粘土採取場	2層	擦り石		13.1	12.6	3.8	
第126図	S15	AⅡ区・北	土器溜り04		擦り石		16.7	18.8	2.6	使用面：1面くぼみ。
第126図	S16	A区	竪穴住居04	15	作業台		31.6	21.1	12.7	
第126図	S17	BⅣ区	大溝	クロ	砥石・磨石・作業台		32.0	25.3	9.8	鉄器用か？部分的に赤色顔料付着。
第126図	S18	A区	竪穴住居11	床面	作業台		19.6	11.9	5.9	
第127図	S19	A区	竪穴住居02	4	砥石		20.0	8.1	3.6	4面使用（1部被熱）
第127図	S20	A区	竪穴住居02	7	砥石		15.7	11.7	4.7	3面使用。
第127図	S21	BⅣ区	大溝	クロ	砥石		18.3	11.5	5.9？	一部被熱。
第127図	S22	CⅦ区	水場		砥石		14.8	11.4	4.8	4面使用。 欠損多し2次的に荒れている。
第127図	S23	A区	P36		砥石		20.7	12.7	8.9	1面を砥石に使用。柱穴より出土。
第127図	S24	A区	粘土採取場		砥石		2.75～	4.75～	0.7	欠損している。 なめらかな使用面。細かな擦痕が１方向に付いている。
第127図	S25	CⅦ区	水場	クロ下層	砥石		6.7	7.3	4.2	3面使用。欠損器面２次的に荒れる。
第127図	S26	A区	竪穴住居01付近		砥石		6.7	4.5	3.4	細く鋭い擦痕。 ３面使用。使用面は内湾する。
第127図	S27	AⅠ区		表土	砥石	凝灰岩系	6.8	4.7	4.5	
第127図	S28	CⅦ区	水場		磨製石斧	緑色変成岩	8.0	5.3	3.3	欠損
第127図	S29	CⅦ区	水場	クロ下層	石斧	緑色変成岩	6.0	4.0	2.4	壊・荒れ面・スクリーントーン部
第127図	S30	A区	粘土採取場	クロ下層	磨製石斧		11.0	5.4	4.6	刃部欠損
第127図	S31	A区	トレンチ5		磨製石斧		4.7	3.8	3.2	欠損
第127図	S32	CⅥ区	トレンチ1	2層	打製石鍬		22.1	7.9	33.5	部分的に被熱。
第127図	S33	A区	竪穴住居01	第2造成土中	砥石		7.7	1.1	0.9	
第127図	S34	A区	粘土採取場	南	砥石		13.7	3.6	1.8	スクリーントーン部分長方形に整形。
第127図	S35	A区	竪穴住居03	床面・No.2	砥石	軽石	9.6	7.8	3.3	使用により平らになる。
第127図	S36	A区	竪穴住居11	石63	擦り石	軽石	9.8	7.9	5.0	部分的に擦痕。（磨跡）
第127図	S37	CⅦ区	水場	東カベ崩	擦り石	軽石	10.4	8.4	7.4	全体的になめらか。
第128図	S38	A区	粘土採取場		敲石		10.2	8.4	4.9	
第128図	S39	A区	竪穴住居03	18	敲石		11.7	9.2	3.5	中央を使用。

第85表　石器観察表(2)

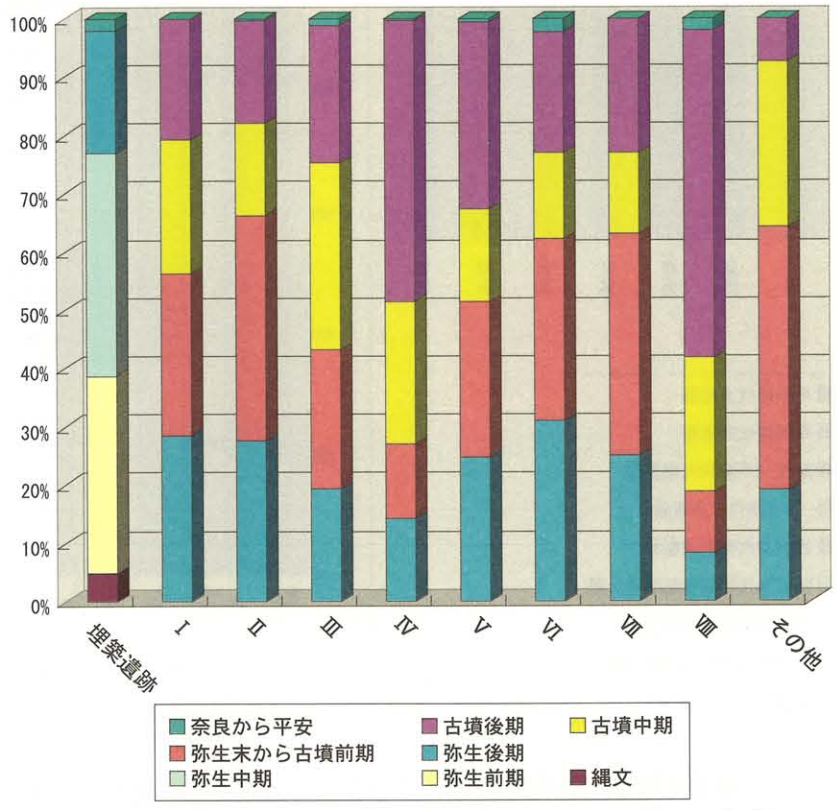
挿図番号	遺物番号	地区	遺構	土層、No.	器種	石材	寸法（cm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
第128図	S40	A区	粘土採取場	2層	凹石・敲石		13.6	10.2	6.0	
第128図	S41	A区	粘土採取場	2層	凹石		10.2	8.3	2.8	
第128図	S42	CⅧ区	水場		凹石		7.1	7.4	1.6	辺を打ち欠く。
第128図	S43	A区	竪穴住居11	石142	凹石		8.9	8.4	5.6	
第128図	S44	CⅧ区	トレンチ3		敲石		13.5	6.1	5.1	
第128図	S45	BⅣ区	大溝	東クロ	凹石		13.0	11.3	6.5	側面敲石
第128図	S46	A区	トレンチ5	2層	磨石		15.2	14.5	11.2	
第128図	S47	CⅧ区	水場	クロ下層	磨石		10.4	10.7	9.5	
第128図	S48	A区	粘土採取場		丸石		17.2	15.4	12.3	被熱・全面にスス付着。
第128図	S49		表採	クロ下層	磨石		13.5	13.2	10.0	スス付着。
第128図	S50	A区	竪穴住居11	石４１	擦り石		14.0	9.3	5.6	
第128図	S51	A区	粘土採取場		擦り石		14.1	7.6	7.6	剥離により欠損。 全体的になめらかに磨かれる。
第128図	S52	CⅧ区	水場		砥石		12.0	8.4	4.0	部分的に欠損。 全体的になめらか。
第128図	S53	A区	竪穴住居02		磨石		8.1	7.7	4.5	裏・表なめらか。
第129図	S54	CⅧ区	水場	クロ下層	石・杵	火成岩	17.9	最大：7.9 最小：4.1	4.8	
第129図	S55	A区	竪穴住居02	西包含層	棒状石器？		18.4	3.6	3.4	用途不明。
第129図	S56	AⅡ区	粘土採取場	2層	石棒	緑色変成岩	16.6	5.8	3.3	
第129図	S57	AⅡ区	土器溜り04		石棒		18.4	8.2	8.0	
第129図	S58	A区	粘土採取場	2層	石棒		16.3	4.1	3.2	
第129図	S59	CⅧ区	トレンチ3		両頭石棒		12.3	2.2	1.6	
第129図	S60	A区	竪穴住居08・09	覆土	砥石か？	緑色変成岩	10.2	2.4	1.7	全面なめらか・端部欠損。
第129図	S61	CⅧ区	水場		石棒		16.6	7.0	4.4	
第129図	S62	A区	竪穴住居03	22	石棒		15.3	6.2	2.6	石斧未製品か？
第129図	S63	A区	粘土採取場	南	石棒		18.4	4.4	2.2	

第86表　高津遺跡出土遺物分類表

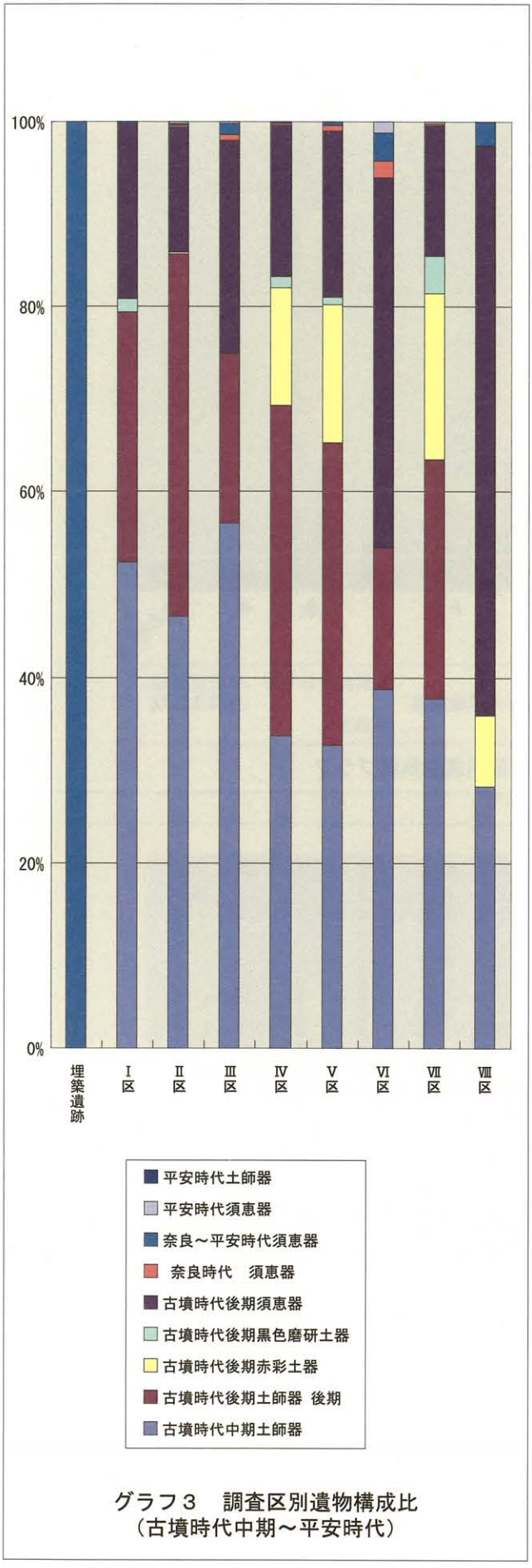
時代	時期	種別	埋築遺跡	高津遺跡 A Ⅰ	A Ⅱ	A Ⅲ	A 小計	B Ⅳ	B Ⅴ	B 小計	C Ⅵ	C Ⅶ	C Ⅷ	C 小計	その他	高津遺跡 総計	埋築高津 総計
縄文	晩期	土器	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
	不明	土器	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
縄文　合計			72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72
弥生	前期	土器	491	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	493
	中期	土器	556	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	556
	後期	土器	302	719	1,147	175	2,041	230	511	741	134	1,590	4	1,728	18	4,528	4,830
弥生 合計			1,349	719	1,147	175	2,041	230	513	743	134	1,590	4	1,728	18	4,530	5,879
古墳	弥生末～前期	土師器	0	696	1,610	214	2,520	203	560	763	135	2,406	5	2,546	43	5,872	5,872
	中期	土師器	0	577	652	290	1,519	396	329	725	63	886	11	960	27	3,231	3,231
	後期	土師器	0	299	547	94	940	419	331	750	25	606	0	631	5	2,326	2,326
		赤彩土器	0	0	0	0	0	149	150	299	0	422	3	425	0	724	724
		黒色磨研土器	0	16	3	0	19	14	9	23	0	92	0	92	2	136	136
		須恵器	0	207	188	118	513	192	180	372	65	333	24	422	0	1,307	1,307
	後期 合計		0	522	738	212	1,472	774	670	1,444	90	1,453	27	1,570	7	4,493	4,493
	不明	土師器	0	259	338	176	773	138	243	381	21	595	1	617	5	1,776	1,776
古墳 合計			0	2,054	3,338	892	6,284	1,511	1,802	3,313	309	5,340	44	5,693	82	15,372	15,372
奈良		須恵器	0	1	4	3	8	3	6	9	3	4	0	7	0	24	24
奈～平		須恵器	31	1	2	6	9	1	5	6	5	1	1	7	0	22	53
平安		須恵器	0	1	3	1	5	1	0	1	2	1	0	3	0	9	9
		土師器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	2
奈良～平安　合計			31	3	9	10	22	5	11	16	10	8	1	19	0	57	88
中世	前期	青磁	10	18	31	3	52	1	4	5	4	15	1	20	16	93	103
		白磁	1	8	9	1	18	3	4	7	1	11	0	12	6	43	44
		須恵器	3	9	18	5	32	11	1	12	0	7	2	9	1	54	57
		土師器	0	81	50	6	137	23	9	32	0	40	3	43	2	214	214
	前期 合計		14	116	108	15	239	38	18	56	5	73	6	84	25	404	418
	後期	青磁	0	9	1	0	10	0	1	1	2	0	1	3	1	15	15
		陶器	10	6	25	3	34	2	0	2	2	1	0	3	0	39	49
		瓷器系	0	13	16	1	30	9	4	13	0	1	0	1	1	45	45
		土師器	0	88	110	19	217	16	6	22	0	80	2	82	14	335	335
	後期 合計		10	116	152	23	291	27	11	38	4	82	3	89	16	434	444
	不明	須恵器瓦	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		土器陶磁器類	148	28	24	7	59	1	9	10	0	4	4	8	4	81	229
中世 合計			172	262	284	45	591	66	38	104	9	159	13	181	45	921	1,093
近世		磁器	32	12	30	8	50	11	18	29	17	14	26	57	22	158	190
		陶器	28	46	21	6	73	9	5	14	15	8	28	51	13	151	179
		瓦質土器	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	3	0	4	4
		不明	1	0	2	0	2	0	1	1	0	5	5	10	5	18	19
近世 合計			61	58	54	14	126	20	24	44	35	27	59	121	40	331	392
近世以降		燻し瓦	16	4	3	3	10	0	3	3	0	0	0	0	0	13	29
		施釉瓦	0	3	3	1	7	0	0	0	1	0	2	3	2	12	12
		陶磁器	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
近世以降　合計			27	7	6	4	17	0	3	3	1	0	2	3	2	25	52
不明		土器・土師器	7,860	10,632	17,018	5,642	33,292	3,691	5,459	9,150	1,915	17,963	439	20,317	866	63,625	71,485
		須恵器	0	11	12	0	23	0	2	2	1	1	1	3	3	31	31
		陶磁器	21	57	41	13	111	4	25	29	29	12	47	88	26	254	275
不明 合計			7,881	10,700	17,071	5,655	33,426	3,695	5,486	9,181	1,945	17,976	487	20,408	895	63,910	71,791
総計			9,593	13,803	21,909	6,795	42,507	5,527	7,877	13,404	2,443	25,100	610	28,150	1,082	85,146	94,739



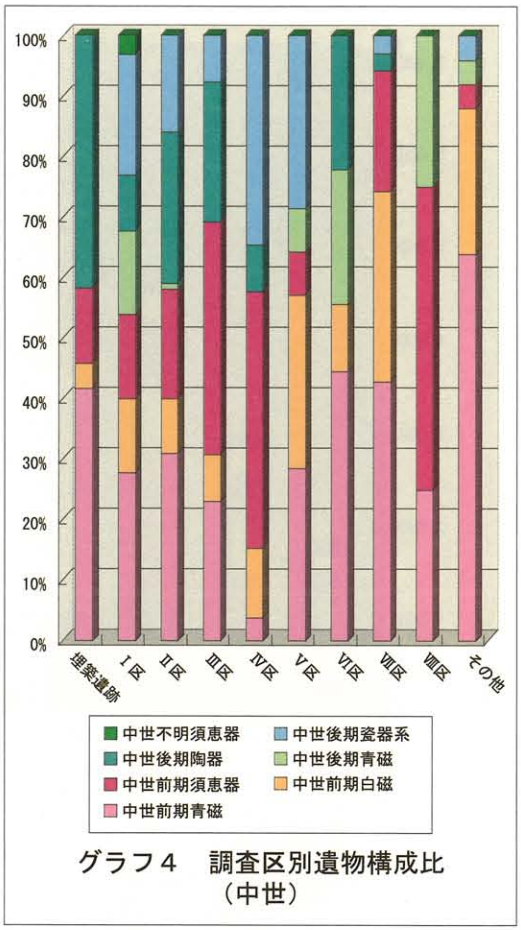
グラフ１　調査区別遺物集計グラフ



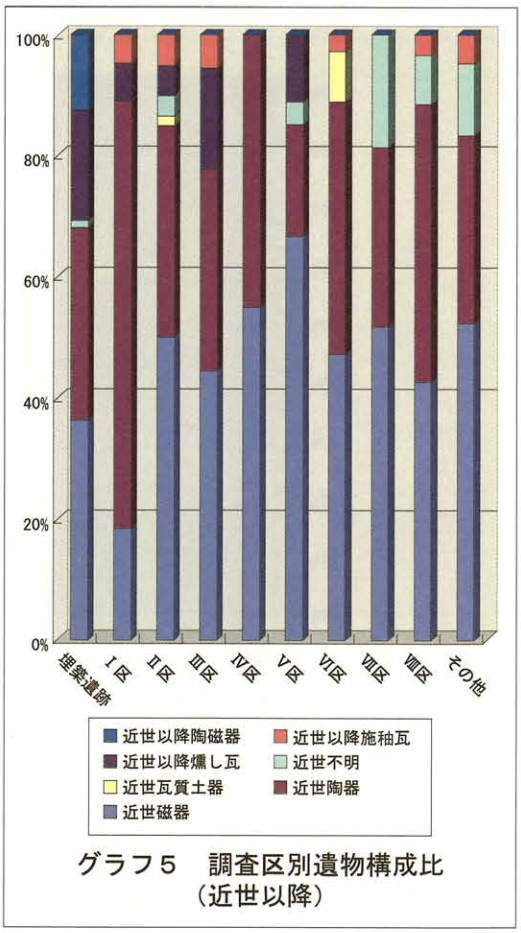
グラフ２　調査区別出土遺物構成比（百分率）（縄文～平安時代）



グラフ３　調査区別遺物構成比
（古墳時代中期～平安時代）



グラフ４　調査区別遺物構成比
（中世）

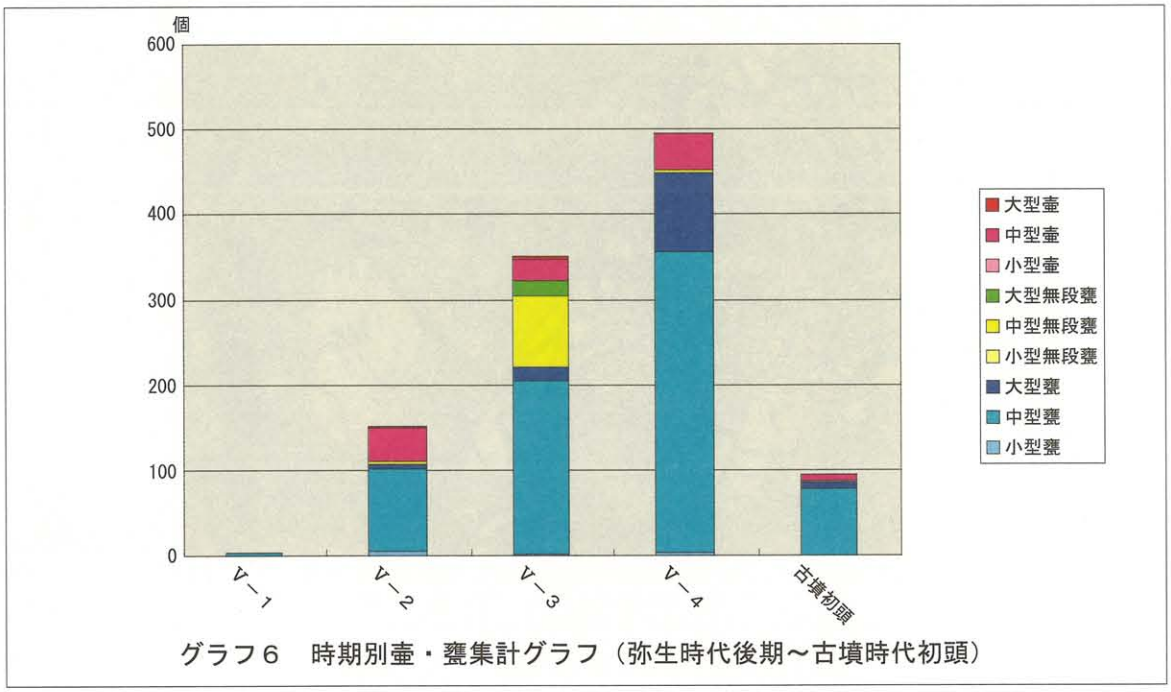


グラフ５　調査区別遺物構成比
（近世以降）

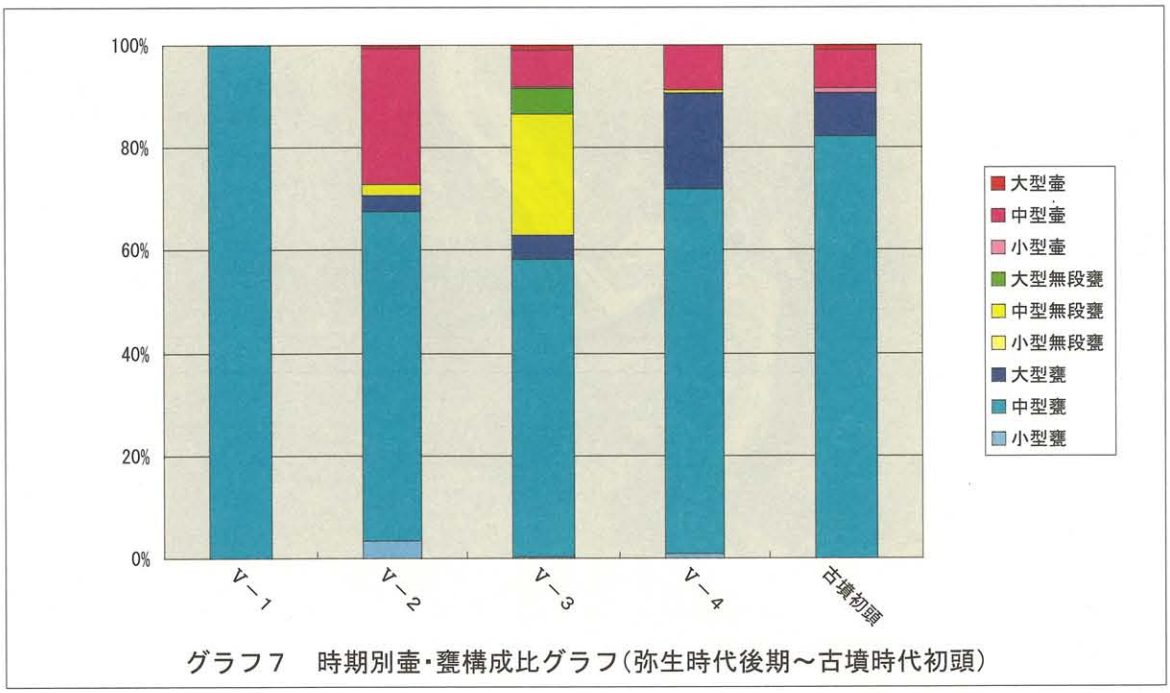
第87表　水場出土壷・甕時期別分類表（弥生時代後期～古墳時代初頭）

（個）

器種／時期	Ⅴ－1	Ⅴ－2	Ⅴ－3	Ⅴ－4	古墳初頭
小型甕	0	5	1	4	0
中型甕	3	97	203	352	78
大型甕	0	5	17	93	8
小型無段甕	0	0	0	0	0
中型無段甕	0	3	83	3	0
大型無段甕	0	0	18	0	0
小型壷	0	0	1	0	1
中型壷	0	40	25	43	7
大型壷	0	1	3	0	1



グラフ６　時期別壷・甕集計グラフ（弥生時代後期～古墳時代初頭）



グラフ７　時期別壷・甕構成比グラフ（弥生時代後期～古墳時代初頭）